目　次

Ⅰ　設置の趣旨及び必要性 ····· 1

１　設置までの経緯
２　大学設置の趣旨・必要性
３　学部・学科設置の趣旨・必要性
４　大学の概要
５　大学の基本理念
６　大学の教育理念
７　既設の短期大学等との違い
８　既設の短期大学等の計画

Ⅱ　学部・学科等の特色 ····· 29

１　中央教育審議会答申を踏まえた本学の役割
２　地域に立脚し、国際社会で活躍するための幅広い教養力の修得
３　学部・学科等の特色
４　地域の学びの拠点としての機能

Ⅲ　大学・学部・学科等の名称及び学位の名称 ····· 36

１　大学の名称
２　学部及び学科の名称
３　学位の名称

Ⅳ　教育課程の編成の考え方及び特色 ····· 38

１　教育課程の編成の考え方
２　共通教育科目
（１）導入科目
（２）一般科目
（３）英語科目
（４）その他外国語科目
３　各学部における専門教育
（１）生産システム科学部生産システム科学科
（２）保健医療学部看護学科
（３）保健医療学部臨床工学科
（４）国際文化交流学部国際文化交流学科

Ⅴ　教員組織の編成の考え方及び特色 ····· 61
1　教員組織の編成の考え方
2　生産システム科学部生産システム科学科の教員組織
3　保健医療学部看護学科の教員組織
4　保健医療学部臨床工学科の教員組織
5　国際文化交流学部国際文化交流学科の教員組織

Ⅵ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件 ····· 65
1　教育方法
2　履修指導の方法等
3　成績評価
4　卒業要件
5　履修科目の年間登録上限（ＣＡＰ制）の導入
6　他大学における授業科目の履修

Ⅶ　施設、設備等の整備計画 ····· 77
1　キャンパスの構成
2　校地、運動場の整備計画
3　校舎等施設の整備計画
4　図書等の資料及び図書館の整備計画

Ⅷ　入学者選抜の概要 ····· 83
1　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）
2　入学資格
3　入学者の選抜方法
4　入学者選抜体制
5　科目等履修生及び聴講生

Ⅸ　取得可能な資格 ····· 91
1　取得可能な資格

Ⅹ　実習の具体的計画 ····· 93
1　看護学科の実習計画の概要
2　臨床工学科の実習計画の概要

XI　企業実習及び海外語学研修等の学外実習の具体的計画 ····· 112
1　学外技術体験実習（生産システム科学部生産システム科学科）
2　インターンシップ（国際文化交流学部国際文化交流学科）

3　異文化体験実習（国際文化交流学部国際文化交流学科）
4　海外語学研修（国際文化交流学部国際文化交流学科）

XⅡ　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
1　それぞれの校地における専任教員の配置
2　教職員の移動等への配慮
3　学生への配慮
4　施設設備等の配慮

XⅢ　管理運営 ・・・ 126
1　教育研究審議会
2　教授会

XⅣ　自己点検・評価 ・・・ 128
1　実施体制
2　実施方法
3　評価項目
4　結果の活用・公表

XⅤ　情報の公表 ・・・ 129

XⅥ　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 131
1　基本的な考え方、方針
2　実施体制
3　取組内容

XⅦ　社会的・職業的自立に関する指導等及び体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137
1　基本的な考え方、方針
2　教育課程内の取組
3　教育課程外の取組
4　適切な体制の整備

Ⅰ　設置の趣旨及び必要性

１　設置までの経緯

（１）設置の経緯

石川県は、北陸地方の中部に位置し南北に細長く、南は福井県に接し北は能登半島となって日本海に突出している。

小松市は、石川県西南部に広がる豊かな加賀平野の中央に位置する人口約 11 万人の都市で、市内にはＪＲ北陸線小松駅、小松空港、北陸自動車道小松ＩＣなどの交通の便がある。また、小松市は、建設機械の世界的トップメーカーコマツに代表される機械産業や絹織物等の繊維業、伝統工芸の九谷焼で有名な窯業などを有し、技術集積度が非常に高い典型的な「ものづくりのまち」として発展し、製造品出荷額等で石川県内の 23.0％（平成 26 年工業統計調査）を占めるなど、南加賀の産業・経済を支えてきた。

昭和 63 年に開学した小松短期大学は、石川県、小松市、地元経済界等の補助を受け、第３セクター方式により設置され、南加賀地域唯一の高等教育機関として、地域の高等教育の機会均等を確保する役割や地域で活躍する専門性の高い職業人材の育成によって、地域の発展に寄与してきた。

しかしながら、全国的な 18 歳人口の減少、学生のニーズの変化等によって、短期大学の数も年々減少が続くなど、短期大学全体としては厳しい運営状況が続いており、小松短期大学においても、入学定員を充足できない状況が続いている。

そのような中、平成 26 年４月に学校法人小松短期大学理事会が「小松短期大学在り方検討委員会」を設置して、同短期大学の将来計画について検討した結果、南加賀地域の高等教育機関としての機能を存続させるためには、同短期大学を廃止し公立４年制大学を設置すべきとの結論に至り、平成 27 年１月に学校法人小松短期大学から小松市に対して要望がなされた。

一方、平成７年に開校したこまつ看護学校は、小松市、小松市医師会等の補助を受け第３セクター方式により設置され、南加賀地域の地域医療を支える看護師を養成する役割を果たしてきた。

しかしながら、医療の高度化、看護の専門分化によって、医療現場においては、より高度な知識と技術、コミュニケーション能力等を備えた看護師へのニーズが高まっており、そうした現場のニーズに応えるため、一般財団法人こまつ看護学校において、公立４年制大学の設置に併せ、同看護学校の４年制化の検討が進められることとなった。

小松市では、学校法人小松短期大学理事会からの要望を受け、平成 27 年２月に「公立４年制大学設立協議会」を設置し、南加賀地域における４年制大学の設置の在り方について協議がなされ、３月に基本構想が答申された。

小松市としては、この答申を受け、小松短期大学とこまつ看護学校の校地・校舎を利

用した公立４年制大学の設置申請を行うことを決定し、平成 27 年３月の市議会において関連予算の承認を皮切りに、正式に準備を開始することとなった。

（２）小松短期大学、こまつ看護学校について

小松短期大学は、地域住民や地元経済界、高等学校等からの南加賀地域に高等教育機関を求める期待・要望に応えるべく、昭和 63 年４月に開学した短期大学である。開学当初は、高度情報化社会に対応できる行動力、教養力、人間性を備えた人材育成を教育目標に掲げ、産業情報学科に産業社会コース、産業管理コース、情報管理コースを設置し、入学定員 180 名としてスタートしている。その後、時代とともに移り行く社会の人材ニーズに対応すべく、平成 17 年には産業情報学科から地域創造学科へ改組し、現在は、地域創造学科の中に臨床工学ステージ、診療情報管理ステージ、ICT＆ビジネスステージ、航空・観光ホスピタリティステージ、生産システムステージの５つのコースを設け、医療、情報、交通・観光、地域のものづくり分野で求められる人材の育成に取り組んでいる。さらに、臨床工学専攻科（１年課程）及び診療情報管理専攻科（１年課程）を設け、本科と合わせて３年間の教育により臨床工学技士及び診療情報管理士の育成を行っている。特に、新設大学における保健医療学部臨床工学科のベースとなる臨床工学ステージ・臨床工学専攻科は、北陸地域唯一の臨床工学技士養成所として地域へ優秀な臨床工学技士を供給する役割を担ってきており、直近３年間の国家試験合格率は、平成 25 年度 91.7％（全国平均 78.8％）、平成 26 年度 88.2％（全国平均 83.2％）、平成 27 年 73.3％（全国平均 72.5％）と、いずれも全国平均を上回っている。現在の地域創造学科の入学定員は 120 名であり、開学からの 28 年間で計 4,034 名の卒業生を地域社会へ輩出しており、日本を代表する地域のものづくり企業から行政機関まで幅広いフィールドで活躍している。また、小松短期大学では、国際交流事業を推進しており、学生が広い視野を持ち、異文化に関する理解を深める機会として、在学中に海外留学、海外インターンシップ活動に参加できる機会を提供している。これまで、建國科技大学（台湾）やプリンス・オブ・ソンクラ大学（タイ）、ウダヤナ大学（インドネシア）と大学間交流協定を締結して学生の相互派遣を行っており、カンボジア・アンコール遺跡整備公団とは世界遺産の保全管理業務への派遣インターンシップに関する協定を締結するなど、4 年制大学に継承する更なる海外協定校等の拡大に向けて取組んでいる【資料Ｉ－１】。

一方、こまつ看護学校は、高齢化社会の進行や医療技術の高度化により高まる看護師需要への対応や地域医療の充実、地域住民の健康の保持増進に寄与するため、平成７年に開校した専修学校である。開校当初の学科は、全日制３年課程の看護学科（入学定員 40 名）と２年課程の第２看護学科（准看護師課程、入学定員 20 名）でスタートしている。その後、平成 18 年に第２看護学科を廃止し、現在は看護学科の１学科のみとなっている【資料Ｉ－１】。南加賀地域における看護師養成所は、こまつ看護学校と加賀看護学校（入学定員 36 名）の２校のみであり、これまで本地域における看護師の重要な

供給源としての役割を担ってきている。特に、教員陣による親身できめ細やかな教育実践の成果により、看護師国家試験の合格率は平成 22 年度から平成 26 年度まで５年連続100％を達成しており、入学定員 40 名の約６倍以上の求人数があることからも、南加賀地域内外から高い評価を得ていることが分かる。

しかし、社会のニーズの変化や社会全体の高学歴化が進む中で、４年制大学への進学志向が高まってきており、既存の高等教育機関のあり方は、存廃を含め大きく見直す時期にきている。小松市では、これまで地域で培われてきた教育資源である小松短期大学とこまつ看護学校の施設設備や高い教育実績を、今回の新設大学の礎として再編・発展させていくものである。

（３）公立４年制大学に対する地域からの要請

新たな大学の母体となる小松短期大学及びこまつ看護学校は、南加賀地域に高等教育機関を求める多くの要望に応えて設置されている。また、短期大学の設置にかかる経費についても、石川県や小松市、地元経済界などから補助されており、こまつ看護学校についても、小松市や医師会などから基本財産の寄附を受け、開校されている。

新たな大学の設置についても、市内外の文教、医療、福祉、農林業、民間団体、民間企業等の代表者（30 団体、１個人）により『公立４年制大学を創る会』が組織され、平成 27 年７月に「南加賀地域の振興・発展の礎となる公立４年制大学の設立について」の要望書【資料Ⅰ－２】が小松市長へ提出されている。要望書の中では、地域のものづくり人材や地域医療に貢献する医療従事者、地域の国際交流を推進し地域の文化や産業を世界に発信するグローバル人材の育成のほか、地域の特性・資源を生かした観光開発、社会人教育の充実などが求められている。

２　大学設置の趣旨・必要性

（１）設置の趣旨

社会は科学と技術に依拠する形で発展してきたが、その一方で自然環境及び社会環境に関わる持続性やグローバル化に伴う様々な問題が顕在化している。世界は今や、国家間での協調と競争がからみあって混沌とした様相を呈し、国内にあっては、少子高齢化や人口減少、地域格差の拡大による地方の限界に加え、コミュニティの衰退も深刻である。

このような状況にあって、地域のコミュニティを存続させていくためには、若者を地域に留めて次代を担う優秀な人材に育成し、地域の産業等へ送り出すことが重要であり、そのためには地域に高等教育機関が必要である。

そして、地方が持続的に発展していくためには、科学技術の発展や高齢化社会の進展、グローバル化など急速に変化する環境に対応できる人材が必要である。

これらのことに対応するため、公立小松大学を設置し、国際社会で通用する能力やグローバルな視点・経験を有し、地域の活性化や持続的発展に貢献できるグローカル人材を養成する。

（２）設置の必要性

① 石川県の進学動向及び小松市における進学実態

石川県が策定した「いしかわ創生人口ビジョン」（平成 27 年 10 月）によれば、平成 21 年の県内高校卒業生（約 10,700 人）のうち約 5,400 人が大学に進学しているが、そのうち県内大学進学者は約４割の約 2,100 人である。また、県内大学進学者のうち、４年後に県内企業へ就職した者は約 1,000 人で、県外大学進学者で県内に戻ってくる者約 1,300 人を加えた合計は約 2,300 人となっている【資料Ｉ－３】。大学進学者のうち最終的に県内に留まっている者は約 43%という結果となっており、半数以上は県外に就職し、石川県内には留まっていないことが浮き彫りとなっている。

また、小松市においても、「こまつ人口ビジョン」（平成 27 年 10 月）の策定にあたり、小松市内の全日制高等学校（６校）の３年生を対象に「若者の進学・就職に関する意識動向調査」を実施しており、1,260 人（回収率 94%）から回答を得ている。

調査結果【資料Ｉ－４】では、高校卒業後の進路希望は、進学（専修学校を含む）が約７割、就職が約３割であった。しかしながら、市内に立地する高等教育機関等は小松短期大学とこまつ看護学校のみであるため、進学を希望する者のうち市内への進学希望は僅か 1.7%となっている。また、進学先を決定する際に重視するものとしては、「希望する学部・学科」が全体の 69.8%と最も多く、「施設・設備の充実」（39.3%）、「入試の難易度」（36.4%）と続いている。進学を希望する学部等については、男子では１位が工学系（45.2%）、２位が理学系（19.4%）と回答するなど多くが理系学部への進学を望んでいることに対し、女性では１位が人文学系（16.7%）、２位が経済・経営・商学学系（14.3%）と回答しているように文系学部への進学を希望していることが分かる。

さらに、就職に関する意識調査では、調査項目「市外に求める主な就職分野」について、男性は１位が製造技術者（25.3%）、２位がものづくり工程従事者と情報処理・通信技術者（いずれも 16.5%）と理系職、また女性では１位が事務従事者（21.9%）、２位が販売・営業従事者（13.5%）と文系職種という結果になり、希望する学問分野と就職希望先が密接に関わっている。

進学希望地域では、石川県内が 33.8%に対し、県外希望の割合は、東京・大阪・愛知の 24.7%、近県の 11.5%の計 36.2%となっており、県内に希望する学部・学科がないこと、自らの偏差値に合う大学がないことを理由に県外進学していることが分かる。

また、進学希望の生徒の小松市居住意向については、「小松市に住みたい・住み続けたい」と思う男子は全体の 20.2%、女子は 20.4%、また「いつかは小松市に住みたい・戻りたい」と思う男子は 20.2%、女子は 24.6%であり、あわせて男子 40.4%、女子

45.0%が自宅からの通学・通勤を希望する結果になっている。反対に、「小松市以外に住みたい」と回答した男子は全体の 18.8%、女子は 22.8%であり、小松市に留まりたいと考えている高校生の半分程度の結果となり、当地域においては地元進学志向が強いことが分かる。

ちなみに、高校生の進路選択に関する調査「進学センサス 2013」（リクルート進学総研調べ）によれば、志望校検討時の地元選択志向に関する項目において、大学進学者のうち地元（自宅から通える範囲）に残りたいと思っている学生は、平成 21 年 39.0%、平成 23 年 46.1%、平成 25 年 48.7%と年々増加している。特に、東京、神奈川、千葉、埼玉、愛知、大阪、京都、兵庫を除く大都市圏以外においても、平成 21 年 27.0%、平成 23 年 32.2%、平成 25 年 34.6%と増加傾向にあり、全国的に地元志向が強まっている。

② 進学先の不足と人口流出

石川県内に立地する４年制大学は、国立大学１校、公立大学３校、私立大学７校の計 11 校であるが、全て県庁所在地を中心とした石川中央地域内に集中しており、南加賀地域には、大学院大学が１校あるだけである【資料Ⅰ－５】。

そのため、４年制大学が立地していない市内の若年層は、進学のために市外に多く流出することとなり、地元定着を阻害し人口減少の引き金となっている。対して、新規卒業者の就職時等における市外からの戻りは弱く、当該年齢層の社会動態はマイナスで、人口減少の主な要因となっている【資料Ⅰ－６】。

このような学生が求める進学先の不足と進学時の転出超過傾向は、南加賀地域における共通課題でもある。

そこで、既存の高等教育機関を再編・発展させ、時代に即した学生の志向と企業ニーズに対応する、南加賀地域初の公立４年制大学として設置することで、若者らを地域に留め、優秀な人材に育て上げ、地域社会へ輩出する枠組みを創出するものである。

③ 小松市のまちづくりと人材育成

小松市では、まちづくりの指針（他都市の基本構想にあたるもの）として、都市デザイン「北陸の際立ったまち『国際都市こまつ』」を平成 27 年 10 月に制定し、人口減少や超高齢化、グローバル化等、社会変化や時代変化を先取りし、「新たなライフスタイルへの変革」と「まちのブランド力向上」に取り組んでいる。また、都市デザインの実現力を高める原動力として「共創」と「ひとづくり」の２つを掲げており、ひとづくりによるまちづくりを最重視した取り組みを展開することとしている。その中でも、大学教育の充実により、地元産業と医療福祉の人材育成、地域の活力向上を目指すこととしている。

また、小松市では、平成 23 年にまちの新しい形とイメージアップを目指した「10 年

ビジョン」を策定し、日本一「たくましい・ここちよい・おもしろい」まちの実現に向けて、こまつの特色である「歌舞伎のまち・科学とひとづくり・乗りもののまち・環境王国こまつ」の４つのテーマを掲げ、魅力あるまちづくりに取り組んできた。

この 10 年ビジョンを踏まえ、平成 27 年には、これから 10 年の方向性を「NEXT10 年ビジョン」としてリニューアルし、都市デザインの具体的イメージとして取りまとめている。従来の「たくましい・ここちよい・おもしろい」まちに加え、初等教育から高等教育、そして市民の生涯学習によるひとづくりをテーマとする「日本一『はつらつ』としたひととまちに」を設けて、「北陸の際立ったまち『国際都市こまつ』」の実現を目指して、時代の変化と課題に対応できる力強いまちづくりを目指している。このひとづくりの中核的拠点こそ、今回設置する公立４年制大学である。

なお、小松市における地方版総合戦略「こまつ創生総合戦略」（平成 27 年 10 月策定）【資料Ｉ－７（３ページ目上段)】の中においても、「はつらつとしたひとづくりで、まちの活力と未来を創生」を基本目標の１つに掲げ、「（仮称）公立小松大学開学」を重要業績評価指標（ＫＰＩ）として設定している。

設置する大学は、ものづくり産業、地域の医療福祉、グローバル交流を支え成長させる若い人材を育成するため、生産システム科学部・保健医療学部・国際文化交流学部の３学部で編成する。

３　学部・学科設置の趣旨・必要性

本学設立の理念は、「地域と世界」、「持続的発展に向けた生産システム、人間の健康医療の革新」、「地域貢献」がキーワードとして挙げられる。これらのキーワードの下で、市民との協働教育ポリシーによる産学官民が連携した教育、研究の推進が期待できる。

なお、大学全体として基盤とする地域の定義については、各学部・学科や、学生確保・教育研究・学生の進路・地域貢献等により異なるが、あくまで、大学全体として基盤とする範囲は、「小松市を中心とした南加賀地域」であり、個々の事項に応じて「石川県」、そして、「北陸三県（石川県、富山県、福井県)」へ広がっていく。そのため、教育課程においては、共通教育科目として南加賀地域に関する歴史、文化等について学ぶ「南加賀の歴史と文化」を１年次の必修科目として配置し、教育の場となる地域についての理解を深める。また、課題解決型の専門教育科目では，南加賀地域を中心に調査・分析可能な地域をモデルとして、日本と世界の他地域にも共通する諸問題の解決を探る。

学生確保における地域の概念は、全学共通で「北陸三県」である。これは、地理的な近さに加え、富山県、福井県から石川県の大学への入学者が多いことによる。一方で、これらの県においては都市圏への大学進学者も多いという実態を踏まえ、北陸三県をひとつの範囲と捉えて「若者を地域に留めて次代を担う優秀な人材に育成」していくことを意図したものである（表１)。

表１．出身高校の所在地県別　大学入学者数

出身高校の所在地 ／ 大学の所在地		石川	富山	福井
全国計		5,459	4,593	3,884
北陸三県	石川	2,340	※1 814	※2 359
	富山	371	883	111
	福井	154	115	1,115
関東	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川	881	1,147	499
東海	愛知	288	395	329
関西	京都、大阪、兵庫	841	536	914

文部科学省　平成 27 年度学校基本調査を元に小松市作成

※１　富山県から県外大学進学先として石川県は第１位

※２　福井県から県外大学進学先として石川県は第２位

（１）生産システム科学部生産システム科学科

①設置の趣旨・必要性

○生産システム科学科が基盤とする地域の概念

本学科の教育・研究、地域貢献活動、さらには学生の進路についても「小松市を中心とした南加賀地域」を主要な基盤とする。そのため、専門共通科目として、北陸屈指のものづくりのまちとしての小松市の特徴を活かした「学外技術体験実習」を行い、地域のものづくりの現場を学ぶこととしている。また、研究や地域貢献においても、南加賀地域におけるものづくりの教育研究拠点として、共同研究や技術相談、公開講座、シンポジウム等を積極的に開催していく。さらに、南加賀地域は、農林業も盛んであるという特色を踏まえて、環境と人間にやさしい「持続可能な生産システム」の構築のための研究・地域貢献も主に南加賀地域で行っていく。

○南加賀地域におけるものづくり産業の位置づけ

石川県は、全産業に占める事業所数の割合という観点でみると、製造業の割合が全国平均より高く、集積しているという特徴がある。また、製造品出荷額等についても、全国平均と比べて、繊維産業、機械産業の占める割合が高く、繊維産業、機械産業が盛んな県であると言える。

石川県の機械産業は、明治初期の絹織物を中心とする繊維産業の進行に伴う繊維機械工業の発展を契機として、建設機械、工作機械へとその領域を拡大させつつ発展し、現在は、製造品出荷額等の約３分の２を占める本県の主力産業となっている。また、本県

には、繊維機械や建設機械、工作機械などの国際的な競争力を有する機械メーカーと、それを支える機械加工、溶接、板金、鋳造、鍛造など幅広い加工分野にわたる機械関連産業の企業群による集積が形成されている。

特に、石川県の南部に位置する小松市は、江戸時代から、前田利常公の殖産興業政策によって城下に職人たちが集まり、「ものづくり」をなりわいとして繁栄してきた歴史がある。現在では、建設機械分野での世界的企業であるコマツとその協力企業等によって機械産業を中心とした産業クラスターが形成されている。さらには、高度な産業集積と技術力を活かし、日本一のシェアを誇るパーティションメーカー、世界的な電子部品メーカー、日本有数のバス製造メーカーやそれらの関連企業が立地するなど、多様な産業集積が進んでいる。また、繊維産業についても、高機能繊維など高い技術力を有する企業が多くあり、九谷焼や小松瓦などの伝統産業も盛んである。

小松市の産業構造をデータで見ると、事業所数や従業者数において、製造業の占める割合が、全国平均及び石川県平均より高くなっている。また、産業別従業者数では、製造業が全産業の約３分の１を占めている。さらに、製造品出荷額等は 5,997 億円と県内トップ（県全体額 26,019 億円の 23.0％）であり、南加賀地域３市１町の合計額（11,416 億円）では、県内の４割を占めている。以上のように、機械系を中心としたものづくり産業は、地域経済の柱となっている【資料Ⅰ－８】。

○人口減少社会における人材養成の必要性

平成 22 年（2010 年）を境に、我が国は本格的な人口減少時代に突入しており、国立社会保障・人口問題研究所による日本の将来推計人口（平成 24 年１月推計）によると、平成 22 年（2010 年）国勢調査による 1 億 2,806 万人から、平成 72 年（2060 年）には 8,674 万人になるものと推計されている。

また、同時に、年少人口（0-14 歳人口）は当初の 1,684 万人から 791 万人へと 893 万人（当初人口の 53.0％）の減少、生産年齢人口（15-64 歳人口）は 8,173 万人から 4,418 万人へと 3,755 万人（同 45.9％）の減少が見込まれている。

これらの総人口及び生産年齢人口の減少に伴い、１人当たりの生産性が大きく向上しない限り、国内市場は停滞・縮小することが見込まれ、技術革新などによる生産性の向上を図る必要がある。

石川県では、これらを含めた環境の変化に的確に対応し、石川県の産業を持続的な発展に導くために、今後 10 年を見据えた新たな産業振興指針となる「石川県産業成長戦略」（平成 26 年５月策定）を策定しており、戦略の中でも、「総人口や生産年齢人口の減少を背景に、今後の国内市場の大幅な拡大が見込めない中で、本県の主力産業である機械産業が、今後も持続的に成長していくには、新しい市場に挑み販売量の拡大を図るとともに、製品あたりの付加価値を高め、収益性を向上させていくことが重要であり、また、ニッチトップ企業の集積に象徴されるような技術力の高い企業の集積を活かして、

顧客ニーズに対応したオンリーワンの付加価値の高い製品開発に不断に取り組む必要がある」と記載されている。

企業の基盤を成すのは企業の人である。生産年齢人口が減少していく中で、高度専門人材やグローバルなビジネス展開に対応できる人材など企業の付加価値創造をリードする人材確保・育成が極めて重要であり、そのような人材を養成する役割が大学に求められている。

〇生産システム科学部に期待される役割

現在、ドイツ政府が強力に推し進めている IoT による第４次産業革命が象徴するように、製造業中心の産業構造から新たな産業構造への転換が、世界的規模で進行しつつある。その中核となるのが情報通信技術であり、これからの製造業は、近い将来、従来型の単なるものづくりの技術だけでは、世界に太刀打ちできなくなる恐れがある。

第４次産業革命に象徴される製造業革新の動きに日本としてどう取り組んでいくかという点について協議を進めている、ロボット革命イニシアティブ協議会の「IoT による製造ビジネス変革ワーキンググループ」の中間とりまとめ（平成 27 年 12 月）の中でも、「我が国の製造業は、新たな付加価値もしくはビジネスの創出により製造業を巡る課題を解決するための手段の１つとして、IoT の活用を進めることが求められる」としている。

上記のように、情報通信技術の進歩により、ものづくりの概念が変質しつつある。北陸における製造業の一大集積地である南加賀地域、その中心都市である小松市には、世界的企業であるコマツを中心にものづくり企業が多数立地している。コマツのような大企業は、この変革に対応し、世界をリードできるだけの技術力を有していると思われるが、このような大企業は地元の多くの協力企業に支えられているという事実がある。大企業と協力企業は車の両輪のような関係にあるが、協力企業である中堅企業には、この変革の波に対応できるだけの技術者が圧倒的に不足しており、ものづくり企業全体で考えると、このような世界的変革に十分に対応できるとは言い難い。そのため、協力企業の技術力の底上げが喫緊の課題となる。南加賀地域で情報通信技術に対する素養を身に着けた機械設計技術者の育成が急務である理由がここにある。

「IoT による製造ビジネス変革ワーキンググループ」の中間とりまとめでも、「中小企業への IT、IoT の浸透は今後の課題」としており、また、「IoT の活用が進展した場合にも『人』の役割は、より高度な判断を要する業務へ移行・特化するなど、引き続き重要である」とされている。

また、農林業も南加賀における重要な産業である。農作物の価格低迷等により、農業者の経営は厳しさを増しているほか、農業者の高齢化や農業の担い手不足が進み、鳥獣被害の増加も相まって、里山の荒廃が懸念される状況となってきている。

そこで、石川県では、近年の農業・農村をめぐる情勢の変化等に対応するため、これ

からの 10 年を見据えて県が行う施策の方向性を示した、新たな「いしかわの食と農業・農村ビジョン」（平成 28 年５月策定）が策定されており、その中で、「ものづくり産業の集積」を生かした新たな発想を導入し、企業等の技術・ノウハウを生かした生産性向上の取組みの推進等により、農業の収益性の向上を目指している。

一方、小松市においても、平成 25 年７月にコマツとＪＡ小松市との間で、６次産業化の促進や農業技術と農業人材の育成、里山の振興と保全等のテーマを掲げた連携協定を締結し、「こまつ・アグリウエイプロジェクト」を立ち上げ、世界的な建設機械メーカーであるコマツの持つ「ものづくり」のノウハウを農業に活用することで、農作業の効率化など新しい農業の形となるような先進的な取組みを目指している。

これらの取組みの中でも、農林業用ロボットの開発、トラクターの精密自動運転、環境情報センシングによる栽培ノウハウの継承など、電気・電子工学と情報工学の素養を有する機械技術者への期待は極めて大きい。

「生産システム科学部」は、このような世界の製造業で起こりつつある変化を先取りし、また地域の農林業活性化への貢献を目指し、従来型のものづくりの基本となる機械工学とそれを制御する電気・電子工学、ＩｏＴとして幅広く展開するための情報工学を体系的に教育・研究する学部として設置する。農林業を含む地域産業の現状と世界の潮流を見越し、ものづくりと情報技術活用により地域産業界へ貢献することを目指す、全国的にも極めてユニークな学部である。

② 養成する人材像

本学科では、南加賀地域における知の拠点として、地域に確固たる軸足を置きながら、現代社会全体が直面している地球環境と高度情報化社会などの世界的課題の解決に向け、機械工学と電気・電子工学、情報工学の分野の専門知識・能力を広く修得することで、自然及び社会と共生する生産システムの構築によりサスティナブル（持続可能な）社会の実現に資する工学教育を実践する。特に、地域社会と世界の持続的発展に向けた生産システム構築のための教育研究を実施することで、広い視野と高度な実践的スキルをあわせもった地域と世界の産業に貢献できる人材育成を目指す。

また、コースごとに次の養成する人材像を置く。

【生産機械コース】

機械工学と電気・電子工学、情報工学の諸技術を多彩に運用して、環境にやさしい新規な生産システムの構築や関連する新たな工学分野を開拓する人材。

【知能機械コース】

機械工学の基盤の上に電気・電子工学と情報通信技術を取り入れた、情報化社会に適応する新規な生産システムの構築や関連する新たな工学分野を開拓する人材。

③卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科の養成する人材像に基づき、地方と世界の持続可能な社会システム実現のため、以下の項目に挙げる学科共通及び各コースで教授する個別の専門能力を身につけた者を、環境と社会に調和する生産システムを構築できる人材とみなし、学士（工学）を授与する。

○　幅広い分野の教養を身につけるとともに、工学や科学の基礎として重要な数学・物理学についての基礎的能力を有する。
○　ものづくり産業技術の基盤となる機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎的及び専門的な知識を習得している。
○　専門分野の技能を身に付け、修得した知識・技能を組み合わせて実践的に課題の解決に取り組むことができる。
○　生産システムが果たす役割・使命を理解し、高い倫理観を備え、自然及び社会と共生するための仕組み構築に向けた知識を習得している。
○　研究を推進するための、自主性、協調性、思考力、文章作成能力、発表・報告能力および国際的コミュニケーション能力を身につけている。

【生産機械コース】

機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、環境にやさしい生産システムを実現するための科学的思考力と基礎的実践能力を修得している。

【知能機械コース】

機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、高度情報化社会に適応した生産システムを実現するための科学的思考力と基礎的実践能力を修得している。

（２）保健医療学部看護学科

①設置の趣旨・必要性

○看護学科が基盤とする地域の概念について

本学科の教育・研究、地域貢献活動、さらには学生の進路についても「小松市を中心とした南加賀地域」を主要な基盤とする。ちなみに、南加賀地域は「石川県医療計画」において南加賀医療圏として設定されており、本学科を置く末広キャンパスは、南加賀医療圏の中心病院である小松市民病院に隣接している。さらに、南加賀医療圏全市町の保健福祉を管轄する南加賀保健所も小松市内に存在する。

また、教育課程では専門科目に地域住民の健康に係る実態を把握するために「市民健康論」を設け、地域において将来的にどのような役割が看護師に求められているのかを理解させ、学修意欲を高める。さらに、実習を実施する施設も南加賀地域を中心とした

医療機関等で行うこととしており、実習を通じて地域のことを理解し、地域に貢献できる看護師を養成する。その他、研究や地域貢献においても、南加賀地域の教育研究拠点として、自治体や医療機関、保健施設、企業等との産学官連携による研究プロジェクトの推進や健康教育等への講師派遣、公開講座、シンポジウム等を開催し、積極的に地域の健康保持・増進に貢献していく。

○超高齢社会において看護師に求められる能力

厚生労働省が作成した「平成 25 年簡易生命表」では、日本人の平均寿命は男性 80.21 歳、女性 86.61 歳、また総人口に占める 65 歳以上人口の比率である高齢化率は、平成 26 年度は 25.8%と世界トップであり、日本は世界でも類を見ない超高齢社会に突入している。小松市における高齢化率（平成 26 年 10 月現在）は 26.2%で、平成 37 年（2025 年）には 28.1%を超え、その後も上昇していくことが見込まれている。なかでも 75 歳以上の後期高齢者は平成 26 年 10 月において 13,282 人と市内人口の 12.7%と高い割合を占めており、ひとり暮らし高齢者、認知症高齢者の増加や要介護認定者の増加による介護給付費の増大など、様々な課題への対応が求められている。

石川県では、2025 年を見据えた地域づくりを着実に進めるために、「石川県長寿社会プラン 2015」（平成 27 年 3 月）を策定し、基本的な高齢者施策の目標や今後取り組むべき施策の方向性を明らかにした。本プランでは、認知症への体制や医療と介護、多様な生活支援サービスの整備を推進し、高齢者が住みなれた地域でいつまでも安心して暮らしていくための医療、介護、介護予防、住まい、生活支援サービスが連携し、切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築に取り組んでいく。石川県内の総人口が減少していく中、高齢者人口は増加しつづけ、平成 22 年から平成 37 年までには総人口の 30%を超えると見込まれている。また、核家族化の進行、60 歳以上の就労者の増加、女性の社会進出などの家族環境が変化したことで、従来のような家族による後期高齢者の介護が困難となってきていることから、医療・介護従事者による多職種間連携により、患者とその家族への医療提供体制の構築に取り組んでいく必要がある。

公立小松大学が所在する南加賀地域でも、平成 27 年の総人口約 23 万 1 千人が、平成 37 年には 21 万 8 千人に減少することが見込まれている一方、65 歳以上の人口は約 6 万 5 千人から約 6 万 8 千人と増加し、総人口に占める 65 歳以上の高齢者率が 30%を超える見込みとなっている。小松市においては、本市が平成 27 年３月に策定した「いきいきシニアこまつ推進プラン（第 6 期小松市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）」では、平成 22 年国勢調査におけるひとり暮らし高齢者数は 2,788 人、高齢者夫婦のみの世帯は 3,970 世帯となっており、平成 17 年国勢調査時点と比して、それぞれ 1.3%増、1.9%増となっている。また、平成 26 年時点における小松市の推移ではひとり暮らし高齢者は 3,434 人（前年比 1.3%増）、高齢者夫婦のみ世帯数は 4,729 世帯（前年比 1.5%増）と見込んでおり、地域の高齢化がますます進行していることが課題となっている。

また、小松市の認知症高齢者数については、下記の表の通りとなっており、石川県における平成26年10月1日現在の要介護認定者数に占める認知症高齢者の割合は64.8%と比しても、小松市が上回っている。認知症になっても出来る限り住み慣れた地域で生活を継続できるよう、早期の診断や周辺症状への対応、家族も含めた多職種チームによる地域生活を支えるための医療支援体制の充実に取り組んでいかなければならない。

日本看護協会が発行した「看護の将来ビジョン～いのち・暮らし・尊厳をまもり支える看護～」（平成 27 年６月）においても、地域包括ケアシステムの構築が進むにつれ、従来の病院を中心とした疾病や障害の治癒･回復を目的とした看護ケアの提供から､「生活の質」を重視し、病や障害を抱えながらも、その人が住み慣れた地域の住まいで自立し、その人らしく暮らすことを守り、支援していくものへとシフトしている。そのためにも看護師は、医療・福祉・介護と連携を強化し、疾病の予防や健康の維持・増進を幅広く支援し、その人の「生活の質」の維持・向上に寄与していくことも重要な役割となっている。

本学科では、地域医療、そして地域に住まう人々の健康増進を幅広く支援できる看護師の養成のため、保健師課程を選択制として設けるほか、看護師のみを目指す学生に対しても、地域全体を見る視点、チーム医療の視点、在宅看護、個々人に対するフィジカルそしてメンタルアセスメント力の修得など、公衆衛生、地域医療に関する看護教育を充実させていく。

今日までの地域の看護人材育成と安定供給を担ってきたこまつ看護学校を４年制大学へと発展させ、これからの時代に求められる知識、技術、姿勢をあわせもつ看護専門職業人育成を実現していくものである。

○医療従事者の充足について

厚生労働省が策定した「第７次看護職員需給見通し」【資料Ⅰ－９】によれば、需要見通しは平成 23 年の約 140 万４千人から平成 27 年には 150 万１千人に増加、供給見通しについては平成 23 年の 134 万８千人から平成 27 年には約 148 万６千人に増加するという見込みが示されている。また、石川県における看護職員においては、常勤換算をベースとする需要見通しは平成 23 年の 16,579 人から平成 27 年の 17,534 人へ増加、供給見通しは平成 23 年の 16,203 人から平成 27 年の 17,485 人へ増加となっている。また、実人数をベースとした場合でも、平成 23 年から 27 年の需要見通しは 17,779 人から 18,834 人に、供給見通しは 17,495 人から 19,041 人へと増加すると記されており、いずれも平成 27 年には需給のバランスが改善に向かう見通しとなっている。

平成 26 年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況における石川県の人口 10 万人対看護指数は 1,170.8 人（全国６位）であり、全国平均の 855.2 人を大きく上回る結果となった。しかし、同報告の隔年報によれば、当該年度において実際に従事（就業）している看護職員数（実人数）は、17,821 人であり、看護需給見通しで見込んだ供給数よ

りも 836 人少ない。さらに、公益財団法人日本看護協会の「平成 26 年度ナースセンター登録データに基づく看護職の求職・求人に関する分析報告書」の都道府県別求人倍率では、石川県は求人数 1,280 人に対し、求職者は 830 人であり、求人倍率は 1.54 倍となっており、石川県内において慢性的な看護職員不足が続いていることが示されている。そのため、2025 年に向けた高齢化の加速への対応するための看護職員の量的確保が急がれる。

また、一方で「社会保障・税一体改革」における医療・介護にかかる長期推計の試算では、平成 22 年から平成 37 年（2025 年）の概ね 15 年間で現在指摘されている課題（病院・病床の機能分化・強化、在宅医療体制の強化、地域包括ケアシステムの確立など）を解決し、重層的･一体的に住民を支える医療･介護サービス体系を構築するためには、平成 37 年（2025 年）時点で看護職員が約 196 万人～206 万人必要と推測されており、仮に３万人／年のペースで増加したとしても、約３万人～13 万人分のギャップが生じるという予測となっている。そのため、今まで以上に医療・介護などのさらなる機能分化と連携強化を推進することで、ますます進行する超高齢化社会に対応できる医療体制の構築を目指し、質の高い看護職員の養成と供給を強化していく必要がある。

○県内における高い大学進学志向

平成 28 年４月１日現在の石川県内の看護師養成所数（２年課程を除く）は、大学４校、専修学校（３年制）７校、高校・専攻科一貫校１校の計 12 校であり、入学定員は合計 751 名となっている。また、平成 25 年から平成 27 年にかけて、地域の看護師養成の必要性から、一部の養成所では入学定員を増加しており、大学では金沢医科大学 10 名（平成 25 年度）、金城大学看護学科の新設で 80 名増の計 90 名、専修学校（３年制）では加賀看護学校６名（平成 26 年度）、金沢医療技術専門学校 40 名（平成 27 年度）の計 46 名増加している。

しかし、平成 25 年から平成 28 年の４年間における入学定員の充足状況を見ると、専修学校（３年制）では、平成 25 年の 105.9%から漸減し、平成 28 年では 82.3%、前年比で▲47 人と大きく減少し、７校中３校が定員割れという結果であった。反面、大学では入学定員増加分の人数も確保し、充足率 100%以上を安定して維持できていることから、当地域において専修学校よりも、大学における看護教育を希望する学生のニーズが高いことが分かる【資料Ⅰ－10】。

○南加賀地域の看護師数の充足状況

石川県医療計画（平成 25 年４月策定）では、平成 22 年 12 月末現在の県内における就業看護職員数は 16,219 人、人口 10 万人対では 1,386 人で、全国 16 位（全国平均 1,089 人）となっており、全国と比較して高い水準にある。しかし、小松市が位置する南加賀医療圏と県内の他の３医療圏における人口 10 万人対（准看護師を含む）を比較

すると、石川中央 1,469 人、能登中部 1,375 人に次いで南加賀（小松市、能美市、加賀市、能美郡川北町）が 1,231 人と他の医療圏と比べても低い水準となっている【資料Ⅰ－11】。

また、南加賀医療圏の３つの公立病院、小松市民病院、能美市立病院、加賀市医療センターにおける平成 25 年度から平成 28 年度における看護職員採用状況を確認したところ、以下のとおりとなった。

＜参考＞南加賀医療圏の公立病院における看護職員採用状況

病院名	平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	募集	採用	募集	採用	募集	採用	募集	採用
小松市民病院	16	10	17	14	15	14	17	15
小松市民（中途）	4	3	3	1	3	1	3	5
合　計	20	13	20	15	18	15	20	20
能美市立病院	6	6	6	6	5	5	5	5
加賀市医療ｾﾝﾀｰ（旧加賀市民病院）	13	17	12	12	10	10	10	8

（小松市調べ）

第７次看護職員需給見通しでは、石川県内の看護師数は高い水準にあるものの、看護師の採用においては、小松市民病院では、平成 25 年度から平成 27 年度にかけて募集人数を確保できていない状況にある。また、毎年５名から 10 名程度の退職者が出ており、十分な看護ケア提供のための看護職員数が不足していると考えられる。

このような現状の中、各自治体は、平成 37 年（2025 年）には団塊の世代が 75 歳を迎えるなど進む高齢化に対して、急性期医療と在宅医療の両立により患者の「くらし」を重視した看護ケア体制を整備していかなければならない。そのためにも、小松市、そして石川県内の各自治体では幅広い知識と教養を身につけたジェネラリストの基盤となる看護基礎教育が十分行き届いた人材の確保が急務となっており、今回新設する看護学科ではこれらの課題に対応すべく、地域の将来のための看護教育と人材輩出の役割を担っていくものである。

なお、既存のこまつ看護学校から本学科に発展させることに伴い、本学科の卒業生が出るまでの１年間は地域に看護師が輩出されないこととなるが、大学における看護教育を求める学生ニーズへの対応が可能となるほか、より質の高い看護専門職業人の育成、専任教員等による地域貢献活動なども期待できる。また、本学科の設置にあたり入学定員を看護学校より 10 人多く設定しており、平成 33 年度以降はこれまで以上に地域に看

護師を供給することが可能となる。

②養成する人材像

本学科では、顕在または潜在する健康問題を抱える対象の反応をアセスメントし、その人にとって望ましい看護ケアの提供の実現に向けて、看護師として求められる知識、能力とともに、病を抱える人や老いを生きる人の心身の痛みに共感できるしなやかで繊細な感性と、人としての深さを併せもち、幅広い領域で求められる看護ケアを的確かつ柔軟に提供できる看護専門職業人を育成する。

③卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業までに所定の単位を取得し、本学科の養成する人材像の実現に必要な次の知識、能力を修得した者に、学士（看護学）を授与する。具体的な能力は次のとおりである。

- ○ 看護を必要とする対象に望むケアを提供するための基本的知識、技術、態度を有している
- ○ 少子、高齢化、認知症、生活習慣病など今後進行する看護課題について理解している
- ○ 病を抱える人、老いを生きる人の心身の痛みに共感するための感性・教養・倫理観を有している
- ○ 南加賀地域の健康課題を理解し、看護師に求められる素養と役割を理解している
- ○ 様々な段階の看護対象に対し、適切な看護ケアを提供できる専門知識、技術、態度を有している
- ○ 他の医療専門職業人と共同するための協調性、能力を身につけ、地域包括ケアシステム構築に向けて積極的に取り組むことができる
- ○ 看護ケアの課題解決のための具体的な専門知識や能力を有している
- ○ 人種・地域の違いに臆することなく看護の専門性を発揮できる心と意欲を有している

（３）保健医療学部臨床工学科

①設置の趣旨・必要性

○臨床工学科が基盤とする地域の概念について

本学科の教育・研究、地域貢献活動については「小松市を中心とした南加賀地域」を主要な基盤とし、学生の進路については、国公立大学で初めての臨床工学科として、優秀な人材を石川県、北陸三県はもちろん、全国へ輩出することも視野に入れていく。

教育課程においては、前述の通り国公立大学で初めての臨床工学科となることから、課題解決能力に優れ、地域医療の発展に貢献できる人材育成を行うことを使命とする。そこで、専門科目として、看護学科との連携科目である「地域の健康課題と多職種連携」

や「地域包括ケア」を設け、小松市を中心とした地域の医療現場の現状や課題、医療職間連携について学ぶことで、地域医療における臨床工学技士の役割を認識させる。その他、研究や地域貢献においても、看護学科及び生産システム科学科との３学科連携プロジェクトや地域の医療機関、企業、行政機関との共同研究等に積極的に取り組み、研究成果を地域へ還元することで、地域の健康保持・増進に貢献していく。

○高まる臨床工学技士の重要性

近年のめざましい医療技術の進歩により、高度化、高機能化した医療機器が次々と開発され、医療現場に投入されている中で、適切に管理し、医師の指導のもとで安全な治療を提供するための「医療機器のスペシャリスト」として、臨床工学技士の役割も幅広い医療領域で求められてきている。平成 15 年に厚生労働省が発表した「医療機器産業ビジョン」において、「医療機関内における保守管理の実効性を高めるため、臨床工学技士等の専門家の活用」が挙げられ、平成 17 年には「高度先進医療における施設基準」の中で、臨床工学技士の配置が要件とされた。また、平成 26 年度の診療報酬改定では、特定集中治療室管理料をはじめとして種々の分野で常勤の臨床工学技士の配置を求めるなど、医療における臨床工学技士の重要性が高くなっている。また、先端医療導入や在宅治療を中心とした地域包括ケアシステム構築の推進が求められる中、「チーム医療の推進について」（厚生労働省、平成 22 年）では、各医療スタッフの専門性の向上や業務範囲・役割の拡大を活かし、チームとしての方針の下で、相互連携・補完を一層強めることを重要としており、各専門医療職の医療の質の向上に努めることにも触れている。

石川県では、「石川県長寿社会プラン 2015」（平成 27 年 3 月策定）において、高齢化の進展による長期の療養、介護を必要とする慢性疾患患者の増加により、生活の質（QOL）を重視した在宅医療に対するニーズも高まっており、介護などの支援を必要とする高齢者の増加が見込まれる 2025 年を見据え、高齢者が住みなれた地域でいつまでも安心して暮らしていくための医療、介護、介護予防、住まい、生活支援サービスが連携し、切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の構築の推進を打ち出している。

また、現在作成を進めている「石川県地域医療構想」においても、現在の一般病床及び療養病床に関し、今後の医療機能を「高度急性期機能」「急性期機能」「回復機能」「慢性期機能」の４つに分類し、各需要に基づき病床の必要量などを推計するとともに、将来の目指すべき医療提供体制の実現に向けた施策の方向性を示しており、「入院医療については、高度急性期医療が必要な患者には、高度急性期対応の機能を担う病院で最適な治療が提供され、高度急性期を過ぎてからは、身近な地域の急性期、回復期の機能を担う病院で在宅復帰・社会復帰への支援を受けることができる体制」を目指すこととしている。この高度急性期における医療は、救命救急病棟、特定集中治療室（ICU）などで、急性期の患者を対象に診療密度が特に高い医療を提供することとなる。近年、当該業務の専門化が急速に進んでいるため、特定集中治療室（ICU）では、特定集中治療に

精通した医師の複数配置や十分な病床面積の確保に加え、医療機器の専門家として臨床工学技士の 24 時間体制（当直）が進んでおり、医療機器を適切かつ安全に取り扱うことができる臨床工学技士の専門知識と技術力がますます必要とされている。

公立小松大学が所在する南加賀地域においては、平成 37 年には総人口に占める 65 歳以上の高齢者率が 30%を超える見込みであり、小松市が平成 27 年３月に策定した「いきいきシニアこまつ推進プラン（第 6 期小松市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）」のなかで、平成 22 年国勢調査におけるひとり暮らし高齢者数は 2,788 人、高齢者夫婦のみの世帯は 3,970 世帯となっており、地域の高齢化がますます進行していることが課題となっている。

医療技術の発展により、効果的な治療を高度な医療機器に依存していく割合がますます高まっていく中、特に生命維持管理装置は人の命を司る呼吸・循環・代謝機能を代替する、身体へのリスクの高い機器ということもあり、使用から保守・管理にいたるまで、誤った手法や知識が時として患者の身体または精神に重大なダメージを与えてしまったケースもある。医用工学の専門教育を修了した医療従事者である臨床工学技士による適切な保守管理が、安全・安心な医療の確保へと繋がっていく。このように、石川県長寿社会プラン 2015 や石川県地域医療構想（案）が示す医療機能の分化・連携、そして地域包括ケアシステム構築を多職種連携により進めていくなかで、病院のみならず在宅までも包括した医療機器のスペシャリストとして臨床工学技士が積極的に参画し、医師、看護師をはじめとする多職種連携により、患者とその家族の生活の質の向上を目指した医療提供体制の構築を進めていく必要がある。

〇在宅医療で求められる臨床工学技士の役割

石川県内の総人口に占める65歳以上の割合については、平成27年度では、県内人口1,152,900人のうち約477,500人（全体の41%）となっているが、平成37年（2025年）には県内人口1,096,200人のうち545,000人（全体の50%）と増大することが人口推移予測で示されている。それに合わせて、慢性期医療から在宅医療へと移行していく患者数も大幅に増加することが予想され、今後ますます高齢者自らの住まいにおいての在宅医療・介護連携の促進、提供が重要な課題となる。その医療提供の一つが、生命維持管理装置やＭＥ機器であり、これらの高度医療機器を安全かつ効果的に使用していくため患者の支援体制の整備が重要となる。

現在、在宅医療機器のメンテナンスは医療機関からの指示のもと業者が行っている。一般社団法人日本呼吸器学会と厚生労働省による「在宅呼吸ケア白書 COPD（慢性閉塞性肺疾患）患者アンケート調査疾患別解析結果」（平成 22 年）によれば、実際に在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法を実施している人の声として、日常生活の多くの時間を医療機器とともに送るからこその不安、不満も多く確認されている。効果的な治療を高度な医療機器に依存していく割合がますます高まっていく中、特に生命維持管理装置は人の

命を司る呼吸・循環・代謝機能を代替することからも、身体へのリスクも高い。そのため、医療、工学の知識を持ち合わせた臨床工学技士が、従来の病院から地域へとフィールドを拡げ、患者と繋がることで不安によるストレスの原因を突き止め、医療機器の改善や工夫を通じて、患者が安心して治療に取り組むことができる環境整備に寄与していく必要がある。

しかしながら、全国にある病院約 8,400 施設のうち、臨床工学技士が在籍している割合は約３割とされ、病院の常勤換算従事者数（厚生労働省「平成 26 年病院報告」）のうち、臨床工学技士は全国で 17,918.9 人、石川県は 145.5 人である。人口 10 万人対臨床工学技士従事者数は全国 14.1 人に対し、石川県は 12.6 人と全国平均に比べて低い水準に留まっている【資料Ⅰ－12】。

以上のことから、これからの在宅医療への移行と充実に向け、本学の臨床工学科では、先端医療分野から地域・在宅医療連携まで幅広く活躍できる優秀な臨床工学技士の安定供給を実現し、地域医療における課題解決に寄与することで、地域に住まう人々の健康増進、医療への安心などを通じて、地域医療の向上に貢献していく。

②養成する人材像

医療技術の進歩と高度化により多様な医療の提供が可能となる反面、各医療従事者の業務領域が拡大し、医師、看護師等とのチーム医療による連携強化が必要となってきていることに加え、医療ニーズの多様化により各医療専門職にはますます高い能力が求められるようになっている。

本学科では、高度医療機器による安全かつ的確な医療技術の持続的提供ができる基礎力、応用力を備え、これらの課題に対応できる臨床工学技士を養成する。

また、生命の尊厳と医療に携わることの職責の重さと医療人としての人格・教養と、チーム医療（保健・医療・福祉）や地域医療において他の医療職と連携・協調しながら、主体的に行動できるための態度、科学的思考力、課題解決力を備えた臨床工学技士を養成する。

③卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業までに所定の単位を修得し、本学科の養成する人材像に掲げる次の能力を修得した者に、学士（臨床工学）を授与する。

- ○ 医療従事者としての役割を理解し、人の生命と関わることへの責任感と倫理観を有している。
- ○ 臨床工学技士として必要な医学、工学に関する専門基礎知識を有している。
- ○ 臨床工学技士が使用する医療機器の構造と操作・保守・点検の知識と能力を有している。
- ○ 生命維持管理装置の安全で適切な取り扱いに関する知識、能力を有している。

○　チーム医療の一員として、他の医療専門職の役割を理解し、協力して患者の視点に立った医療の実践に取り組むことができる。
○　地域医療の現状や課題を的確に把握し、その課題解決に取り組むための知識、思考力を有している。

（４）国際文化交流学部国際文化交流学科

①設置の趣旨・必要性

○国際文化交流学科が基盤とする地域の概念について

本学科の教育・研究、地域貢献活動、さらには学生の進路についても「小松市を中心とした南加賀地域」を主要な基盤とする。

教育課程においては、専門基礎科目として「国際交流論」を開講し、国際交流への導入として、異なる文化的背景を持つ人々と交流する意義と交流を通じて生じる諸問題、そして小松市が抱える国際交流の地域課題についての理解を深める。また、「観光学概論」及び「地域政策概論」では、小松市をはじめとした南加賀地域での取組事例を例示しながら、現状と課題を学ぶ。さらに、演習においては、南加賀地域に関した演習課題の設定やフィールドワーク先を設定するよう図る。その他、研究や地域貢献においても、教員が地元企業や自治体、ＮＰＯなどと提携し、そこに学生を参画させることで、教育研究、地域連携体制の両面において充実を図り、南加賀地域における活性化へと繋げていく。

○国際観光交流の拡大に伴う人材養成

観光立国の実現に向けて、国際観光の取り組みが強化されるなか、アジアを中心に日本を訪れる外国人旅行者も着実に増えている。リーマン・ショックや東日本大震災の影響による一時的な落ち込みはあったものの、円安や観光ビザの緩和、航空路線の新規就航などを追い風に、平成 27 年の訪日外国人旅行者数は 1,974 万人と過去最高であった平成 26 年の 1,341 万人から 47%増加している（訪日外国人消費動向調査 平成 27 年年間値（確報））。2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの開催決定により、今後もさらなる訪日外国人旅行者数の増加が見込まれる。

石川県では、平成 27 年３月の北陸新幹線金沢開業などにより、平成 27 年の観光入り込み客数は 2,502 万人と過去最多となったが、今後の北陸新幹線敦賀開業や東京オリンピック・パラリンピックの開催、本格的な人口減少時代の到来による地方創生の動きなど石川県を取り巻く大きな環境の変化を見据えて、平成 28 年３月に今後 10 年間の石川県の観光の指針として「ほっと石川観光プラン 2016」を策定している。その中で、平成 37 年の観光入り込み客数 3,000 万人を目標に、「海外誘客の促進」や「観光振興を担う人材の育成」などを重点戦略に掲げ、石川県の観光を将来にわたり石川の活力を牽引する基幹産業として飛躍・発展させるため、産学官の連携により次代の石川の観光産業を

担う人材を育成することとしている。

小松市では、2020年までに１年間に観光等で市外から本市を訪れる人の数（以下「交流人口」という。）500万人を実現するため、まちづくりの方向性を示した「観光アクションプラン」を平成26年11月に策定し、産業観光の推進や伝統文化の発信などによる誘客を戦略的に進めてきている。平成27年11月には新たに今後10年のまちづくりの方向性を示した「NEXT10年ビジョン」を策定し、その中で交流人口の目標数値を700万人に更新している。

今後見込まれる環境の変化に対応し、「観光振興」や「地域再生」の面から小松市のまちづくりを推し進めるため、小松市の地域資源を活かした交流拡大に取り組める人材の育成が求められている。

○多文化共生社会における人材養成

県内の外国人住民数は、平成27年12月末現在で11,343人となっており、リーマン・ショックや東日本大震災の影響により大きな変動はあったものの過去10年間では増加しており、今後も国際化の進展とともに増加することが見込まれている。小松市内の外国人住民数は、平成27年12月末現在で1,529人となっており、石川県と同様に増減はあるものの過去10年間では増加している。また、住民基本台帳人口に対する外国人住民数の割合では、県内は1.0%であるのに対し小松市内は1.4%と高い状況にある【資料Ⅰ－13】。国籍別で人数を見ると、県内は多い順に中国（4,371人）、韓国・朝鮮（1,619人）、ベトナム（1,215人）であるのに対し、小松市内では、ブラジル（642人）、中国（357人）、韓国・朝鮮（151人）となっている。

総務省では、グローバル化の進展により外国人住民の増加が予想され、地域の国際化を一層推し進めていくことが求められているとして、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、地域社会の構成員として共に生きていくような「地域における多文化共生」を柱の一つとした「地域における多文化共生推進プラン」を平成18年３月に策定し、各地方公共団体に対し、多文化共生の推進に係る指針・計画の策定や地域における多文化共生施策の推進を促している。また、プランの中で、多文化共生の推進を所管する担当部署の設置も提起されている。

小松市では、「国際都市こまつ」を目指して、平成25年４月に「国際都市こまつ推進センター」を設置し、平成26年４月には国際都市こまつ推進センターを「国際都市推進課」に昇格させ、海外交流や誘客、多文化共生の推進に取り組んでいる。

市内の外国人住民が増加し、人の価値観や生き方が多様化する中で、市内の外国人住民も市民と同様にコミュニティの一員として活躍できるようなまちづくりが重要である。異文化を受容し、多文化共生社会の実現を担うリーダーとして、まちづくりに取り組むことのできる人材が求められている。

○地域企業におけるグローカル人材の必要性

小松市には自衛隊と民間航空との共用空港である小松空港があり、国内６路線・海外３路線の旅客定期便やルクセンブルグとの定期貨物便が就航しているほか、タイ、ハワイ等へのチャーター便が運行されている。小松空港の平成 27 年度の国際線利用者数は 172,455 人に達し、平成 17 年度の実績（87,992 人）と比べて 196％に増加しており、空港別の国際線乗降客数（平成 27 年）で見ると全国 11 位に位置している。また、滑走路は大型で重量のある貨物便にも耐えられる構造を有し、欧米向け貨物専用機が発着しており、空港別の国際線貨物取扱量を見ると、平成 27 年は年間 11,450 トンの貨物取扱高があり、全国７位に位置している。国内有数の乗降客数、国際貨物取扱高を誇る日本海側有数の空港である小松空港は、北陸地域の人・物・情報の交流拠点となっている【資料Ⅰ－14】。

平成 26 年５月に石川県が策定した「石川県産業国際展開戦略」によると、県内の輸出企業数は、平成 19 年の 121 社から平成 25 年の 182 社に増加しており、拡大傾向にある。また、県内企業の海外進出状況についても、平成 17 年の 92 社（166 拠点）から平成 25 年の 127 社（232 拠点）に増加している。特に業種別では、南加賀地域に集積している機械産業の海外進出が顕著であり、平成 17 年の 25 社（46 拠点）から平成 25 年の 42 社（82 拠点）へ拡大している。経済のグローバル化を背景に、海外進出する県内企業数は近年拡大傾向にある一方、進出企業割合で見ると、石川県の水準（0.20％）は全国水準（0.32％）に比べて低い状況にある。

また、我が国は今後、本格的な人口減少・少子高齢化社会を迎え、国内市場の停滞が懸念される一方、先進国を上回る高い経済成長を続ける中国や東南アジア等の振興国市場は今後もさらなる成長余地が期待されている。こうしたことから、新興国をはじめとする旺盛な外需を取り込み、世界経済の活力を県内に呼び込むことは、従前以上に、本県経済の持続的な成長にとって重要であり、これまで海外展開とは縁の薄かった県内中小企業も積極的に世界に市場を求めていくことが重要となるとされている。

さらに、戦略に記載されている、県内企業を対象としたアンケート結果では、今後の海外展開候補地域として、関心がもっとも高いのは東南アジアとなっている。また、戦略策定時の委員意見として、「海外展開を進める上で人材の確保、とりわけ海外で商談を進める語学の出来る人材が重要」、「海外展示会等で成約につなげるには、展示会の前後で、どれだけきめ細やかに現地顧客候補とコミュニケーションを行うかが鍵」と記載されており、グローバルなビジネス展開に対応できる高度専門人材の育成が求められている【資料Ⅰ－15】。

グローバルなビジネス展開に対応できる人材については、グローバル人材育成推進会議が、語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティーなどを有する人材を「グローバル人材」と定義している。経済産業省では、企業の国際展

開を担うグローバル人材の育成が急務となっているとして、企業におけるグローバル人材の需要量を推計するため、平成 23 年度に「大学におけるグローバル人材育成のための指標調査」を実施している。調査では、2017 年におけるグローバル人材の需要量（人数）の推計は 4,118,562 人（会社企業全体の総常用雇用者数の 8.7%）とされ、2012 年におけるグローバル人材量（人数）1,687,871 人（会社企業全体の総常用雇用者数の 4.3%）の約 2.4 倍の需要増が見込まれている。

以上のことから、南加賀の地域経済を支える中小企業が、今後本格化する人口減少・少子高齢化社会においても継続的に発展していくためには、小松空港などのインフラを活かし、グローバル化に対応していくことが重要である。今後も高い経済成長を続ける中国や東南アジアに向けた海外展開を進めていくためにも、英語・中国語等の外国語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材の育成が求められている。

②養成する人材像

本学科では、南加賀地域における知の創造の拠点として、南加賀地域の歴史や文化を踏まえながら、国際社会に対する知識と国際感覚を備え、力強い人間力と豊かな知性・感性をもって、地域社会の創生と我が国の持続的発展に貢献できる人材を育成する。具体的には、地域社会が直面する諸問題を国際社会と情報化社会の視点から捉え、解決策を導くための力、主体性をもって情報を集め、明晰な思考によって分析し、豊かなコミュニケーション能力（文章表現能力を含む）の修得による自分の考えを他者に明確に伝える力、国際コミュニケーション能力と異文化理解の手段を獲得し、留学などの国際交流の経験、地域実習による地域の人々との交流を通じて、地域創生の方策を考える力を養成する。

また、コースごとに次の養成する人材像を置く。

【国際観光・地域創生コース】

世界を俯瞰した観光学と農業を含む地域経済の実態に関する知識を身につけ、海外や地元での体験実習・社会実習などを通じて獲得した企画力と創造力を基礎として、国際的な視野から観光振興と地域創生に貢献できる人材。

【グローバルスタディーズコース】

世界各地域の政治、経済、社会及び言語文化に関する知識を身につけ、演習や海外での体験実習などで獲得した異文化理解・受容能力と情報収集能力及び我が国のあり方に関する自立的な思考力、判断能力を基礎として、外国語運用能力を駆使しながら地域の国際化に貢献できる人材。

③卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

卒業までに所定の単位を修得し、本学科の養成する人材像に基づき、以下の項目にあげる学科共通の能力を修得するとともに、それぞれのコースごとに求められる能力を獲得した者に、学位（国際文化学）を授与する。

◯地域貢献のための基礎力

南加賀地域の歴史と文化を理解し、地域経済と観光文化資源の活用に関する基礎的知識を習得している。

◯グローカル人材としての素養

国際社会及びわが国の政治、経済、歴史、言語、文化等に関する豊かな知識と事象に対する洞察力を習得している。

◯外国語能力

国際交流のための基礎となる外国語能力を学び、自己表現できる能力を習得している。

◯社会への成果還元力

学習成果を生かして、観光振興、地域創生、国際交流に求められる企画・情報収集・分析・問題解決の各レベルに関する能力を身につけるとともに、コミュニケーション力と情報発信力を習得している。

【国際観光・地域創生コース】

観光をめぐる国際的な展開を理解するとともに、地域経済の仕組みと企業、地方自治体等における地域創生のための取り組みを学び、調査活動をプレゼンし、情報発信できる能力を習得している。

【グローバルスタディーズコース】

外国語能力の基礎の上に、アジアを中心とする世界各地の政治、経済の仕組みと歴史、言語、文化に関する知識を身につけ、国際交流のための調査・分析能力と論理的な自己表現能力を習得している。

４　大学の概要

新たに設置する公立小松大学は、小松短期大学（地域創造学科）とこまつ看護学校（看護学科）を母体に、生産システム科学部（生産システム科学科）、保健医療学部（看護学科・臨床工学科）、国際文化交流学部（国際文化交流学科）の３学部４学科からなる４年制大学として創設する。大学の概要は次のとおりである。なお、設置者は小松市が設立を予定している公立大学法人公立小松大学である。

○ 大学の名称

公立小松大学

○ キャンパスの設置場所

粟津キャンパス　　石川県小松市四丁町　（生産システム科学部、大学本部）

末広キャンパス　　石川県小松市向本折町（保健医療学部）

中央キャンパス　　石川県小松市土居原町（国際文化交流学部）

○ 設置する学部・学科

生産システム科学部　生産システム科学科　（入学定員 80 名､収容定員 320 名）

保健医療学部　看護学科　（入学定員 50 名、収容定員 200 名）

臨床工学科　（入学定員 30 名、収容定員 120 名）

国際文化交流学部　国際文化交流学科　（入学定員 80 名、収容定員 320 名）

各学部の教育研究等は、既存の小松短期大学とこまつ看護学校のほか、公民連携手法（ＰＰＰ）で建設される小松駅南ブロック複合施設のフロアを活用して、３つの校地で行う計画とする。３つの校地間は距離にして７㎞以内、車で 16 分以内の地点に位置しており、各学部は教育研究内容等と各校地の周辺環境を考慮して配置する。

生産システム科学部及び大学本部を置く現在の小松短期大学の校地（以下、「粟津キャンパス」という。）は、ＪＲ粟津駅から 900m（徒歩 12 分）の距離に位置している。校舎は、現在の小松短期大学の校舎を改修して利用する。キャンパスの周辺はコマツやジェイ・バスなどのものづくり企業が集積している地域であり、これらの企業と連携した教育研究活動が可能となる。

保健医療学部を置く現在のこまつ看護学校の校地（以下､「末広キャンパス」という。）は、ＪＲ小松駅から２㎞（徒歩 23 分、市内循環バス及び路線バス７分）離れた場所に位置している。校舎は、現在のこまつ看護学校の校舎及び小松市の母子健康施設であるすこやかセンターの２階部分を改修して利用するほか、隣地に新棟を整備する。キャンパスの周辺は南加賀地域の広域医療の拠点である小松市民病院に隣接しており､連携した教育研究活動が可能となる。

国際文化交流学部を置く小松駅南ブロック複合施設の２階及び３階（以下、「中央キャンパス」という。）は、ＪＲ小松駅に隣接し市内外へのアクセスに優れた場所にあり、国際交流活動や地域連携活動の行いやすい環境にある。

学生の教育については､中央キャンパスにて全学部共通の教養教育を１年～２年前期に行い、２年後期より各学部の専門教育を各キャンパスで行う。なお、１年から２年次に配置する一部の専門科目については、中央キャンパスで行い、学生のキャンパス間の移動が生じないようにする。

５　大学の基本理念

南加賀地域初の公立大学であり、地域における教育、研究の中核的拠点として、以下の基本理念を掲げ、その役割を果たしていく。

○　地域と世界で活躍する人間性豊かなグローカル人材を育成する大学
○　持続的発展に向けて生産システムや人間の健康医療の科学技術を革新し、異文化交流を推進する大学
○　地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学

６　大学の教育理念

公立小松大学は、本学の基本理念に基づき、以下の理念を掲げ、教育実践に取り組む。

○　確かな基礎知識と高度な専門能力の修得に向けた主体的な学びと組織的な教育
○　人間・社会・自然と科学技術の発展を総合的に捉える先駆的な科学教育
○　人間性豊かな市民、応用力のある専門職業人、グローカル人材を育成する地域と協働した教育

７　既設の短期大学等との違い

新たに設置する公立小松大学は、生産システム科学部、保健医療学部、国際文化交流学部の３つの学部からなる４年制大学として創設するものである。そのうち、保健医療学部については、学校法人小松短期大学が設置する小松短期大学の３年間の臨床工学技士養成課程と一般財団法人こまつ看護学校が設置するこまつ看護学校の看護学科を再編・発展させて設置するものである。

（１）人材養成の目的

小松短期大学は、「地域社会が必要とする専門性の高い職業人に必要とされる知識・技術と健全な社会人としての豊かな教養・コミュニケーション能力を兼ね備えた人材の育成」を目的として、地域創造学科に設けられた各コースの分野で活躍できる職業人を養成し、南加賀地域を中心に多くの人材を送り出してきている。そのうち、地域創造学科に設けられている臨床工学ステージ（コース）及び臨床工学専攻科では、医療現場で活躍する臨床工学技士の養成を行ってきている。

また、こまつ看護学校は、「看護師として必要な知識及び技術を修得させ、社会の保健・医療・福祉の向上に貢献し得る有能な人材の育成」を目的として、地域の医療機関で活躍する看護師の養成を行ってきている。

しかし、社会のニーズの変化やグローバル化が進む中で、幅広い視野と高い専門性を持つ人材が求められるようになってきている。特に、医療分野では、医療の高度化、専門分化が進む中で、より高い専門性と広い見識を持った質の高い医療従事者の養成が求められており、これまでの短期大学と看護学校の３年間という短い養成期間では、求め

られる資質や能力を持つ人材を育成することは困難な状況となってきている。

そこで、公立小松大学では、「確かな基礎知識と高度な専門能力を有し、国際的な視野をもって地域と世界で活躍する創造力ある専門職業人の育成」を目的として人材養成を行うこととしている。特に、保健医療学部看護学科では、「しなやかで繊細な感性と、人としての深さを併せもち、幅広い領域で求められる看護ケアを的確かつ柔軟に提供できる看護専門職業人の育成」を目的とする。また、保健医療学部臨床工学科では、いっそう深い教養と工学を教授することにより「より安全で的確な医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち、地域における保健医療福祉の活動に貢献できる基本的能力を持つ臨床工学技士及び臨床工学教育・研究者の育成」を目的とする。４年間の養成期間により、幅広い教養と豊かな人間性を備えた質の高い人材の養成が可能となる。

（２）教育課程

小松短期大学において、地域創造学科の卒業に必要な単位数は、共通科目 17 単位以上と専門科目 45 単位以上の合計 62 単位以上である。なお、臨床工学技士国家試験受験資格取得に必要な単位数は、臨床工学専攻科において合計 92 単位以上（うち 59 単位までは地域創造学科での修得単位を専攻科単位として認定）である。

また、こまつ看護学校において、看護師国家試験受験資格取得に必要な単位数は、基礎・専門基礎・専門Ⅰ・専門Ⅱ・統合の５つの分野で構成される 99 単位以上である。

公立小松大学における卒業要件単位数は、学部・学科により異なるが、保健医療学部看護学科では、看護師国家試験受験資格取得に必要な単位数として、全学部共通で行う共通教育科目と教育目的に応じて６つのステージに分けられた専門科目で構成され、127 単位以上としている。また、保健師については選択制を採用し、保健師選択者は、看護師の 127 単位に公衆衛生看護学に関する科目計 15 単位を上乗せした 142 単位以上を卒業要件単位数としている。保健医療学部臨床工学科では、臨床工学技士国家試験受験資格取得に必要な単位数として、全学部共通で行う共通教育科目と専門基礎科目、専門科目で構成される 128 単位としている。４年制大学では、幅広い教養を身につけた上で、看護師や臨床工学技士に求められる基礎力、応用力を実現できる科目編成が可能となっている。

（３）教員組織

小松短期大学地域創造学科の教員組織は、専任教員 16 人（教授 10 人、准教授５人、講師１人。学長含む）である。そのうち、臨床工学専攻科の教員は４人（地域創造学科兼務）である。また、こまつ看護学校の教員組織は、専任教員９人（学校長除く）である。

一方、公立小松大学の教員組織は、専任教員 73 人（教授 39 人、准教授 17 人、講師

５人、助教 12 人）となる。そのうち、保健医療学部看護学科では、専任教員 24 人（教授 10 人、准教授２人、講師３人、助教９人)、保健医療学部臨床工学科では、専任教員 12 人（教授 7 人、准教授３人、講師２人）となり、現在の小松短期大学及びこまつ看護学校における教育体制と比べ充実した体制となる。

８　既設の短期大学等の計画

小松短期大学については、平成 29 年度をもって地域創造学科の学生の募集を停止し、在学生の卒業をもって学科を廃止する予定である。また、平成 31 年度をもって臨床工学専攻科及び診療情報管理専攻科の学生の募集を停止し、在学生の卒業をもって専攻科及び短期大学を廃止する予定である。

なお、小松短期大学の設置者については、平成 29 年 12 月に現在の学校法人から新たに設立する公立大学法人へ設置者を変更するための認可申請を行う予定である。

こまつ看護学校については、平成 29 年度をもって学生の募集を停止し、在学生の卒業をもって廃止となる予定である。

Ⅱ　学部・学科等の特色

１　中央教育審議会答申を踏まえた本学の役割

中央教育審議会は平成 17 年１月の答申「我が国の高等教育の将来像」の中で、大学の機能別分化として、７つの機能を掲げ、これらの全体または一部の併有と比重の置き方で大学の個性・特色となって行くことを掲げている。

本学が設置する生産システム科学部、保健医療学部（看護学科、臨床工学科）、国際文化交流学部の３つの学部では、いずれも「幅広い職業人養成」、「地域の生涯学習機会の拠点」、「社会貢献機能」の役割を担うこととする。

２　地域に立脚し、国際社会で活躍するための幅広い教養力の修得

新設大学では「地域と世界で活躍する人間性豊かなグローカル人材を育成する大学」を基本理念に掲げ、地域、日本に立脚した国際的視野の涵養を教養教育の実践における第一目標とする。

そのため、まずは地域や日本における歴史、文化、哲学などの人文社会に関する知識の修得、社会の現状と課題についての理解、自己形成のための思考力、創造力の涵養に取り組む。併せて、国際社会における主要なコミュニケーションツールである英語の実践的運用能力を磨き、世界の人々と交流し、異文化の多様性を理解し受容するための基礎力とする。

上記の知識、能力の修得による幅広い教養と豊かな人間性の涵養を、地域の国際化、国際社会において広く活躍できる公立小松大学の「教養力」として位置づけ、これを土台に効果的な専門教育に取り組んでいく。

３　学部・学科等の特色

新たに設置する公立小松大学は、生産システム科学部には生産システム科学科、保健医療学部には看護学科および臨床工学科、国際文化交流学部には国際文化交流学科の３学部４学科で構成し、各学部・学科における教育研究の特色は次のとおりである。

（１）生産システム科学部生産システム科学科の教育

①人材育成に関する特色

本学科の特徴は「機械工学」、「電気工学」、「電子工学」、「情報工学」をバランス良く配置し、ものづくりの基本となる機械工学とそれを制御する電気・電子工学、ＩｏＴとして幅広く展開するための情報工学を体系的に教育することで、１つの工学課題に対して多角的にアプローチできる能力を修得した人材を育成する。このことは、卒業後の社会で求められる柔軟な思考力の涵養にも繋がる。

次に、本学科が位置するキャンパスは、南加賀地域のものづくり集積地の中心に位置

しており、ものづくり現場と至近の距離で専門教育を学ぶ好条件にある。そのため、地域の企業や農林業と連携し、南加賀地域全体を教育研究のキャンパス「企業キャンパス」として広く見据え、学生を近隣企業のものづくり現場や山間部の農林業に直接触れさせる機会を多く作ることが可能となるほか、地域で業績を上げている優良企業のトップの考え、哲学を直接聞く機会を講義に取り入れることで、学生自らの学修の意義と将来像をイメージしやすくなる。さらに、自らの活躍の中心となる南加賀地域のあるべき姿について確固たる考えを持ち、主体的、意欲的に地域の持続的発展に取り組むことができる人材を育成する。

②重点を置く教育研究分野

本学科は、南加賀地域におけるモノづくりの教育研究拠点として、地域との連携を中心に据えて、重点的教育研究分野を選定することとした。南加賀は北陸の工業生産の集積地の一つであり、同時に農林業も盛んであるという特色を有する。したがって、工業生産と農林業を視野に入れた、環境と人間にやさしい「持続可能な生産システム」の構築のため、これからの社会において重要な役割を担うと予想される IoT（モノのインターネット）技術の発達を見据えて、情報工学と機械工学の融合によりその実現を目指すことを当該学部の柱と位置付けている。

この理念を実現するため、「生産機械コース」と「知能機械コース」の二つの教育プログラムを設ける。「生産機械コース」では、人と環境にやさしい生産システムの要素技術を構築するため、機械工学を中心とした基礎教育と研究を行う。例えば、３R（Reduce, Reuse, Recycle）などのライフサイクル全体を考慮した機械の設計、生物環境圏における汚染の拡散メカニズムに関連した研究課題が挙げられる。一方、「知能機械コース」においては、情報工学とロボット工学に関す研究者を配置し、IoT の利用による環境配慮型生産システムの制御、および統合的管理システムの構築に関する教育研究を行う。この分野では、機能を特化した自律型の専用ロボットの研究開発、種々のセンサーと IoT を援用した生産システム全体の最適運転実現に関する研究が挙げられる。

これらの教育研究の成果を、地域に直接還元できるように様々な環境整備を行う。近隣企業の技術者と本学の教員の間の交流を促進する様々な機会を設け、共同研究が成立しやすい環境を作る。そのためにも、技術相談や公開講座、シンポジウム等を積極的に開催する。

大学における研究は真理の探究と言う面も重要である。基礎研究を基盤として応用研究が成り立つことから、基礎と応用両面の研究をバランス良く推進し、いずれの研究も成果として論文にまとめ、学会、論文誌等を通して広く公開することを促進する。研究成果を世界に向けて発信できる大学の存在自体が、地域に対する大きな貢献である。

③地域貢献への取り組み

大学、企業という垣根を超えて、様々な技術的問題を抱える近隣企業の技術者が本学教員と容易にコンタクトがとれるシステムを構築する。このために商工会議所や㈱コマツ関連企業で構成される「コマツみどり会」をはじめとして、地域の課題や新技術開発等、情報交換の場を多く設けて行く。

南加賀を中心とした、企業での学生の「学外技術体験実習」（インターンシップ）が３年次に必修科目としてカリキュラムに組み込まれている。このインターンシップの実施を、近隣企業と教員との結びつきを緊密にできる良い機会と捉えたい。これにより企業にとって本学は技術開発の拠点となり、教員にとって企業は新たな研究対象・課題を発見する場であるという関係を築くことができる。

（２）保健医療学部看護学科の教育

①人材育成に関する特色

我が国の高齢化、病態の多様化、国際化により、看護の対象は今まで以上にあらゆる年代、人種、多種多様な社会文化的背景をもつ人々へと拡がり続けている。そのような人々と信頼関係を築きながら看護ケアを提供していくためには、多様な価値観を受け入れることができる豊かな人間性が求められる。本学科では、他の看護系大学よりも多くの共通教育科目の履修（31 単位以上）と、専門教育においては看護師として品格や教養に関する科目の履修を設けることで、豊かな人間性の涵養に取り組む。さらに、病を抱える人や老いを生きる人にはその人なりの主観的な心の痛み（体験としての障害：Illness）があり、それに共感できるしなやかで繊細な感性を涵養することで、看護師として求められる品格、教養力の養成を実現して行く。

本学科では、昨今の急激な高齢化による重篤な疾患及び認知症を患う人々の増加等、小松市を中心とする南加賀地域が、今後抱えるであろう様々な健康課題に対応できる看護専門職業人育成を特色として掲げ、目標とする看護ケアを「対象に応じて必要な看護ケア」ではなく「対象に応じて望ましい看護ケア」に設定する。看護する側から診て必要と判断する看護ケアではなく、健康に問題を抱えた本人自身が自分らしく生きることを支援できる知識・能力を修得した看護師を養成する。そのためにも、看護領域に留まらず、医療、保健・福祉分野における知識を広く学び、対象が求める医療ニーズを把握し、的確な看護実践ができる人材を養成する。このことを、地域の課題である病院完結型医療から地域完結型医療へのシフト、すなわち「地域包括ケアシステム」の構築の推進に貢献できる幅広い視野をもった看護師の養成へと繋げて行く。

②重点を置く教育研究分野

世界第一位の超高齢社会である我が国において、高齢者の増加とあわせて進行している大きな課題が認知症である。特に、若年層の市外流出が進む地域では、老老介護が増

加していることもあり、老人世帯の孤立化や認知症患者を抱える家族の精神的な負担についても大きな問題となっている。

本学科では、医療の現場が病院から地域、在宅へとシフトしていく中で、地域の看護課題を広く見渡せる能力を修得した人材育成に取り組むが、特に南加賀地域でも大きな課題となっていく認知症に関する内容に教育の重点を置いた看護教育の充実を図る。

1 年次に開講する市民健康論では、小松市民の健康に係る実態と目指す将来像を学んだ上で、2 年次から 3 年次の老年看護学の講義、演習を通じて認知症患者とその家族の理解やケアのスキルアップを図り、地域や居宅でどのように認知症に対応していくかを学ぶ。あわせて、老年看護実習 I では認知症ケアに取り組む施設を中心に据えた実習内容としていく。これらを踏まえ、在宅看護学の領域では、在宅療養者と家族の生活を理解し、在宅看護の目的や支援方法を学ぶ。

教員陣についても、病院という枠組みを超え、地域や在宅をフィールドとする教員の充実を図る。本学科における看護能力を仕上げる 4 年次では、これらの教員の強みを活かし、自らの専門領域と地域をテーマとした「排便ケア」「地域の健康課題と多職種連携」をはじめ、地域において認知症を抱える人々を取り巻く環境、実態を幅広く見渡せる能力を修得するための科目を配置する。

これらの地域課題をテーマとし、公立大学であることの利点を生かし、小松市、南加賀地域に拠点を置く医療機関、保健施設、企業等との産学官連携による研究プロジェクトを推進する。現時点においても、新設大学の専任教員には、小松市をフィールドとして長く研究活動をしている者もおり、当地域が抱える現状と課題に通じている。さらに、小松市内の病院における勤務実績や市内高校出身者等、効率的に研究活動を行うことが出来る素質を備えており、効率的な研究活動とその成果の還元により、積極的に地域の健康保持・増進に貢献していく。

③地域貢献への取り組み

地育・地活をめざした本学科卒業生の就職先は、こまつ看護学校の卒業生の就職先とされている南加賀地域に存立する小松市民病院、加賀市医療センター、能美市立病院、やわたメディカルセンター、芳珠記念病院を初めとする地域医療機関を想定している。

また、本学科の専任教員として、大学教員、臨床の看護師、病院の看護部門管理者、地域や学校の保健師等としての経験をもつ者を幅広く採用しており、それぞれの個性的なキャリアを活かすことで、地域の多様なニーズに対応することが可能である。具体的には、健康に資する取り組みを双方向（市町村で開催される地域住民対象の健康教育等の講師派遣、公開講座開催、等）、あるいは双方の連携（地域企業の産業保健スタッフと連携した健康教育やストレスチェック等の協働活動、市町村と連携した職員対象の健康教育やストレスチェック等の協働活動等）により積極的に取り組み、南加賀地域の健康増進に貢献して行く。

（３）保健医療学部臨床工学科の教育

①人材育成に関する特色

本学科は、国公立大学で初めての臨床工学科設置となる。その公益性をしっかり認識し、医療における臨床工学技術の提供に不可欠な医学と工学の基礎的知識・技術を充分に修得し、被医療者の QOL の向上に誠実に尽力できる臨床工学技士を育成する。そのために、臨床工学技士として安全な医療技術を、責任をもって提供することができる基礎力・実践力と課題解決能力の修得を教育における目的の第一義に据える。

まず、医学的基礎知識の修得のために医師である専任教員を配置することで教育の質を確保する。また、工学系医療専門職として生命維持管理装置などの保守・管理・活用を確実に実践するため、電気・電子・情報に関する科目を豊富に配置し、高度医療機器を安全に取り扱うための工学的基礎知識を確実に修得させる。

また、本学科は国公立大学で初めての臨床工学科として、地域医療の発展に貢献できる人材育成拠点の役割も果たすことを使命に掲げる。医療技術の高度化と合わせて多様化する医療ニーズに対応するため、臨床工学に関する豊富な知識・技術に加え、他の医療専門職とで構成されるチーム医療の一員として、今後の急性期医療や地域医療の課題解決に果敢に取り組むことができる臨床工学技士を養成する。

②重点を置く教育研究分野

本学科では、医療における臨床工学技術の提供に不可欠な医学と工学の基礎的知識・技術を充分に修得し、被医療者の QOL の向上に誠実に尽力できる臨床工学技士および臨床工学教育・研究者を育成する。そのために、臨床工学機器を見るだけではなくて被医療者を正しく診るための「基礎・臨床医学分野」を重視する。また、既存の医療技術は当然のこと、安全かつ確実に医療技術を責任をもって地域や世界に提供することができる基礎力・実践力を培うための「医用工学分野」を重視する。さらに、高度先進医療や地域包括ケアシステムなど、多様化する医療ニーズに対応できる課題解決能力を修得し、医療専門職同士のチームワークにより、地域に必要とされる医療提供のための基礎力、応用力の涵養を重視する。これは４年次に看護学科の学生と合同で履修し、地域医療の課題を検討するためのゼミを設け、地域包括ケアシステム構築の推進やチーム医療への理解を通じて、地域医療の未来について看護、臨床工学の両側面から考え、主体性を持ってその発展に貢献できる人材育成に取り組む。

研究においては、地域における臨床現場の具体的な課題をテーマとして取り上げ、その解決に取り組む。昨今の医療技術の進歩により、新しい高度医療機器が次々と開発されているが、その医療技術や治療法が地域医療の現場、これからシフトして行く在宅医療に十分行き届いているとは言い切れない。新設大学には看護学科、工学系学科である生産システム科学科を設置するため、３学科連携による研究プロジェクトや地域の医療

機関、企業、行政機関との共同研究等に積極的に取り組み、高度医療技術と地域、人々の住まいを繋ぎ、個々の QOL の向上に貢献して行く。

③地域貢献への取り組み

前述の「研究に関する特色」に記載したとおり、本学科と生産システム科学科、看護学科との共同研究の推進や地域、行政による産学官連携で得られた研究成果を地域産業へと還元することで、南加賀地域における健康の保持・増進に貢献する。また、本学が位置する南加賀地域には、世界のパイオニアとして地域の医療と在宅・介護と健康維持・増進の連携事業を展開している医療機関「やわたメディカルセンター」があること、ウオーキングやジョギングなどの地域の人々の健康活動が活発に行われている象徴的拠点である「木場潟」をはじめ、地域の人々の暮らしに健康維持・増進が定着しており、本学科ではこのソーシャルキャピタルの向上を、臨床工学の寄与により図っていく。

（４）国際文化交流学部国際文化交流学科の教育

①人材育成に関する特色

本学科は「国際的視野から地域貢献を目指す人文社会学系の総合学部」と位置づけている。地域の国際化が進行する中、日本文化を背景に、国際社会に関する幅広い素養を身につけ、外国語をツールとして活躍できる人材を養成することを通じて、南加賀をはじめとする日本の地域社会への貢献を果たす。このような人材育成のためにも、学内で学ぶだけでなく大学の外で行われる実習などを通じて、自分の頭で考え、試行錯誤を繰り返すことが必要であり、海外語学研修や地域実習など、地域、異文化の人々との交流を積極的に取り入れることで、教育効果を高める。そして、地元企業や自治体に有為の人材を多数送り出すことで、増え続けるインバウンドに対応できる人材、地域を拠点に海外展開する企業で活躍できる人材を育成する。

②重点を置く教育研究分野

本学科は、国際化を通じて地域社会に貢献する人材を育成するという教育目標を達成するため、人文・社会科学系の多様な分野の研究者を配置している。既存の分野としては、農業経済学、観光社会学、文化人類学、国際政治学、国際経済学、地域研究、言語学、英語学、中国語学、日本文学がある。うち、現状で高水準の研究力を有するのは、農業経済学、言語学、中国語学、日本文学であるが、教育面での協同を通じて異分野融合型の研究を形成する基盤がある。

教育プログラムである２つのコースについて言えば、まず、国際観光・地域創成コースにおいて、農林業の６次産業化が盛んに進められている小松市を含む南加賀地域の特性・産業基盤を踏まえ、教育課程の中で農林業の６次産業化に連動し、農業・林業等の地域特性に根ざした観光学を展開し、地域資源を活かした交流拡大に発展さ

せ、地域の創生へとつなげていく。次に、グローバルスタディーズコースにおいては、言語学領域の教授陣の卓越した研究力を生かし、新たな研究拠点を形成するほか、国際政治・経済領域で東アジアから中東・旧ソ連圏をカバーする中堅・若手の研究者が揃っていることから、本学部の強みとなる共同研究の構築を図る。

以上のほか、教育面でのコースの枠組みを超えた共同研究も目指す。

研究は教育の質を担保する。換言すれば、良質の教育は研究力の強化によってもたらされる。そのため、本学科では、他の国公立大学に引けを取らないレベルの研究アクティビティを有する専任教員を配置し、相互に連携・協力することで多彩で独創的な異分野融合型研究を推進する。また、この研究シーズを以って小松市と力強いパートナーシップを築き、地域振興、国際交流に関する事業にも、地域のための公立大学として積極的に参画していく。

③地域貢献への取り組み

地域貢献は本学科の一義的な使命であって、本学科の存立の要である。地域貢献の第一歩は、教員が地元企業、自治体、NPO などと垣根を超えた提携網を作ることであり、そこに学生を参画させることで大学教育、地域連携体制の両面において充実を図る。地域の新しい価値を創生し、内外から観光客を集める役割の直接的な担い手は、国際観光・地域創生コースであるが、グローバルスタディーズコースはそれと補完的な役割を果たす。即ち、地域連携に関与しながら、国際的提携網を作り、学生を海外に送り出すとともに、海外の協定校からも短期留学生を受け入れる。これらの海外の大学等との連携は、前身となる学校法人小松短期大学が行っていた事業を引き継ぎ、全学の共同機関として「国際交流センター」が中核的な役割を担う。国際交流センターには、また、短期留学生への教育にあたっては、国際文化交流学部の教員が外国語に堪能であることから、日本語を媒介としない個別指導も行っていく。このプロセスによって、学生そして教員間の教育研究における交流を活発にし、南加賀地域における活性化へと繋げて行く。

４　地域の学びの拠点としての機能

新設大学が持つ情報、研究成果を地域の人々の学習意欲への支援や地域の伝統文化、環境の保全等に生かして市民へ還元することを目的に、地域社会や人々の暮らしをテーマとした公開講座や、社会人、シニアの学び直し、女性の活躍支援のため、必要な知識や能力の習得、資格取得等を支援する社会人教育プログラムを開講し、地域の人材育成拠点としての役割を担って行く。また、大学教育に支障のない範囲で、市民に図書館や講義室といった大学施設を一部開放し、市民の学びの意欲に応えて行く。

Ⅲ　大学・学部・学科等の名称及び学位の名称

１　大学の名称

本大学は、小松市が設立する公立大学法人が設立する大学である。

小松市ひいては南加賀地域の産業、医療、国際化に貢献し、地域の未来を創生できる力強い人材の育成を目指す。同時に、研究活動の成果を地域社会に還元し、地域貢献を推進していくこと、幅広い年齢層の市民の「学びの拠点」としての機能を整備し、市民の生涯学習意欲を充足させていくことなど、南加賀地域初の公立４年制大学として市民を育て、愛される大学を実現するものである。

したがって、地域のための、市民のための大学であることを分かりやすく示す名称として「公立小松大学」とする。

また、大学の英訳名は、「 Komatsu University 」とする。

２　学部及び学科の名称

地域のものづくり、医療、国際化に貢献できる人材育成に取り組むことから、以下の名称とする。

（１）生産システム科学部

機械・電気・電子・情報それぞれの視点に立って、地域社会と世界の持続的発展に向けた生産システム構築に取り組むための教育研究活動を主な目的とし、学科名は「生産システム科学科」とする。

また、英訳名については、本学科の教育課程が、ものづくりの基礎となる機械工学に加え、それを制御する電気・電子工学、IoT として幅広く展開するための情報工学、さらには、環境科学に関する学問領域にも立ち入ることを踏まえ、学部名を「Faculty of Production Systems Engineering and Sciences」、学科名を「Department of Production Systems Engineering and Sciences」とする。

（２） 保健医療学部

地域で生活する人々が抱える身体的・精神的・社会的な健康問題の解決に向けて、治療から予防まで幅広く教育研究活動に取り組むことを主な目的とし、これからますます進行する地域医療の高度化・多様化に対応できる医療専門職業人を養成すべく、学科名は「看護学科」「臨床工学科」とする。

また、英訳名について、学部名は「Faculty of Health Sciences」とし、看護学科は「Department of Nursing」、臨床工学科は「Department of Clinical Engineering」とする。

（３） 国際文化交流学部

地域社会が直面する諸問題を国際社会と情報化社会の視点から捉え、その解決策を考えるための実践的基礎教育を主な目的とし、国際交流の上で前提となる日本文化の知識、異文化が培ってきた文化、歴史、言語など異質なものを受容できる幅広い国際教養、高度な外国語運用能力を養成すべく、「国際文化交流学科」とする。

また、英訳名について、学部名は「Faculty of Intercultural Communication」、学科名は「Department of Intercultural Communication」とする。

３　学位の名称

学位の名称は、教育研究内容を連想できる分かりやすいものとし、英訳名については国際的通用性を重視したものを採用する。

（１）生産システム科学部生産システム科学科
学士（工学）　　英訳名：Bachelor of Science in Engineering

（２）保健医療学部看護学科
学士（看護学）　　英訳名：Bachelor of Nursing

（３）保健医療学部臨床工学科
学士（臨床工学）　　英訳名：Bachelor of Clinical Engineering

（４）国際文化交流学部国際文化交流学科
学士（国際文化学）　英訳名：Bachelor of Intercultural Studies

Ⅳ　教育課程の編成の考え方及び特色

１　教育課程編成の考え方

公立小松大学では、教育理念に「地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学」を掲げており、市民と協働して地域の持続的発展に貢献できる人材育成を目的としている。これらの目的を達成するため、全学部共通で行う「共通教育科目」と、設置する３学部それぞれで「専門基礎科目」、「専門科目」を設け、段階的な教育実践に取り組む。この他、各学部の判断により、養成する人材像の実現に必要と思われる科目群を設ける。

「共通教育科目」は、教育の目的別に「導入科目」「一般科目」「英語科目」「その他外国語科目」の４つに分類し、中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」（平成 14 年 2 月 21 日）の中で大学の教養教育に求められている、専門分野の枠を超えて共通に求められる知識や思考法などの知的な技法の獲得や、人間としての在り方や生き方に関する深い洞察、現実を正しく理解する力の涵養を目指していく。

「専門基礎科目」では、共通教育科目での学びを通じて修得した能力、思考力を土台として、各学部での専門教育の基礎となる知識、能力を確実に身につけるための教育を実践する。なお、専門基礎科目について、各学部では複数の学科やコースを設けているが、学部共通での開講とすることで、自らの専門分野を取り巻く状況を広く理解し、多面的な角度から専門教育に取り組む視野と思考力を養成する。

「専門科目」では、各学部のディプロマ・ポリシーに掲げる能力の修得と同時に、自らの学びが社会でどのように繋がるのかを実習や卒業課題を通じて認識させることで、学びへの主体的な姿勢を維持し、質の高い大学教育を実現していく。

それぞれの学部・学科おいて体系化された教育課程は、設置の趣旨・目的、養成する人材像及びディプロマ・ポリシーを踏まえたものであり、また、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシーともつながるものである。これらの関連性及び開講する科目間の順次制を俯瞰的に示すものとして「カリキュラムマップ」を学科ごとに示す。【資料Ⅳ－１】【資料Ⅳ－２】【資料Ⅳ－３】【資料Ⅳ－４】

なお、本学では、教養教育である「共通教育科目」を学ぶ目的や専門教育との関連性を学生に理解させるため、次の３つの履修指導を段階的に行っていく。まず、学長による新入生全体オリエンテーションでは、大学全体の理念や人材育成、共通教育科目から専門科目までの４年間の一連の学びの流れについて説明を行う。次に、学部長（保健医療学部は各学科長）による新入生学部学科オリエンテーションでは、学部・学科の設置の趣旨及び養成する人材像の考え方についての説明を行う。共通教育科目の中には各学部学科の専門基礎科目及び専門科目へと繋がる科目もあることから、履修の進め方について重点を置いた説明を行う。また、各授業科目の初回に導入の時間を設け、授業の概要及び到達目標について説明を行い、目的意識をもって主体的に学修に取り組むための

動機づけを行っていく。これらの履修指導には、履修モデルやカリキュラムマップを活用することで、学生に分かりやすい履修指導に努めていく。

２　共通教育科目

（１） 導入科目

導入科目は全学部必修とし、公立小松大学での学びをスタートさせるにあたり、自らの学びが将来の進路にどう繋がるかをイメージさせ、学修意欲と知的好奇心を喚起することを目的とする。１年次前期に開講する「キャリアデザイン・チーム論」では、学生が自らの適性を見極め、キャリアデザインを展望しながら、組織や社会集団の一員とし貢献していくための知識とノウハウを学ぶ。そのため、この授業と関連して、１年次～２年次前期の期間、全学生に対して、相談教員を配置する。なお、本科目は生産システム科学部ではキャリアデザイン・チーム論Ⅰ、保健医療学部はキャリアデザイン・チーム論Ⅱを、国際文化交流学部ではキャリアデザイン・チーム論Ⅲを開講し、学生は自らの学部で開講されているものを必修科目とする。また、高校までの教育とは異なり、大学教育では自分で考え、学び、結果を導く手法にシフトするため、学修方法に戸惑う学生が多い。そのため、１年次前期にノートの取り方、資料収集法・整理法、レポート執筆等のノウハウを教授する「アカデミック・スキルズ」を開講し、１年次後期に各学部の教員が専門分野に沿ったテーマを学生に提供し、検討させる「テーマ別基礎ゼミ」を開講する。このゼミによって、課題解決のための思考力、判断力、コミュニケーション力、そして主体的に学ぶ姿勢を涵養する。また、「情報処理基礎」を開講することで、情報収集や資料作成を効率的に進めるためのパソコン、ネットワーク関係の基礎知識を修得させる。

そのほか、本学の理念に地域に貢献できる人材育成を掲げており、卒業後のフィールドとなる小松市、南加賀地域に関する歴史、文化等について学ぶ講義「南加賀の歴史と文化」を通じて、自らが活躍するフィールドとなる南加賀地域の「人」や「社会」の成り立ちとその地域性についての理解を深める。

【履修形式】
全学部５科目８単位を必修とする。

＜必修科目＞
キャリアデザイン・チーム論*、アカデミック・スキルズ、テーマ別基礎ゼミ、情報処理基礎、南加賀の歴史と文化
※キャリアデザイン・チーム論は、生産システム科学部ではⅠ、保健医療学部ではⅡ、国際文化交流学部ではⅢを開講し、学生は自らの学部で開講されるものを必修とする。

（２）一般科目

一般科目は、人間力、社会力、科学力、健康と体力の４つの領域に分類し、次のとおり幅広い教養と豊かな人間性の涵養を養成していく。

ア．人間力

人間力領域では、人間の思考や行動、文化について学ぶ人文系科目を配置し、コミュニケーション能力、表現力の養成を通じて豊かな人間性の涵養を目指す。また、地域のグローバル化に焦点を当て、異なる言語、文化、価値観を持つ人々への理解を深める科目を配置することで、国際的視野を育む。

【履修形式】
全学部６単位以上を選択必修とする。

＜選択科目＞
哲学、心理学、人間の発達と心、日本の伝統芸能、人文地理学、文化人類学、医療と文化、文章表現法、言葉と文化

イ．社会力

社会力領域では、政治、経済、法など社会のシステムに関する基礎知識を学ぶ科目を配置し、成熟した社会を構成する一員としての倫理観と社会全体を広く見渡せる視野を養う。

【履修形式】
生産システム科学部・国際文化交流学部は３科目６単位以上を、保健医療学部は２科目４単位以上を選択必修とする。

＜選択科目＞
日本産業史、自然資源と環境問題、経済学、政治学、社会学、公共政策論、社会福祉論、日本国憲法

ウ．科学力

科学力領域では、科学技術の発展による生命、環境、エネルギーの進歩や高度情報化に関する科目を配置し、社会の発展がもたらす恩恵と今後の課題について、未来の社会のためのより良い選択肢を科学的知見に立って検証・分析を行うことで、課題解決のための合理的、批判的思考力を養成する。

【履修形式】
○　全学部２科目４単位以上を選択必修とする。

＜選択科目＞
データ科学と社会、情報処理応用Ａ、情報処理応用Ｂ、クリティカルシンキング、統計学、現代科学技術論、教養としての物理、教養としての数学

エ．健康と体力
　健康と体力領域では、健康増進と体力の維持・向上に関する基礎知識、方法を学ぶことで、学生の健康に対する理解を深めると同時に、生涯を通じてスポーツや健康づくりを楽しむための意識を涵養する。また、スポーツ科目では生涯を通じて取り組むことができる種目の他、団体競技を中心に配置し、協調性やコミュニケーション能力の向上に努める。

【履修形式】
全学部１科目１単位以上を選択必修とする。

＜選択科目＞
健康と体の科学、スポーツ演習（バレーボール)、スポーツ演習（硬式テニス)、スポーツ演習（フットサル)、スポーツ演習（卓球)、スポーツ演習（バドミントン）

（３）英語科目
　英語は、母語の異なる人々の間をつなぐ国際的共通語として、最も中心的な役割を果たしている言語である。国際連合、経済協力開発機構（OECD）及び世界貿易機関（WTO）などの様々な国際機関において、英語は公用語に位置付けられているほか、国際的なビジネスでの利用、海外の文献やメディアからの情報の入手などの様々な領域において、英語は利用されている。我が国における国際化が、都市圏・地方を問わず急激に進む中、英語によるコミュニケーション力の獲得は、グローバルに情報を入手し、考えを伝え、ビジネスを行い、友人・知人をつくり、共に活動を行う際に求められる基本的な能力となる。したがって、英語の実践的運用能力を確実に身につけることを目的とし、１年次から２年次にかけて全学部必修科目として開講する。

【履修形式】
○　全学部「英語Ⅰa」「英語Ⅰb」「英語Ⅱa」「英語Ⅱb」の４科目８単位を必修とする。
○　国際文化交流学科は選択科目「英語Ⅲ」を必修科目とする。

＜必修科目＞
英語Ⅰa、英語Ⅰb、英語Ⅱa、英語Ⅱb

＜選択科目＞
英語Ⅲ、英会話Ⅰ、英会話Ⅱ、実用英語Ⅰ、実用英語Ⅱ、実用英語Ⅲ、実用英語Ⅳ

（４）その他外国語科目

今後の日本の発展はアジア諸国との経済的､友好的関係を抜きに考えることはできない。また、本学では日本語、英語以外の言語科目として、中国語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語を選択科目として設け、基本的な文法とコミュニケーション力の修得を目指す。第２外国語を学ぶことは、それらを母国語とする国々への理解を深めると同時に、母国語である日本語、そして英語との違いと特徴を再発見することに繋がり、より効果的に語学力の向上を促すものである。

【履修形式】
全学部ともに選択科目とする。

＜選択科目＞
中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、フランス語Ⅰ、フランス語Ⅱ、ドイツ語Ⅰ、ドイツ語Ⅱ、
ロシア語Ⅰ、ロシア語Ⅱ、スペイン語Ⅰ、スペイン語Ⅱ

３　各学部における専門教育

（１）生産システム科学部生産システム科学科

①教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

現代社会の喫緊の課題である持続可能な社会システムを実現するためにも、ものづくり技術の基幹である機械工学と、電気・電子・情報工学の諸技術を有機的かつ体系的に修得させることが求められる。本学科の学生には、これらの諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展に貢献できる人材を育成するためのカリキュラム構成とする。

○　工学や科学の基礎となる数学・物理学の応用力を修得する
○　機械工学、電気・電子工学、情報工学を有機的かつ体系的に修得する
○　諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展のための課題探求能力を修得する
○　地域社会と世界の持続的発展のためのコミュニケーション能力を修得する

②コースの選択について

２年前期終了時点で、学生に生産機械コース、知能機械コースのいずれかを選択させ、各コースにおける専門教育に移行する。ただし、コース選択の要件として、２年前期終了時点で共通教育科目 38 単位以上、専門基礎科目 20 単位、２年前期に開講される専門科目６科目中３科目６単位以上の合計 64 単位以上を修得しなければならない。

コースの決定については、学生の志望動機や適性を考慮して決定するが、一方のコースに著しく人数が偏った場合は、本人の学業成績等により履修指導を行い、調整を行う。

いずれのコースにおいても、技術者としての実践能力を高めるための実験・実習科目、地元企業における学外体験学習、課題探求能力、英語能力を養成するためのゼミナールや技術英語等を開講し、アクティブラーニングを駆使して学習効果を高める。

③開講科目について

ものづくりの設計・開発においては、現代社会が直面している２つの大きな問題、すなわち「地球環境の保全」と「高度情報化社会」への対応が喫緊の課題となっており、これら現代社会が抱える問題を解決し、未来のモノづくりシステムを創造して行くためには、これまでの「機械工学」のみの生産システムでは困難である。本学科の教育課程は、「機械工学」、「電気・電子工学」、「情報工学」に関する基礎を学んだ後、実験・実習科目を通して、それらの知識を実体験することで理解を深め、さらに、ＰＢＬ科目で、それらの知識を実際に運用して課題解決に結びつけるものとなっている。この一連の学修体験を通して、３つの学問領域で学んだ基礎知識を実際に使える生きた知識と技術へとつなげていく。

ア．専門基礎科目

１年次から２年次において、機械系技術者として基礎となる機械又は振動力学、材料力学、熱力学、流体力学、さらに電気・電子・情報工学の基礎である電気回路、プログラミングについて基礎力を身につける。また、講義内容と課題解決に向けた考え方を結びつけるため、講義と演習を組み合わせた科目を配置する。アクティブラーニングを授業の中に取り入れ、講義を踏まえて演習問題を解き、グループで討議を行うまでの一連の流れを通じて、課題解決力とともに、技術者に求められる協調性、説明力、思考力についての能力を養成していく。これらの科目は、これから取り組む本学科の専門教育の基幹をなすものであり、全科目必修とする。

【履修形式】

全 10 科目 20 単位を必修とする。

＜必修科目＞
応用数学Ⅰ、工業数学、応用物理学、工業力学、材料力学及び演習、工業熱力学及び演習、流れ学及び演習、振動工学及び演習、電気回路及び演習、プログラミングⅠ

イ．専門共通科目

生産機械コース、知能機械コースの２年次後期および３年次において、専門基礎科目で学んだ知識を具体的な技術に結びつけるための科目を配置する。生産システム科学のための課題探求や問題解決能力を高めるため、３年後期に課題探求プロジェクトを開講し、これまでに授業で習得した機械、電気・電子、情報工学の基礎知識を活用し、指導教員の指導の下で、自ら提案する特定の課題に取り組み、設計プロセス全体の方法論、あるいは実施計画、装置・ソフトウェアの作製、実験・計算、整理などの方法論について総合的に体験し、習熟する。現代のものづくりのフィールドが海外に幅広く展開されているため、４年前期には外国語（英語）における語学力、表現力を育成するために課題研究ゼミナールを開講する。卒業研究では、これらの科目を通じて修得したノウハウにより、地域、そして世界が抱える生産システムに関する課題をテーマに、自らの考えをまとめ、各種学会で発表、議論できる能力を涵養する。なお、課題探求プロジェクト、課題研究ゼミナール、卒業研究は全学生必修科目とし、学外技術体験実習Ａまたは学外技術体験実習Ｂのいずれかを選択必修とする。

【履修形式】
17 科目 33 単位を必修とし、選択科目の学外技術体験実習Ａ、学外技術体験実習Ｂのいずれかを選択必修とする。

＜必修科目＞
数値解析、技術者倫理、生産工学、生産技術、ロボット機構学、機械設計製図Ⅰ、機械設計製図Ⅱ、機械工作実習、機械電気工学実験Ⅰ、機械電気工学実験Ⅱ、技術英語Ⅰ、技術英語Ⅱ、技術英語演習Ⅰ、技術英語演習Ⅱ、課題探求プロジェクト、課題研究ゼミナール、卒業研究

＜選択科目＞
学外技術体験実習Ａ、学外技術体験実習Ｂ

ウ．専門科目

専門科目は選択科目とし、専門基礎科目と専門共通科目で修得した知識、能力とあわせて、学生が選択した専門分野の知識をより深めることを目的として、ものづくりを担う機械工学科や生産工学科の２、３年次で履修すべき標準的科目を配置する。

ここでは、基礎的な力学系科目が機械の設計、ものづくり、および環境評価に実際にどのように応用されているかを学び、また、実験・実習を通して実際に体験させていく。加えて、インダストリー4.0 や IoT などの言葉に代表される将来のものづくりシステムの要である電気・情報工学系の基礎と、電気・通信工学のハード的分野とプログラミングなどの情報工学に関するソフト的分野の両方の科目を配置する。

具体的には、機械要素設計、材料学、加工学、再生可能エネルギー、環境工学を中心とする機械工学に関する科目と制御工学、人工知能、通信技術を中心とする電気・情報工学に関する科目を配置し、段階的に教育を実践していく。

なお、２年前期に開講される「応用数学Ⅱ」「複素解析」「化学入門」「統計・確率論」「エレクトロニクス概論」「プログラミングⅡ」は、２年前期終了時に選択する生産機械コース、知能機械コースいずれにおいても基幹科目に位置づけられるものであり、３科目６単位以上を選択必修とする。また、３年次に開講される「機械加工学」「電気制御学」「資源有効利用学」及び４年前期の「地球環境と環境流体」は、生産機械コースではコース必修科目とし、ものづくりの加工技術と環境に優しいものづくりを実現するために必要となる知識や技術、そしてこれらを実現するための機械制御技術について学ぶ。また、知能機械コースでは、「アルゴリズム論」「制御工学」「人工知能」「センサと通信」４科目８単位をコース必修科目とし、ロボットや機械の制御方法や効率的に機能するソフトウェアの構築方法をはじめ、高度情報化社会到来を予知した、機械システムや生産システム構築のための基礎知識を学ぶ。

ものづくりの仕組みを総合的に理解するためにも、コースを問わず、これらの機械工学、電気・電子工学、情報工学に関する知識や技術を幅広く修得させることで、多角的な視点からものづくりを検証し、理解できる能力を養い、本学科が掲げる養成する人材像やディプロマ・ポリシーの実現を達成していく。

なお、各コースで設定する履修モデルは「Ⅵ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件」の履修モデルの項目で説明する。

【履修形式】

○　両コースともに「応用数学Ⅱ」「複素解析」「化学入門」「統計・確率論」「エレクトロニクス概論」「プログラミングⅡ」から３科目６単位以上を選択必修とする。

○　生産機械コース選択者は、「機械加工学」「電気制御学」「資源有効利用学」「地球環境と環境流体」の４科目８単位をコース必修科目とし、その他の選択科目 26 科目中 11 科目 22 単位以上を選択する。

○　知能機械コース選択者は、「アルゴリズム論」「制御工学」「人工知能」「センサと通信」の４科目８単位をコース必修科目とし、その他の選択科目 26 科目中 11 科目 22 単位以上を選択する。

＜選択科目＞
応用数学Ⅱ、複素解析、化学入門、統計・確率論、エレクトロニクス概論、プログラミングⅡ、機械加工学、電気制御学、機械材料学、機械要素設計、エネルギー資源と開発、アルゴリズム論、応用電磁気学、環境適合技術論、制御工学、電子回路、情報科学概論、データベース論、資源有効利用学、人工知能、電気機器工学、画像認識論、データマイニング、地球環境と環境流体、センサと通信、インテリジェント生産システム

（２）保健医療学部看護学科

①教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科の教育課程を教育目的に応じて６つのステージに分け、段階的に実施していく。

まず、学生が他学部・他学科の学生と共に幅広い教養を身につけ（１年次）、６つのステージに分けられた看護専門領域を、「人の身体と心を知るステージ」（１年次）→「人の健康問題を考えるステージ」（１・２年次）→「看護とは何かを理解するステージ」（１・２・３年次）→「看護ケア能力を育てるステージ」（２・３年次）→「看護ケア能力を拡げるステージ」（２・３・４年次）→「看護の未来を共創するステージ」（４年次）と、段階的に学修していくことが見える化できるように教育課程を編成した。あわせて、各ステージにおいては「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」（平成 23 年３月 11 日）において推奨されている「学士課程においてコアとなる看護実践能力Ⅰ～Ⅴ」の獲得と連動させ、看護師に求められる基礎力、応用力等を育成できる科目編成としている。

各ステージにおける詳細な教育実践については、教育段階の順に次のとおり取り組んでいく。

②保健師の選択について

本学科では看護師に加え、選択制で保健師 25 名を養成する。保健師養成にあたり、保健師課程の「公衆衛生看護実習」における実習施設として保健所２ヶ所、市町村３ヶ所、学校５ヶ所、産業２ヶ所の受け入れ先を確保している。１施設あたり１名以上の実習指導教員を配置し、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則って、実習の質を担保しながら実施することを踏まえ、25 名の定員としている。また、保健師養成課程においては、より多くの単位修得が必須となることから学生への負荷は増すこととなる。そのため、２年次後期終了時に、希望する学生を対象に試験を実施し、その成績等に応じて選抜を行う。保健師を選択する学生は、看護師の科目に加え、公衆衛生看護学に関する講義、演習、実習の８科目 15 単位を必修科目として履修する。

③開講科目について

ア．専門基礎科目

○　人の身体と心を知るステージ

　看護の対象となる「人」の身体と心を知ることを本学科の導入ステージとし、看護学を学ぶ上で基礎となる科目を配置する。「解剖学」「生理学」「病理学」「感染免疫学」「栄養・生化学」「薬理学」「心の健康とストレスマネジメント論」の全７科目はいずれも必修科目とする。また、看護師と臨床工学技士の将来的な協働チーム形成をめざして、「栄養・生化学」と「心の健康とストレスマネジメント論」を除く５科目については、臨床工学科との連携科目とする。（開講年次：１年）

【履修形式】

全７科目 13 単位を必修とする。

＜必修科目＞

解剖学、生理学、病理学、感染免疫学、栄養・生化学、薬理学、
心の健康とストレスマネジメント論

○　人の健康問題を考えるステージ

　看護の対象になることが圧倒的に多いのは身体的・精神的・社会的健康問題を抱える人である。「人の健康問題を考える」ステージでは、疾病・治療論等の臨床医学に関する理解を深める科目を１、２年次に配置し、顕在的ならびに潜在的に最重要健康問題である生活習慣病、メンタルヘルス不調、認知症に関して看護ケアを提供するための知識・能力を育成する。

【履修形式】

全８科目 12 単位を必修とする。

＜必修科目＞

認知症ケア論、老年疾病・治療論、公衆衛生学、生活習慣病論、急性疾患論、母子疾病・治療論、保健医療福祉法制度論、疫学・保健統計学

イ．専門科目

○　看護とは何かを理解するステージ

　「看護とは何かを理解する」ステージでは、１、２年次を中心に、主に基礎看護学の科目を配置し、根拠に基づき看護を計画的に実践する基礎能力を育成する。小松市を中心とした地域住民の健康に係る実態を把握するために「市民健康論」を設け、地域にお

いて将来的にどのような役割が看護師に求められているのかを理解させ、学修意欲を高める。さらに、看護師として、人の心の健康の保持・増進や、病を持つ人が回復していく過程で、その人らしさを取り戻して生活していくケアの実践は、領域を問わず必要となる能力であるため、精神保健看護学に係る科目を他の看護領域より早い時期で開講し、「看護倫理」、「看護の品格育成論」の科目とあわせて、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を育成する。

【履修形式】
全 15 科目 19 単位を必修とする。

＜必修科目＞
市民健康論、看護学概論、看護の技基礎コースⅠ（療養上の世話）、看護の技基礎コースⅡ（フィジカルアセスメント）、看護の技基礎コースⅢ（診療の補助）、看護ケア提供論：看護理論と看護過程、看護の品格育成論、看護倫理、精神保健看護学概論、精神保健看護ケア提供論、精神保健看護演習、基礎看護実習Ⅰ、基礎看護実習Ⅱ、精神保健看護実習Ⅰ、精神保健看護実習Ⅱ

○　看護ケア能力を育てるステージ
「人の身体と心を知るステージ」「人の健康問題を考えるステージ」「看護とは何かを考えるステージ」において、看護することの全体像を学生に描かせた後、特定の健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成するステージとする。各看護領域の科目を２年次から３年次に配置し、講義、演習を同時期に開講することで知識と技術がどう結びつくかを効率的に学んだ後、実習において実践能力を修得させる。
小児看護学では主に新生児・乳幼児と家族、児童期・学童期・思春期の健康課題に対して、母性看護学では主に妊産婦の健康課題に対して、成人看護学では成人期の健康課題に対して、老年看護学では主に加齢に伴う健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成する。（開講年次：２・３年）

【履修形式】
全 20 科目 32 単位を必修とする。

＜必修科目＞
老年看護学概論、老年看護ケア提供論、老年看護演習、老年看護実習Ⅰ、
老年看護実習Ⅱ、成人看護学概論、成人看護ケア提供論、成人看護演習、
成人看護実習Ⅰ（急性）、成人看護実習Ⅱ（慢性）、成人看護実習Ⅲ（回復・維持）、
母性看護学概論、母性看護ケア提供論、母性看護演習、母性看護実習、

小児看護学概論、小児看護ケア提供論、小児看護演習、小児看護実習Ⅰ、
小児看護実習Ⅱ

○　看護ケア能力を拡げるステージ

看護実践能力を臨床から地域へ拡げる意識を強く持たせるために「看護ケア能力を拡げる」ステージを設ける。そのため、在宅看護学と看護の統合、そして公衆衛生看護学に係る科目は２年次から４年次にかけて継続的に開講し、ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力を長期的な視野で育成する。なお、保健師選択者は選択科目の公衆衛生看護学に関する講義、演習、実習の８科目 15 単位を必修科目とする。（開講年次：２・３・４年）

【履修形式】

全７科目 10 単位を必修とする。また、保健師選択者は選択科目全８科目 15 単位を必修とする。

＜必修科目＞

在宅看護学概論、在宅看護ケア提供論、在宅看護演習、在宅看護実習、看護統合実習、公衆衛生看護学概論、健康教育論

＜選択科目＞

公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）、公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）、公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）、公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）、公衆衛生看護方法論Ⅴ（健康診査・家庭訪問・健康教育）、公衆衛生看護管理論、疫学・保健統計学演習、公衆衛生看護実習

○　看護の未来を共創するステージ

最後の学びのステージとして、「看護の未来を共創する」ステージを設ける。看護学の伝承から、看護学の発展をめざし、学生が主体となって、看護の未来を教員と共に創る学びを充実させていく。このステージでは、必修科目に「研究方法論」「卒業研究」を配置し、教員の指導のもと、４年間の学びや実習を通じて発見した課題や関心をテーマとして研究し、卒業論文を作成、発表する。また、選択科目には、他の医療職の役割と連携を学ぶ「チーム医療論」や外国人患者への対応法を学ぶ「看護と異文化理解」、各教員が専門とする具体的な看護スキルを学生に獲得させ、学生が自信をもって実践的な看護専門職業人として巣立っていけることを目的とした「看護熟練の技」７科目と「看護未来創出」５科目を設け、これらの科目から４単位以上を選択必修とする（開講年次：

４年)。

【履修形式】
必修科目２科目６単位と選択科目４単位以上の計 10 単位以上とする。

＜必修科目＞
研究方法論、卒業研究

＜選択科目＞
安全・安楽なポジショニングの技、排便ケア、看護リーダー、食と看護、
タッチケア・スキル、ノンテクニカル・スキル、MMPI 心理検査と看護ケア、
グローバル感染対策、看護技術の科学的検証、地域の健康課題と多職種連携、統合医療、
地域包括ケア、チーム医療論、看護と異文化理解

④「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」との関連性

本学科が設定する６つのステージを通じて、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」（平成 23 年３月 11 日）の「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」に掲げる「ヒューマンケアの基本に関する実践能力」「根拠に基づき看護を計画的に実践する能力」「特定の健康課題に対応する実践能力」「ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力」「専門職者として研鑽し続ける基本能力」を獲得し、教育目標に掲げた能力を有する人材を輩出する。

（３）保健医療学部臨床工学科

①教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

より安全で的確な医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち、地域における医療・保健・福祉の活動に貢献できる基本的能力を持つ臨床工学技士を育成することを目的として、以下の方針に基づき科目を配置し、教育課程を設定する。

○ 臨床工学技士に必要な医学の基礎知識を修得する。
○ 臨床工学技士に必要な理工学の基礎知識、能力を修得する。
○ 安心で安全な医療・保健・福祉を実践するための臨床工学技術を修得する。
○ 生命維持管理装置及び医用治療機器などの原理と操作、保守、点検に関する知識と能力を修得する。
○ 患者にとって安全で効果的な医療の提供と地域の医療・保健・福祉の課題解決に取り組むことが出来る能力、思考力を修得する。

②開講科目について

ア．専門基礎科目

「医学的基礎」と「理工学的基礎」の２つに分類し、それぞれに必要な科目を配置する。「医学的基礎」科目においては、１年次及び２年次に臨床工学技士に求められる医学的基礎知識や医療従事者としての倫理観、医療工学に関する基本的な知識、技術を修得するための科目を配置する。また、「理工学的基礎」科目には、１年次から３年次までを通じて、医療機器や生体計測を電気、電子工学及び情報工学の側面から理解し、運用する能力を身につけるための基礎科目を段階的に配置する。さらに、実習を通して工学的基礎の理解を深めると同時に，測定機器の操作を習熟させる。これらの科目の配置により、安全な医療を提供するための基礎力を身につけさせる。

【履修形式】

○　医学的基礎

全 12 科目 22 単位を必修とする。

＜必修科目＞

臨床工学総論、解剖学、生理学、生化学、看護学概論、医療関係法規、病理学、薬理学、解剖生理学実習、公衆衛生学、医学概論、感染免疫学

○　理工学的基礎

指定する 13 科目 25 単位を必修とする。

＜必修科目＞

応用数学、電気工学Ⅰ、電気工学実習、情報処理工学、電気工学Ⅱ、電子工学Ⅰ、電子工学Ⅱ、医用機械工学、医用信号処理、電子工学実習、医用工学、医用システム工学実習、プログラミング演習

＜選択科目＞

電気工学演習Ⅰ、電気工学演習Ⅱ、電子工学演習Ⅰ、電子工学演習Ⅱ、医用通信システム

イ．専門科目

専門分野ごとに「医用生体工学」「医用機器学」「生体機能代行技術学」「医用安全管理学」「総合実践」の５つに分類し、２年次から４年次を通じて、専門基礎科目で修得した医療および医療工学の基礎知識と能力に基づき、高度化する医療技術を患者に安心かつ安全に提供するための医学と工学が融合した専門知識と技術を修得する科目を配置する。講義、演習、学内実習の実施に際し、学生がより効果的に学べるように教育機器やシミュレーションモデルの利用を積極的に行う。このほか、選択科目に「チーム医

療論」や看護学科との連携科目である「地域包括ケア」「地域の健康課題と多職種連携」を配置し、地域の医療現場の現状や課題、医療職間連携について学ぶことで、地域医療における臨床工学技士の役割を認識させていく。

「総合実践」科目では、現代医療に欠かせない高度医療機器のスペシャリストとして、柔軟な思考力と応用力を涵養し，課題解決能力と創造的な実践力を身に着けるための科目を配置する。臨床実習では、医療機器の操作技術と医療を提供する者としての責任感、他者と連携して医療課題へ対応する協調性などを養成する。卒業研究では、臨床実習を通じて発見した医療現場における課題をテーマに、その解決法の考案に取り組ませる。

【履修形式】

○　医用生体工学

指定する３科目６単位を必修とする。

＜必修科目＞

生体物性工学、生体材料工学、生体計測工学

＜選択科目＞

臨床画像工学

○　医用機器学

全６科目 10 単位を必修とする。

＜必修科目＞

医用機器学概論、医用治療機器学、医用治療機器学実習、画像診断装置学、生体計測装置学、生体計測装置学実習

○　生体機能代行技術学

８科目 13 単位を必修とする。

＜必修科目＞

呼吸機能代行装置学、呼吸機能代行装置学実習、循環機能代行装置学、循環機能代行装置学実習、代謝機能代行装置学、代謝機能代行装置学実習、臨床医学Ⅰ（呼吸器、循環器)、臨床医学Ⅱ（代謝、血液）

＜選択科目＞

臨床医療学Ⅲ（神経系、内分泌系）

○　医用安全管理学

全２科目３単位を必修とする。

＜必修科目＞
医用機器安全管理学、医用機器安全管理学実習

○　総合実践科目
３科目８単位を必修とし、本学科が指定する４科目のうち２科目以上を選択必修とする。
＜必修科目＞
臨床実習、卒業研究Ⅰ、卒業研究Ⅱ

＜選択必修科目＞
グローバル感染対策、看護技術の科学的検証、地域の健康課題と多職種連携、
地域包括ケア

＜選択科目＞
チーム医療論

（４）国際文化交流学部国際文化交流学科

①教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

「国際社会に対する知識と国際感覚を備え、強い人間力と豊かな知性・感性をもって地域社会の振興と我が国の持続的発展に貢献できる人材を育成する」という学部の教育理念に基づき、ディプロマ・ポリシーに掲げる多様な人材を地域社会と企業に送り出すために、段階的履修を通じて一つの専門に偏らぬ学習ができるカリキュラム構成とする。

また、ＣＡＰ制の採用と課題解決型のアクティブラーニングによって、学生の１授業当たりの学習時間と授業効果を高め、４年次後期までしっかりと授業に集中させる。

○　基礎力の形成
- １年次は、導入科目によって、本学科で学ぶ意義を理解し、一般教育科目によって幅広い素養を身につける。
- ２年次は、国際社会と地域社会についての基礎知識と専門分野へのアプローチの方法を学ぶ。

○　外国語能力の形成
- １年次から３・４年次まで、英語、中国語を継続的、段階的に学習し、TOEIC などの検定試験によって到達段階を確認する。

○　応用・実践力の形成
- ３・４年次開講の演習、海外での語学研修、異文化体験実習及び国内での地域実習、インターンシップ等を通じて、異文化対応能力や地域からの発信能力を身につける。また、卒業論文執筆のプロセスを通じて調査、プレゼン能力等の向上を図る。

○　地域の国際化を射程に入れた地域活性化や町づくりのための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深める。
○　中国・台湾、ASEAN 地域から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶ。
○　言語そのものの分析や、文化や社会との関わりの理解と言語による文化的創造について幅広く学ぶ。

②コースの選択について

２年次前期終了時に「国際観光・地域創生コース」「グローバルスタディーズコース」の２コースのいずれかを学生に選択させる。コースの選択は、学生一人ひとりの興味や関心、希望進路や就職先を十分に踏まえて行われるべきものであることから、本学科では、入学時での学部オリエンテーションにおいてコース選択について十分な説明を行う。また、本学科では、入学時から２年次前期まで、すべての学生に相談教員を配置して学生の学習とキャリアプラン形成をサポートし、コースの選択にあたっても、相談教員が学生の適性や関心を考慮して助言する。

それぞれのコースには、学生の受入上限（国際観光・地域創生コース 30～35 名程度、グローバルスタディーズコース 60～65 名程度）を設定し、希望者が受入上限を超える場合には、２年次前期までのＧＰＡを材料として調整を行う。受入上限を超えた場合の対応についても、入学時での学部オリエンテーションにおいて十分に説明を行っていく。

③開講科目について

ア．専門基礎科目

国際文化交流学部学生に求められる世界、日本、そして地域社会についての基礎知識と専門分野へのアプローチの方法を学ぶ。学部共通の科目として８科目を設置し、うち２科目４単位を必修にとし、４科目８単位を２年前期に選択させる。「国際交流論」では、国際交流への導入として、異なる文化的背景を持つ人々と交流する意義と交流を通じて生じる諸問題、そして小松市が抱える国際交流の地域課題についての理解を深める。「観光学概論」、「地域政策概論」では、小松市をはじめとした南加賀地域での取組事例を例示しながら、観光学と地域社会の現状と課題を学ぶ。「グローバルヒストリー」、「アジア社会論」では、国際紛争を軸とした現代史と ASEAN、台湾、中東等のアジア社会の特質を学ぶ。「異文化コミュニケーション論」では、文化摩擦の実態と多文化主義について学び、「日本文化論」では日本の伝統文化を学ぶことで、異文化を受容するための素養を身につける。また、「言語学概論」では、言語分析を通じて明晰な思考法を学びながら、言葉と社会の関わりについて学ぶ。

【履修形式】
「国際交流論」「異文化コミュニケーション論」の２科目４単位を必修とし、他の６科目中４科目８単位を選択必修とする。

＜必修科目＞
国際交流論、異文化コミュニケーション論

＜選択科目＞
観光学概論、地域政策概論、グローバルヒストリー、アジア社会論、日本文化論、
言語学概論

イ．外国語科目
○　基礎外国語科目
　国際社会における共通言語として認識されている英語を重視しながら、日中関係の重要性を見据えて中国語を加えた２言語における実践的語学力を徹底して修得する。中国語は中華人民共和国のみならず東アジア社会の中で広く通用しており、“中国語圏”を形成している。北陸地域の製造業には中国語圏を主要な市場とする企業も多く、また、観光においても小松空港を経由して流入する外国人観光客は中国語圏の旅行客が最も多いが、現在これらに対応しているのは、主に在日中国人、台湾人であり、今後安定した国際交流を発展させるためには、中国語を使える日本人の養成は客観的に必要不可欠となっている。２言語における理解力と表現力を鍛えるために「English comprehension Ⅰ」「English expression Ⅰ」「中国語Ⅰa」「中国語Ⅰb」「中国語Ⅱa」「中国語Ⅱb」の６科目 12 単位を必修科目として１～２年次に開講し、コミュニケーションの基礎能力を徹底して身につける。２年次前期終了時点で学生の希望進路にあわせて３つのコースに分かれるため、それぞれの分野に応じて求められる語学力を鍛えるための科目を選択科目として配置し、２言語９科目から８単位以上を選択必修とする。なお、４つの中国語科目では、英語学習との相乗効果を目的として英語による説明を導入する。

【履修形式】
指定する６科目 12 単位を必修とする。選択科目９科目中４科目８単位以上を選択必修とする。

＜必修科目＞
English comprehension Ⅰ、English expression Ⅰ、中国語Ⅰa、中国語Ⅰb、中国語Ⅱa、中国語Ⅱb

＜選択科目＞

Tourism English Ⅰ、English comprehensionⅡa、English comprehension Ⅱb、English expression Ⅱa、English expression Ⅱb、中国語Ⅲa、中国語Ⅲb、中国語Ⅳa、中国語Ⅳb

○　専門外国語科目

本科目は１、２年次を通じて学んだ外国語の応用科目として３、４年次に開講し、２言語あわせて 10 科目を配置する。各コースで求められる語学力に応じて、国際観光・地域創生コースでは４単位以上、グローバルスタディーズコースではいずれも８単位以上を選択必修とする。授業ではネイティブ教員、日本人教員ともにターゲット言語を使用し、学生にアクティブに授業に取り組ませる。この他、ネイティブ教員による少人数授業を取り入れ、丁寧な指導に取り組んでいく。

【履修形式】

○　国際観光・地域創生コースは４単位以上を選択する。

○　グローバルスタディーズコースは８単位以上を選択する。

＜選択科目＞

Tourism EnglishⅡ、English comprehension Ⅲ、English expression Ⅲ
English presentation Ⅰ、English presentationⅡ、中国語理解Ⅰ、中国語理解Ⅱ、中国語表現法、中国語会話、ビジネス中国語

ウ．専門科目

専門科目は、選択科目とし、科目の分野・領域に応じて（ⅰ）観光・地域創生系、（ⅱ）政治経済系、（ⅲ）言語文化系、の三科目群を設置する。（ⅰ）は、国際観光・地域創生コース」、（ⅱ）及び（ⅲ）はグローバルスタディーズコースの養成する人材像及びディプロマ・ポリシーと関連するが、２年後期に開講される「観光社会学」「サスティナブルツーリズム論」「観光産業概論」「世界遺産を学ぶ」「地域再生マネジメント論」「国際政治論」「国際貿易論」「中国語圏社会文化論」「アジア現代史概論」「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」「英語圏文芸論」の全 11 科目は国際文化交流学部で履修すべき基幹科目と位置づけられるため、コースを越えて履修が奨励される。この 11 科目のうち、各コースで特に重点を置く科目をコース必修科目として設定するほか、対応する科目群に配置する演習科目をコース選択必修科目として履修させていく。以上を踏まえ、専門科目の履修単位数は、国際観光・地域創生コース選択者は 30 単位以上、グローバルスタディーズコース選択者も 30 単位以上を履修させる。

また、（ⅰ）、（ⅱ）、（ⅲ）の３科目群は、相互に関連性を持ち、補完的な関係にある。

グローバル時代における地域社会の活性化という本学部の人材育成目標を達成するためには、学生は幅広い素養と視野をもつことが必要であることから、国際観光・地域創生コース選択者は（ⅱ）（ⅲ）の科目群から、グローバルスタディーズコース選択者は（ⅰ）の科目群から２科目４単位以上を履修させる。

なお、各コースで設定する履修モデルは「Ⅵ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件」の履修モデルの項目で説明する。

（ⅰ）観光・地域創生系科目群

観光・地域創生系科目群は、地域のグローバル化を射程に入れた地域活性化やまちづくりのための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深めるための科目を配置する。

２年次後期に５つの基幹科目、「観光社会学」「サスティナブルツーリズム論」「観光産業概論」「世界遺産を学ぶ」「地域再生マネジメント論」を開講し、現代社会における観光のあり方、持続的観光、世界遺産における観光業の関わり、地域資源の発掘、活用、デザインと観光地側、観光客側の双方の視点から見た情報分析の基礎的手法等について幅広く学び、小松市を中心とした南加賀地域や北陸地域における自治体や観光産業関係者の取り組みを事例として取り上げる。国際観光・地域創生コース選択者にはこれらの科目を必修とし、国際観光・地域創生コース選択者にも履修が奨励される。

３年次からは地域のグローバル化、高齢化、ブランディングなど、現在地域が抱える様々な課題に対し、観光学の視点から地域活性化を実現していくための具体的知識や手法を学ぶための科目を配置する。

３年次前期に開講する演習は、地域ブランディング、インバウンド、グリーンツーリズムの３テーマに地域創生と多文化共生を加えた５つのテーマとし、後期に開講する「課題研究Ａ」では、前期の演習を承けて、学生が自ら課題を設定して調査研究に取り組む。地域活性化の具体策の考案、実施、評価に地域と連携して主体的に取り組み、自らの学びが地域貢献に繋がることを実感させる。そのため、「課題研究Ａ」及び「観光学演習Ａ」「観光学演習Ｂ」「観光学演習Ｃ」「地域創生演習」においては、小松市を中心とした南加賀地域に関して演習課題の設定やフィールドワーク先を設定するよう図る。

【履修形式】

○　国際観光・地域創生コース選択者は、「観光社会学」「サスティナブルツーリズム論」「観光産業概論」「世界遺産を学ぶ」「地域再生マネジメント論」「課題研究Ａ」の６科目 12 単位をコース必修科目とし、演習科目５科目中２科目４単位以上を選択必修とする。

＜選択科目＞
観光社会学、サスティナブルツーリズム論、観光産業概論、世界遺産を学ぶ、地域再生マネジメント論、課題研究Ａ、観光資源論、マーケティング調査論、インバウンド観光論、ホスピタリティマネジメント、観光人材育成論、バリアフリーツーリズム論、グリーンツーリズム論、観光人類学、観光地理学、多文化共生社会論、地域ブランディング論、地域産業論、フードシステム論、農村地域振興論、財政学、社会調査法、地理情報学概説、観光学演習 A、観光学演習 B、観光学演習 C、地域再生演習、多文化共生社会演習

（ⅱ）政治経済系科目群
政治経済系科目群は、中国・台湾、ASEAN 地域から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶための科目を配置する。
２年次後期に４つの基幹科目、「国際政治論」「国際貿易論」「中国語圏社会文化論」「アジア現代史概論」を開講し、日本を取り巻く国際政治の変遷や ASEAN、APEC、TPP など日本にも身近な問題を中心に学ぶ。グローバルスタディーズコース選択者にはこれらの科目を必修とし、国際観光・地域創生コース選択者にも履修が奨励される。
３年次からは、アジア各地域の社会特性を理解するための科目とともに、地域を越えた国際協力、貿易、エネルギー、メディア、サブカルチャーなどに関する科目を配置し、それらを学際的に考察、分析、研究するための手法について学ぶ。
３年次前期に開講する演習は、国際政治、国際関係、国際経済、国際社会の４つのテーマに分類し、後期に開講する「課題研究Ｂ」では、前期の演習を承けて、学生が自ら課題を設定して調査研究に取り組む。それぞれの分野における課題と解決法の考案に取り組むことで、情報分析能力と課題解決能力を養成する。演習課題の設定にあたっては、国際空港である小松空港に関する事項を取り入れるなど、地域の持つ強みや特徴を生かしたものも取り入れる。

【履修形式】
○　グローバルスタディーズコース選択者は、「国際政治論」「国際貿易論」の２科目４単位をコース必修科目とし、演習科目４科目及び（ⅲ）言語文化系科目群の演習科目６科目中３科目６単位以上を選択必修とする。

＜選択科目＞
国際政治論、国際貿易論、中国語圏社会文化論、アジア現代史概論、課題研究Ｂ、東南アジア地域社会論、NGO 論、国際協力論、イスラーム社会論、中東政治論、資源エネ

ルギー・環境論、新興国経済論、グローカル論、サブカルチャー論、メディア情報論、現代メディア史、国際政治論演習 A、国際政治論演習 B、国際経済論演習、国際社会論演習

（ⅲ）言語文化系科目群

国際文化系科目群は、言語そのものの分析や、文化や社会との関わりの理解と言語による文化的創造について幅広く学ぶための科目を配置する。

２年次後期に３つの基幹科目、「英語圏言語文化論」、「中国言語文化論」、「英語圏文芸論」では、英語、中国語の特質、歴史とその文化的背景及び文化的創造について学ぶ。グローバルスタディーズコース選択者にはこれらの科目を必修とし、国際観光・地域創生コース選択者にも履修が奨励される。

３年次からは、「英語研究」、「中国語研究」のように、個別言語の特質を掘り下げて考える科目のほか、「日英対照言語表現論」、「比較文学論」のように、日本と英語圏、中国語圏などを比較・対照する科目を配置し、個別の言語文化をユニバーサルな観点から捉える能力を涵養する。また、日本語、日本文学関係の科目を配置する。

３年次に開講する演習は、社会言語学のように言語を越えて広く学ぶものから、英語圏、中国語圏、そして日本語、日本文化に特定したテーマとすることで、明晰な思考力と豊かな素養に裏付けられたコミュニケーション能力を涵養する。演習にあたっては、小松市を主なフィールドとして、居住する外国人を対象とした調査を行うなど、地域の国際化を演習課題の設定に生かしていく。

【履修形式】

○　グローバルスタディーズコース選択者は、「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」の２科目４単位をコース必修科目とし、演習科目６科目及び（ⅱ）政治経済系科目群の演習科目４科目中３科目６単位以上を選択必修とする。

＜選択科目＞

英語圏言語文化論、中国言語文化論、英語圏文芸論、英語研究 A、英語研究 B、中国語研究 A、中国語研究 B、社会言語学、語用論、日英対照言語表現論、日本語の歴史、比較文学論、日本古典読解、相互理解の心理学、言語学演習、社会言語学演習、日本語学演習、英語学演習、中国語学演習、日本文化論演習

（ⅳ）学部共通科目

学部共通科目は、学生が教室で学んだことを教室の外で実践し、その成果を糧に社会に羽ばたいていくことを目的とし、コースを問わず、本学部のすべての学生が参加する。

インターンシップⅠ、Ⅱは、学修を実社会での経験に結びつけることにより学生の学

習意欲を高め、知的好奇心を喚起するとともに自身の学修を深化させ、課題解決能力・実践力を身につけ、自己の適性や職業選択を考えることによりキャリアデザインの明確化にも繋げる科目である。また、異文化体験実習は、異なる文化、歴史、社会の中に学生自身が身を置く中で体験的に生活様式や文化を理解し、また、現地の地域資源を活かした観光分野の取組に触れることによって異文化を実践的に学ぶ科目である。海外語学研修は、英語及び中国語の実践能力向上を目的とした科目であり、培ってきた語学力、コミュニケーション能力を土台として実践的な外国語運用能力を習得するとともに、異文化社会の中での生活を通して自己の課題を見つけ、今後のよりよい学習のあり方を考える機会ともなる。地域実習は、学修成果を生かして、観光振興、地域創生、国際交流に求められる企画・情報収集・分析・問題解決を実践する能力を身につけるとともに、コミュニケーション力と情報発信力を修得することを狙いとする。また、主に小松地域での観光･町おこしのための実習を教員のサポートを受けながら学生が主体的に実施するものであり、地域が直面する問題と対処法を学ぶとともに、協力先のサポートを受けながら企画能力や情報発信能力を身につける科目である。

全６科目のうち、インターンシップⅠ、Ⅱ、異文化体験実習、海外語学研修、地域実習の５科目は主に３年次で履修する。４年次は、卒論論文を必修科目とする。

【履修形式】
必修科目１科目８単位と、選択科目５科目中４単位以上を選択する。

＜必修科目＞
卒業論文

＜選択科目＞
インターンシップⅠ、インターンシップⅡ、異文化体験実習、海外語学研修、地域実習

Ⅴ　教員組織の編成の考え方及び特色

１　教員組織の編成の考え方

南加賀地域初の公立４年制大学として、本学の基本理念に掲げる「地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学」の使命を果たすため、教育、研究、地域貢献いずれも不足なく展開できる充実した教員組織編成の構築に取り組む必要がある。

大学設置基準第 13 条別表第１に定める「学部の種類及び規模に応じ定める専任教員数」によれば、生産システム科学科 14 名（工学関係）、看護学科 12 名（保健衛生学関係（看護学関係））、臨床工学科 12 名（保健衛生学関係（看護学関係を除く））、国際文化交流学科 12 名（文学関係、社会学・社会福祉学関係）の計 50 名以上、さらに別表第２に定める「大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数」は、収容定員 960 名（入学定員 240 名×４学年）となることから 14 名以上となり、合計 64 名以上の専任教員数が求められる。また、その半数である 32 名は教授としなければならない旨が明記されている。

そのため、本学における専任教員数は、生産システム科学科 19 名、看護学科 24 名、臨床工学科 12 名、国際文化交流学科 18 名の合計 73 名（うち教授 39 名）を配置する。特に別表第２で必要とされる 14 名については、国際文化交流学部と生産システム科学部を中心に配置し、共通教育科目を重点的に取り組ませる。

なお、新設大学であり、開学からの４年間は大学の基盤づくりに取り組まなければならないため、教育、研究、大学運営に豊富な実績を持つ教授を多く採用した。就業規則に定める定年は原則 65 歳となっているが、教授陣が途中で定年を迎えることなく、最後まで責任を持って取り組むことが出来るよう、開学から４年間は「定年 70 歳」とし、以後、段階的に引き下げていく規定としている。70 歳以上となる専任教員は１名いるが、教授として学科の中心的役割を担う人材であるため、定年に関する特例を適用し、完成年度まで定年を延長する。【資料Ⅴ－１】

２　生産システム科学部生産システム科学科の教員組織

（１） 専任教員の選考方針及び教員数等

生産システム科学部は生産システム科学科の１学科で構成し、ものづくりの要である「機械工学」と高度情報化社会を担う「電気工学」「電子工学」「情報工学」まで幅広い分野にまたがる。そのため、専門領域を「エネルギー工学」「加工・材料工学」「流体工学」「エコ生産工学」「強度・機構設計工学」「回路工学」「情報工学」「データ科学」「ロボット機構学」の９つに分類する。

専任教員の選考にあたり、また、本学科の学生数、教員数ともにコンパクトであるため、学生指導に時間と労力を惜しまずに教育に取り組む熱意、他の教員と連携して教育

研究に取り組むことが出来る協調性を重視して教員選考を行った。

本学科は、教授 13 名、准教授４名、助教２名の計 19 名の専任教員で編成する。博士号の学位取得者は 19 人中 18 人（95%）である。また、新設大学として本学科における教育研究の基盤を整備する必要があることから、豊富な大学教育、研究業績、大学運営の経験を持つ教授格の教員を多く採用し、上記の９つの専門領域すべてに配置した。

専任教員の配置は、機械工学分野には教授８名、准教授１名、助教２名、電気・電子工学分野には教授２名、准教授２名、情報分野には教授２名、准教授１名、理学分野に教授１名を置く。

本学科の専任教員の平均年齢は、開学時で約 55.3 歳であり、年齢が比較的高い構成となっているが、新設大学として開学からの４年間で教育研究活動、大学運営の基盤を築く必要があり、高い教育研究業績、高等教育機関での豊富な教育経験を持つ人材を採用したことが主な理由である。

（２） 研究体制及び若手教員の育成等

各研究室を、原則教授と准教授、助教で構成し、豊富な経験と業績を持つ教授と若手教員が連携して学生教育、研究活動などに取り組むことで、本学科の将来を担う後継者育成に取り組ませる。学科の共同研究費の配分についても、若手教員の研究力養成・支援に重点を置いて配分するなど、積極的な研究活動を啓発していく。

これにより、完成年度に退職予定である数名の教授の後継者を学内人事により対応可能となるほか、外部から研究能力に優れた若手人材を採用することで、年齢構成のバランスを図る。

３　保健医療学部看護学科の教員組織

（１） 専任教員の選考方針及び教員数等

本学科では、看護学の専門領域に応じて「基礎看護学」「精神保健看護学」「成人看護学」「老年看護学」「小児看護学」「母性看護学」「在宅看護学」「公衆衛生看護学」の８つに分類する。各専門領域に配置する専任教員数について、基礎看護学は教授２名、講師１名、助教３名の計５名を、精神保健看護学には教授１名、助教２名の計３名を、成人看護学には教授１名、准教授１名、講師１名、助教１名の計４名を、老年看護学には教授１名、講師１名、助教１名の計３名を、小児看護学は教授１名、助教１名の計２名を、母性看護学は教授１名を、在宅看護学には教授１名を、公衆衛生看護学には教授１名、准教授１名、助教１名の計３名を配置する。また、養成する人材像に掲げる「病を抱える人、老いを生きる人の心身の痛みに共感できるしなやかで繊細な感性」の涵養のため、心理学を専攻する教授１名を配置し、計 24 名で本学科の教員組織を編成する。博士号の学位取得者は 24 名中 10 名（41．7%）である。専任教員の平均年齢は、開学時で 49.6 歳と比較的低く、職位、看護領域別の教員配置とあわせてバランスの良い配置を実現で

きた。助手についても４名を採用し、実習支援体制を充実させていく。

教員選考に際しては、看護ケア提供能力を教授する教員としての高い教育研究業績、公立大学として小松市への貢献意欲に加え、学生の悩みや葛藤に対し、思いやりを持って対応できるあたたかい人間性に配慮した。また、助教や講師などの若手教員には、実務経験や専修学校での教育経験者、実習指導経験者も多く採用することで、確かな看護基礎力に加え、看護ニーズの多様化や医療現場において看護師が抱える課題に対応できる実践力の養成に取り組むことができる体制とした。

（２） 研究体制及び若手教員の育成等

（１）で述べたように、本学科の教員には実務経験は豊富であるが、高等教育機関での教育歴が少ない若手教員もいるため、教育者、研究者としての経験、能力の向上を目的として、ＦＤ部会と研究推進委員会を立ち上げる。特に、若手教員の育成については、専門分野に留まらず他分野の教授等と連携した教育研究活動に取り組ませ、後継者育成に努める。このほか、教員全員に年度初めに教育、研究、地域貢献に関する具体的な達成目標を提出させ、達成度に応じた評価制度を取り入れ、高い意識と目標をもって教育、研究活動に取り組ませる。

４　保健医療学部臨床工学科の教員組織

（１）　専任教員の選考方針及び教員数等

本学科では、臨床工学技士養成を着実に実施できる体制を第一に考え、教授７名、准教授３名、講師２名の計 12 名で教員組織を編成する。具体的には、医学における教育者として、医師の資格を有する１名を教授として配置するほか、臨床工学技士の資格を持ち、高等教育機関における臨床工学技士養成の十分な教育経験を持つ教員を教授４名、講師１名配置した。また、医療機器の高度化による地域医療ニーズの多様化に対応できる人材育成の実践のため、先端医療機器及び技術の分野において高い教育研究実績を持つ教授を２名、工学教員として教授を１名、准教授を３名、さらに情報工学分野では講師１名を配置した。博士号の学位取得者は 12 名中９名（75.0%）である。

本学科における開学時の教員の平均年齢は約 55. 2 歳となった。比較的高い平均年齢となった背景には、看護学科と同様、本学科では国家試験受験資格の獲得に向け、他の学科以上に、開学年次から学生の学修意欲と基礎力の涵養に注視し、教育に取り組んでいく必要があるため、豊富な教育研究歴を持つベテラン教員を配置したためである。

教員選考にあたり、公立大学初となる臨床工学科として、医学及び工学における基礎と臨床技術について着実に教育実践ができるかどうか、新たな学問領域の教育に熱意を持ち、担当教科目に関する十分な研究業績を併せ持つ教員かどうかにも着目し、専任教員の採用を行った。

（２）　研究体制及び若手教員の育成等

研究業績の優れた若手教員を教授として採用することにより、准教授、講師の今後のロールモデルとした。完成年度以降、教授格が順次定年を迎えていくことになるため、教育研究の質を確実に維持または向上させるため、開学年度から４年間は、大学づくりの基礎とあわせて、若手教員の能力向上に教授陣が計画的かつ責任をもって取り組んでいく。

５　国際文化交流学部国際文化交流学科の教員組織

（１）　専任教員の選考方針及び教員数等

本学科の専任教員は、自らの専門分野に応じて２つのいずれかのコースの主要科目を担当し、教育研究活動に取り組む。国際観光・地域創生コースには教授３名、准教授２名が、グローバルスタディーズコースには教授６名、准教授６名、助教１名が担当し、学科全体では教授が９名、准教授が８名、助教が１名の計 18 名となり、経験豊富な教授陣と若手教員をバランスよく配置することができた。なお、博士号の学位取得者は 18 名中 12 名（66.7%）である。また、開学時の平均年齢は、約 52.8 歳となり、コース別に見ると若干の偏りはあるものの、全体として職位、年齢ともにバランスのよい人数配置を実現できた。

このほか、本学科での必修科目である英語、中国語の運用能力養成に効率的に取り組むため、外国人教員を４名配置する。

なお、教員選考にあたり、本学科が取り組む教育研究内容に関する十分な研究業績があること、また本学科において研究プロジェクトを立ち上げる能力がある人、そして地域や世界の人々との交流や協働によって教育研究活動を実施する機会が多いことから、協調性についても重視して選考を行った。

（２）　研究体制及び若手教員の育成等

学部学科・全体としては、人数、研究分野ともにバランスのよい教員配置となっているが、コースによっては年齢や職位など若干の偏りがある。完成年度に教授２名が退職となる予定であり、研究能力を有する新たな若手教員の発掘や教授による准教授、講師、助教への教育研究指導体制の確立など、スムーズな移行が可能となるよう努める。

特に、研究力向上のためにも、本学科の専任教員全員に科研費申請を義務付け、個人での申請に加え、若手教員を主体とする共同研究プロジェクトを組織するなど、積極的な研究活動啓発に取り組む。

Ⅵ　教育方法、履修指導方法及び卒業要件

１　教育方法

（１）共通教育

本学の入学定員は各学部 80 名、３学部合計 240 名である。

共通教育科目の導入科目では、大学教育を受けるにあたっての学習方法、考え方等を敢えて異分野の教員の指導受けることにより見識を広める「アカデミック・スキルズ」と、自らの専門分野の導入科目である「テーマ別基礎ゼミ」では、いずれも演習形式として 20 名以下の少人数教育を取り入れ、全教員が学生一人ひとりとしっかり向き合い、学生の主体性の涵養、将来イメージの具現化に向けきめ細やかな指導、支援体制を構築することで、教員が学生との信頼関係を築き、４年間を通じた大学教育への学修意欲、知的好奇心を高めていく。

講義科目の１クラスあたりの人数は、主に 80 名または 120 名とした。本学は３つの学部で構成されており、２年前期から専門教育のため学部ごとに市内に分散するキャンパスへと次第に移行していくため、１、２年次を中心とする共通教育の学修期間に、専門領域が異なる学問分野の学生を混在させて学ばせることにより、互いに影響し合い、交流を深めて、広い視野と思考力の醸成を図ると同時に、かけがえのない友人関係を育むためである。このことは、大学教育 4 年間を通じて学習意欲の維持・向上にも繋がることであり、非常に重要であると考える。

英語科目、その他外国語科目は本学におけるグローカル人材育成のベースとなる科目と位置づけている。そのため、多くを演習科目とし、１クラス 30 名～35 名として、Writing や Reading 等の知識修得よりも Speaking に比重を置いた教育実践に取り組むことで、外国語を積極的に話そうとする態度と実践的運用能力を養成する。

（２）専門教育

より教育効果の高い専門教育の実施のため、必要に応じて講義と演習を組み合わせるなど、各学科で工夫して取り組む。特に、生産システム科学部、保健医療学部の２学部では、講義、演習から実験・実習の実施まで間をおかない科目配置とすることで、専門知識や能力の確実な定着を図る。なお、各学科における実施体制は次のとおりである。

①生産システム科学部生産システム科学科

本学科では、機械・電気・電子・情報と従来の工学分野を幅広く学ぶため、本学科における工学基礎教育のうち、「材料力学及び演習」「工業熱力学及び演習」「流れ学及び演習」「電気回路及び演習」「振動力学及び演習」では、科目名の通り、講義と演習を１つの科目に織り込み、「講義⇒演習⇒講義」と交互に行うことで、専門知識を効率的に修得する。

「機械設計製図Ⅰ」「機械製図設計Ⅱ」は、ドラフタやコンピュータの実技操作により手書き製図、CAD 製図を学ばせるため、1 クラス 40 名とし、専任教員 4 名と技術職員 4 名程度を配置する。「機械電気工学実験Ⅰ」「機械電気工学実験Ⅱ」では、1 班あたり 8～10 名に分かれ、設定した 7 つのテーマに関する実験に班毎にローテーションで取り組む。「機械工作実習」では、生産機械コースで 1 クラス、知能機械コースで 1 クラスとする。1 クラスをさらに 1 班 8 名に分け、5 つのテーマに取り組む。フライス盤、溶接機械といった危険度の高い各種工作機械を使用する実習には、専任教員 1 名、技術職員 5 名を配置し、学生の安全に配慮して実習に取り組む。

卒業研究は、演習形式とし、全教員が担当し、教員 1 名あたり 5 名程度の学生を受け持つ。学生 1 名または複数名 1 グループに異なるテーマを与え、3 年後期終了時点までに修得した知識、技術を活かして取り組む。研究結果および成果を卒業論文としてまとめ、卒業研究発表会や各種学会等で発表を行う。

②保健医療学部看護学科

本学科では、教育内容に応じて講義形式、演習形式、講義・演習形式、実習形式に区分する。

講義における 1 クラスの学生数は、原則として 1 学年全体の 50 人で行うが、本学科が設置される保健医療学部には他に臨床工学科を設置するため、共通に必要な領域がある。解剖学、生理学、病理学、薬理学、感染免疫学、公衆衛生学、看護学概論の 7 科目は、両学科に共通して求められる科目であるため、連携科目として臨床工学科と合同で 1 クラス 80 名として行う。

演習についても、講義と同様に 1 クラス 50 名とする。各演習ともに専門領域の教員が共同で担当し、1 グループ 4 、5 名の少人数教育として行うことで、学生一人ひとりに目の行き届く指導体制とする。グループワークやロールプレイングを取り入れ、講義で学んだ知識を積極的に活用、工夫して学生に取り組ませる。また、教員及び学生同士で意見交換を通じて、コミュニケーション能力や協調性、課題解決力を養成する。

実習は、1 グループ 5 名もしくは 6 名とし、看護領域によって 1 グループあたり計 2 名の専任教員および助手が担当する。臨地実習を行う施設は、南加賀地域の中核病院である小松市民病院の他、小松市、加賀市、白山市と、末広キャンパスから 25km 圏内にある近隣の医療機関・社会福祉施設、保健所、健康管理センター、訪問看護ステーション、小中学校などの教育施設とすることで、緊急時にも迅速な対応が可能となるほか、地域に求められる看護師、保健師の実現に向けた教育体制を築きやすくする。なお、実習の詳細については「実習の具体的計画」にて説明する。

卒業研究に相当する科目として「卒業研究」を置き、演習形式とする。教授、准教授が担当し、1 グループあたり 5 名として、指導教員と相談して決定した研究テーマにおける課題解決に取り組む。研究結果を研究論文としてまとめ、提出するとともに、「看

護の未来研究発表会」にて発表を行う。

③保健医療学部臨床工学科

本学科の授業は、教育内容に応じて講義形式、演習形式、実習形式で行う。

講義では、先の看護学科にも記載したとおり、学部で共通する専門基礎教育の科目を連携科目として行う。その他の講義は1クラスあたり 30 名として行う。

演習は、工学分野における３科目配置する。１クラスの学生数は 30 名、教員は１名が担当する。演習問題を繰り返し解くことで、臨床工学技士に必要な講義で学んだ知識の早期習得を図る。なお、電気工学演習、電子工学演習は、それぞれ電気工学Ⅰ、電子工学Ⅰの講義と同時期に開講することで、高い教育効果を狙う。また、プログラミング演習は、ディジタル化された医療データの解析を行うプログラミング等をある程度理解できる能力を養うために設ける。

実習は、学内実習と学外の臨床実習の２つに分ける。学内実習は１クラス 30 名とし、教員１名が担当する。１グループ５名とし、臨床工学技士が取り扱う各種医療機器の動作、安全管理に関する知識、技術を修得する。また、学外実習となる臨床実習は１施設あたり１度に２名もしくは３名で行う。教授を含め、８名の教員で対応し、一人あたり４名前後の学生について、講義、演習、学内実習における知識の修得が臨床現場で実践できているか確認および指導を行う。実習施設は、人工心肺、血液浄化、集中治療室及び手術室、高気圧酸素治療の一部または全部の機能を有している北陸３県の医療機関とする。なお、実習の詳細については、後述の「実習の具体的計画」にて説明する。

卒業研究は、ゼミ形式とし全教員が担当し、教員１名あたり原則として３名程度の学生を受け持つ。学生が臨床実習を通じて発見した医療現場の課題をはじめ、指導教員と相談して研究テーマを決定し、研究結果を論文として作成する。

④国際文化交流学部国際文化交流学科

本学科では、教育内容に応じて講義形式、演習形式、講義・演習形式、実習形式に区分する。

講義は、専門基礎科目は１クラス 80 名、2 年後期以後のコース決定後は１クラス 30 名以下で行う。

演習は、各コースに専門領域ごとに設けるものと外国語科目とする。各コースでの演習は、１クラス 20 名以下とし、アクティブラーニングの手法を用いて学生のプレゼン能力と主体性を養成する。また、外国語科目では１クラス 40 名で行う。書く、聞くだけではなく、参加型の内容を採用することで、学生自らの頭で考え、工夫して話す、表現するための基礎力と姿勢までを幅広く養う。

実習については、１教員あたり学生５名程度を担当する。海外語学研実習、異文化体験実習等については、後の「XI　企業実習及び海外語学研修等の学外実習の具体的計画」

で説明する。

卒業論文は、８単位を認定する。４年間の学習の集大成であり、①構想、②調査、③整理・分析、④執筆、という４段階の過程がある。本学部では各コースとも、構想段階での着想と「足と手を使った」調査を重視している。そのため、４年次前学期から８・９月の夏季休暇に至る期間に遂行される①、②の段階において、４～５単位分の時間を要する。９月～１２月に遂行される③、④の段階は、少なくとも４単位分の時間を要するため、トータルで８単位認定するのが妥当である。執筆のプロセスは本授業科目の中でフォローされる。卒業論文の評価基準は、着想の豊かさと独創性、調査に要した労力（読書量を含む)、データ整理能力、分析の独創性、執筆力・表現能力、そして論理性、これらを総合して判定する。

（３）配当年次

本学では、「くさび型教育」を採用する。全学科ともに１年次から共通教育科目と合わせて専門科目を配置し、学生の知的好奇心と学習意欲を喚起する。また、講義⇒演習（または学内実習）⇒実習の流れを遵守し、計画的に教育効果をあげることができる科目配置とする。

（４）オムニバス形式による講義

共通教育科目を通じて多様な考え方や価値観を身につけ、幅広い視野を涵養するため、複数の教員によるオムニバス形式の講義を配置する。また、各学部の専門科目においては、教育効果を十分高めるため、必要に応じて専門分野の異なる複数の教員による共同形式、オムニバス形式の講義を取り入れる。なお、共通教育、専門教育ともに産学官民から多彩な人材を非常勤講師として迎え、教育プログラムの多様化を図る。

２　履修指導の方法等

（１）シラバスの作成

授業を担当する教員は、すべての科目のシラバスを作成する。授業の概要、到達目標、授業の計画、評価方法、テキスト教材、参考書等を学生目線で分かりやすく示し、学生が主体的に予習、復習に取り組みやすくすることで、教育効果を高める。

（２）履修モデル

本学が設置する学科ごとに履修モデルを提示し、教育目標の実現および卒業後の進路とあわせて学生に履修指導を行う。また、生産システム科学科では２コース、国際文化交流学科では２コースを設け、それぞれで養成する人材像を掲げ、その実現に向けた履修モデルを設定する。なお、設定した履修モデルは次のとおりである。

①生産システム科学部生産システム科学科

ア．生産機械コース

機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、環境にやさしい生産システムを実現するための科学的思考力と実践力を修得したい学生のための履修モデル【資料Ⅵ－１】

イ．知能機械コース

機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、高度情報化社会に適応した生産システムを実現するための科学的思考力と実践力を修得したい学生のための履修モデル【資料Ⅵ－２】

②保健医療学部看護学科

ア．看護師

看護師の基礎能力として求められる知識、技術、実践力を備え、病を抱える人や老いを生きる人の心身の痛みに共感し、幅広い領域で求められる看護ケアを的確かつ柔軟に提供できる看護専門職業人を目指す学生のための履修モデル【資料Ⅵ－３】

イ．看護師・保健師

「ア．看護師」の履修モデルに加え、保健師養成所指定規則に掲げる公衆衛生看護学に関する知識、能力を修得し、地域包括ケアシステム構築の推進に貢献したい学生のための履修モデル【資料Ⅵ－４】

③保健医療学部臨床工学科

進歩した医用工学技術をより的確かつ安全に実践するための知識と技術を修得し、地域の医療・保健・福祉の活動と地域に住まう人々のＱＯＬの向上に貢献できる臨床工学技士を目指す学生のための履修モデル【資料Ⅵ－５】

④国際文化交流学部国際文化交流学科

ア．国際観光・地域創生コース

観光をめぐる国際的な展開に関する知識を身につけ、地域経済の仕組みを理解し、企業、地方自治体等において地域創生に取り組むことを目指す学生のための履修モデル【資料Ⅵ－６】

イ．グローバルスタディーズコース

高い外国語能力を備え、アジアを中心とする世界各地の政治、経済の仕組みと歴史、言語、文化に関する知識を身につけ、国際交流に実践的に取り組むことを目指す学生の

ために、その関心の度合いに応じて、２つの履修モデルを提示する。

・国際社会、政治、経済の仕組みについて幅広く学びたい学生のための履修モデル【資料Ⅵ－７】

・言語そのものの分析や言語と歴史、文化、社会との関わりについて幅広く学びたい学生のための履修モデル【資料Ⅵ－８】

３　成績評価

（１）単位の取得

学則に基づき、各授業科目を履修した者には、評価のうえ単位を認定する。認定の方法は、各種試験、グループワーク、発表、レポート等の成果物、授業への取組み方、実習・演習などにより、各授業科目担当者が科目の特性を考慮して定める。

（２）授業への出席

応用力のある専門職業人を養成するという本学の教育理念に基づき、社会人としての態度や心構えを培う意味においても、授業や関連行事等への出席は重要である。しかし、成績評価の指標はあくまで学修の到達度において判断するため、出席の有無を評価指標として取り扱うことは行わない。

（３）成績の評価

各授業科目の成績評価は、S（100 点～90 点以上）、A（90 点未満～80 点以上）、B（80 点未満～70 点以上）、C（70 点未満～60 点以上）、D（59 点以下）の５つの分類をもって表し、C 以上を合格とする。

また、授業への出席に関する取り扱いについてであるが、学生が履修した当該授業科目の単位の認定を受けるためには、授業時間数の３分の２以上の出席を原則とし、オリエンテーションや授業初回時のガイダンス、学生便覧等において、学生にその考え方を明確に伝え、理解させることとする。

本学では、成績評価に応じて下記の通りポイント（4.0～0.0pt）で表し、平均値で表す GPA（Grade Point Average）制度を導入する。この GPA 制度を導入することで、ただ単に進学や卒業に必要な単位を取得するのではなく、学生が主体的かつ充実した学習効果をあげることが可能となる。（例えば、学期はじめに自身の成績目標を設定し、学期末に学習効果を自身で把握し、次の目標を設定するなど）そのため、学業成績通知書には、GPA も含めた成績評価を記載し、各学生に通知する。

また、GPA は学生の履修状況を見る指標にもなるため、未履修科目が多い学生への履修指導にも利用していく予定である。

$$GPA = \frac{\text{（グレードポイント　×　各科目の単位数）の合計}}{\text{履修登録単位数の合計}}$$

グレードポイント	評価（表示）	点　数
4.0	S	90 点以上
3.0	A	80 点以上
2.0	B	70 点以上
1.0	C	60 点以上
0.0	D	59 点以下
0.0	－	出席回数不足

4　卒業要件

各学部で卒業に必要となる卒業要件単位数は、次のとおりとする。

（1）生産システム科学部生産システム科学科の卒業要件単位数

生産システム科学部生産システム科学科の卒業要件単位数は、次のとおりとする。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">区　分</th><th colspan="3">卒業要件単位数</th></tr>
<tr><th>必修科目</th><th>選択科目</th><th>合　計</th></tr>
<tr><td rowspan="9">共通教育科目</td><td colspan="2">導入科目</td><td>8 単位</td><td>－</td><td rowspan="9">38 単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一般科目</td><td>人間力</td><td>－</td><td>6 単位以上</td></tr>
<tr><td>社会力</td><td>－</td><td>6 単位以上</td></tr>
<tr><td>科学力</td><td>－</td><td>4 単位以上</td></tr>
<tr><td>健康と体力</td><td>－</td><td>1 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">英語科目</td><td>8 単位</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他外国語科目</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記で履修した
共通教育科目以外</td><td>－</td><td>5 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">専門基礎科目</td><td>20 単位</td><td>－</td><td>20 単位</td></tr>
<tr><td colspan="3">専門共通科目</td><td>33 単位</td><td>1 単位以上</td><td>34 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">専門科目</td><td>－</td><td>32 単位以上</td><td>32 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">卒業要件単位数</td><td colspan="3">124 単位以上</td></tr>
</table>

＜補足＞

（ア）専門科目について、生産機械コース選択者は「機械加工学」「電気制御学」「資源

有効利用学」「地球環境と環境流体」の４科目８単位を、知能機械コース選択者は「アルゴリズム論」「制御工学」「人工知能」「センサと通信」の４科目８単位をコース必修科目とする。

（イ）コース選択の要件として、２年前期終了までに共通教育科目 38 単位以上と２年前期までに開講される専門科目を含む合計 64 単位以上を修得しなければならない。

（ウ）卒業研究着手の要件として、共通教育科目 38 単位以上及び専門科目 72 単位以上を含む合計 110 単位以上を修得しなければならない。

（２）保健医療学部看護学科の卒業要件単位数

保健医療学部看護学科の卒業要件単位数は、次のとおりとする。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">区　分</th><th colspan="3">卒業要件単位数</th></tr>
<tr><th>必修科目</th><th>選択科目</th><th>合　計</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td colspan="2">導入科目</td><td>８単位</td><td>－</td><td rowspan="8">31 単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一般科目</td><td>人間力</td><td>－</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td>社会力</td><td>－</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>科学力</td><td>－</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>健康と体力</td><td>－</td><td>１単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">英語科目</td><td>８単位</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他外国語科目</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="2">専門基礎科目</td><td colspan="2">人の身体と心を知るステージ</td><td>13 単位</td><td>－</td><td rowspan="2">25 単位</td></tr>
<tr><td colspan="2">人の健康問題を考えるステージ</td><td>12 単位</td><td>－</td></tr>
<tr><td rowspan="4">専門科目</td><td colspan="2">看護とは何かを考えるステージ</td><td>19 単位</td><td>－</td><td rowspan="4">71 単位
以上
※保健師
選択者は
86 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">看護ケア能力を育てるステージ</td><td>32 単位</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">看護ケア能力を拡げるステージ</td><td>10 単位</td><td>保健師選択者は必修
（15 単位）</td></tr>
<tr><td colspan="2">看護の未来を共創するステージ</td><td>６単位</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">卒業要件
単位数</td><td>看護師</td><td colspan="3">127 単位以上</td></tr>
<tr><td>保健師選択者</td><td colspan="3">142 単位以上</td></tr>
</table>

＜補足＞

保健師選択者については、専門科目の「看護ケア能力を拡げるステージ」の選択科目 15 単位を必修科目とする。

（３）保健医療学部臨床工学科の卒業要件単位数

保健医療学部臨床工学科の卒業に必要な単位数は次のとおりとする。

区　分			卒業要件単位数		
			必修科目	選択科目	合　計
共通教育科目	導入科目		8 単位	－	31 単位以上
	一般科目	人間力	－	6 単位以上	
		社会力	－	4 単位以上	
		科学力	－	4 単位以上	
		健康と体力	－	1 単位以上	
	英語科目		8 単位	－	
	その他外国語科目		－	－	
専門基礎科目	医学的基礎		22 単位	－	93 単位以上
	理工学的基礎		25 単位	－	
専門科目	医用生体工学		6 単位	－	
	医用機器学		10 単位	－	
	生体機能代行技術学		13 単位	－	
	医用安全管理学		3 単位	－	
	総合実践科目		8 単位	2 単位以上	
	上記で履修した科目以外		－	4 単位以上	
卒業要件単位数			124 単位以上		

＜補足＞

本学科では、総合実践科目のうち、学科必修科目として指定する４科目中２科目２単位以上を履修することとする。

（４）国際文化交流学部国際文化交流学科

国際文化交流学部国際文化交流学科の卒業に必要な単位数は次のとおりとする。

【国際観光・地域創生コース】

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">区　分</th><th colspan="3">卒業要件単位数</th></tr>
<tr><th>必修科目</th><th>選択科目</th><th>合　計</th></tr>
<tr><td rowspan="8">共通教育科目</td><td colspan="2">導入科目</td><td>８単位</td><td>－</td><td rowspan="8">37 単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一般科目</td><td>人間力</td><td>－</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td>社会力</td><td>－</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td>科学力</td><td>－</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>健康と体力</td><td>－</td><td>１単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">英語科目</td><td>10 単位</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他外国語科目</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記で履修した科目以外</td><td></td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">専門基礎科目</td><td>４単位</td><td>８単位以上</td><td>12 単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="2">外国語科目</td><td colspan="2">基礎外国語
科目</td><td>12 単位</td><td>８単位以上</td><td>20 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">専門外国語
科目</td><td>－</td><td>４単位以上</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門科目</td><td colspan="2">観光・地域創生系科目群</td><td>－</td><td>30 単位以上</td><td>30 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">政治経済系科目群</td><td>－</td><td rowspan="2">４単位以上</td><td rowspan="2">４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語文化系科目群</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">学部共通科目</td><td>８単位</td><td>４単位以上</td><td>12 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記で履修した科目以外</td><td>－</td><td>８単位以上</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">卒業要件単位数</td><td colspan="3">127 単位以上</td></tr>
</table>

＜補足＞

観光・地域創生系科目群で開講される「観光社会学」「サスティナブルツーリズム論」「観光産業概論」「世界遺産を学ぶ」「地域再生マネジメント論」「課題研究Ａ」の６科目 12 単位とし、演習科目５科目中２科目４単位以上を選択必修とする。

【グローバルスタディーズコース】

<table>
<tr><td colspan="3" rowspan="2">区　分</td><td colspan="3">卒業要件単位数</td></tr>
<tr><td>必修科目</td><td>選択科目</td><td>合　計</td></tr>
<tr><td rowspan="9">共通教育科目</td><td colspan="2">導入科目</td><td>８単位</td><td>－</td><td rowspan="9">37 単位
以上</td></tr>
<tr><td rowspan="4">一般科目</td><td>人間力</td><td>－</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td>社会力</td><td>－</td><td>６単位以上</td></tr>
<tr><td>科学力</td><td>－</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td>健康と体力</td><td>－</td><td>１単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">英語科目</td><td>10 単位</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">その他外国語科目</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記で履修した科目以外</td><td></td><td>２単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">専門基礎科目</td><td>４単位</td><td>８単位以上</td><td>12 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">外国語科目</td><td>基礎外国語
科目</td><td>12 単位</td><td>８単位以上</td><td>20 単位以上</td></tr>
<tr><td>専門外国語
科目</td><td>－</td><td>８単位以上</td><td>８単位以上</td></tr>
<tr><td rowspan="5">専門科目</td><td colspan="2">観光・地域創生系科目群</td><td>－</td><td>４単位以上</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">政治経済系科目群</td><td>－</td><td rowspan="2">30 単位以上</td><td rowspan="2">30 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">言語文化系科目群</td><td>－</td></tr>
<tr><td colspan="2">学部共通科目</td><td>８単位</td><td>４単位以上</td><td>12 単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">上記で履修した科目以外</td><td>－</td><td>４単位以上</td><td>４単位以上</td></tr>
<tr><td colspan="3">卒業要件単位数</td><td colspan="3">127 単位以上</td></tr>
</table>

＜補足＞

政治経済系科目群で開講される「国際政治論」「国際貿易論」及び言語文化系科目群で開講される「英語圏言語文化論」「中国言語文化論」の４科目８単位をコース必修科目とし、政治経済系科目群の演習５科目及び言語文化系科目群の演習７科目のうち、３科目６単位以上を選択必修とする。

５　履修科目の年間登録上限（ＣＡＰ制）の導入

本学は、学問領域の異なる３学部４学科を設置し、各学科の養成する人材像に掲げる知識、能力の修得を目指す。そのため、学生の負担、自学習時間、各学科の教育の性質・特色を考慮した質の高い学士課程教育の実現のため、各学科で履修科目の年間登録の上限（CAP 制）を設ける。なお、年間登録科目の上限を越えて履修を希望する学生がいた場合、CAP 制の例外を適用するかどうかについては、各学部で定めることとする。例外を適用する場合は、前年の GPA 閾値や各学部で定める規定等、学部長が教授会の意見を聴くことで判断し、適用の可否を決定する。

（１）生産システム科学部生産システム科学科

本学科の履修科目の登録の上限は、年間 48 単位とする。ただし、この上限を超えて履修を希望する学生がいた場合は、その者の前年の GPA 閾値が２．５以上であることを条件として、学部長が教授会に意見を聴き、特に認めた場合に限って、上限を超えて履修することが出来るものとする。

（２）保健医療学部看護学科

本学科の履修科目の登録の上限は、年間 48 単位とする。ただし、この上限を超えて履修を希望する学生がいた場合は、その者の前年の GPA 閾値が２．５以上であることを条件として、学部長が教授会に意見を聴き、特に認めた場合に限って、上限を超えて履修することが出来るものとする。

（３）保健医療学部臨床工学科

本学科の履修科目の登録の上限は、年間 48 単位とする。ただし、この上限を超えて履修を希望する学生がいた場合は、その者の前年の GPA 閾値が２．５以上であることを条件として、学部長が教授会に意見を聴き、特に認めた場合に限って、上限を超えて履修することが出来るものとする。

（４）国際文化交流学部国際文化交流学科

本学科については、履修科目の登録の上限を年間 46 単位とする

６　他大学における授業科目の履修

石川県内のすべての高等教育機関で構成される大学コンソーシアム石川を通じて、他大学で開講されている専門科目以外の科目の履修を 30 単位以内で認め、学生の関心、意欲を支援していく。なお、これらは卒業要件には含まないものとする。

Ⅶ　施設、設備等の整備計画

１　キャンパスの構成

公立小松大学のキャンパスは、小松短期大学及びこまつ看護学校の校地、施設・設備をそれぞれ活用した２つのキャンパスと、新たにＪＲ小松駅前に建設される複合施設の２階及び３階を使用する中央キャンパスの併せて３つのキャンパスで構成される。既存部分については、新たに４年制大学として運用するにあたり必要とされる施設・設備に合わせて増築、改修を行う。校地面積は 33,233.05 ㎡、校舎面積は 16,305.47 ㎡といずれも基準面積を上回る面積を確保している。

２　校地、運動場の整備計画

（１）粟津キャンパス

粟津キャンパスには、小松短期大学の校地 29,098.17 ㎡と校舎を利用し、公立小松大学の３つのキャンパスの本部キャンパスとして、大学事務局本部及び生産システム科学部を設置する。校地は、ＪＲ粟津駅から１ｋｍ圏内に位置しているため通学における利便性が高く、また、校地周辺は、都市計画法上の市街化調整区域内に属することから敷地周囲に緑地や空地が多く静かで教育・研究の環境として適している。さらに、コマツ粟津工場、バスボディ製造（バス完成）会社として国内トップメーカーのジェイ・バス㈱など日本を代表するものづくり企業の集積地に近接していることから生産・工学系分野における産学連携が容易であり、質の高い学習プログラムの提供が可能となる。

敷地内には学生のクラブ・サークル活動に利用可能な運動場 14,271.00 ㎡及び体育館 960.00 ㎡、クラブハウス棟 207.48 ㎡を備えている。

開学から２年間は、小松短期大学と校地・校舎を共有することになるがそれぞれの基準を上回る校地面積を有することから、双方の教育環境を確保することが可能である。

（２）末広キャンパス

末広キャンパスには、こまつ看護学校の校地 3,676.85 ㎡と校舎及びこまつ看護学校に隣接している母子保健施設である「すこやかセンター」の２階を改修し、新たに増築する校舎と合わせて保健医療学部を設置する。校地について、こまつ看護学校の校地は現在、小松市民病院からの借地となっており、引き続き借用することとなる。「すこやかセンター」の用地については、小松市所有で建物の２階フロアーを借用（専有）し、新しく増築する用地は大学の所有の用地となる。末広キャンパスは、ＪＲ小松駅から約 1.8ｋｍと近く徒歩でも通学可能であり、一般の路線バスもＪＲ小松駅から複数の路線（５路線－31 便（片道）／日）が運行しており、交通アクセスが極めて

よい。校地周囲には、小松市民病院、母子保健施設、南加賀救急医療センター、特別養護施設など市の保健医療施設が集中し地域の中核的医療福祉ゾーンとなっている。学生の実習先が校地近くにまとまっていることから学生の負担を軽減できるだけでなく、保健医療に関し高い実践力を培うのに適した環境にある。さらに、校地は、小松運動公園に隣接しており、運動競技場、屋内プール、野球場、テニスコート、屋内体育館、武道場などの小松市スポーツ・レクリエーション施設が整備されている。この地区には運動施設が集約されており市内の体育イベントが開催される地でもあることから、学生の多種多様なクラブ・サークル活動への対応や地域住民との交流が可能である。また、校地は、学生の憩いの場として利用可能な緑地公園に近接しているだけでなく、周囲の田園地帯を介した遠方の白山連峰を望む眺望など豊かな自然環境に恵まれた位置に立地している。

開学から２年間は、こまつ看護学校と校地・校舎を共有することになるが基準を上回る校地面積を有することから、双方の教育環境を両立することができる。

（３）中央キャンパス

中央キャンパスは、ＪＲ北陸本線小松駅前に新たに建設される複合施設の２階及び３階（計 4,030.82 ㎡）を使用し国際文化交流学部を設置するとともに全学部の教養教育を行う。複合施設は小松市が民間資金を活用して進める施設（公民連携手法：ＰＰＰ方式）であり、８階建て延べ 9,422 ㎡で、土地を所有する市と民間会社が母体の特別目的会社とが借地契約をおこない建設するものである。延べ床面積の３分の２を占める１～３階部分を、市出資のまちづくり会社が借受け、２、３階部分を大学が使用するものである。隣接する土地には、市営立体駐車場も整備されている。

小松駅は、国際便が就航する小松空港から４ｋｍ圏内と近く、また、2023 年には北陸新幹線小松開業を予定していることから北陸屈指の交通ネットワークの中枢となり、中央キャンパスは交通至便な立地条件を活かしグローバル教育を行うにふさわしい環境に立地する。

建物の屋上には植栽やベンチなど配置されており、学生が休息しリフレッシュできる場所となる。また、駅西にはコマツの総合研修センターがあり、隣接した場所には一般開放している公園がある。加賀の自然を再現した里山となっており、小川が流れ様々な水生生物や昆虫も集まり、自然を感じられる公園に整備されていて、学生の憩いの空間となる。

（４）運動場の整備計画

運動場は粟津キャンパスに学生の授業やクラブ・サークル活動に利用可能な運動場 14,271.00 ㎡及び体育館 960.00 ㎡を備えている。ただ、教養教育が行われる中央キャンパスから粟津キャンパスまでは、ＪＲ小松駅～ＪＲ粟津駅（6.4ｋｍ　電車４分）、

ＪＲ粟津駅～粟津キャンパス（0.9ｋｍ　徒歩 12 分）と 15 分以上かかるため、スポーツ演習の授業では末広キャンパスに隣接する小松運動公園のグラウンド、体育館、テニス場等運動施設を利用する。中央キャンパスから、小松運動公園までは、１ｋｍ（徒歩 13 分）と近接している。

３　校舎等施設の整備計画

（１）粟津キャンパス

粟津キャンパスは公立小松大学の本部キャンパスであり、学長室、理事長室、法人本部を置き、理事会や各審議会の開催施設とする。粟津キャンパスは、敷地内に現存する小松短期大学（平成 32 年３月廃止予定）の校舎を改修して使用する。校舎面積は 6,601.39 ㎡であり、他に体育館 960.00 ㎡有する。体育館と校舎は渡り廊下で接続されているため、降雪時や降雨時に安全に各棟へ移動が可能となるようバリアフリーに配慮している。

技術者としての基礎及び実践能力を高めるためにも、実験室・実習室には必要な設備機器を整備する【資料Ⅶ－１】。

小松短期大学には十分な数の講義室・教員研究室、機械工作室を有しているため、既存校舎を活用し、エレベーターの増築、研究室・ＣＡＤ室、実習室への改修、サインの更新など小規模な改修により生産システム科学部への校舎整備を予定している。

小松短期大学は、鉄筋コンクリート構造３階建ての建築物で昭和 63 年に竣工していることから、昭和 56 年次基準の耐震性能を有しているため耐震改修は必要としない。

校舎については、平成 30 年の開学後、小松短期大学と２年間共用することになるが、公立小松大学として使用する時期は主として開学後３年目以降となる。また、小松短期大学は平成 30 年以降の募集停止を予定しており、平成 31 年に校舎を使用する学生は５つある教育課程の内、専攻科のある 2 ステージのみであるため、双方の学校の使用に関して教育研究に支障はない【資料Ⅶ－２】。

また、可能な限りそれぞれの学校の専用室を設け棲み分けを行うとともに、共用する各室の使用については、両校の使用が重複しないよう時間割の編成を行う【資料Ⅶ－３】。

教員研究室は大学設置基準どおり専任教員全員に備え、生産システム科学部及び国際文化交流学部は全専任教員とも個室とする。保健医療学部については、チーム医療、チーム指導を考慮して一部共同研究室となる。末広キャンパス C 棟が完成するまでの間（平成 30 年４月～平成 31 年９月、１年６月間）、一時的に研究室が不足するが、本部キャンパスである粟津キャンパスの１階教室（106）75.99 ㎡、３階教室等（305、306、307）228.51 ㎡及び寮施設１フロアー10 室（１室 21.78 ㎡）を利用することにより、約 40 室確保する。研究室には電話回線、インターネット回線を整備する。

（２）末広キャンパス

末広キャンパスは、敷地内に現存するこまつ看護学校（平成 32 年３月廃止予定）の校舎 2,548.64 ㎡および母子保健施設であるすこやかセンターの２階 930.48 ㎡を改修して使用し、新たに 2,045.29 ㎡の校舎の増築を行う。各棟は渡り廊下により接続することで意匠や建設年度の異なる校舎に一体感を持たせるとともに、降雪時や降雨時に安全に各棟へ移動が可能となるようバリアフリーに配慮している。末広キャンパスには看護学科及び臨床工学科で構成する保健医療学部を設置し、校舎面積は３棟の合計で 5,673.26 ㎡を有する。

こまつ看護学校から公立小松大学保健医療学部に転用するに当たり、シミュレーション演習室への改修を行うほか、大学設置基準第 36 条第１項各号に記載されている教員研究室、会議室、図書館は増築校舎及びすこやかセンターの 2 階に設ける計画とする。各棟は用途に応じて講義室・実習室・管理部門・福利厚生部門など適切にゾーニングし動線を明確に区分することで学生の利用しやすい校舎として整備する。

また、看護学科及び臨床工学科において教育上必要な設備機器を主に整備した実習室を設け、教育環境の充実を図る【資料Ⅶ－１】。

こまつ看護学校及びすこやかセンターは、いずれも鉄筋コンクリート構造２階建てでありそれぞれ平成７年、平成６年に竣工していることから、昭和 56 年次基準の耐震性能を有しているため耐震改修は必要としない。

校舎については、平成 30 年の開学後、こまつ看護学校と２年間共用することになるが、公立小松大学として使用する時期は主として開学後３年目以降となる。また、こまつ看護学校は平成 30 年以降の募集停止を予定しており、平成 31 年度は３年生のみであることから実習で学外に出ることが多くなるため、双方の学校の使用に関して教育研究に支障はない【資料Ⅶ－２】。

また、可能な限りそれぞれの学校の専用室を設け棲み分けを行うとともに、共用する各室の使用については、両校の使用が重複しないよう時間割の編成を行う【資料Ⅶ－３】。

（３）中央キャンパス

中央キャンパスの校舎面積は、複合施設の２階及び３階の計 4,030.82 ㎡を賃貸借し、主として２階を教養教育、３階を国際文化交流学部で使用する。

中央キャンパスには、教養教育のほか交通至便の環境を活かして社会人教育を行うため、教室を多めに確保し、様々な教育プログラムに対応できるよう整備する。また、図書館及び自習室、英語カフェなど大学施設の一部を一般開放し、高校生の学習意欲と知的好奇心を誘引し中高大接続による若者のグローバル教育拠点として整備する。

４　図書等の資料及び図書館の整備計画

大学図書館は、本学の基本理念、教育理念を支援するための重要な基盤的施設として、図書、雑誌およびその他の学術情報を収集・整理・保存し、教職員、学生の利用に供することにより教育・研究の質を高め、学生の人格形成と教養力の向上に資することを目的とする。

また、地域社会の発展に寄与する公立大学として、研究者による専門分野の資料の収集は、大学の教育・研究の特色と連動した学術資料等と、学生、教員、そして市民の利用動向やニーズを捉えた一般図書等のバランスの良い蔵書整備を進めていく。併せて、粟津、末広、中央の３つキャンパスの各学部の専門分野に配慮して、それぞれが担う役割を明確に分け、本学全体として的確で効率的な資料収集と保存を推進していく。同時に、変化する社会情勢に対応できる多様な教育・研究のための環境を維持していくためにも、すでに所有している図書、資料等の定期的な点検と見直しを行っていく。

本学は粟津キャンパス、末広キャンパス、中央キャンパスの３キャンパスそれぞれに図書館を整備するとともに地域の知の拠点として一般市民にも開放する計画である。

図書館には閲覧席、レファレンスコーナー、検索用 PC コーナー、DVD 等視聴用 PC、集密書架を設ける。また、各キャンパス図書館には専門職員又は事務職員１名以上を配置し、学生の学習支援や利用者のレファレンスに対応する。

図書等資料については、全て単一の図書システムで書誌データを登録・管理し、３キャンパスいずれにおいても、インターネット上での OPAC 検索を可能とする。図書館内は、個人のノートパソコンの持ち込みを可能とし、無線 LAN を利用してインターネット検索が可能な環境を提供する。

図書等資料の整備計画としては、小松短期大学及びこまつ看護学校所有の図書を双方の教育に支障がないよう段階的に公立小松大学へ移転し、新たに開学する大学であることから、各学部設置科目ならびに講義に関連する学術書を中心としつつ，学際分野や広く豊かな教養を育む図書も積極的に収集する。外国図書については、開講科目に関連するもののほか，専任教員の専門分野に関連した図書を収集し，研究活動を支援する。

雑誌は、学生の視野を広げ、教養を高めると思われる基本的な学術雑誌、専門書、紀要など幅広い分野の雑誌を収集・整備することとし、内国雑誌 138 冊、外国雑誌 52 冊を購読する【資料Ⅶ－４】。外国雑誌については、教員の研究力の向上とその成果の教育への還元も視野に入れて、整備していく。そのうち、外国雑誌は全て電子ジャーナルで購読する計画である。図書等資料を共有できる環境の整備、各図書館スペースの有効活用、さらには学生の学修時間拡大を目的として、今後、電子書籍、電子ジャーナルなど、電子媒体の図書等資料の充実を図っていく。

データベースは、現在小松短期大学で契約している「CiNii Articles」を今後も継続することで、学修や研究に必要な論文検索を容易にする。

３キャンパス間は１日１～２便のシャトル便で往復し、キャンパス間での図書の貸し

出しを円滑にする。

他の大学図書館との連携としては、ILL（図書館相互貸借）を通じ、文献の相互貸借が可能である。今後さらに、他大学図書館との相互利用環境の整備を進める。

（１）粟津キャンパス

粟津キャンパスにおいては、蔵書能力約 45,000 冊を有する既存の小松短期大学の図書館（425.51 ㎡）を活用する。図書館には、閲覧席 42 席を設ける。

小松短期大学が保有している共通教育関連の図書 10,686 冊、視聴覚資料 28 点及び生産システム科学関連の図書 1,901 冊を利用した上で、生産システム科学部のカリキュラムに基づき、新たに 971 冊の図書、視聴覚資料 128 点などを収集する。

（２）末広キャンパス

末広キャンパスにおいては、蔵書能力約 20,000 冊を有する図書館（208.31 ㎡）を、新たに増設する校舎に整備する。図書館には、閲覧席 20 席を設ける。

こまつ看護学校所有の看護学関連の図書 6,431 冊、視聴覚資料 734 点と、小松短期大学所有の共通教育関連の図書 3,951 冊、視聴覚資料 30 点及び臨床工学関連の図書 4,024 冊、視聴覚資料 72 点を、両学校の学生の教育に支障がないよう段階的に移転する。また、保健医療学部看護学科のカリキュラムに基づき、図書 1,412 冊、視聴覚資料 103 点、保健医療学部臨床工学科のカリキュラムに基づき、図書 182 冊、視聴覚資料 58 点などを新たに収集する。

（３）中央キャンパス

中央キャンパスにおいては、蔵書能力約 15,000 冊を有する図書館（276.01 ㎡）を、キャンパスを設置するビルの２階部分に整備する。図書館には、閲覧席 56 席を設ける。

小松短期大学所有の共通教育関連の図書 6,230 冊、視聴覚資料 100 点、国際文化交流学部関連の図書 2,865 冊、視聴覚資料 96 点を両学校の学生の教育に支障がないよう段階的に移転する。また、共通教育のカリキュラムに基づき、図書 746 冊、国際文化交流学部のカリキュラムに基づき図書 2,159 冊、視聴覚資料 149 点を新たに収集する。

なお、各キャンパスの図書館の収容能力を考慮して、共通教育関連図書の一部は粟津キャンパス、末広キャンパスの図書館を利用して保管する。他キャンパスに保管する図書の貸し出し等の要望があった場合には、キャンパス間を結ぶシャトル便で運搬するなど、臨機応変に対応する。

Ⅷ　入学者選抜の概要

１　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、基本理念である「地域と世界で活躍する人間性豊かなグローカル人材を育成する大学」「持続的発展に向けて生産システムや人間の健康医療の科学技術を革新し、異文化交流を推進する大学」「地域に対して貢献し、地域によって支えられ、地方を共創する大学」に共感し、十分な基礎学力とともに、次のような資質を有する学生を求める。

○　学習意欲と探究心を持って自己実現を目指す人
○　豊かな教養を身につけ、地域社会と人類の発展に寄与しようと努力する人
○　社会が抱える問題について主体的に学び、その解決に取り組む意欲のある人

【生産システム科学部生産システム科学科】

本学科の教育理念及び教育目標に共感し、地域と世界の産業に貢献しようとする次のような学生を求める。

○　数学、物理など、ものづくりの仕組みを理解できる基礎学力を有し、機械、電気、電子、情報に関する知識や仕組みについて高い関心をもつ人
○　サスティナブル（持続可能な）社会の実現を目指し、未来の生産システムの構築に強い意欲をもって取り組める人
○　豊かな教養と幅広い人間性を備え、地域社会の持続的発展に誇りと喜びを持って貢献できる人

【保健医療学部看護学科】

本学科の設置の目的、教育理念と教育目標に共感し、次に示した３つのすべてを併せもつ次のような学生を求める。

○　人々の営みや健康問題に関心を持ち、看護師または保健師として地域社会の医療・保健・福祉分野の発展に貢献しようと努力する人
○　相手の立場に立ち、思いやりをもって接することができる人
○　看護学として必要とされる専門知識・技術を学ぶための基礎学力を持った人

【保健医療学部臨床工学科】

本学科の教育理念及び教育目標に共感し、本学科を成長の場としたいと願う次のような学生を求める。

○　人の尊厳を重んじ、生命への高い関心と倫理観を有する人
○　人の命に対して真摯に向き合い、病を抱える人の回復のために自らの持つ力を最大限に発揮して取り組もうとする人

○　臨床工学を学ぶための理数系科目の基礎学力と、医療に関する高い学修意欲を有する人
○　医療専門職の一員として、関連する医療職種を理解し、チーム医療や地域医療に貢献のできる資質を有する人

【国際文化交流学部国際文化交流学科】

国際的視野から地域貢献を目指す人文社会学系の総合学部であり、本学科の教育理念及び教育目標に基づいて次のような学生を求める。

○　南加賀地域及び北陸の発展に強い意欲を有する人
○　自国の文化に誇りをもち、国際社会とその文化的多様性を探求することを通じて、南加賀地域をはじめとする地域社会の発展に貢献できる人
○　海外事情に関心があり、外国語能力をさらに向上させたい人
○　地域社会などの実態調査を通じて情報分析能力を身につけたい人
○　問題発見能力を鍛え、個性的な発想によって新しい価値を創造する意欲のある人

２　入学資格

本学に入学できる者は、次の各号に該当するもとする。

（ア）高等学校または中等教育学校を卒業した者
（イ）通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者
（ウ）学校教育法施行規則（昭和 22 年文部省令第 11 号）第 150 条の規則により、高等学校を卒業した者と同等の学力があると認められる者

３　入学者の選抜方法

（１）　選抜区分と募集人数

本学では、入学者が身に付けておくべき基礎学力及び実技能力についての評価を「一般選抜」により実施するほか、多様な優れた人材を確保するため、一般選抜に加え、「特別選抜」を実施し、「推薦選抜」として「一般推薦」、「市内推薦」及び「県内推薦」を設ける。また、保健医療学部においては、社会人として働く人へも受験の機会を広げるため、「社会人特別選抜」を設ける。

選抜区分と募集人数は次のとおりとする。

学部	学科	入学定員	選抜区分と募集人数				
			一般選抜	特別選抜			
				推薦選抜			社会人特別選抜
				一般推薦	市内推薦	県内推薦	
生産システム科学部	生産システム科学科	80	60	7	8	5	－
保健医療学部	看護学科	50	38	2	5	5	若干名※
	臨床工学科	30	22	3	3	2	若干名※
国際文化交流学部	国際文化交流学科	80	60	7	8	5	－

※保健医療学部の社会人特別選抜の募集人数（若干名）は、各学科の募集人数の内数とする。

（２） 選抜方法

（ア）一般選抜

一般選抜試験は、国公立大学の入学者選抜に準じて実施し、学力検査については、開学初年から大学入試センター試験を利用する。また、各学部・学科の目的及び特色に基づき個別試験を実施し、入学志願者の基礎学力と実技能力を総合的に判定する。なお、初年度の個別学力検査は、開学準備のために独自の日程により実施する。

試験科目の詳細は次の表のとおりとする。

【生産システム科学部生産システム科学科】

日程	募集人数	大学入試センター試験 指定する教科・科目		個別学力検査 教科
A日程	45	国語	「国語」	数学
		地理歴史・公民	「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」、「現代社会」、「倫理」、「政治･経済」、「倫理，政治･経済」から１科目	
		数学	「数学Ⅰ･数学 A」	理科（物理）
			「数学Ⅱ･数学 B」、「簿記･会計」、「情報関係基礎」から１科目	
		理科	「物理」	
		外国語	「英語」（リスニング含む）	
B日程	15	数学	「数学Ⅰ」「数学Ⅰ･数学 A」から１科目	理科（物理）
			「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･数学 B」から１科目	
		理科	「物理」	
		外国語	「英語」（リスニングを含む）	

【保健医療学部看護学科】

日程	募集人数	大学入試センター試験 指定する教科・科目		個別学力検査 教科・科目等
A日程	30	国語	「国語」	面接
		地理歴史・公民	「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」、「現代社会」、「倫理」、「政治･経済」、「倫理，政治･経済」から 1 科目	
		数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･数学 A」から 1 科目	
			「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･数学 B」、「簿記･会計」、「情報関係基礎」から 1 科目	
		理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から 2 科目または、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から 1 科目	
		外国語	「英語」（リスニング含む）	
B日程	8	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･数学 A」から 1 科目	面接
			「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･数学 B」から 1 科目	
		理科	「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から 2 科目または、「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から 1 科目	
		外国語	英語（リスニング含む）	

【保健医療学部臨床工学科】

日程	募集人数	大学入試センター試験 指定する教科・科目		個別学力検査 教科・科目等
A日程	17	国語	「国語」	小論文 面接
		地理歴史・公民	「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」、「現代社会」、「倫理」、「政治･経済」、「倫理，政治･経済」から 1 科目	
		数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･数学 A」から 1 科目	
			「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･数学 B」から 1 科目	
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から 2 科目	
		外国語	「英語」（リスニング含む）	
B日程	5	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･A」から 1 科目	面接
			「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･B」から 1 科目	
		理科	「物理」、「化学」、「生物」、「地学」から 2 科目	
		外国語	「英語」（リスニング含む）	

【国際文化交流学部国際文化交流学科】

<table>
<tr><th>日程</th><th>募集
人数</th><th colspan="2">大学入試センター試験
指定する教科・科目</th><th>個別学力検査
教科・科目等</th></tr>
<tr><td rowspan="4">A
日
程</td><td rowspan="4">35</td><td>国語</td><td>「国語」</td><td rowspan="4">小論文
（英語による出題を含む）</td></tr>
<tr><td>地理歴史
・公民</td><td>「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」、「現代社会」、「倫理」、「政治･経済」、「倫理，政治･経済」から 2 科目
（ただし、「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」のうち 1 科目以上を含むこと）</td></tr>
<tr><td>数学
理科</td><td>「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･A」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･B」、
「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から 1 科目
（ただし、基礎を付した科目（「物理基礎」、「科学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」）については、2 科目の受験で 1 科目とみなす。）</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td>「英語」（リスニング含む）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">B
日
程</td><td rowspan="4">25</td><td>国語</td><td>「国語」</td><td rowspan="4">小論文</td></tr>
<tr><td>地理歴史
・公民</td><td>「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」、「現代社会」、「倫理」、「政治･経済」、「倫理，政治･経済」から 2 科目
（ただし、「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」のうち 1 科目以上を含むこと）</td></tr>
<tr><td>数学
理科</td><td>「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･A」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･B」、
「物理」、「化学」、「生物」、「地学」、「物理基礎」、「化学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」から 1 科目
（ただし、基礎を付した科目（「物理基礎」、「科学基礎」、「生物基礎」、「地学基礎」）については、2 科目の受験で 1 科目とみなす。）</td></tr>
<tr><td>外国語</td><td>「英語」（リスニング含む）</td></tr>
</table>

なお、大学入試センター試験の「数学」のうち「簿記･会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）においてこれらの科目を履修した者及び文部科学大臣の指定を受けた専修学校高等課程の修了（見込み）者に限る。

（イ）特別選抜－推薦選抜

以下の要件を満たし、調査書の評定平均値が一定水準以上あり、学校長が責任を持って推薦できる者を対象に、推薦選抜を実施する。

○ 一般推薦
- ・高等学校等を卒業見込みの者

○ 市内推薦
- ・小松市内に所在する高等学校を卒業見込みの者
- ・高等学校卒業年度の４月１日から引き続き小松市内に住所を有する者で、小松市外に所在する高等学校を卒業見込みの者

○ 県内推薦
- ・石川県内（小松市を除く）に所在する高等学校を卒業見込みの者で、高等学校卒業年度の４月１日以前から引き続き石川県内（小松市を除く）に住所を有する者

一般推薦は、大学入試センター試験により一定の基礎学力を確かめるとともに、調査書、推薦書、志望理由等の出願書類審査、面接、課題作文等により総合的に判定する。

学部	学科	大学入試センター試験 指定する教科・科目		個別選考
生産システム科学部	生産システム科学科	数学	「数学Ⅰ･数学A」	出願書類審査、面接（数学･物理の基礎に関する試問含む）
			「数学Ⅱ･数学B」	
		理科	「物理」	
保健医療学部	看護学科	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･数学A」から１科目	出願書類審査、面接
			「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･数学B」から１科目	
		外国語	「英語」（リスニング含む）	
	臨床工学科	数学	「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ･数学A」から１科目	出願書類審査、面接
			「数学Ⅱ」、「数学Ⅱ･数学B」から１科目	
		外国語	「英語」（リスニング含む）	

国際文化交流学部	国際文化交流学科	国語	国語	出願書類審査、面接
		地理歴史・公民	「世界史 A」、「世界史 B」、「日本史 A」、「日本史 B」、「地理 A」、「地理 B」、「現代社会」、「倫理」、「政治・経済」、「倫理，政治・経済」	
		外国語	「英語」	

市内推薦及び県内推薦は、大学入試センター試験を免除し、調査書、推薦書、志望理由等の出願書類審査、面接により学習意欲や能力を総合的に判定する。

学部	学科	選考方法
生産システム科学部	生産システム科学科	出願書類審査、 面接（数学・物理の基礎に関する試問含む）
保健医療学部	看護学科	出願書類審査、面接
	臨床工学科	出願書類審査、面接
国際文化交流学部	国際文化交流学科	出願書類審査、 課題作文（英語による出題を含む）

（ウ）特別選抜－社会人特別選抜

満 23 歳に達しており、社会人としての実務経験（非正規雇用及び NPO、NGO での活動を含む）の経験を 3 年以上有する者を対象に、社会人特別選抜を実施する。

社会人特別選抜の実施にあたっては、調査書、志望理由等の出願書類審査、面接、小論文により総合的に判定する。

４　入学者選抜体制

大学設置基準第２条の２及び大学入学者選抜実施要項の規程に従い、公正かつ妥当な方法によって入学者選抜を実施する。開学初年度は、公立大学設立準備委員会委員及び教員予定者で構成する入学試験調査広報委員会を組織し、学長予定者の指揮のもとに入学試験の企画・運営を行う。開学２年目以降は、学内の関係教職員による入学試験に関する委員会を組織し、学長の指揮のもとに入学試験の企画・検討・事後評価を行う。

入学試験の実施にあたっては、関係する全ての教職員に対して十分な研修を行うことにより実施に係るミスを防止するとともに、中立・公正の確保を徹底する。

５　科目等履修生及び聴講生

（１）　科目等履修生

本学において、特定の授業科目を履修することを志願する者を、正規学生の教育に支障のない範囲で科目等履修生として受け入れる。

履修することのできる授業科目は、原則として、実験・実習・演習等の科目を除くすべての授業科目とし、具体的な受入科目は、募集要項により周知する。

科目等履修生の定員は、若干名とし、それぞれの授業科目において教室の収容人数等を考慮して受け入れる。

科目等履修生の選考は、面接及び書類により審査する。

（２）　聴講生

本学において、特定の授業科目を聴講することを志願する者を、正規学生の教育に支障のない範囲で聴講生として受け入れる。

聴講することのできる授業科目は、原則として、実験・実習・演習等の科目を除くすべての授業科目とし、具体的な受入科目は、募集要項により周知する。

聴講生の定員は、若干名とし、それぞれの授業科目において教室の収容人数等を考慮して受け入れる。

聴講生の選考は、面接及び書類により審査する。

Ⅸ　取得可能な資格

１　取得可能な資格

保健医療学部看護学科及び臨床工学科では、所定の授業科目の単位を取得することにより、次の資格を取得することができる。

資格取得のために必要となる単位取得等については、入学時のオリエンテーション等により学生に詳細に説明する。

（１）保健医療学部看護学科

① 看護師国家試験受験資格

卒業要件を満たした学生には、看護師国家試験受験資格を付与する。

② 保健師国家試験受験資格

保健師は選択制とし、定員は 25 名とする。選抜方法については、２年次後期終了時に希望する学生を対象とした試験を実施して行う。試験に合格した学生は、看護師の科目に加え、「看護ケア能力を拡げるステージ」に配置した公衆衛生看護学に関する選択科目（講義、演習、実習）の８科目 15 単位を履修し、本学科の卒業要件を満たした学生に保健師国家試験受験資格を付与する。

＜保健師選択者における必修科目＞

公衆衛生学、保健医療福祉法制度論、疫学・保健統計学、在宅看護学概論、在宅看護ケア提供論、在宅看護演習、在宅看護実習、公衆衛生看護学概論、健康教育論、公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）、公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）、公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）、公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）、公衆衛生看護方法論Ⅴ（家庭訪問・健康診査・健康教育）、公衆衛生看護管理論、疫学・保健統計学演習、公衆衛生看護実習

③ 養護教諭２種

保健師国家試験に合格して保健師免許を取得し、それに加えて下記の教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定められた科目を取得している学生は、都道府県教育委員会への申請により養護教諭２種の資格を取得することができる。具体的な内容については、次のとおりである。

教育職員免許法施行規則が規定する科目及び単位数	左記に相当する本学の科目	
	科目名	単位数
日本国憲法（2 単位）	日本国憲法	2
体育（2 単位）	スポーツ演習	1
	健康と体の科学	2
外国語コミュニケーション（2 単位）	英語 Ia、英語 Ib、英語 IIa、英語 IIb、英語 III、英会話 I、英会話 II、中国語 I、中国語 II、ドイツ語 I、ドイツ語 II、ロシア語 I、ロシア語 II、スペイン語 I、スペイン語 II	2
情報機器の操作（2 単位）	情報処理演習	2

（２） 保健医療学部臨床工学科

①臨床工学技士国家試験受験資格

臨床工学技士法第 14 条第４項の「厚生労働大臣の指定する科目を修得したもの」に臨床工学技士国家試験受験資格を付与する。なお、本学科において開講する「厚生労働大臣の指定する科目」は次のとおりとする。

解剖学、解剖生理学実習、生理学、生化学、看護学概論、医療関係法規、病理学、薬理学、公衆衛生学、医学概論、感染免疫学、応用数学、電気工学Ⅰ、電気工学Ⅱ、電気工学実習、電子工学Ⅰ、電子工学Ⅱ、電子工学実習、医用機械工学、医用工学、医用システム工学実習、生体物性工学、生体材料工学、生体計測工学、医用機器学概論、医用治療機器学、医用治療機器学実習、生体計測装置学、生体計測装置学実習、呼吸機能代行装置学、呼吸機能代行装置学実習、循環機能代行装置学、循環機能代行装置学実習、代謝機能代行装置学、代謝機能代行装置学実習、臨床医学Ⅰ（呼吸器、循環器）、臨床医学Ⅱ（代謝、血液）、医療機器安全管理学、医療機器安全管理学実習、臨床実習

Ｘ　実習の具体的計画

１　看護学科の実習計画の概要

（１）実習の目的

本学科における臨地実習では、学内で修得した看護の基礎知識と技術を医療保健福祉の現場における体験を通じて理解を深めると同時に統合し、看護実践能力の修得をめざす。また、看護専門職業人としての倫理観や責任感、現場で求められる判断力、主体性、協調性、対象の心に寄り添うことができる温かい人間性を涵養する。そして、これまでとこれからの地域医療の課題解決に向けて、積極的に取り組むことができる看護師を養成する。

（２）実習の目標

本学科が掲げる養成する人材像の実現に向けて、実習の目標を次のとおり定める。

○　看護ケアを提供するために必要となる基礎知識および看護実践能力を修得する。
○　病を抱える人、老いを生きる人の気持ちに寄り添い、信頼関係の構築を図るためのコミュニケーション能力を修得する。
○　看護師として求められる幅広い教養、高い倫理観と品格により、看護を必要とする対象の生き方を尊重し、思いやりと誠意をもって接することができる。
○　病院完結型から地域完結型へと拡がる医療環境の中で、医療保健福祉チームの一員として、看護師の責務と役割を認識し、他職種と協働して看護を必要とする対象への支援を行うことができる。
○　看護専門職業人として、自己の専門性を深め、グローバルな視野に立ち、課題解決策創出のために、自己研鑽し続けることができる。

（３）実習の計画

実習における単位は 45 時間で 1 単位とする。実習の目標の達成に向けて、看護師の実習は計 14 科目 23 単位で構成する。また、保健師選択者は、看護師の実習科目に公衆衛生看護実習 1 科目 5 単位を加え、計 15 科目 28 単位で構成する。これらの実習を、看護師のみの学生は 1 年次後期から 4 年次前期にかけて、保健師については 4 年次後期開始時までの期間にかけて配置し、幅広い看護学領域で求められる確かな基礎力に基づいた質の高い看護実践能力の修得を実現する。なお、講義、演習、実習についての科目配置は「教育課程と指定規則との対比表」に示す【資料Ｘ－１】。また、各実習の主な内容を次のとおり配当年次別に説明するとともに、各実習の配置を示した実習計画表を作成する【資料Ｘ－２】。

①１年次

看護対象である「人」の身体と心の構造および機能に関する基礎知識と疾病治療等の臨床医学に関する知識の修得、そして看護の基本概念である「人間」「健康」「生活」「看護の専門性」についての理解を踏まえ、看護実践の主な現場となる病院の構造と機能を理解し、看護専門職を目指す者としての学習の動機づけを行うために「基礎看護実習Ⅰ」（１単位）を配置する。実習先は南加賀地域の各主要病院とする。

○　基礎看護実習Ⅰ

基礎看護実習Ⅰは１単位とし、医療現場において医療専門職者としての役割と責任について学習する。具体的には、病棟・病床において患者に可能な限り快適な療養環境を提供するための看護技術を医療現場での見学、体験を通じて学ぶ。

②２年次

１年次で学んだ看護師として必要となる基礎知識を踏まえ、人の発達段階における疾病・治療に関する知識と各看護領域における看護実践の基礎となる知識、技術、姿勢を学んだ後、「基礎看護実習Ⅱ」を配置し看護ケア提供の現場における看護師の役割と機能および、看護過程の展開技術を活用し、対象のニーズに対応した日常生活を支援する方法を理解させ、各看護学領域の実習へと繋げる。そこで、対象者を全人的に理解するために必要なコミュニケーション能力の向上および、健康な小児期にある対象の理解のために、２年次後期に「精神保健看護実習Ⅰ」「小児看護実習Ⅰ」を配置する。

○　基礎看護実習Ⅱ

基礎看護実習Ⅱは２単位とし、病棟における看護チームの構成員と役割、他職種との協働について学習する。患者個々人のニーズに対応した看護過程の展開や日常生活支援に必要となるコミュニケーション技法、日常生活援助技術を、実践を通して学ぶ。

○　精神保健看護実習Ⅰ

精神保健看護実習Ⅰは１単位とし、病気と共存しながら地域で生活している精神に障がいをもっている人々を対象とし、看護ケアを提供する対象者に対して、人権や権利を尊重した倫理的な態度で、また、病気や障害に由来する対象者への否定的なイメージや偏見をもたずに、対象者を全人間的に理解するために必要なコミュニケーション能力を高めることを目的とする。また、心身の痛みに共感できる感性を育てる。

○　小児看護実習Ⅰ

小児看護実習Ⅰは１単位とし、健康な乳幼児の一日の中の生活と世話を観察し、運動機能、知的機能、情緒・社会的機能の発達およびその促進のための働きかけの方法を見

学する。また、乳幼児期は非常にダイナミックな「感情の分化」がおこるため、子どもの活動を行動観察法によって記述し、具体的な理解へと発展させていく。

③３年次

２年次に引き続き、各看護学領域の概論、ケア提供論、演習により修得した知識と技術を看護現場での実践を通じて定着させるため、「精神保健看護実習Ⅱ」「老年看護実習Ⅰ」「老年看護実習Ⅱ」「成人看護実習Ⅰ（急性）」「成人看護実習Ⅱ（慢性）」「成人看護実習Ⅲ（回復・維持）」「母性看護実習」「小児看護実習Ⅱ」「在宅看護実習」を配置する。

○　精神保健看護実習Ⅱ

精神保健看護実習Ⅱは１単位とし、精神に障がいを持ちながら療養する人々にアプローチし、当事者が抱く生活のしづらさを理解する(対象理解)。そして精神障がいリハビリテーションを進めるため、あるいは個々人のリカバリーを目指して、サポートできる看護ケア実践力を修得する(精神保健看護実践能力)。さらに精神障がい者やその家族、コミュニティ、医師やメディカルスタッフと協働するための人間関係を築く能力を育む。

○　老年看護実習Ⅰ

老年看護実習Ⅰは２単位とし、老人介護保健施設や地域包括ケア病床において認知症高齢者を受け持ち、その特性および全体像（身体的、心理的、社会的）を理解し、支援するために必要な知識と技術を、実践を通して学ぶ。また、実習を通じて人の尊厳ある生き方について考えることで、学生の倫理観・老年観を養う。

○　老年看護実習Ⅱ

老年看護実習Ⅱは２単位とし、介護老人福祉施設ならびにデイサービスやショートステイ等を利用しながら生活する高齢者と家族の特性を捉え、必要な看護援助について学ぶ。また、実習体験等を通じて地域包括ケアに関する理解を深め、高齢者の生活を支えるために家族や他の医療職と連携・協働する際の看護の役割を学ぶ。

○　成人看護実習Ⅰ（急性）

成人看護実習Ⅰ（急性）は２単位とし、疾病および手術が患者の心理・社会生活に及ぼす影響や手術侵襲が生体に及ぼす影響についての理解と、回復を促す基本的な看護実践能力を養う。また、実習体験を通じて生命危機状況にある患者と家族の心理的・社会的特徴を踏まえたクリティカルケアのあり方を探求し続ける態度を養う。

○　成人看護実習Ⅱ（慢性）

成人看護実習Ⅱ（慢性）は２単位とし、慢性的な健康障害を持ち、生涯にわたり疾病

や生活のコントロールが必要な入院患者とその家族を対象に、慢性病患者の捉え方と、援助的人間関係構築に向けた看護者の姿勢を培う。さらに、対象者と家族が、退院後も積極的かつ意欲的に療養行動に取り組むことができるための援助方法について、実践を通しセルフマネジメント支援型の患者教育を理解する。

○　成人看護実習Ⅲ（回復・維持）

成人看護実習Ⅲ（回復・維持）は２単位とし、慢性的な健康障害を持つ外来通院患者を対象に、看護に必要な情報収集を行うことで、慢性病患者の理解を深めるとともに、継続看護の重要性を理解する。また、セルフケア能力の再獲得が必要な入院患者・家族を対象に、セルフケア支援を実践し、機能障害を持った患者の理解を促すとともに、機能回復を促す看護援助方法を修得する。

○　母性看護実習

母性看護実習は２単位とし、周産期にある女性と子ども（胎児・新生児）およびその家族を対象とした看護過程を通して身体的、心理的、社会的健康の増進方法と看護ケア能力を学ぶ。また地域の男女共同参画の現状や課題を学び、生涯を通じた女性の健康と看護に求められている支援について学ぶ。

○　小児看護実習Ⅱ

小児看護実習Ⅱは１単位とし、健康障害を持つ子どもとその家族を対象に看護を展開し、子ども個々の発達に適した看護ケア提供のあり方を学習し、子どもを産み育てる時期にある親子の健康保持、健康問題からの回復に対する看護援助能力を養う。また、健康問題をもつ小児の成長発達をふまえた看護を学ぶ。

○　在宅看護実習

在宅看護実習は２単位とし、訪問看護師とともに地域で療養する人とその家族を訪問し、訪問看護師の活動と機能、役割や訪問看護ステーションの運営・管理について学ぶ。その上で、保健医療福祉の総合的な視点からのサービス提供体制を検討し、必要となる看護やサービスの提供能力を養う。

④４年次

４年次では、各看護学領域の実習での学修を統合する「看護インターンシップ」を配置する。また、保健師選択者を対象に「公衆衛生看護実習」を配置し、地域の保健福祉センター、産業・学校、地方自治体での実習を通じて、地域における保健指導、健康課題への対応や予防など、地域の健康維持・増進に貢献できる保健師に必要となる知識、技術、姿勢を定着させる。

○　看護統合実習

看護統合実習は２単位とし、看護を統合する能力を得るために、地域の病院で実習を行い、医療・保健・福祉チームにおける看護職の責任と役割を認識することで、実習指導者等の協力の下でパートナーシップ・ナーシング・システムを活用しながら複数課題にも対応して看護ケア提供が実践できる能力の修得をめざす。また、病院の機能と役割を地域の中に位置づける意識を高めるために、連携して行っている諸活動（地域医療連携室）について学び、地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護福祉施設、等との連携やコーディネーションに関する理解を深める。

○　公衆衛生看護実習

公衆衛生看護実習は５単位とし、地域で展開されている公衆衛生看護活動への参加を通じて、地域の人々の健康と生活への理解を深める。具体的には、地域の保健福祉センターの機能と役割、地域企業や小中学校、および行政機関における健康問題の予防や健康指導の手法を学ぶとともに、地域の保健師としての意識や態度を養う。

（４）実習先の確保の状況

本学科における実習施設は、別添「公立小松大学看護学科臨地実習施設」【資料Ｘ－３】の通りである。実習先の選定に際し、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の第４条および別表３に定める内容を踏まえ、各実習で本学科が定める実習の目的を充足するための施設・設備があること、学生の実習施設への移動や教員の実習指導における移動についてできるだけ負担とならない距離にあること、地域医療の課題や実態を理解するために適していること、南加賀地域で働く看護師の養成を念頭において選定した。特に、実習施設までの距離については、本学科のメインキャンパスである末広キャンパスを中心として、加賀市から白山市の移動距離 25km の範囲内で確保し、実習にかかる学生や教員の負担軽減に努めることで教育効果の向上を図る【資料Ｘ－３】。

また、保健師選択者の公衆衛生看護実習を担う実習施設の確保において、移動距離に関すること以外は看護師の実習施設の選定と同様の方針で選定を行った。保健師助産師看護師学校養成所指定規則の第２条および別表１に定める内容を充足すべく、石川県の保健福祉センター、民間企業、市町村の健康福祉関連部署、そして小松市内の市立小中学校から承諾書を取り受け、施設の性質や年齢層など、幅広いフィールドでの保健指導に関する能力を、実践を通じて修得させることとした。【資料Ｘ－４】

（５）実習施設との契約

実習施設と本学の間で「臨地実習委託契約書」を取り交し、個人情報の取り扱い及び保護や実習施設における遵守事項、実習中の事故防止と事故発生時の対応、損害賠償な

どに関する内容について双方の合意を得る。

特に、実習中は、学生が患者の診療情報、本人及び家族に関する情報などを簡単に知り得る状況に置かれることとなる。そのため、実習の事前指導やオリエンテーション等を通じて、レポート作成における個人を特定できるデータの持ち出し禁止および実習記録の持ち帰り禁止など、患者の個人情報を使用する場合には細心の注意を払って取り扱うよう指導を行う。特に、昨今はスマートフォン等の普及により、SNS を使用したプライバシー侵害や個人情報漏えいが頻発している。実習施設内における個人を特定できる情報や画像等の取扱いを原則禁止するなど、SNS による情報漏えいを防ぐための注意喚起をオリエンテーションや実習要項を通じて学生への周知を徹底する。なお、これらの遵守事項について、実習に参加する学生全員に個人情報保護に関する宣誓書を提出させる。

臨地実習に取り組む以上、ケア対象に傷を負わせたり、学生自身が事故に巻き込まれたりする危険が付きまとう。事故を未然に防ぎ、また発生した事故の被害を最小限にとどめるためにも、学生への事前教育および施設において看護ケア実践のための基本知識と技術をしっかりと修得しておくことが大前提である。そのため、実習指導教員は自らが担当する実習グループの学生一人ひとりの能力の度合いを把握することに努め、不安が見受けられる場合は、個々の学生に対し学内の実習室において実習前指導を行い、能力の強化に努める。また、実習施設で発生しやすい事故や実習指導者や各教員がこれまで経験してきた事例とその防止策を示し、対象へ慎重かつ安全に看護実践を提供する心構えをもって実習に臨むよう具体的指導を行う。万が一、事故が発生してしまった場合は、実習指導教員が実習委員会に報告し、事故原因の分析と学生への実習指導法についての検討を行い、再発防止に努める。

これらの内容に加え、事前準備、実習中の行動、物品の管理から臨地実習の具体的な実施方法および指導体制、感染症の予防・対応に関する内容など、臨地実習における詳細をまとめた「看護学科臨地実習要項」を作成し、学生、患者、施設が安心できる安全な実習の実現に努める。

（６）実習先との連携体制

①実習前の連携体制

臨地実習での教育効果を高めるため、本学科の教育理念、実習の目標、実習概要【資料Ｘ－５】、成績評価、実習における実習指導教員と実習指導者のそれぞれの役割に関する内容を両者で共通認識をもって実習指導に取り組むことができる体制を整備する。また、実習指導教員は、実のある実習指導を行うためにも実習病棟や患者の特徴といった実習施設に関する内容の把握に努め、必要に応じて実習指導者と連携して研修会を開催する。

このように、実習指導教員と実習指導者の情報交換を密に行うことで、臨地実習に共

通認識をもって取り組むとともに、信頼関係を構築し、実習準備を進める。

②実習中の連携体制

実習指導教員は、実習の進捗状況や学生の実習目標の達成状況、取組姿勢、課題となっている項目について、実習施設への巡回指導や実習指導者と頻繁に連絡を取ることで状況把握に努め、必要に応じて指導調整や助言、連携して課題解決のための検討を行う。

③実習後の連携体制

実習後は、学生の実習目標の達成状況や実習記録、実習中の態度、レポート等に基づき連携して成績評価を行う。また、実習における指導方法、連携体制、問題点について協議し、次回の実習に向けて、その解決方法の考案や実習指導方法の工夫について検討し、次回以降の実習に反映させていく。

（７）実習の事前準備

①学生保険への加入

実習施設への移動中の事故、実習中における学生本人及び看護対象者といった実習に関わる者に関する傷害への保障、第三者が所有する器物の破損等の損害賠償等に備えるため、損害賠償保険、傷害保険への加入を、実習前に行うオリエンテーションの際に説明し、学生、実習指導教員ともに加入させる。

②感染予防対策

実習施設では、感染症を患う対象へのケア提供を行う機会が多くあるため、実習指導教員は実習前に参加する学生の抗体価の検査履歴、予防接種の履歴等を確認し、必要に応じて診察や検査を受けさせる。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎などの抗体価が低いとされた場合には、必要な措置を講じた後、実習に参加する。なお、実習施設から学生の抗体価や予防接種の有無等について、報告を求められた場合には情報提供を行うものとする。

（８）実習水準の確保の方策

①実習指導体制と方法

ア．少人数グループ制の採用

実習水準の確保のため、１つの実習グループあたり学生は５名から６名とし、１つの実習施設につき必ず専任教員１名を配置し、必要に応じて補助指導員として助手１名から２名を配置する。このことで、１グループの学生全員に教員の目が行き届くため、実習指導において各学生の得意、不得意な内容を容易に把握することが可能となり、ポイントをついた指導による看護ケア能力の確実な修得が可能となる。

イ．教員及び助手の配置、巡回指導計画

実習指導教員は、実習施設ごとに１名の専任教員を配置する。臨地実習は学習した知識、技術を統合し実践する場である。そのため、専任教員は職位に関係なく、全員で取り組む体制をとる。特に教授職にあるものは実習全体を俯瞰し、指導する体制をとる。また、１つの実習について複数施設で行う場合は、１施設あたり１名の専任教員および助手を配置し、学生の実習指導及び支援を行う。助手は実習施設における実習支援のほか、学内での事前指導や復習における学生の看護スキルの定着支援を行い、実習水準の確保に貢献していく。

医療事故やその他のインシデント発生時には、情報伝達経路を明確にする必要があることから、緊急連絡網を作成し、事故発生直後から直ちに対応できる体制を構築する。また、緊急時には、同じ看護学領域の専任教員または助手とも学生の実習達成度等の情報共有を密に行い、連携して対応できるような体制を構築する。なお、緊急連絡体制については、後述の「(10) 緊急連絡体制」にて説明する。

なお、助手については、看護師養成所での 4 年以上の実習指導歴を持ち、原則修士以上の学位取得者または現在大学院で学位取得中である者を採用し、将来的に本学の専任教員となることを目指して、各看護学領域の教授の指導のもと、教育研究力を高めていく。

巡回指導において、実習指導教員は１日に１回、必ず実習施設を巡回することとし、実習に取り組む学生に直接指導を行う体制を整備する。実習期間中は学内での講義、演習と臨地実習が重複しないよう配置したが、緊急の事態などにより、万が一、実習指導教員が実習指導にあたることが出来ない状況となった場合は、各実習施設を実習指導教員が確実に巡回できることを図表「看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について」【資料Ｘ－６】において示す。実習施設のほとんどが本学科の末広キャンパスから自家用車等で 40 分以内に移動できる立地にあるため、学生の実習指導に柔軟に対応することができる。なお、同時期に講義、演習を担当する専任教員は、キャンパスから近い実習施設を担当するよう配置する。

また、実習指導教員が各施設を訪れた際には、当該施設で実習している学生全員と直接顔を合わせ、その進捗を確認するとともに、施設の実習指導者に学生の取組状況、課題について情報交換を行うことで、実習の到達度を確認し、必要に応じて学生個別またはグループへの実習指導を行うことで、実習水準の確保に努めていく。

ウ．実習施設における指導者の配置計画

実習施設において、学生１グループあたり１名以上の実習指導者を配置する。実習指導者には、臨地実習指導者講習会を修了した者またはそれの準ずる能力を持つ者とし、本学科における実習目的、実施方法、評価方法を十分理解した者とする。そのため、各

施設には、豊富な経験を持つ者またはケア提供の現場における責任者を実習指導者として配置し、効果的な実習の実践に努めていく。なお、各施設における実習指導者の人数等については、「臨地実習施設における実習指導者配置計画」【資料Ｘ－７】を作成し、実習指導者の確保の状況を示す。

また、実習指導者は実習指導教員と学生の日々の実習状況や到達度についてメールや電話により情報共有を行い、特に到達度の低い学生への指導方法の検討に連携して取り組むなどにより、実習の目的に掲げる実習水準の確保を図っていく。

エ．実習委員会の設置

効果的な臨地実習の実現と実習指導教員の実習指導力の向上を目的として、学科長を委員長とする「実習指導委員会（仮称）」を設置する。委員は教授または准教授から選出し、本学科における各実習の計画、運営、実習指導体制、指導方法など、実習指導全般に関わる項目や実習施設との連携に関する項目を広く検討することで、実習水準の維持・向上に努める。なお、本委員会は月１回以上の開催とし、必要に応じて委員長が招集する。

オ．実習指導教員の指導力の育成

各看護学領域の教授が主体となって、実習の指導力向上をテーマとしたFD活動を定期的に開催する。特に、本学科の次世代を担う助教および助手には必ず参加させ、本学科の教育理念、３つのポリシー、実習の目的および目標について共通認識を持たせる。

また、実習の事前指導や必要に応じて開催する学内での看護技術の復習にも参加させ、学生への指導方法の改善を検討させることで実習水準の維持と向上に努める。

カ．事前、事後における指導計画

本学科の学生の初めての学外実習である「基礎看護実習Ⅰ」が開始する１ヶ月前に、臨地実習全体オリエンテーションを行う。このオリエンテーションでは、実習目標、実習全体の構造、実習における心得、緊急時の連絡方法、事故発生時の対応方法、実習場への交通手段などについて説明し、実習同意書を作成する。なお、緊急時の連絡方法、事故発生時の対応方法については、後述の「(10) 緊急連絡体制」にて説明する。

また、各看護学領域の実習が開始する１ヶ月前に、それぞれで臨地実習オリエンテーションを行う。このオリエンテーションでは、「公立小松大学看護学科臨地実習要項」を使用し、各実習の目的、目標、概要の説明（提出物・成績評価等）、注意事項、実習前に修得すべきルール、実習施設の情報等について十分な説明を行い、学生に臨地実習の具体的なイメージを抱かせる。また、学生のグループ分けを行い、各グループを担当する実習指導教員と学生によるミーティングを実施し、実習施設の構造やどのような患者が治療しているかなど、実習施設の特徴の説明を行う。

実習中は、実習指導教員と施設の実習指導者による情報交換を密に行い、各学生の実習到達度の確認と課題となる項目の発見に努め、看護ケアの的確な実践ができるよう連携して指導を行う。特に、実習教員は学生の実習中の悩みや苦手な内容などの把握に努め、学生が主体性を持って実習を最後までやり遂げることができるよう支援を行う。

実習終了後に、学生にレポートの提出や自己評価、実習記録を提出させる。また、各実習グループにおいて、それぞれの実習報告と自らの課題などの報告会を開催し、体験や情報の共有を行うことで、実習に対する意欲維持に努める。このほか、看護ケアスキルの復習および指導のために、学生からの要望があった場合には、講義がない時間に学内実習室や設備の開放を行うなど、学生の主体的活動を奨励・支援する。

（９）成績評価体制及び単位認定方法

各実習による成績評価は、学内授業と同様に、S（100 点～90 点以上)、A（90 点未満～80 点以上)、B（80 点未満～70 点以上)、C（70 点未満～60 点以上)、不可（59 点以下）の５つの分類により行う。評価方法は、各実習目標への到達度、態度、提出されたレポートなどの実習指導教員による評価と、実習記録の内容などの実習施設の実習指導者による評価を総合的に判断し、実習担当教員が決定する。なお、評価方法は実習前のオリエンテーションやシラバス等で学生に周知する。

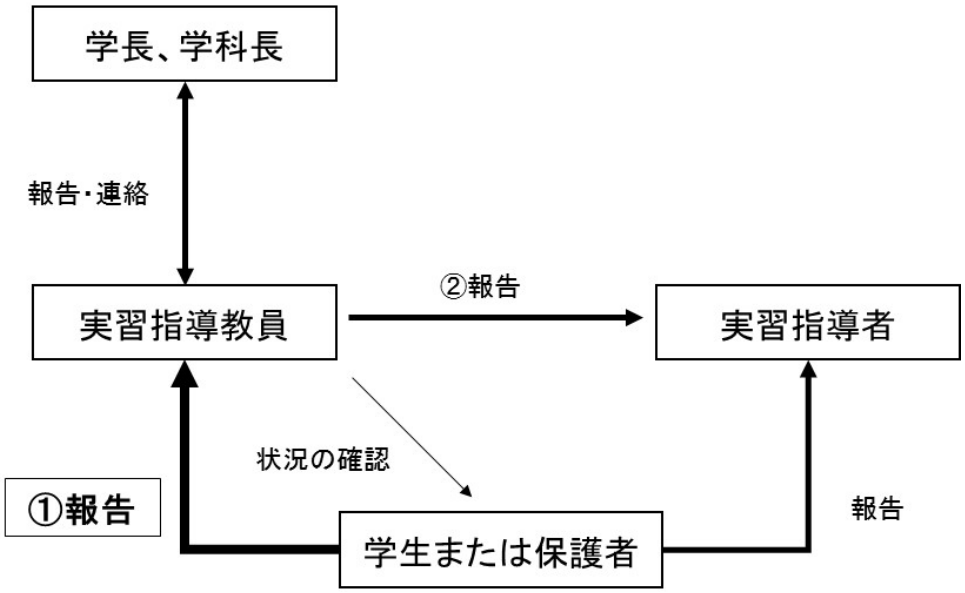
（10）緊急連絡体制

実習期間中において看護の対象者の身体に関する事故、学生本人に関する事故、物品の破損・紛失、その他緊急を要する事態が発生した場合、迅速な対応かつ誠意のある対応が求められる。

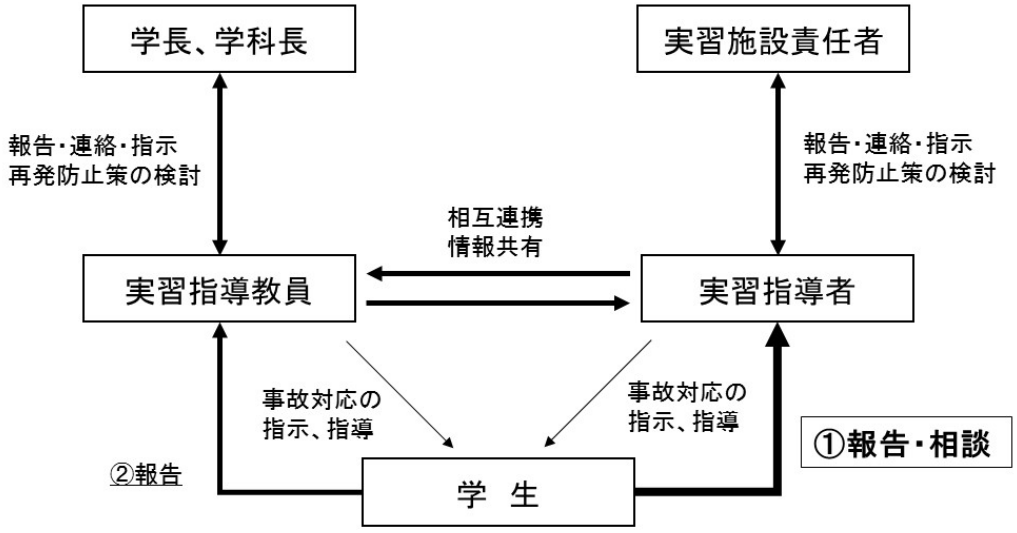
本学では、緊急連絡体制に関する内容を「公立小松大学看護学科臨地実習要項」に掲載するほか、オリエンテーションや各実習グループで十分な説明を行い、周知を徹底する。

実習施設における事故発生時の緊急連絡体制については次のとおりである。また、実習施設への移動中に学生が負傷した場合は、学生またはその保護者が実習指導教員に報告し、実習指導員が実習施設の実習担当者に状況の報告を行う。

※実習施設への移動中に学生が負傷した場合



【実習施設における事故発生時の緊急連絡体制】



２　臨床工学科の実習計画の概要

（１）実習の目的

本学科における臨床実習では、学生が初めて臨床の現場に行き、学内で習得した臨床工学技士に必要な基礎知識および技術を医療現場における実践や体験を通じて学ぶ機会である。また、医療人としての基本的な姿勢の自覚や臨床実習の重要性を認識させることで、将来、臨床工学技士として自らが医療提供をすることについて、改めて動機づけをさせていくものである。

（２）実習の目標

本学科が掲げる養成する人材像の実現に向けて、実習の目標は次のとおり定める。

○　臨床工学技士として基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解する。

○　患者との信頼関係の構築や他の医療職と協力、連携するためのコミュニケーション能力を修得する。

○　患者への対応について臨床現場で学び、医師、看護師をはじめとするチーム医療の一員として、臨床工学技士の役割と責任を理解する。

○　高度医療機器の保守・管理・活用を確実かつ安全に実践するための基礎知識および技術を修得する。

（３）実習の計画

実習における単位は 45 時間で１単位とする。実習の目標の達成に向けて、３年次終了までに臨床工学技士に必要となる知識や能力を修得し、４年次前期に１科目４単位として配置する。なお、本学科の講義、演習、実習の配置を「教育課程と指定規則との対比表」にて示す。【資料Ｘ－６】実習の時期は、他の授業と重ならないように８月から９月末までの中で、実習施設が受け入れ可能な４週間とする。なお、学生の実習施設や配置を記した実習計画表を作成する【資料Ｘ－７】。

○　臨床実習

臨床実習は４単位とし、生命維持管理装置や ME 機器の操作・保守・点検がどのように行なわれ機能しているかを、実際の臨床現場において体験することで、臨床工学技士として基礎的な実践能力を身につけ、医療における臨床工学の重要性を理解する。臨床実習を通じて、チーム医療の一員としての責任と役割を自覚し、他の職種との協調性を養い臨床工学技士の使命を自覚させる。

臨床実習における実習名と主な実習項目について

実習名	主な実習内容
人工心肺実習	人工心肺装置（構成と回路、冷却加温装置、心筋保護装置)、関連装置（患者監視モニタ、除細動器)、 人工心肺操作（準備・開始・捜査中・離脱時の注意、体外循環の維持、冷却と復温、即時検査（血液ガス、電解質、血液凝固時間など)、心筋保護法、事故防止および対策）
手術室実習	感染防止対策、手術室の環境、手術機器に関する安全管理、麻酔ガスの供給システム、薬品及び器具、接地線方式、その他（役割、機器管理、保守点検、記録など）
集中治療室実習	ICU の定義、感染防止対策、治療用ガスの供給システム、薬品管理、物品管理、患者安全保持の工夫、接地線方式、その他（役割、運営など）
血液浄化実習	血液浄化療法の適応、人工透析室の設備、血液浄化療法の安全管理、感染防止対策、緊急時の連絡網、その他（運営、役割など） 透析装置の操作（見学）
医療機器保守・点検・管理実習	（１）ME 機器室における保守点検管理業務 管理機器の種類と数、管理方法（貸し出し、返却方法)、必要な書類（貸し出し伝票)、管理記録、機器故障時の対応（応急処置や原因の調査)、安全点検や精度管理の実際、その他（新規購入機器の安全性、性能の評価など） （２）アンギオ室における保守点検管理業務 心臓カテーテル室の環境・運営の方法、臨床工学技士の役割と管理機器、心臓カテーテルについて、必要な器具・機材、心電図体表電極と装着法、モニタリングシステム、心電図の誘導方法と心電計、体外式ペースメーカーについて、インターベーション療法（PTCA、ステントなど)、補助循環（IABP、PCPS)、その他（各種モニタリングシステムなど）

（４）実習先の確保の状況

本学科における実習施設は、別添「公立小松大学臨床工学科臨床実習施設」【資料Ｘ－８】の通りである。実習施設は、臨床工学技士養成所指定規則第４条（別表第一）に準拠する内容を充足できる施設・設備があることを最初の条件とした。具体的には、人

工心肺業務、血液浄化業務、集中治療室及び手術室業務、医療機器保守・管理・点検業務の４つについて、その全部または一部を実施している医療施設とした。このほか、地域医療の課題と実態を理解するために適していること、北陸三県で働く臨床工学技士の養成を念頭に、地域の大学病院、中核病院を中心に 18 施設を選出した。【資料Ｘ－９】

なお、臨床実習は業務の種類において１つの病院ですべての業務を完結できない場合も多く、学生は複数の施設へ赴くことも出てくる。また、実習施設を北陸三県としたことで学生の実習施設の決定にあたっては、学生の出身地や自宅、現在の住まいから無理なく通うことができる施設となるよう配慮する。しかし、やむを得ず遠方の施設での実習となった場合は、当該施設に通いやすい場所にアパートを借りて、実習に取り組むこととする。

（５）実習施設との契約

実習施設と本学の間で「臨床実習委託契約書（仮称)」を取り交し、個人情報の取り扱い及び保護や実習施設における遵守事項、実習中の事故防止と事故発生時の対応、損害賠償などに関する内容について双方の合意を得る。

特に、実習中は、学生が患者の診療情報、本人及び家族に関する情報などを簡単に知り得る状況に置かれることとなる。そのため、実習の事前指導やオリエンテーション等を通じて、報告書やレポート作成における個人を特定できるデータの持ち出し禁止など、患者の個人情報を使用する場合には細心の注意を払って取り扱うよう指導を行う。特に、昨今はスマートフォン等の普及により、SNS を使用したプライバシー侵害や個人情報漏えいが頻発している。実習施設内における個人を特定できる情報や画像等の取扱いを原則禁止するなど、SNS による情報漏えいを防ぐための注意喚起をオリエンテーションや実習要項を通じて学生への周知を徹底する。なお、これらの遵守事項について、実習に参加する学生全員に個人情報保護に関する宣誓書を提出させる。

臨床実習に取り組む以上、患者に傷を負わせたり、学生自身が事故に巻き込まれたりする危険が付きまとう。事故を未然に防ぎ、また発生した事故の被害を最小限にとどめるためにも、学生への事前教育および施設において医療ケア提供のための基本知識と技術をしっかりと修得しておくことが大前提である。そのため、実習指導教員は学生一人ひとりの能力の度合いを把握することに努め、不安が見受けられる場合は、個々の学生に対し実習前指導を行い、技術の強化に努める。また、実習施設で発生しやすい事故や実習指導者や各教員がこれまで経験してきた事例とその防止策を示し、慎重かつ安全に配慮して臨床実習に臨むよう具体的指導を行う。万が一、事故が発生してしまった場合は、実習指導教員が実習委員会に報告し、事故原因の分析と学生への実習指導法についての検討を行い、再発防止に努める。

これらの内容に加え、事前準備、実習中の行動、物品の管理から臨床実習の具体的な実施方法および指導体制、感染症の予防・対応に関する内容など、臨床実習における詳

細をまとめた「公立小松大学臨床工学科臨床実習要項」を作成し、学生、患者、施設が安心できる安全な実習の実現に努める。

（６） 実習先との連携体制

①実習前の連携体制

臨床実習での教育効果を高めるため、本学科の教育理念、教育目標と実習の目標、実習概要、成績評価、実習における実習指導教員と実習指導者のそれぞれの役割に関する内容を両者で共通認識をもって実習指導に取り組むことができる体制を整備する。また、実習指導教員は実のある実習指導を行うために、実習指導者の実習の進め方や実習施設に関する情報の把握、信頼関係の構築に努める。

②実習中の連携体制

実習指導教員は、実習の進捗状況や学生の実習目標の達成状況、取組姿勢、課題となっている項目について、実習施設への巡回指導や実習指導者と頻繁に連絡を取ることで状況把握に努める。また、必要に応じて指導調整や助言、連携して課題解決のための検討を行う。

③実習後の連携体制

実習後は、学生の実習目標の達成状況や実習記録、実習中の態度、レポート等に基づき、実習施設と連携して成績評価を行う。また、実習における指導方法、連携体制、問題点について協議し、次回の実習に向けて、その解決方法の考案や実習指導方法の工夫について検討し、次回以降の実習に反映させていく。

（７）実習の事前準備

①学生保険への加入

実習施設への移動中の事故、実習中における学生本人及び医療者と被医療者といった実習に関わる者に関する傷害への保障、第三者が所有する器物の破損等の損害賠償等に備えるため、損害賠償保険、傷害保険へ加入する。これは、実習前に行うオリエンテーションの際に説明し、学生、実習指導教員ともに加入させる。

②感染予防対策

実習施設では、感染症を患う対象へのケア提供を行う機会が多くあるため、実習指導教員は実習前に参加する学生の抗体価の検査履歴、予防接種の履歴等を確認し、必要に応じて診察や検査を受けさせる。麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎などの抗体価が低いとされた場合には、必要な措置を講じた後、実習に参加させる。なお、実習施設から学生の抗体価や予防接種の有無等について、報告を求められた場合には情報提供を行う

ものとする。

（８）実習水準の確保の方策

①実習指導体制と方法

ア．少人数グループ制の採用

実習水準の確保のため、１つの実習施設につき学生２名または３名とし、必ず専任教員１名を配置することで、学生一人ひとりの得意、不得意分野などの把握に努めることで、的確な実習指導を実現する。

イ．教員の配置、巡回指導計画

臨床実習の実習指導教員には、１つの実習施設につき１名の専任教員を配置し、学生の実習指導及び支援を行う。緊急時には、専任教員は学生の実習達成度等の情報共有を密に行い、連携して対応できるような体制を構築する。

巡回指導において、実習指導教員は 1 週間に 1 回、必ず実習施設を巡回することとし、実習に取り組む学生に直接指導を行う体制を整備する。また、実習期間中は学内での講義、演習と臨床実習が重複しないよう配慮する。なお、実習施設が北陸三県に分散しており、なかには遠方の実習施設もあるが、本キャンパスが位置する小松市はＪＲ、高速道路など交通アクセスが充実しており、１時間３０分以内に各施設へ到着できる。

また、実習指導教員が各施設を訪れた際には、当該施設で実習している学生全員と直接顔を合わせ、その進捗を確認するとともに、施設の実習指導者に学生の取組状況、課題について情報交換を行う。また、実習の到達度を確認し、必要に応じて学生個別またはグループへの実習指導を行うことで、実習水準の確保に努めていく。

②実習施設における指導者の配置計画

実習施設において、学生１グループあたり１名以上の臨床実習指導者の配置を依頼する。実習指導者には、臨床実習指導者講習会を修了した者またはそれの準ずる能力を持つ者とし、本学科における実習目的、実施方法、評価方法を十分理解した者とする。そのため、各施設に対しては、豊富な経験を持つ者またはケア提供の現場における責任者の配置を要望していくことで、効果的な実習の実践に努めていく。

また、実習指導者は実習指導教員と学生の日々の実習状況や到達度についてメールや電話により情報共有を行い、特に到達度の低い学生への指導方法の検討に連携して取り組むなどにより、実習の目的に掲げる実習水準の確保を図っていく。

③実習委員会の設置

実習の目的や目標、そして本学科の教育目標に掲げる能力の養成のため、学科長を委員長とし、委員長と実習指導教員で構成される「実習指導委員会」（仮称）を設置する。

委員会では、本学科における各実習の計画、運営、実習指導体制および方法、といった実習指導全般に関わる項目や実習施設との連携に関する項目を広く検討し、実習水準の維持・向上に努める。なお、本委員会は実習期間中となる８月末から９月末の間に１回以上を開催し、必要に応じて委員長が招集する。

④実習指導教員の指導力の育成

各専門領域の教授が主体となって、実習の指導力向上をテーマとしたFD活動を定期的に開催し、実習指導教員を必ず参加させる。このほか、実習の事前指導や必要に応じて開催する学内での臨床工学技術の復習での学生指導を通じて、指導方法の課題や改善策を検討し、実習水準の維持と向上に努める。

（９）事前、事後における指導計画

本学科の学生の初めての学外実習である「臨床実習」が開始する１ヶ月前に、臨床実習オリエンテーションを行う。臨床実習オリエンテーションでは、「公立小松大学臨床工学科臨床実習要項（仮称)」を使用し、各実習の目的、目標、概要の説明（提出物・成績評価等)、注意事項、実習前に修得すべきルール、実習施設の情報等について十分な説明を行い、学生に臨床実習の具体的なイメージを抱かせる。また、学生のグループ分けを行い、各グループを担当する実習指導教員と学生によるミーティングを実施し、実習施設の構造やどのような患者が医療を受けているかなど、実習施設の特徴の説明を行う。

実習中は、実習指導教員と施設の実習指導者による情報交換を密に行い、各学生の実習到達度の確認と課題となる項目の発見に努める。特に、実習指導教員は学生の実習中の悩みや苦手な内容などの把握に努め、学生が主体性を持って実習を最後までやり遂げることができるよう支援を行う。

実習終了後に、学生にレポートの提出や自己評価、実習記録を提出させる。また、各実習グループにおいて、それぞれの実習報告と自らの課題などの報告会を開催し、体験や情報の共有を行うことで、実習に対する意欲維持に努める。このほか、復習および指導のために、学生からの要望があった場合には、講義がない時間に学内実習室や設備の開放を行うなど、学生の主体的活動を奨励・支援していく。

（10）成績評価体制及び単位認定方法

各実習による成績評価は、学内授業と同様に、S（100点～90点以上)、A（90点未満～80点以上)、B（80点未満～70点以上)、C（70点未満～60点以上)、D（60点未満）の５つの分類により行う。評価方法は、各実習目標への到達度、態度、提出されたレポートなどの実習指導教員による評価と、実習記録の内容などの実習施設の実習指導者による評価を総合的に判断し、実習担当教員が決定する。

実習指導者が行う評価については、本学科が作成する臨床実習生評価一覧表により、「基本的態度」「臨床実習態度」「意思・感情・思考の伝達能力」の３項目に加え、「人工心肺実習」「血液浄化実習」「集中治療室・手術室実習」「医療機器保守・点検・管理実習」のうち、実習指導を行った項目について、Ｓ（極めて優れている)、Ａ（優れている)、Ｂ（十分と認められる)、Ｃ（普通)、Ｄ（努力を要する）の５つの分類にて評価を行う。

これらの評価方法は、実習前のオリエンテーションやシラバス等で学生に周知する。

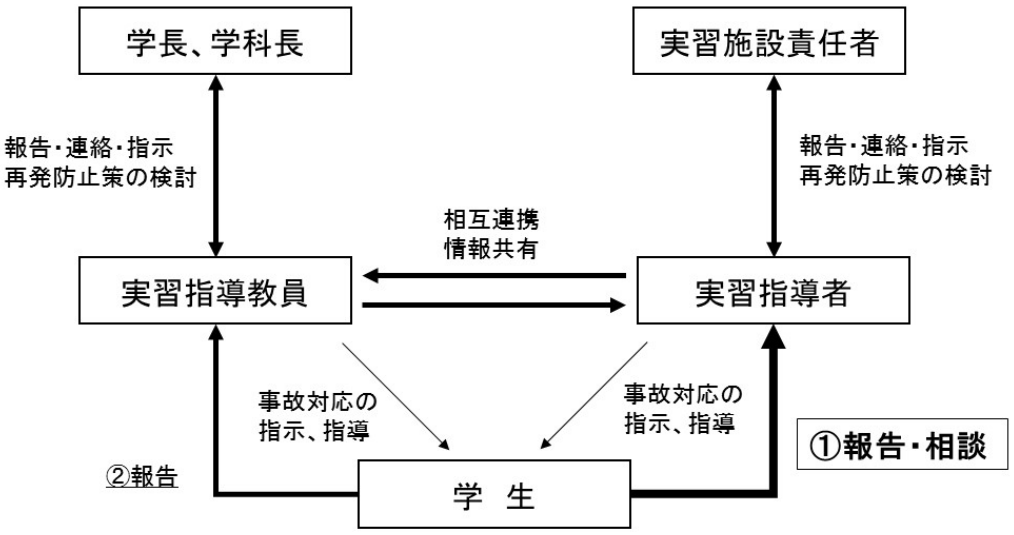
（11）　緊急連絡体制

実習期間中において医療施設での事故、学生本人に関する事故、物品の破損・紛失、その他緊急を要する事態が発生した場合、迅速な対応かつ誠意のある対応が求められる。

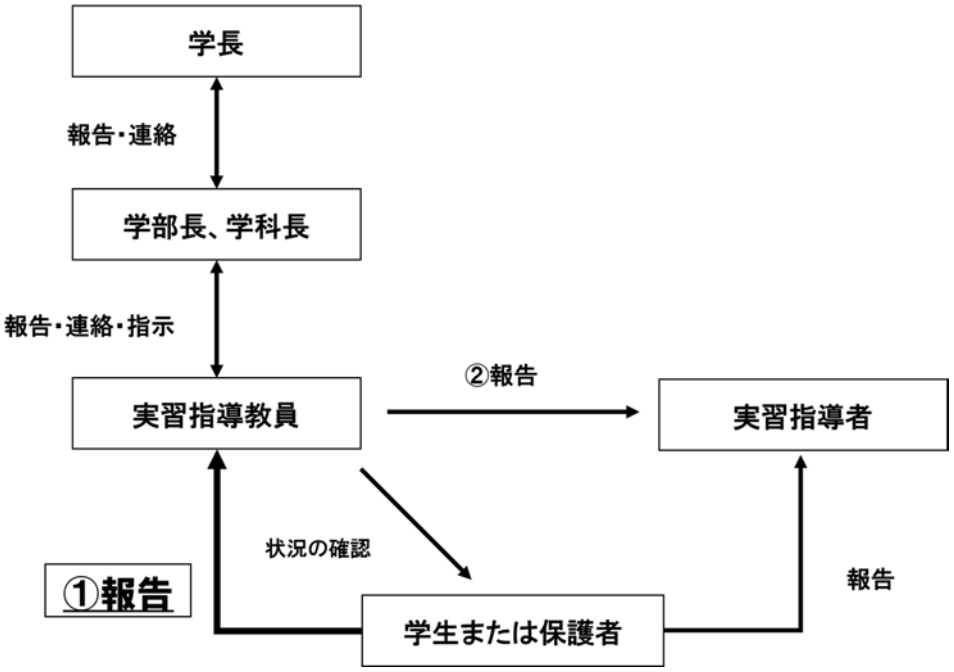
本学では、緊急連絡体制に関する内容を「公立小松大学臨床工学科臨床実習要項」に掲載するほか、オリエンテーションや各実習グループで十分な説明を行い、周知を徹底する。

実習施設における事故発生時の緊急連絡体制については次のとおりである。また、実習施設への移動中に学生が負傷した場合は、学生またはその保護者が実習指導教員に報告し、実習指導員が実習施設の実習担当者に状況の報告を行う。

【実習施設における事故発生時の緊急連絡体制】



※実習施設への移動中に学生が負傷した場合



XI　企業実習及び海外語学研修等の学外実習の具体的計画

１　学外技術体験実習（生産システム科学部生産システム科学科）

生産システム科学部生産システム科学科では、ものづくり技術の基幹である機械工学、電気・電子工学、情報工学の諸技術が生産現場でどのように活用されているかを学び、実践能力を高めることを目的として、実習期間を１週間とする「学外技術体験実習Ａ」及び実習期間を２週間とする「学外技術体験実習Ｂ」を開講し、学生はいずれかを履修する。これらのいずれを履修しても、本実習の目的を達成することができる。本授業は、夏期（７月下旬～９月中旬）及び春期（２月中旬～３月下旬）の休暇中に行うこととする。

科目名	選択 必修	単位	履修 年次	実習先
学外技術体験実習Ａ	必修 （Ａ又はＢのいずれかを履修）	１単位	３年	協力企業等またはインターンシップを公募している企業等（ただし、実施される内容が成績評価・単位認定にあたり適切と本学が認めたものに限る）
学外技術体験実習Ｂ		２単位	３年	

（１） 実習先の確保の状況

学外技術体験実習の実施にあたり、小松市を中心とした地域の企業に対し、実習の基本方針及び目標を理解していただいた上で、学生受入についての承諾を頂いており、開学以降も新たな企業との連携を推進することにより実習先の多様性を高めていく。受入人数は、全体で 80 人分を確保する【資料XI－１】。

また、現在、全国の多くの企業がインターンシップの公募を行っており（以下、「公募型インターンシップ」という。）、これらに学生自らが応募・参加する場合においても成績評価・単位認定を行うものとする。公募型インターンシップに学生が参加しやすい環境をつくるため、キャリア教育委員会が中心となり、インターンシップを公募している企業情報を掲示板等で学生に周知するほか、６月及び１０月の適当な時期に行う学内オリエンテーションにおいて注意点やインターネット等を活用したインターンシップ先の探し方、エントリーの方法などについても説明を行う。

（２） 実習先との連携体制

実習受入企業とは、予め実習の実施時期、人数及び内容について調整を行う。調整は、本学事務局の支援のもとに担当教員が主として行うこととし、企業の担当者との連絡体制を構築しておく。

実習先は、学生の希望及び適性等に応じて決定することとし、実施にあたっては、事前に学内オリエンテーションを行い、実習の目標を明確にするとともに、心構えや社会人としてのマナー、実習先で知り得た情報の取り扱いについても指導する。また、危機管理を徹底するため、学内オリエンテーションで、事故の事例紹介及び防止するための対策について説明を行うとともに、企業担当者とも事故防止及び事故発生時の対応について共通理解を図る。

公募型インターンシップへの参加に際しては、学生は事前に参加を希望するインターンシップの内容について担当教員と面談を行うこととし、実施期間や内容、安全確保等の情報をもとに実習先としての適不適の判断を行う。また、実習先が遠方となった場合には、担当教員が直ちに現地で対応することが困難となることも想定されることから、安全管理について６月及び１０月の適当な時期に行うオリエンテーションで十分に周知するとともに、必要に応じてインターンシップの内容及び安全管理、非常時の対応等を明記した協定を締結することとする。

実施にあたっては、次のとおり指導を行っていく。

時期	指導内容
４月	学外技術体験実習履修説明会 学生を対象とした説明会。実習を受け入れる事業所についての情報を学生に提供する。学生は、企業の概要を参考にして、希望する実習先を探し、定められた期日までに実習希望先を記載した用紙を担当教員に提出する。また、説明会では公募型インターンシップに参加する場合の流れ・手続きの概要説明を行い、希望者は担当教員と面談を行う。 担当教員は、学生が提出した実習希望先に基づき、実習先の調整・決定を行う。特定の実習先に希望が集中し受入人数を超える場合には、申込書の記載内容を参考に面談を行うことで、調整を行う。
６月 (10 月)	オリエンテーション・事前指導 実習の進め方全般について説明を行うとともに、実習の意義・目的について理解を深める。また、実習にあたっての心構えや社会人としてのマナー、実習先で知り得た情報の取り扱いについての指導を行う。また、危機管理（事故防止、緊急時の対応、連絡先等）について徹底して説明を行う。 さらに、公募型インターンシップに関し、注意点やインターネット等を活用したインターンシップ先の探し方、エントリーの方法などについても説明を行う。また、公募型については、実習内容についての詳細な情報が得られた段階で担当教員と面談を行い、実施時期や内容、安全確保等の情報を元に実習先としての適不適の判定を行う旨についても周知する。

時期	指導内容
７月 （１月）	実習先との事前打ち合わせ 　学生を受け入れる事業所等を訪問し、必要事項について打ち合わせを行う。ここでは、服装や持ち物など事前に知るべき情報を得るとともに、受入側にも学生のことが伝わることで、円滑な実習の実施に向けた環境が作られる。
７月～ ９月 （２～３月）	実習期間・期間中の指導 　学生は、実習期間の折り返しの時期に、実習の状況について担当教員にメール等で報告を行い、その内容に応じて担当教員は指導を行う。 　実習を終えた学生は、随時担当教員へ報告を行うとともにレポートを作成する。
10 月 （３月）	報告会・事後指導 　実習に参加した学生により、実習の中で何を感じ、各自が当初定めた目標に照らし何を得たのかを報告する場を設ける。担当教員は、資料作成について適宜指導を行うほか、報告内容についてもコメントを行う。

※（　）は後期に履修する場合

（３） 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、実習態度※、実習ノート、レポート作成、実習終了後に行う報告会での評価などを総合的に評価する。単位は、上記の各種資料を総合的に評価し認定する。なお、公募型インターンシップに参加する場合、定期的に Skype を使った面談や E メール等によって学生と連絡を取り合い、実習の状況について十分に確認することとする。

※実習先での評価、巡回指導での内容に基づき評価を実施する。

２　インターンシップ（国際文化交流学部国際文化交流学科）

国際文化交流学部国際文化交流学科では、学部での学修を実社会での経験に結びつけることにより学生の学習意欲を高め、知的好奇心を喚起するとともに自身の学修を深化させ、課題解決能力・実践力を身につけ、自己の適性や職業選択を考えることによりキャリアデザインの明確化にも繋げることを目的として、夏期（７月下旬～９月中旬）に実施する「インターンシップⅠ」及び春期（２月中旬～３月下旬）に実施する「インターンシップⅡ」を開講する。なお、夏期（７月下旬～９月中旬）に「インターンシップⅠ」の他に、別の事業所において２週間以上の就業体験実習を行った場合においては、２つ目のインターンシップは本授業科目として単位認定する。

これらの科目は、国際文化交流学部長を統括責任者として本学科の教授３名、准教授２名の計５名の専任教員が担当し、教職員によって組織される「キャリア形成支援委員会」および「キャリアサポートセンター」の専門職員と連携、協力して実施する。「地域連携推進センター」および、内容により、「国際交流センター」所属教職員も支援を行う。併せて当該科目は、国際文化交流学部のすべてのディプロマ・ポリシーを実現するうえでも枢要な科目であり、また、学生のキャリア形成にとって貴重な機会であるので、担当教員であるなしを問わず、学部を挙げて共同理解と問題意識共有、支援に努める。このため、ＦＤにおける主要検討対象に含め、両科目の問題点と成果を全教員が共有して改善に資する。

そのほか、当該科目の担当教員による指導負担の軽減や研究時間を確保するため、以下の通り方策を設け、支援していく。

〇担当教員に係る方策

当該科目は、夏期（７月下旬～９月下旬）または春期（２月中旬～３月下旬）の特定週に実施することで、学期中の研究時間の確保を容易にする。

〇学部における支援方策

担当教員以外の専任教員も実習を手伝うことができるようにする。また、担当教員は、当該科目とともに「学部共通科目」として指定している「異文化体験実習」や「海外語学研修」の引率・指導から原則免除する。

〇全学的な支援

当該科目に係る受け入れ先との交渉や連絡は、主として、教職員によって構成される「キャリア形成支援委員会」、専門職員を擁する「キャリア支援センター」が行い、内容によって、「地域連携推進センター」、「国際交流センター」も支援を行う。

科目名	選択 必修	単位 (時間)	履修 年次	実習先
インターンシップⅠ	選択	2単位	3年	大学が確保・指定した企業等またはインターンシップを公募している企業等（ただし、実施される内容が成績評価・単位認定にあたり適切と本学が認めたものに限る）
インターンシップⅡ	選択	2単位	3年	

（１） 実習先の確保の状況

「インターンシップⅠ」および「インターンシップⅡ」の実施にあたり、地域の企業に対し、実習の基本方針及び目標を理解していただいた上で、学生受入について承諾をいただいており、開学以降も新たな企業との連携を推進することにより実習先の多様性を高めていく。

また、公募型インターンシップに学生自らが応募・参加する場合においても成績評価・単位認定を行うものとし、学生が参加しやすい環境をつくるため、キャリア教育を担う委員会が中心となり、インターンシップを公募している企業情報を掲示板等で学生に周知するほか、4月に行う学内オリエンテーションにおいて注意点やインターネット等を活用したインターンシップ先の探し方、エントリーの方法などについても説明を行う。

（２） 実習先との連携体制

実習受入企業とは、予め実習の実施時期、人数及び内容について調整を行う。調整は、キャリア教育を担う委員会の支援のもとに担当教員が主として行うこととし、企業の担当者との連絡体制を構築しておく。

実習先は、学生の希望及び適性等に応じて決定することとし、実施にあたっては、６月及び１０月の適当な時期に学内オリエンテーションを行い、実習の目標を明確にするとともに、心構えや社会人としてのマナー、実習先で知り得た情報の取り扱いについても指導する。また、危機管理を徹底するため、学内オリエンテーションで、事故の事例紹介及び防止するための対策について説明を行うとともに、企業担当者とも事故防止及び事故発生時の対応について共通理解を図る。

公募型インターンシップへの参加に際しては、学生は事前に参加を希望するインターンシップの内容について担当教員と面談を行うこととし、実施期間や内容、安全確保等の情報をもとに実習先としての適不適の判断を行う。また、実習先が遠方となった場合には、担当教員が直ちに現地で対応することが困難となることも想定されることから、安全管理について事前オリエンテーションで十分に周知するとともに、必要に応じてインターンシップの内容及び安全管理、非常時の対応等を明記した協定を締結することとする。

インターンシップの実施にあたっては、次のとおり指導を行っていく。

時期	指導内容
４月	インターンシップ履修説明会 　履修を希望する学生を対象とした説明会。インターンシップを受け入れる事業所についての情報を学生に提供する。学生は、企業の概要を参考にして、希望する実習先を探す。また、公募型インターンシップに参加する場合の手続きについて説明を行い、希望者は担当教員と面談を行う。
５月 （９月）	インターンシップ希望調査 　学生は、実習の目標を明確にした上で、希望する実習先について記載した申込書を提出する。それをもとに、担当教員は、実習先の調整・決定を行う。特定の実習先に希望が集中し受入人数を超える場合には、申込書の記載内容を参考に面談を行うことで、調整を行う。公募型インターンシップに参加する者は、詳細な情報が得られた段階で担当教員と面談を行い、実施時期や内容、安全確保等の情報を元に実習先としての適不適の判定を行う。
６月 (10 月)	オリエンテーション・事前指導 　インターンシップに参加する学生を対象にオリエンテーションを行う。ここでは、インターンシップの進め方全般について説明を行うとともに、インターンシップを行う意義・目的について理解を深める。また、知り得た情報の取扱い、危機管理（事故防止、緊急時の対応、連絡先等）について徹底して説明を行う。さらに、社会人として求められるマナーについてロールプレイングによる指導を行う。
７月 （１月）	インターンシップ先との事前打ち合わせ 　学生がインターンシップを受け入れる事業所等を訪問し、必要事項について打ち合わせを行う。ここでは、服装や持ち物など事前に知るべき情報を得るとともに、受入側にも学生のことが伝わることで、円滑な実習の実施に向けた環境が作られる。
８月 ９月 （２～３月）	インターンシップ期間・期間中の指導 　実習期間の折り返しの時期には、学生は実習の状況等について担当教員にメール等で報告を行うほか、必要に応じて随時担当教員に相談を行い、指導教員は状況把握を行うとともに指導を行う。インターンシップを終えた学生は、担当教員へ報告を行うとともにレポートを作成する。

時期	指導内容
10 月 （３月）	インターンシップ報告会・事後指導 　インターンシップに参加した学生により、実習の中で何を感じ、何を得たのかを報告する場を設ける。プレゼンテーション形式で発表することとし、実習全体を振り返り、まとめ、発表する。担当教員は、資料作成について適宜指導を行うほか、プレゼンテーション内容についてもコメントを行う。

※（　）はインターンシップⅡの場合

（３） 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、実習態度※、実習ノート、レポート作成、実習終了後に行う報告会での評価などを総合的に評価する。単位は、上記の各種資料を総合的に評価し認定する。なお、公募型インターンシップに参加する場合、定期的に Skype を使った面談や E メール等によって学生と連絡を取り合い、実習の状況について十分に確認することとする。
※実習先での評価、巡回指導での内容に基づき評価を実施する。

３　異文化体験実習（国際文化交流学部国際文化交流学科）

国際文化交流学部国際文化交流学科では、海外の交流協定校等の協力の下に、異なる文化、歴史、社会の中に学生自身が身を置く中で体験的に生活様式や文化を理解し、また、現地の地域資源を活かした観光分野の取組に触れることによって異文化を実践的に学ぶことを目的として「異文化体験実習」を開講する。本授業は、２年または３年の夏季（８～９月）または春季（２～３月）の休暇中に集中的に（2 週間程度）実施する。

なお、本科目を履修する上で関連する科目と学修の過程は【資料XI－２】のとおりである。

（１）　実習先の確保の状況

実習先として、次の内容を予定している。また、建国科技大学（台湾彰化市）においても、異文化体験を行うためのプログラム構築に向けて準備を進めているほか、新たにウダヤナ大学(インドネシア共和国バリ州)との連携も進めている。本学の開学後には、新たな海外連携先の拡大推進により、さらなる実習の多様性を高めていく。

○ タイの文化・風習に関する理解

プリンスオブソンクラ大学 Faculty of Tourism & Hospitality（タイ王国プーケット県）において、現地の人々との交流や市内及び近郊の見学を行う中でタイの文化や風習について理解する。また、現地の学生との交流により、異文化共通理解を実践的に行っていく。

○ 世界遺産アンコールワット遺跡群での保全・管理実習

国立アンコール遺跡整備公団（カンボジア王国シェムリアップ州）の協力のもと、世界遺産アンコールワット遺跡群の保全・管理業務を体験する。実習では、現地専門職員の指導のもとに世界遺産を生きた教材として地域資源の保全と有効活用について実践的に学ぶ。また、現地の人々との交流を通じて文化や風習について理解するとともに、地域が抱える諸課題についても考える機会を設ける。

（２） 実習先との連携体制

実習先の諸団体は、本学の前身である小松短期大学の学生の受入実績を有するなど、双方に連絡を行う窓口が有り、緊密な連携体制は、本学に引き継がれる。

実習を実施する際には、予め実施の時期、人数及び内容について調整を行うこととし、調整は実習担当教員が行う。なお、実習参加者には、担当教員の主導のもと、健康で安全な実習を実施するため徹底した指導を行う。渡航の１～２か月前から実習前に事前研修と危機管理のオリエンテーションを定期的に開催し、各実習先に応じた安全管理、マナー、文化・歴史・風習について理解するとともに、実習の目的を明確にしていく。

また、実習には担当教員が引率し、定期的に学生の健康管理や学習状況を確認するとともに、渡航中、災害やトラブルに巻き込まれた場合の対応や大学関係者、保護者への連絡等の役割を担う。

実習後は、担当教員の指導のもと、実習報告のレポートを提出し、報告発表を行う。

（３） 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、事前研修および現地における活動の状況、実習先での評価、レポートの提出と事後指導における体験報告により行う。単位は、上記の各種資料を総合的に評価し認定する。

４ 海外語学研修（国際文化交流学部国際文化交流学科）

国際文化交流学部国際文化交流学科では、英語及び中国語の実践能力向上を目的として、「海外語学研修」を開講する。履修する学生は、これまで培ってきた語学力、コミュニケーション能力を土台として実践的な外国語運用能力を習得するとともに、異文化社会の中での生活を通して自己の課題を見つけ、今後のよりよい学習のあり方を考える機会とする。本授業は、２年または３年の夏季（８～９月）あるいは春季（２～３月）の休暇中に集中的に実施する。

なお、本科目の履修する上で想定される学習の過程は【資料Ⅺ－３】のとおりである。

（１）　研修先の確保の状況

研修期間は２～４週間とする。なお、本学の開学までには、英語圏の大学との具体的な研修プログラムを策定することを予定しており、さらに新たな海外の連携先の拡大推進し、研修の多様性を高めていく。

研修先	所在地	研修を行う言語
建国科技大学	台湾彰化市	中国語
【協議中】 オークランド大学 English language Academy	ニュージーランド王国 オークランド市	英語

（２）　研修先との連携体制

建国科技大学は、本学の前身である小松短期大学の学生の受入実績を有しており、双方に連絡を行う窓口が有り、緊密な連携体制は、本学に引き継がれる。また、オークランド大学 English Language Academy においても、双方における連絡窓口が確保されており、協力内容、プログラム内容などについて双方で確認し、開学後の協定締結に向け協議を行っている。

実施にあたっては、研修先と時期、人数及び内容について調整を行う。建国科技大学については、日本語が堪能な教員が在籍し、滞在中十分なサポートを受けることができる。オークランド大学 English Language Academy については、毎年 40 か国以上の国から留学生を受け入れている実績があり、十分な学習設備やサポート体制が備えられているうえ、学生一人ひとりにあわせた教育を受けることが可能である。

なお、研修参加者には渡航する１～２か月前から、研修前の事前指導を定期的に開催する。担当教員主導のもと、各研修先に応じて現地の文化・歴史・風習・マナーに関する知識を得るとともに自身の安全管理に関する事前研修と危機管理のオリエンテーションを行い、健康で安全に研修を実施するため指導を行う。また、研修には引率教員を同行させ、定期的に学生の健康管理や学習状況を確認するとともに、渡航中、災害やトラブルに巻き込まれた場合の学生へのフォローや大学関係者、保護者への連絡対応等に対処する。

研修後は、担当教員指導のもと、研修報告のレポートを提出し、研修に関する報告発表を行う。

（３）　成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、事前研修および現地における活動の状況、研修先での評価、レポートの

提出と事後指導における研修報告により行う。単位は、上記の各種資料を総合的に評価し認定する。また、本研修の履修にあたっては、英語または中国語の検定試験の受験を義務づける。

５　地域実習（国際文化交流学部国際文化交流学科）

国際文化交流学部国際文化交流学科では、地域が直面する問題と対処法を学ぶとともに、協力先のサポートを受けながら企画能力や情報発信能力を身につけることを目的として、「地域実習」を開講する。本授業は、これまでの学修成果を生かし、学生が地域に出て住民と触れ合い、地域がもつ諸課題に積極的、実践的に関わっていくことで、地域貢献への意識、姿勢を形成し、具体的な実地活動を通じて自分の言葉で伝えようとする姿勢や外国語運用能力、企画力、情報収集力、分析力、問題解決力などの定着を図る。期待される教育効果は、テーマについての情報やニーズを自ら調査し、分析、発見するための能力や課題解決能力、連携先となる団体や自治体の従業員・職員、市民、外国人住民等と協力して取り組むため、自らの考えを伝えるコミュニケーション能力に加え、相手の視点に立って物事を考え、円滑に進めるための協調性や思考力である。そのため、配当年次は、３年次または４年次とする。

国際文化交流学部長を統括責任教員とする本学科の教授５名、准教授２名の計７名の専任教員が担当し、国際観光・地域創生コース及びグローバルスタディーズコースからそれぞれ１名を副責任教員として選出する。副責任教員は、統括責任教員である国際文化交流学部長を補佐する。「インターンシップ」と同様に、教職員によって組織される「キャリア形成支援委員会」および「キャリアサポートセンター」 の専門職員と連携、協力して実施し、「地域連携推進センター」および、内容により、「国際交流センター」所属教職員も支援を行う。

また、当該科目は国際文化交流学部のすべてのディプロマ・ポリシーを実現するうえでも枢要な科目であり、また、学生のキャリア形成にとって貴重な機会であるので、担当教員であるなしを問わず、学部を挙げて共同理解と問題意識共有、支援に努める。このため、ＦＤにおける主要検討対象に含め、両科目の問題点と成果を全教員が共有して改善に資する。

そのほか、当該科目の担当教員による指導負担の軽減や研究時間を確保するため、以下の通り方策を設け、支援していく。

〇担当教員に係る方策

当該科目において、毎金曜５限目に開講する「恒常型」のほか、学生が取り組むテーマ・内容により、「集中型」を設け、夏期休業期間など特定の時期に集中して実施することも可能にする。また、「地域実習」は、内容により複数教員による共同開講も可とし、２名の教員で担当できることとする。

〇学部における支援方策

担当教員以外の専任教員も実習を手伝うことができるようにする。また、担当教員は、当該科目とともに「学部共通科目」として指定している「異文化体験実習」や「海外語学研修」の引率・指導から原則免除する。

○全学的な支援

当該科目に係る受け入れ先との交渉や連絡は、主として、教職員によって構成される「キャリア形成支援委員会」、専門職員を擁する「キャリア支援センター」が行い、内容によって、「地域連携推進センター」、「国際交流センター」も支援を行う。

○教育と研究の両立

取り組む内容により、教育効果に加え学術的な成果も期待できる場合、後者を自らの研究に活かすこともできる。ただし、学生や受け入れ先の寄与がある場合には、co-authorship に配慮していく。

科目名	選択必修	単位（時間）	履修年次	実習方法
地域実習	選択	2 単位	3・4年	設定されたテーマに基づいて、担当教員による指導の元に、学生は主体的に学んでいく。実施にあたっては、適宜、テーマと関係する企業・団体・自治体等の協力を受ける。

（１） 学外協力先の確保の状況

「地域実習」は、主に小松地域での観光・町おこしのための実習とすることから、テーマに応じて関連する行政機関、企業、団体等と連携を図ることが求められる。実習のテーマは毎年５項目程度を立案し、担当教員及び実習の協力先との調整により最終的に決定する。実施にあたり、地域における各種の機関・団体等から本授業科目への協力に関する承諾を得ており、また、開学以降も新たな地域課題やまちづくりの変化に合わせて、新たな協力・連携を推進することにより実習テーマの多様性を高めていく。

（２） 学外協力先との連携体制

学外協力先とは、予め実習の実施時期、人数及びテーマについて調整を行う。調整は、テーマを担当する担当教員が主として行うこととし、担当者との連絡体制を構築しておく。

決定されたテーマは、４月当初に開かれる地域実習ガイダンスにおいて学生に示され、履修を希望する学生は、この中からテーマを選択する。テーマごとに定員は設けないが、偏りが著しい場合には、学生との面談を踏まえて調整を行う。ガイダンスでは、実習の進め方について説明するとともに、テーマを担当する教員についても示す。この後の具

体的な指導は、テーマを担当する教員によって行っていくこととし、担当教員の指導の下に、学生がグループをつくって進めていく。

また、授業の導入時には、担当教員より、学外協力先となる団体等についての説明も行うとともに、学外の協力先の方々と活動を行う際や、街中でのアンケート調査を行う場合になどは、担当教員により社会人としてのマナーや情報の取扱い、事故防止等について十分な事前指導を行う。

地域実習の実施にあたっては、次のとおり指導を行っていく。

時期	指導内容
４月	地域実習ガイダンス・事前指導 履修を希望する学生を対象としたガイダンス。地域実習で取り上げるテーマを学生に示し、実習の進め方やテーマごとの大まかなスケジュール、テーマを担当する教員について説明を行う。説明を踏まえ、学生は希望するテーマを選択する。テーマごとに定員は設けないが、偏りが著しい場合には、学生との面談を踏まえて調整を行う。 授業（第１回）・事前指導 授業の導入として、担当教員の指導を受けながらテーマの具体化・明確化を行い、活動を実施し成果を得るまでの詳細な実習計画を学生自らが作成する。また、担当教員は、学外の実習の協力先となる団体等についての説明も行う。
４月以降	期間中の指導 テーマの内容に応じて適宜活動を行う。学生は、実習計画を踏まえて、主体的に具体的な活動内容、分析手法、グループ内での役割分担等について詳細な計画をつくり、担当教員は適宜指導を行っていく。 また、学外の協力先の方々と活動を行う際や、街中でのアンケート調査を行う場合になどは、担当教員により社会人としてのマナーや情報の取扱い、事故防止等について十分な事前指導を行う。 実習にあたり、担当教員は、活動の手法や情報の分析・まとめ方等について適宜指導を行い、学外での活動に当たっては教員が同行する。
	事後指導 学生からの報告をベースに実習全体を振り返り、ディスカッションによる成果の確認と反省を行う。学生のレポートをまとめて報告書を作成し、実習の成果物とする。

※テーマによって活動の時期は様々であるため、表中では「４月以降」と記載

（３） 成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、実習態度、実習ノート、報告書作成、実習終了後のディスカッションでの発表を総合的に評価する。単位は、上記の各種資料を総合的に評価し認定する。

Ⅻ　２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

１　それぞれの校地における専任教員の配置

公立小松大学のキャンパスは、「粟津キャンパス」「末広キャンパス」「中央キャンパス」の３キャンパスで構成される。「粟津キャンパス」を生産システム科学部のキャンパスとし、生産システム科学部の専任教員を配置する。「末広キャンパス」は保健医療学部のキャンパスとし、保健医療学部の専任教員を配置する。「中央キャンパス」は国際文化交流学部及び全学部の共通（教養）教育の場として、国際文化交流学部の専任教員を配置する。

２　教職員の移動等への配慮

共通（教養）教育を担当する生産システム科学部及び保健医療学部の教員は授業のため、中央キャンパスへの移動が必要となる。同一日にキャンパス間移動が発生しないように時間割を編成し、授業実施の上で支障がないように配慮する。やむを得ず同一日にキャンパス間移動がある場合も、連続しないよう時間割を編成し、負担が大きくならないよう配慮を行う。

キャンパス間移動には、公共交通機関を利用する。粟津キャンパスと中央キャンパス間は電車（ＪＲ）6.4km（４分）＋徒歩（15 分）の移動で約 20 分程度の所要時間となる。電車（ＪＲ）の運行状況は片道 24 本／日である。末広キャンパスと中央キャンパス間は 1.6km であり、徒歩のみで 20 分、路線バス利用（31 便（片道）／日）時は約 15 分程度の所要時間である。

３　学生への配慮

学生のキャンパス内移動が必要となるのは、共通教育時（１、２年次）に一部行う専門教育であるが、学生が１日の内に両キャンパスで授業科目がないよう時間割を編成し、科目を履修するうえで支障がないよう配慮する。

４　施設設備等の配慮

３キャンパスとも教員研究室、図書館、保健管理センター、学生相談室、事務室などを整備しており、学生に関する各種証明書の発行手続き等は、各キャンパスで行えるようにする。また、教学情報は大学ポータルサイトを開設して利便性を図る計画である。

XⅢ　管理運営

１　教育研究審議会

大学の教育研究に関する重要事項を審議する機関として、教育研究審議会を設置する。教育研究審議会は、学長、副学長を置くときは副学長、学部長、その他学長が指名する者で構成する。

教育研究審議会の審議事項は、次のとおりとする。

(1) 中期目標について市長に対して述べる意見に関する事項のうち、教育研究に関するもの
(2) 中期計画及び年度計画に関する事項のうち、教育研究に関するもの
(3) 法の規定により市長の認可又は承認を受けなければならない事項のうち、教育研究に関するもの
(4) 学則(法人の経営に関する部分を除く。)その他の教育研究に係る重要な規程の制定又は改廃に関する事項
(5) 教員の人事に関する事項
(6) 教育課程の編成に関する方針に係る事項
(7) 学生の円滑な修学等を支援するために必要な助言、指導その他の援助に関する事項
(8) 学生の入学、卒業又は課程の修了その他学生の在籍に関する方針及び学位の授与に関する方針に係る事項
(9) 教育研究の状況について自ら行う点検及び評価に関する事項
(10)その他、大学の教育研究に関する重要事項

２　教授会

教育研究に関する事項を審議するため、学部の専任の教授（ただし、必要に応じて、准教授その他の専任教員を加えることができる。）により構成する教授会を設置する。

教授会は、各学部を置くキャンパスにおいて原則として月１回開催するものとし、次に掲げる事項を審議し、学長が決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び卒業に関する事項
(2) 学位の授与に関する事項
(3) 学部の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する事項
(4) 教育課程の編成に関する事項
(5) 学生の表彰及び賞罰に関する事項
(6) 学生の更生補導に関する事項

(7) 学部長候補者の推薦に関する事項
(8) 教員の人事及び選考に関する事項
(9) その他、学長及び学部長が意見を求める教育及び研究に関する事項

３　委員会

大学の運営に関する専門的事項を審議するため、入学試験、教務、学生支援、自己点検・評価、図書館運営の各業務について、委員会を設置する予定である。

各委員会は、専任教員と事務局職員から選出された委員により構成し、月１回程度の開催を予定している。

ⅩⅣ　自己点検・評価

１　実施体制

教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う「自己点検・評価委員会」を設置する。委員会は、専任教員及び専任職員で構成する。

委員会は、政令で定められた期間ごとに受ける認証評価機関による認証評価に係る業務や独立行政法人法に基づく法人の中期計画及び年度計画に関する点検・評価に係る業務も担当する。

２　実施方法

委員会で自己点検・評価の基本方針を策定し、評価項目を決定、学部等ごとに自己点検・評価を実施する。委員会は、評価の実施管理及び調整を行い、評価結果を取りまとめて、報告及び公表する。

３　評価項目

大学としての適切な水準を維持し、その向上を図るための指針として、評価項目を設ける。

具体的には、目的や教育研究組織、教員組織、学生の受入、学生支援、教育内容・方法・成果、管理運営・財務など、認証評価機関の定める項目に準じて設定する。

４　結果の活用・公表

評価結果は自己点検・評価報告書にまとめ、学生、教員及び職員に周知するとともに、大学ホームページ等を通じ市民等に公表する。

また、学長、学部長、教員及び職員等は、評価結果を基に課題を明確にして改善に取り組み、ＰＤＣＡサイクルを円滑に機能させる。

XV　情報の公表

本学は公立大学であることから、市民や地域社会に対し、教育研究活動等の状況についての説明責任を有しており、情報を積極的に公表していくことで、教育の向上と質の保証につなげる。

教育研究活動等の公表については、大学のホームページ内に教育研究活動等の状況についての情報に関するページを設けて掲載するほか、大学案内等の刊行物により行うものとする。

地域の高等学校や進学希望者には、高校訪問やオープンキャンパス、大学説明会を通して、教育研究活動についての情報を提供する。

教員の研究活動に関する情報は、「紀要」を作成して公表するほか、講演会や公開講座等の開催により広く市民や地域社会へ伝えていく。

なお、公表する項目は、次のとおりとする。

（１）大学の教育研究上の目的に関すること
　大学及び学部の目的・理念

（２）教育研究上の基本組織に関すること
　学部・学科・課程等の名称
　組織図等

（３）教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
　教員組織（職位・年齢構成等）
　教員の学位・研究業績・専門性及び教育内容

（４）入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること
　入学者受入方針（アドミッションポリシー）
　入学者選考試験状況（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数等）
　収容定員及び在学者数
　進路の状況（進学者数、就職者数、主な就職分野等）

（５）授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
　教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）
　シラバス

履修モデル
年間授業計画

（６）学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
学修成果の評価基準
必修科目、選択科目、必要単位数など
卒業認定基準（ディプロマ・ポリシー）

（７）校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
キャンパス概要
施設、設備、学習環境、交通手段等

（８）授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
授業料、入学金、諸会費等
学生寮に関する費用

（９）大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
奨学金
キャリアサポートセンター・保健管理センターによる支援体制

(10) その他
教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報
学則等各種規程
設置認可申請書、設置計画履行状況等報告書
自己点検・評価報告書、認証評価の結果

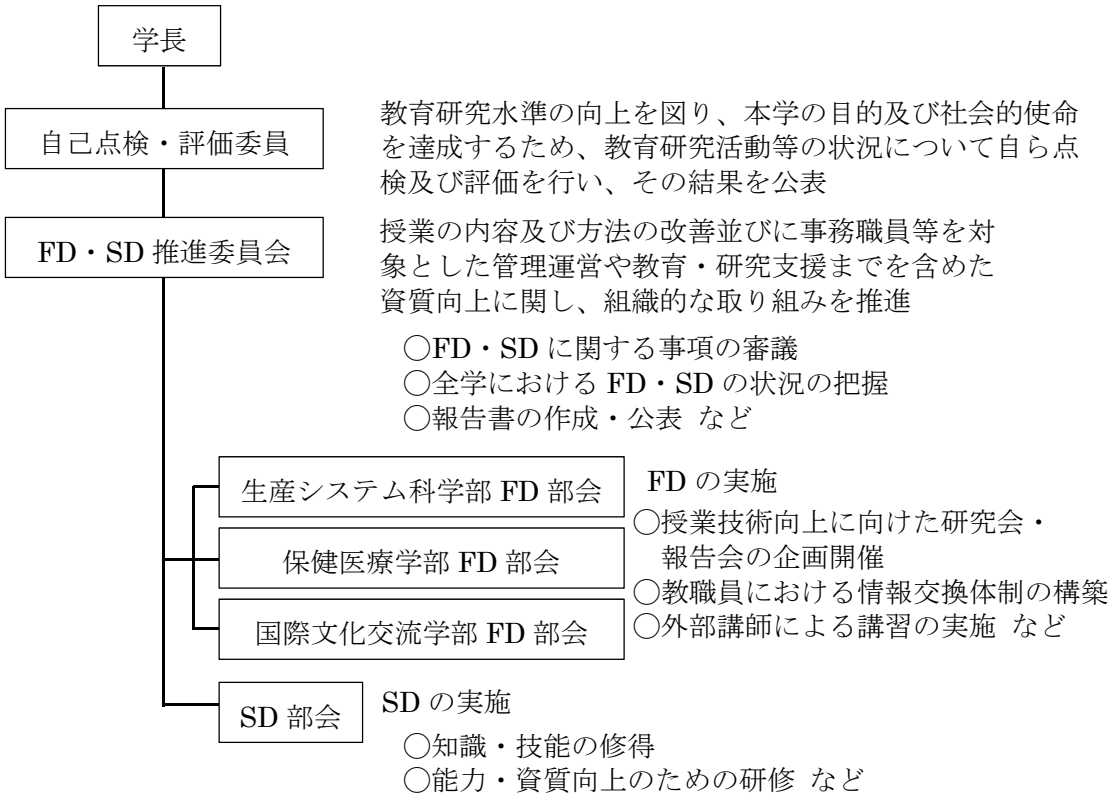
XVI　教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

１　基本的な考え方、方針

本学の教育目標である質の高い人材の養成を実現するためには、学生の学習意欲を高め、教育効果の高い授業を行う必要がある。本学では、教育の質の向上のため、教育職員と事務職員が連携・協働し、授業方法等の改善のみならず、学修支援にも取り組んでいく。それを確実に実行するためにも FD・SD を推進していく。また、入学から卒業までを通じた組織的な学生支援を行うため、学内の各機関が連携・協働して取り組みを実施していく。さらに、教員の研究力を向上させていくため、本学として支援体制を形成する。

２　実施体制

教育研究活動の適切かつ効果的な運営を図るため、学内に「FD・SD 推進委員会」を設置する。本委員会は、授業の内容及び方法の改善並びに事務職員等を対象とした管理運営や教育・研究支援までを含めた資質向上に関し、組織的な取り組みを推進することを目的として、本学学則第２条に基づき設置する「自己点検・評価委員会」の下に設置する。委員会は、学部、事務局を代表する教員及び職員等から構成し、FD・SD に関する事項の審議を行う。また、委員会は全学における FD・SD の状況を把握し、毎年度報告書を作成して公表する。

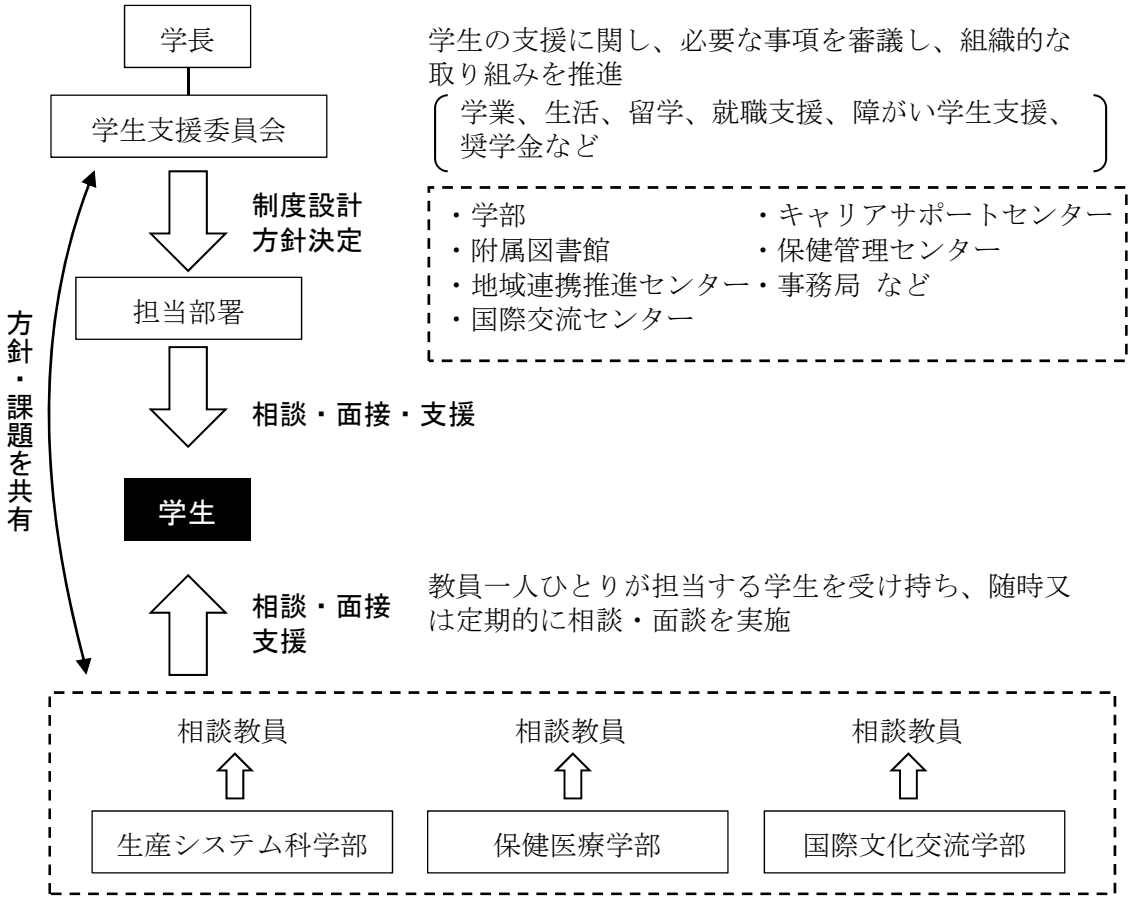


教育内容との改善を図るための組織体制

授業の内容及び方法の改善に向けた FD の取組を学部ごとに組織的に実施するため、各学部に「FD 部会」を置く。FD 部会では、FD・SD 推進委員会の方針に沿って、学部長の指揮の下に FD に関する計画の策定、活動の実施及び FD・SD 推進委員会への取組状況の報告を行う。また、適宜他学部と連携した活動も実施する。

SD は、事務職員の知識・技能の修得及び能力・資質の向上を目的として、FD・SD 推進委員会の方針に沿って全事務職員を対象に実施する。組織的に実施するため、FD・SD 推進委員会の下に「SD 部会」を設置し、事務局長の指揮の下に、計画の策定、活動の実施及び FD・SD 推進委員会への取組状況の報告を行う。

また、学生支援を推進するため、本学に、学部及び国際交流センター、保健管理センター、キャリアサポートセンター等（公立小松大学学則第４条に規定する附属施設）を代表する教員並びに事務局職員からなる全学委員会としての「学生支援委員会」を設置する。本委員会では、学生の学業・生活・留学・就職支援、障がい学生支援、奨学金等に関する取組に関する制度設計及び審議を行う。決定された事項は、関係する部署を通じ、学生支援として実施される。学生支援の窓口は、事務局学生課、キャリアサポートセンター、保健管理センター、学生支援室、障がい学生支援室などが相談内容に応じて担う。さらに、学部・学科においては、教員が「相談教員」として担当する学生を受け持ち、勉学から大学生活一般までの幅広い内容について、随時、学生が気軽に相談できる環境を構築する。また、定期的に学生と面談を行う仕組みを設けることにより、学生一人ひとりに対応したきめ細かな支援を行っていく。面談等により課題等が発見された場合は、学部、委員会及び事務局と情報を共有し、組織的に解決にあたる。



学生支援の体制

3　取組内容

（1）研修会、報告会の開催

① FD

FD 推進委員会、部会単位で授業技術向上の研究会、報告会を開催する等、教育職員同士の情報交換を行うほか、学生カウンセリングの研修など、外部の専門家を招いて講習会、研修会を開催し授業技術の向上を図る。

② SD

学生募集、入試などの大学の入口、教育・学修支援、学生生活の充実、資格取得やキャリア形成支援などの出口に至るまでの学生育成業務、大学運営業務などの業務に事務職員が積極的に関与できるよう事務職員のスキルアップを図るため、体系的な研修を行う。

（２）カリキュラム評価

大学設置時のカリキュラムを実施し、そのカリキュラムで学んだ学生は、到達目標のディプロマ・ポリシーに掲げた能力が身についたか、学修の順序、教授内容の難易度が適切であったか等のカリキュラム評価を行う。カリキュラム評価は完成年度まで実施し、改善に繋げる。

（３）教育職員・事務職員協働による学生支援

本学では、学生支援委員会や各担当部署、各学部による多層的な学生支援体制をつくる。学生の多欠席や科目未履修にも目を向け、学生の履修状況等を把握できる事務職員と担当教育職員が協働して、学生への声掛けなどのサポートも行っていく。またキャリア支援についても、指導担当教育職員だけでなく学生課、総務課、キャリアサポートセンターを中心に事務職員が積極的に学生支援に関わっていく。

（４）教員の研究力向上に向けた取り組み

本学では、まず、教員の自由な発想に基づく自立的研究を保証し、奨励する。そのために必要な研究環境の整備を行い、基盤的研究費を全教員に配分する。そのうえで、学内外の共同研究を推進すると同時に積極的に産学官連携研究を促進する仕組みを整える。さらに、特に優れた研究業績を上げた研究者・グループを重点的に支援する。また、若手教員の研究活動の啓発にも積極的に取り組んで行くと共に、全教員に科学研究費補助金への申請を義務付ける予定である。

また、本学においては、外部資金獲得のための情報提供及び資料作成など事務職員による研究力向上のための支援体制も整備することとし、ＳＤで職員のＵＲＡ的能力の向上を図っていく。

産学官連携を推進するための機関として地域連携推進センターを設置し、同センターの支援・コーディネートの下に地域の企業、医療機関、諸団体等との連携を計りながら様々な課題・テーマに対し協働で取り組んでいく。

さらに、シンポジウム等の開催支援を行い、研究発表の機会を創出するとともに、研究に対するモチベーションを高める。また、研究費の重点配分の実施とその配分方針の明確化を行うことによって、大学として重要な研究の方向性を示し、全ての教員が指針を揃えて研究を進めるようにする。

（５）研究倫理に関する取り組み

本学で取り扱う学術領域は、自然科学系から社会科学系、人文科学系等まで多岐に渡る。これら科学研究は、人類が未知の領域に挑戦して新たな知識を生み出す行為であり、それは社会からの信頼と付託の上で成り立っており、その信頼を裏切るような行為は、

本学のみならず、科学研究にかかるすべての者の信用を揺るがす行為である。特に科学研究が細分化し専門性が増すとともに、研究結果が多くの人々に開示される現在では、社会に大きな影響を与えるものと考えられる。よって本学で研究を行う全ての者は、我が国の法令、指針、ガイドライン、本学の諸規程、国際的に認められた規範、規約、指針、宣言等を遵守し、社会からの信頼を損なわないように、常に倫理的な判断と行動をとらなければならない。

本学では、倫理的配慮・妥当性について審査を要する研究として、次のものを位置付ける。

○　臨床研究
○　人を対象とする研究（臨床研究を除く）
○　動物実験

これらの研究においては、研究倫理に求められる事項がそれぞれ異なることから、個々に「研究倫理指針」を定める。

また、大学においては、学生による卒業研究・卒業論文の作成の際の調査研究活動、各種実習科目など、教員が行う研究以外においても倫理的配慮・妥当性について配慮が求められるものがある。本学では、これらを審査を要する研究と見なし、学生においても教員等に準じて倫理的行動・態度を求めるものとする。これら学生の教育活動中における研究倫理については、授業科目を担当する教員が指導する役割を担うものとし、活動の実施にあたっては、計画段階から研究倫理についての指導を行い、調査中・事後においても十分に指導を行うものとする。また、学生が行う研究・調査活動が倫理的配慮・妥当性について審査を要する研究に該当する場合、当該授業科目を担当する教員は、自己が行う研究と同様に研究倫理の審査申請を行わなければならない。

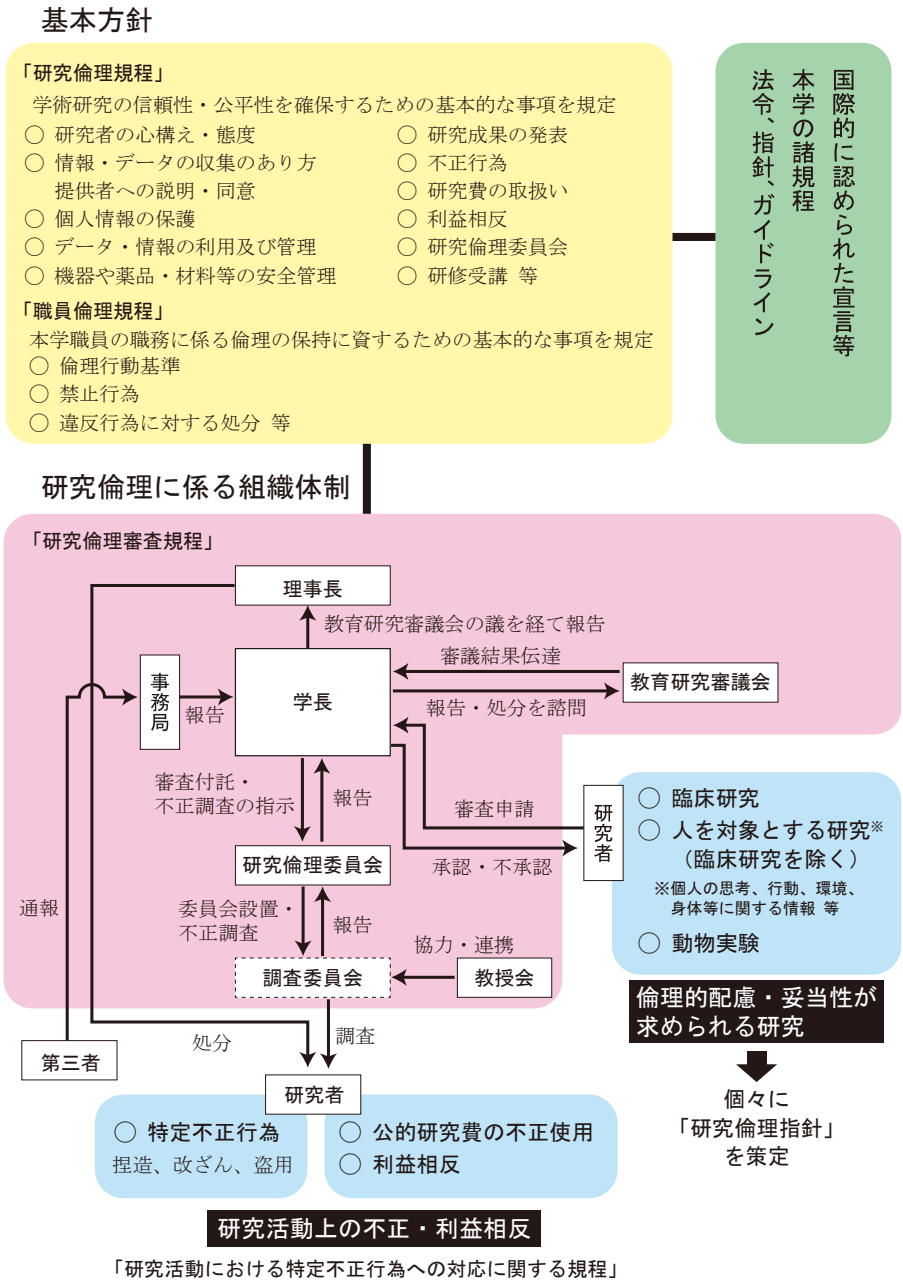
さらに、捏造、改ざん、盗用、公的研究費の不正使用といった研究活動上の不正行為や利益相反の抑止を、学問領域を問わず推進していく。関係する規程により、学術研究の信頼性・公平性を確保するための基本的な事項及び審査体制、不正等への対応について定めるとともに、研究に携わる全教員・学生を対象に研究活動上の不正行為とその防止に関する研修会を定期開催していく。

本学における研究倫理審査体制は、倫理的配慮・妥当性が求められる研究を行う者が学長に事前に申請を行うことで実施される。審査は研究倫理委員会に付託され、委員会による審査結果を基に学長は承認・不承認を決定する。

研究倫理の審査は、当該研究計画が我が国の法令、指針、ガイドライン、本学の諸規程、指針、国際的に認められた宣言、法、条約等を参考に審議を行う。また、研究倫理委員会は、全学を対象とした研究倫理の確保に向けた研修等を実施するほか、予め留意点を全学に示すことで、研究を行う者が自ら基本的事項についてチェックを行い、自発

的に研究倫理を確保できる体制を整えるなど、研究倫理の確保に向けた取組を推進していく。

また、研究活動上の不正行為への対応にあたっては、事案の発生に応じて学長は研究倫理委員会に調査委員会の設置を指示し、調査委員会は学部の教授会と協力・連携を行い、問題の解決を図っていく。調査の結果の報告は、研究倫理委員会を経て学長に伝えられ、学長は、調査結果及び処分の内容について教育研究審議会の議を経て理事長に報告を行う。



研究倫理に関する体制

XⅦ　社会的・職業的自立に関する指導等および体制

１　基本的な考え方、方針

本学では、学生一人ひとりが「職業選択を含め、自分の人生を自分の責任で織り上げていく」「正解のない問題に挑戦し自分なりの答えをみつける」「困難にあたっても乗り越えられる気概と知恵をもつ」といった力を身に付け、職業選択を含め、将来自分が「どう在りたいか」を考え、それに向かって行動できることを目指したキャリア教育を行う。

卒業後就職し数年以内に離職する若者の多くが離職理由としてあげる「思っていた仕事と違っていた」「仕事・就職先が自分に向いていない」ことの要因は、受け身での安易な進路決定によるものではないか。自分の力で考え決定した進路を目指して就職すれば、結果として、就職定着率が上がることを期待する。

２　教育課程内の取組

１年次の必修科目である「キャリアデザイン・チーム論」をキャリア教育の導入科目として配置する。

この「キャリアデザイン・チーム論」では、新入生が４年間の大学における勉学を卒業後の進路と結びつけながらキャリアデザインし、組織や社会集団の一員として自己実現しながらそれらに貢献していくための知識とノウハウを教授する。職業意識の確立と学習の動機つけを深めるとともに、自己理解に立って主体的にキャリアデザインする能力（セルフマネジメント）や生涯学習に役立てられる能力を養う。学部別で開講し、地元小松地域で活躍する社会人講師を招く講演を含む全８回講義とする。

（１）各学部における教育課程内の取組

○　生産システム科学部

生産システム科学部においては、地域企業や行政の協力のもと、実際の生産現場で学ぶ授業を各科目に取り入れており、それらを「企業キャンパス」と総称し実施する。企業キャンパスでは、「学外技術体験実習 A，B」や各講義科目の一部（１～２回）を企業の生産現場で企業の技術者を交えて授業を行う。このような授業を通して職場・業務内容を深く理解させることで、学生と企業のマッチングを図ることができ、就職後の定着率を高めることにもつながる。

○　保健医療学部

看護師、保健師、臨床工学技士を養成する保健医療学部においては、各専門科目をはじめ、資格取得の可能な教育課程とすることはもちろんのこと、各臨地実習による保健・医療・福祉関連の現場での実践や見学、地域医療およびチーム医療関連科目により、地域社会での専門職業人の在り方を体験し、自己の職業適性や将来設計について考える機会とする。

○　国際文化交流学部

国際文化交流学部においては、１年入学時より全学生に“相談教員”を配置し（教員

１名当たり学生４～５名)、個々の学生のキャリア形成を考慮しながら学生生活のサポートを行う。２年次から開講される「異文化体験実習」や「海外語学研修」では、異文化との接触とそこに住む人々との交流を通じて、人間力強化を図るとともに、キャリアデザインを考える機会とする。３年次に開講される「地域実習」では、地域企業、地元商店、NPO などとの協同により、実際に社会で求められる能力・資質を明確にし、それに基づいた目標を学生一人ひとりが意識できるようにする。３年次後期以降は学生が選択したコースにおいて、演習や課題研究といった少人数教育に移行するため、各指導教員の助言を受けながら、各自のキャリアデザインに従って就職活動に備える。

いずれの学部学科においても、全教員に対し FD 研修等を通じて、キャリア教育に関する統一シラバス・統一評価基準を徹底させ、キャリア支援に効果的な授業になるよう工夫を行うようにする。

３　教育課程外の取組

キャリア形成支援委員会が取組について協議決定し、キャリアサポートセンターが実施する。基本的には、キャリアサポートセンターに所属するキャリアコンサルタント等の専門職員が学生へのアドバイスを個別的に行う。

１～２年次 : ロールモデルを見つけることはキャリア形成に有効であるため、魅力的な大人（社会人）との出会いをつくる。地域で活躍する社会人による講演会などを定期的に開催し、起業家や女性リーダー、国家総合職（公務員）などを招く。

３～４年次 : 具体的な就職活動期に入るため、業界・企業研究や自己分析、進路相談、面接対策など個別対応が中心となるが、集団面接練習会や　就職セミナー、合同企業説明会も定期的に開催し、学生の積極的な参加を促す。

４　適切な体制の整備

すべてのキャリア関連業務については、キャリア形成支援委員会で協議し、決定事項をキャリアサポートセンターが実施する。キャリア形成支援委員長はキャリアサポートセンター長を兼任し、同センターには、キャリアコンサルティングの実務経験者やキャリア関連資格を有する職員を１名以上配置し、事務局は学生課とする。

学生の相談内容、状況等に応じ、保健管理センター、学生支援室、障がい学生支援室などと互いに連携をとり、適切な支援を行っていく。特に、障がいを持つ学生は年々増加（発達障害、病弱・虚弱、精神障害の学生は近年急増）しており、そのような学生に対しては、ハローワークや関連機関等とも連携をとりながら支援を行っていく。

設置の趣旨等を記載した書類

資　料　目　次

資料Ｉ－１　小松短期大学　開学までの経緯及び沿革
　　こまつ看護学校　開校までの経緯及び沿革
資料Ｉ－２　公立４年制大学を創る会からの要望書（写）
資料Ｉ－３　県内高校生の進学先・県内大学生及び県内出身の県外大学生の就職先
資料Ｉ－４　若者の進学・就職に関する意識動向調査アンケート調査結果（抜粋）
資料Ｉ－５　石川県内の高等教育機関の立地状況
資料Ｉ－６　南加賀地域における進学時の転出超過傾向について
資料Ｉ－７　こまつ創生総合戦略
資料Ｉ－８　石川県及び小松市の産業構造
資料Ｉ－９　第七次看護職員需給見通しについて
資料Ｉ－10　石川県内の看護師養成所の状況
資料Ｉ－11　石川県内の医療圏別看護職員数
資料Ｉ－12　都道府県別臨床工学技士従事者数
資料Ｉ－13　市町別外国人住民数
資料Ｉ－14　小松空港の状況
資料Ｉ－15　県内企業の海外展開の状況
資料Ⅳ－１　生産システム科学部生産システム科学科カリキュラムマップ
資料Ⅳ－２　保健医療学部看護学科カリキュラムマップ
資料Ⅳ－３　保健医療学部臨床工学科カリキュラムマップ
資料Ⅳ－４　国際文化交流学部国際文化交流学科カリキュラムマップ
資料Ⅴ－１　公立大学法人公立小松大学就業規則（抄）（案）
資料Ⅵ－１　生産機械コース履修モデル
資料Ⅵ－２　知能機械コース履修モデル
資料Ⅵ－３　看護師履修モデル
資料Ⅵ－４　看護師・保健師履修モデル
資料Ⅵ－５　臨床工学科履修モデル
資料Ⅵ－６　国際観光・地域創生コース履修モデル
資料Ⅵ－７　グローバルスタディーズコース履修モデル
　　※国際社会、政治、経済の仕組みについて幅広く学びたい学生のための履修モデル
資料Ⅵ－８　グローバルスタディーズコース履修モデル
　　※言語そのものの分析や言語と歴史、文化、社会との関わりについて幅広く学びたい学生のための履修モデル
資料Ⅶ－１　実験室・実習室の設備機器
資料Ⅶ－２　年次進行毎の校舎の使用状況
資料Ⅶ－３　時間割表
資料Ⅶ－４　学術雑誌目録

資料Ｘ－１　教育課程と指定規則との対比表（看護学科）
資料Ｘ－２　公立小松大学看護学科臨地実習計画表
資料Ｘ－３　公立小松大学看護学科臨地実習施設
資料Ｘ－４　公立小松大学看護学科臨地実習承諾書
資料Ｘ－５　公立小松大学看護学科臨地実習概要
資料Ｘ－６　看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について
資料Ｘ－７　臨地実習施設における実習指導者配置計画
資料Ｘ－８　教育課程と指定規則との対比表（臨床工学科）
資料Ｘ－９　公立小松大学臨床工学科臨床実習計画表
資料Ｘ－10　公立小松大学臨床工学科臨床実習施設
資料Ｘ－11　公立小松大学臨床工学科臨床実習承諾書
資料XI－１　実習先一覧・実習受入承諾書
（生産システム科学部　学外実習体験実習Ａ，学外技術体験実習Ｂ）
資料XI－２　「異文化体験実習」履修に関連する科目と学修の過程（国際文化交流学部）
資料XI－３　「海外語学研修」履修に関連する科目と学修の過程（国際文化交流学部）

資料Ⅰ－１

小松短期大学　開学までの経緯及び沿革

昭和47年	南加賀広域圏市町村計画において、小松市に高等教育機関誘致構想を明示
昭和54年	小松市議会に「大学設置委員会」を、小松商工会議所に「大学誘致委員会」を設置
昭和55年	国土庁学園計画地ライブラリーに国府、南部の２地区を登録
昭和56年	小松市、小松市議会、小松商工会議所で「県立女子短期大学設置期成同盟会」を結成
昭和58年	小松市に「大学準備室」を設置、「小松地区における大学等立地に関する基礎調査」を実施
昭和59年	国土庁、石川県とともに「小松地域学園都市、地区基本計画策定調査」を実施し、小松情報短期大学構想を明示
昭和60年９月	石川県に「短期大学準備室」を設置
昭和60年10月	「学校法人小松短期大学設立準備委員会」を設置
昭和61年１月	「石川県短期大学準備室小松班」を小松市役所内に設置
昭和62年12月	学校法人小松短期大学設立及び小松短期大学設置の文部大臣認可
昭和63年４月	小松短期大学産業情報科開学
平成16年12月	地域創造学科へ学科改組の変更認可
平成17年４月	地域創造学科開設 産業情報科募集停止
平成18年10月	産業情報科廃止
平成19年４月	分類管理専攻科の設置
平成21年４月	臨床工学専攻科、保健言語専攻科の設置
平成23年４月	保健言語専攻科廃止
平成26年９月	建國科技大学（台湾）と大学間協定を締結
平成27年３月	プリンスオブソンクラ大学（タイ）と大学間協定を締結
平成27年４月	分類管理専攻科を診療情報管理専攻科に名称変更
平成28年９月	カンボジア国立アンコール遺跡整備公団と「アンコール世界遺産での能力開発プログラム」に関する覚書を締結 ウダヤナ大学（インドネシア）と大学間協定を締結

こまつ看護学校　開校までの経緯及び沿革

平成５年４月	小松市に「小松看護学校設立準備室」を設置
平成６年１月	財団法人設立の石川県知事認可
平成６年12月	厚生大臣看護婦養成所指定
平成７年３月	専修学校設置の石川県知事認可
平成７年４月	こまつ看護学校開校
平成18年４月	第二看護学科廃止

資料Ⅰ－２

平成２７年７月３日

小松市長　和田　慎司 様
学校法人小松短期大学　理事長　米谷　恒洋 様

公立４年制大学を創る会

会長　勝木　保夫

要　望　書

かねてより南加賀地域の住民，産業界，医療・福祉の現場等から「地域の人材を地域で育て，地域で活躍する高度専門職業人」の養成が強く求められている。これを実現するため，石川県南加賀地域の振興・発展の礎となる公立４年制大学の設立を要望する。

趣　旨

公立４年制大学により次の事業を推進し，南加賀地域が石川県，北陸地方をリードする先駆的「地方」として発展することを目指す。

1　地域の科学技術に貢献するものづくり人材の育成
ものづくりが盛んな南加賀地域において，地域の科学技術の振興，産業の発展に貢献する優秀なものづくり人材を育成し，輩出すること。

2　地域医療に貢献する医療従事者の育成
地域の医療福祉体制の充実・向上のために，地域医療の発展に貢献する優秀な医療従事者を育成し，輩出すること。

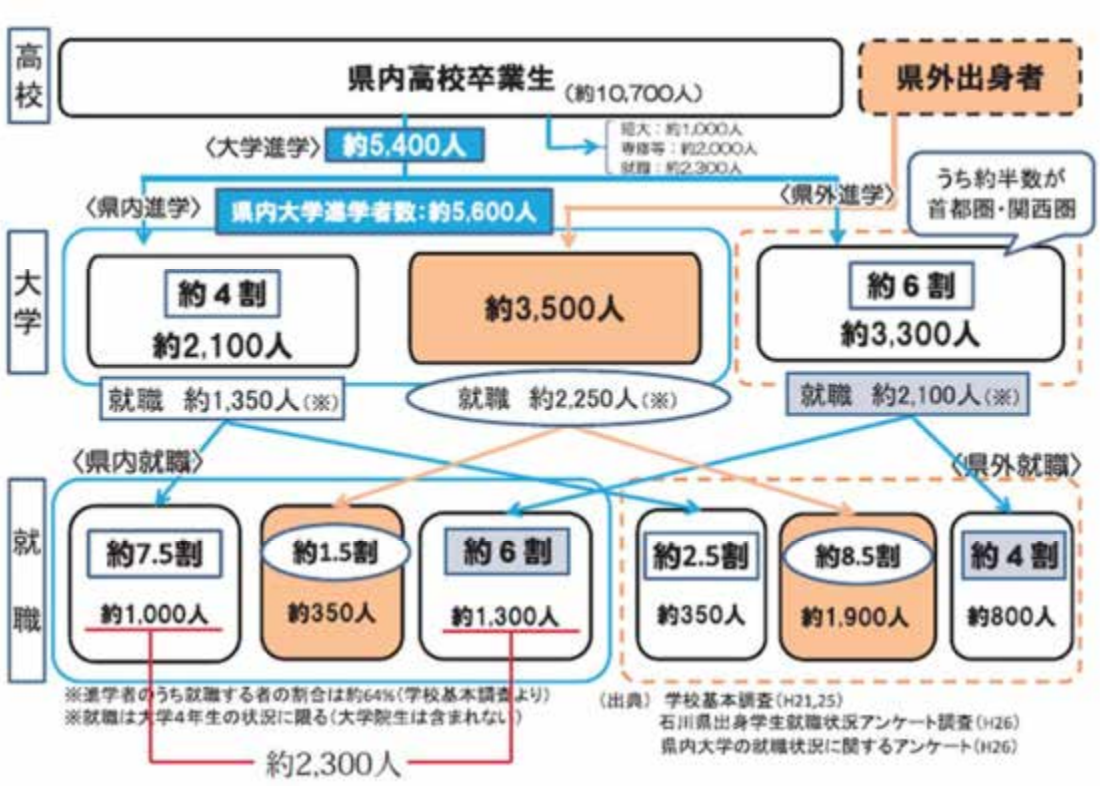
3　地域と世界を繋ぐグローバル人材の育成
地域の国際交流の推進，地域の文化や産業を世界に発信するため，地域と世界を繋ぐ優秀なグローバル人材を育成し，輩出すること。

4　地域の特性・資源を生かした観光振興
地域，自治体，大学が連携し歴史文化遺産や地域資源の発掘，またはそれらを活用した魅力ある観光資源の開発等，地域の観光産業の発展を支援すること。

5　社会人教育の充実
社会人の学び直しの場として，必要な知識や能力を修得する教育プログラムや，一般市民向けに，社会や暮らしに密着したプログラムを提供すること。

資料Ⅰ－３

県内高校生の進学先・県内大学生及び県内出身の県外大学生の就職先



出典：石川県「いしかわ創生人口ビジョン」（平成 27 年 10 月）

資料Ⅰ－４

若者の進学・就職に関する意識動向調査アンケート調査結果（抜粋）

１　調査概要

（１）調査の目的

小松市の「人口ビジョン」及び小松市版の地方創生総合戦略（こまつ創生総合戦略）の策定を進めるにあたり、学卒年代を対象とした、市内外での進学・就職予定（意向）やその理由、市内での居住意向等について調査を実施し、今後の人口動向に関する分析と施策立案の参考とする。

（２）調査対象

市内に立地する全日制高等学校６校（県立４校、市立１校、私立１校）に在学する３年生（以下、高校生）1,340 名

（３）調査期間

2015 年６月 15 日（月）～2015 年７月６日（月）

（４）回収状況

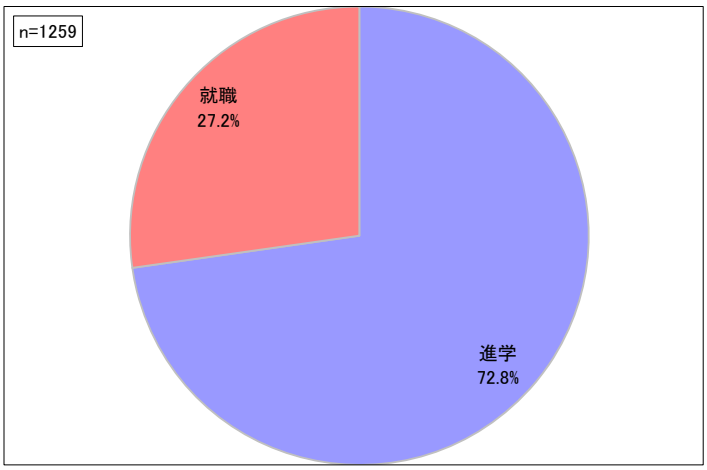
1,260 人から回答（回収率 94%）

２　調査結果

（１）進路希望

卒業の進路希望については、約７割が進学希望、約３割が就職希望としている。

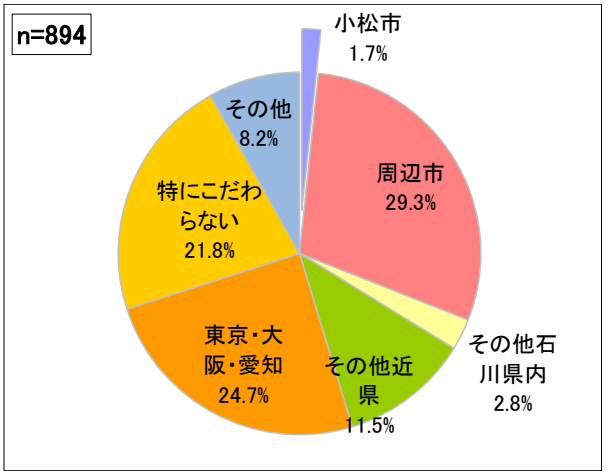
図表　高校生の進路希望（単一回答）



（２）進学希望地域

進学したい地域について、周辺市（29.3%）、東京・大阪・愛知（24.7%）が多く、合わせて過半を占める。小松市（1.7%）をあげた高校生はわずかだが、進学先地域について特にこだわらない（21.8%）とする回答も多い。

図表　進学意向のある高校生の進学希望地域（単一回答）



※石川県内

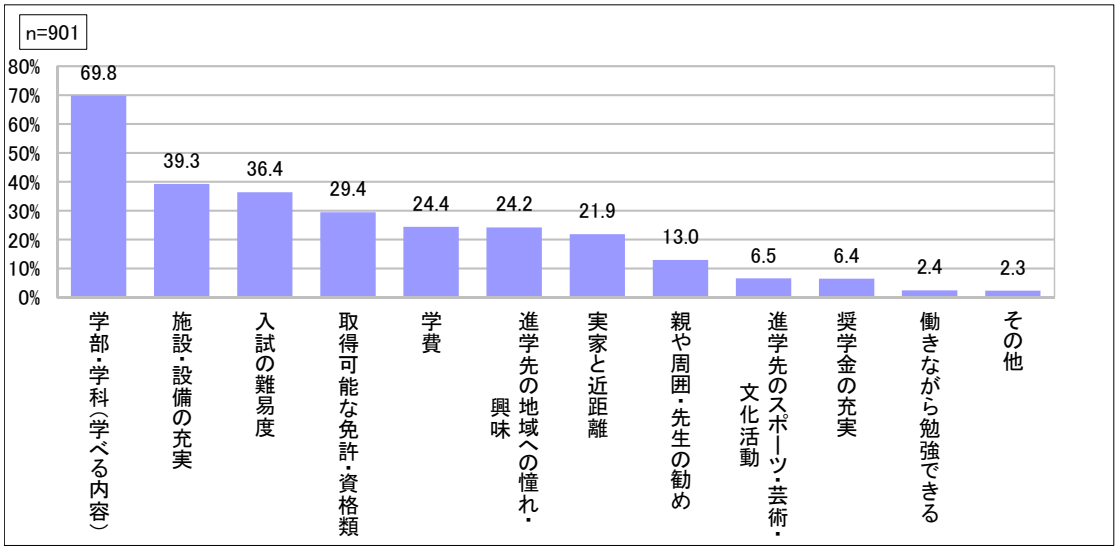
小松市	1.7%
周辺市	29.3%
その他石川県内	2.8%
計	33.8%

（３）進学先選定重視点

進学する際に重視する点として、最も多く挙げられたのが学部・学科（学べる内容）（69.8%）である。続いて、施設・設備の充実（39.3%）、入試の難易度（36.4%）、取得可能な免許・資格類（29.4%）等となっている。

学問分野以外での進学先地域選定にあたっての重視度については、進学先の地域への憧れ・興味、および、実家と近距離のいずれも約２割程度となっている。

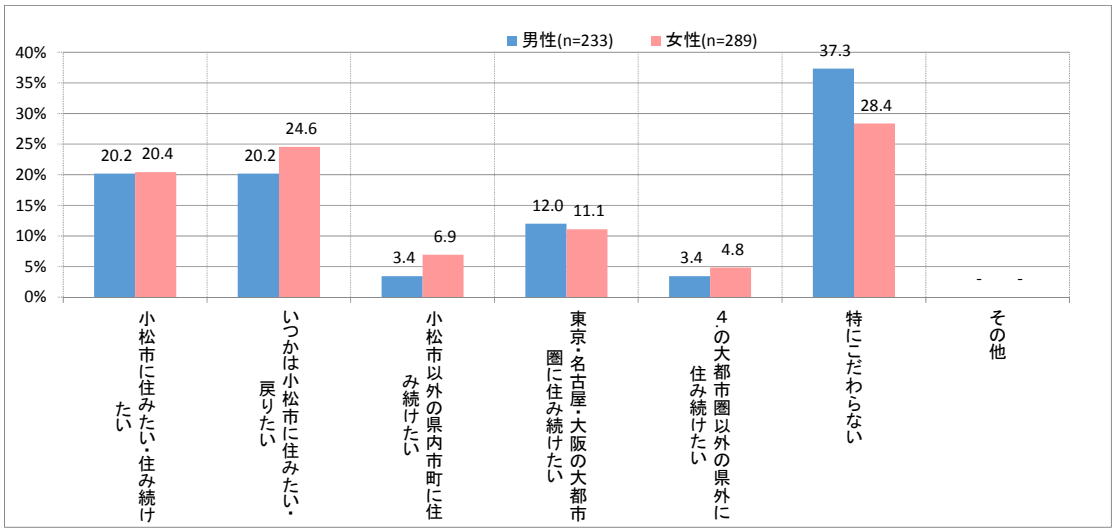
図表　進学意向のある高校生の進学先重視点（複数回答）



（４）進学希望者の小松市居住意向

市内在住高校生の小松市居住意向をみると、進学希望の生徒の小松市居住意向は４割強で、女性の方がやや多い。他地域での居住意向は合わせて約２割程度だが、男性は特にこだわらないとする回答も約４割と多くなっている。

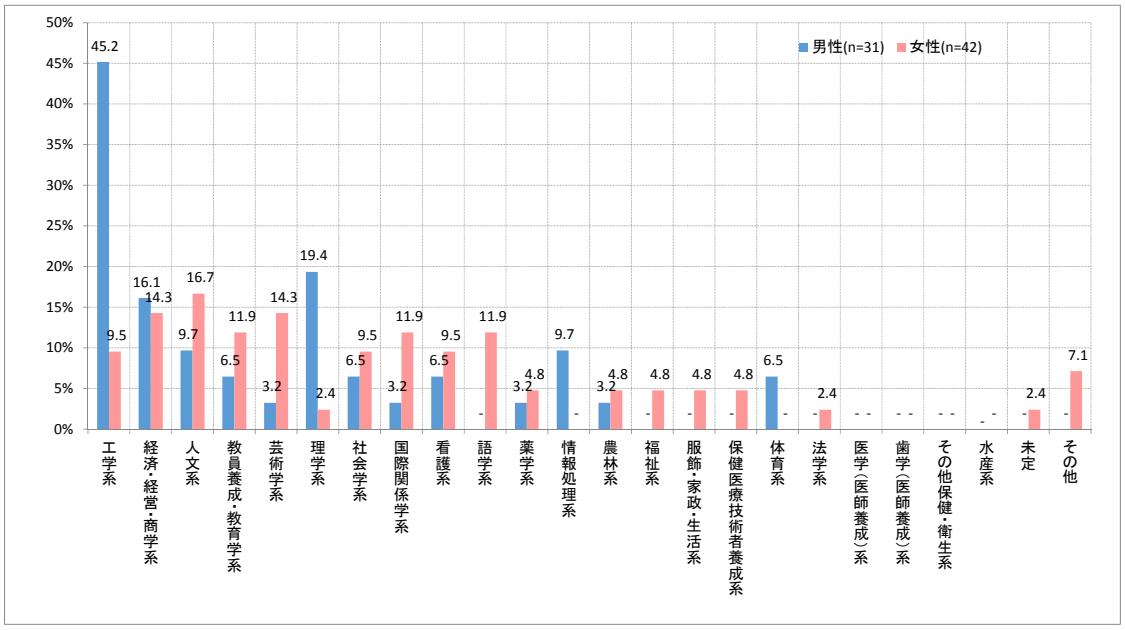
図表　進学希望の市内在住高校生の小松市居住意向－詳細（単一回答）



（５）市内居住意向を有さない高校生の希望学問分野

男性の場合、工学系・理学系のほか、経済・経営・商学計、情報通信系学問のニーズが高い。女性では、人文系、社会科学系、芸術学系、国際関係学系、語学系のニーズが高い。これらの学問分野を充実させることで、進学時の市外転出を抑制させることが期待される。

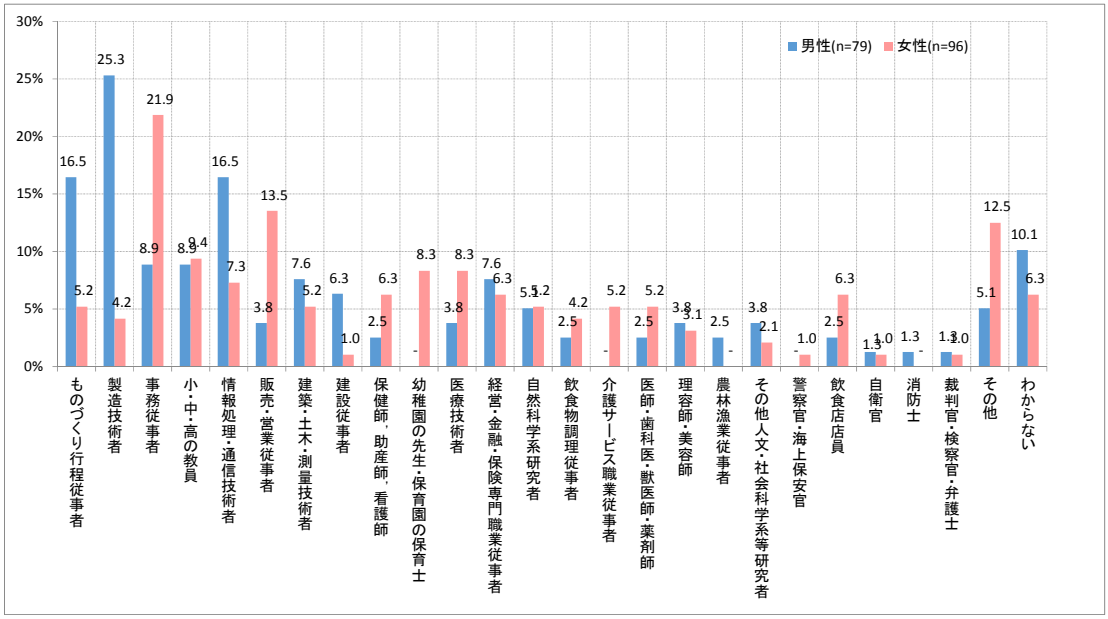
図表　市内居住意向を有さない高校生が学びたい（：充足すべき）とする教育分野（複数回答）



（６）市内居住意向を有さない高校生の希望職種

男性の場合、ものづくり系のほか、情報処理・通信技術者の意向が高い。女性では、事務従事者、販売・営業従事者の意向が高い。

図表　市内居住意向を有さない高校生の希望（：充足すべき）職種（複数回答）



資料Ⅰ－5

石川県内の高等教育機関の立地状況

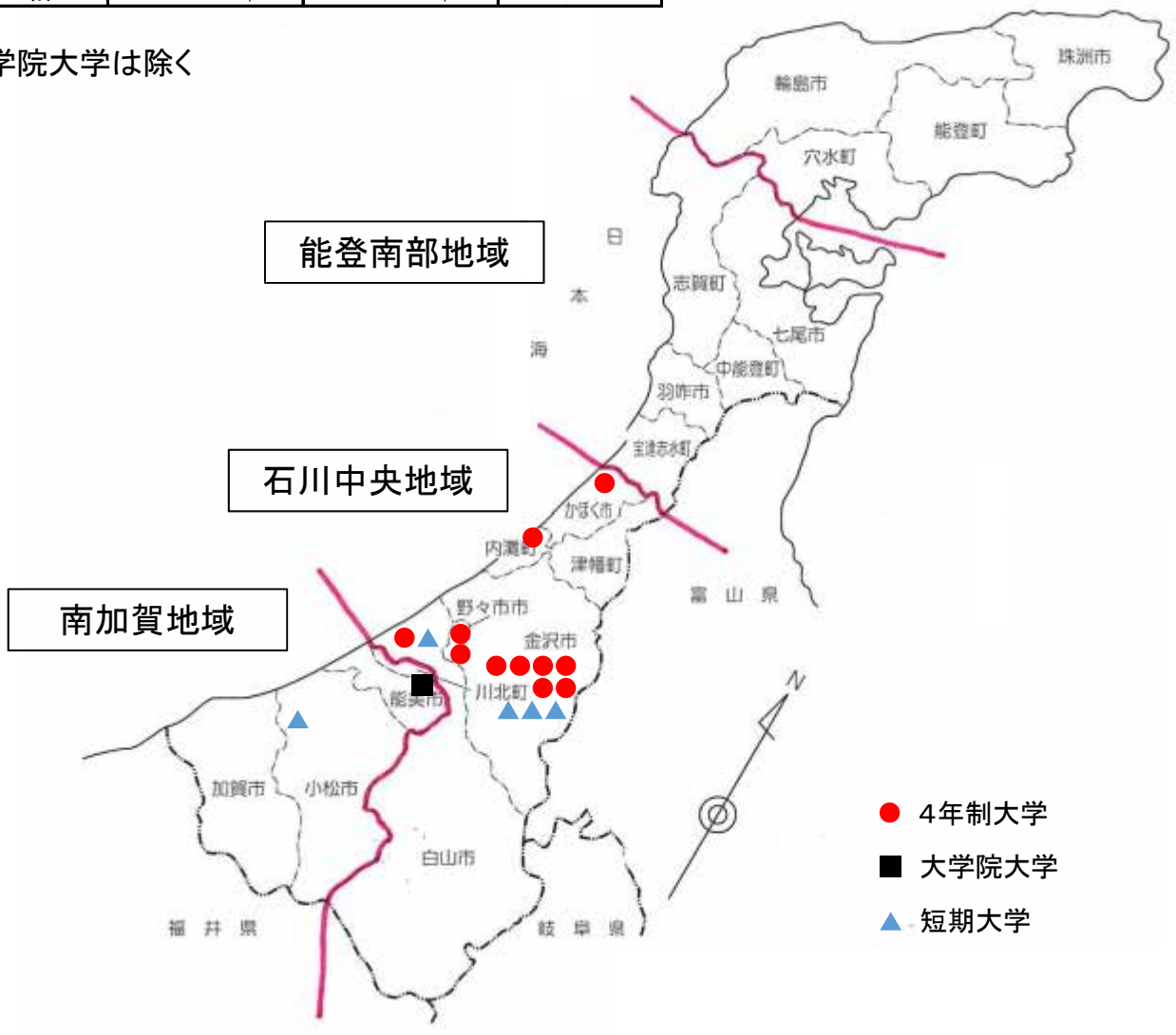
○県内高等学校卒業者数と大学等の入学定員

	高等学校卒業者数	大学等の入学定員	充足率（%）
能登北部地域	619	0	0.0%
能登南部地域	1,184	0	0.0%
石川中央地域	6,509	6,716	103.2%
南加賀地域	2,002	120	6.0%
合　計	10,314	6,836	66.3%

○県内高等学校卒業者数と大学の入学定員

	高等学校卒業者数	大学の入学定員	充足率（%）
能登北部地域	619	0	0.0%
能登南部地域	1,184	0	0.0%
石川中央地域	6,509	5,896	90.6%
南加賀地域	2,002	0	0.0%
合　計	10,314	5,896	57.2%

※大学院大学は除く



南加賀地域における進学時の転出超過傾向について

・2005年と2010年の国勢調査のデータで、年齢別に5年間の転入者数と転出者数を比較

2005年から2010年の５年の間に、市外から市内に住所を移した人数（転入者数）から市内から市外に住所を移した人数（転出者数）を比較

転入者数＜転出者数　⇒　転出超過

転入者数＞転出者数　⇒　転入超過

・高校卒業時に相当する年齢層（10～14歳、15～19歳）で大きな転出超過となっている一方、大学卒業時相当の年齢層（20～24歳）で転入超過となっている

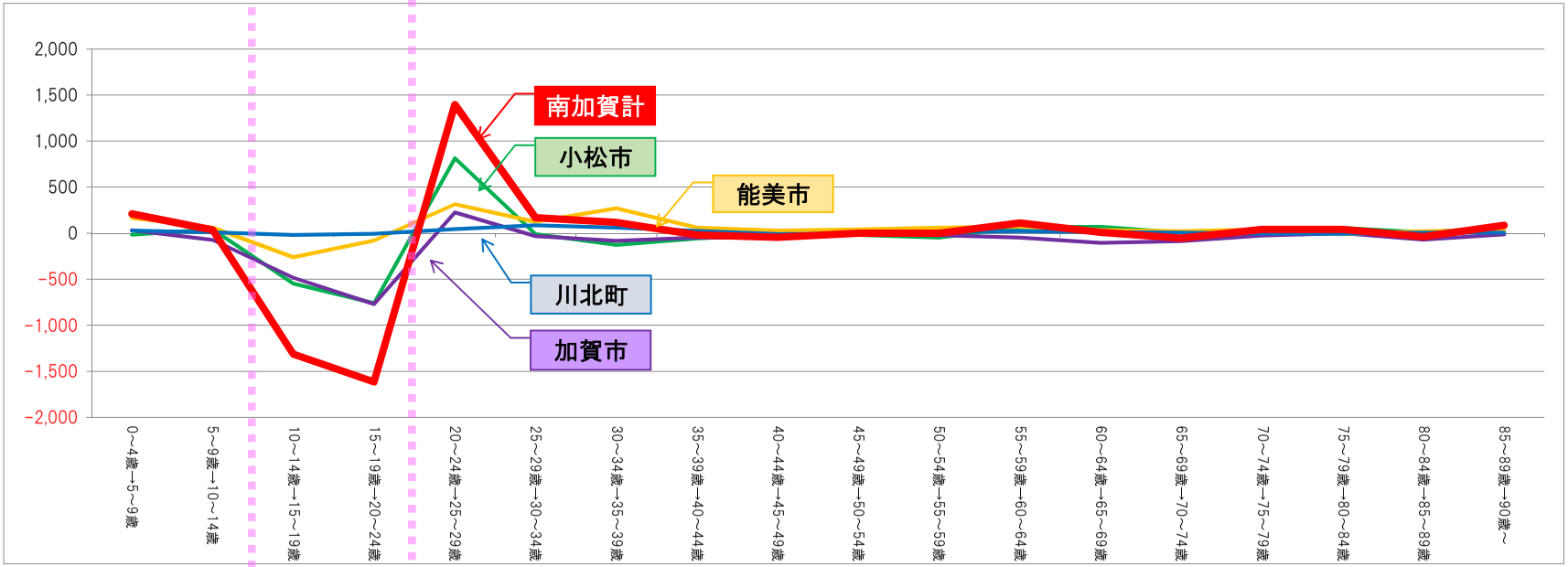
・ただし、高校卒業時の転出超過を補うほどの転入超過とはなっていない

国勢調査　純移動者数　（転入者数－転出者数）

2005年→2010年（人）

男女計	0～4歳 →5～9歳	5～9歳 →10～14歳	10～14歳 →15～19歳	15～19歳 →20～24歳	20～24歳 →25～29歳	25～29歳 →30～34歳	30～34歳 →35～39歳	35～39歳 →40～44歳	40～44歳 →45～49歳	45～49歳 →50～54歳	50～54歳 →55～59歳	55～59歳 →60～64歳	60～64歳 →65～69歳	65～69歳 →70～74歳	70～74歳 →75～79歳	75～79歳 →80～84歳	80～84歳 →85～89歳	85～89歳 →90歳～
小松市	-17	42	-549	-762	814	-11	-128	-58	-15	-20	-49	64	68	6	31	58	8	63
加賀市	31	-74	-485	-769	224	-32	-84	-49	-48	-17	-24	-47	-105	-87	-26	-1	-71	-12
能美市	165	59	-260	-79	313	124	268	61	29	41	61	72	34	21	41	-10	21	29
川北町	29	8	-21	-7	45	86	60	26	-10	-4	11	20	11	6	-4	-8	4	6
南加賀計	208	35	-1,315	-1,617	1,396	167	116	-20	-44	0	-1	109	8	-54	42	39	-38	86

上段：05年の年齢
下段：10年の年齢



↑ 高卒・大学進学年代の転出超過傾向は南加賀地域の共通事象

（地域経済分析システムより小松市作成）

資料Ⅰ－6

資料Ⅰ－7

～ こまつ創生は、ひとづくりから ～

こまつ創生総合戦略

2015～2019年度

Flag management

2015年10月

石川県小松市

― 日本の真ん中から、地方創生をリード ―

目 次

Ｐ１ ・・・ こまつ創生総合戦略の位置づけ

Ｐ２ ・・・ こまつ創生に向けた４つの基本目標

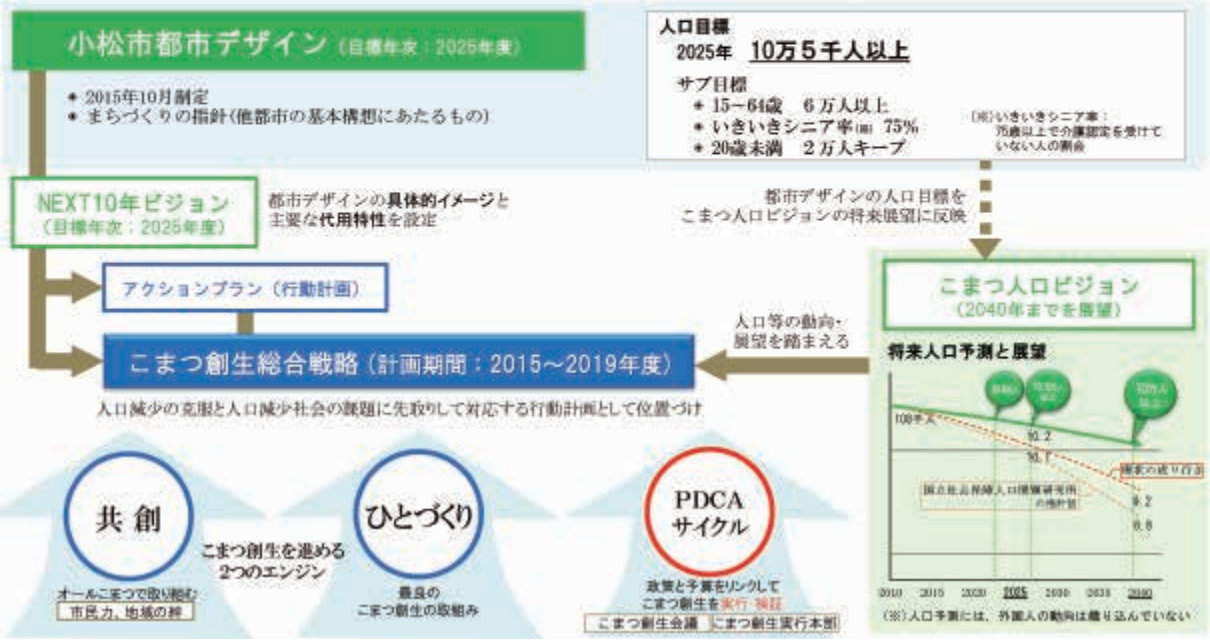
Ｐ３ ・・・ Flag management（旗管理方式）による展開

Ｐ８ ・・・ 参考

1

こまつ創生総合戦略の位置づけ

- 小松市では、2011年策定の「10年ビジョン」のもと、社会や時代変化を先読みし、本市の特長とチャンスを活かしたまちづくりを実行してきました結果として、合計特殊出生率や社会動態は、国立社会保障・人口問題研究所の推計よりも**上振れ**で推移しています
- 小松市では、これまでも、国の動きに先駆け、**旗管理方式**（Flag management）により、目標値を掲げＰＤＣＡサイクルでの政策の実行・検証に取り組んできました
- 人口減少への歯止めと人口減少社会の課題を克服するため、まち・ひと・しごと創生法が定める地方版総合戦略である**「こまつ創生総合戦略」**を策定し、引き続き、**旗管理方式**を用いてこまつ創生を実行していきます



2

こまつ創生に向けた４つ基本目標

こまつ創生総合戦略 基本目標 ～ 旅管理方式（Flag management）による政策展開 ～

①	②	③	④
はつらつとした**ひとづくり**で、まちの活力と未来を創生	女性や若者、多様な人びとの**しごとを創生**	こまつでの、家族の幸せな**ライフステージを創生**	**アクセスを活かし、**新しい産業や文化、くらしを創生
こまつ創生の方向性			
未来づくりはひとづくりから そして、ものづくりはひとづくりから	グローバル企業とともに、創造とサイエンスでたくましい産業を創生します	住みよさをさらに高め、日本中から評価されるここちよい暮らしをつくります	北陸圏指のアクセス力を活かして、感性豊かで成長するまちを創り出します
日本全体の課題等			
❖高度職業訓練など地域に根ざした高等教育の重要性（地（知）の拠点） ❖財政健全化、地方分権と地域の自立性の高まり	❖デザインや機能性の追求、機械化・自動化・省力化による産業高度化 ❖全国的な人口構造のいびつ化と働き手の減少	❖女性の活躍や若者の自立と子宝社会との相関性 ❖高齢化に伴う社会保障費の増大や家族など社会的負担の高まり	❖観光立国・日本再興に向けて国際便・国際貨物便は一層重要 ❖首都圏への一極集中の是正と広域連携の促進
本市の特長など			
石川県内各大学等との包括連携 40以上の連携プロジェクト ○グローバル産業とニッチ産業のパワー ・企業・大学と一体となった先駆的な産業人材育成の取組み ・充実した産業人材育成制度 ・たくましい人材を提供 ○空港とグローバル企業・大学を通じた盛んな海外交流（ビジネス・文化・教育ほか） ○まちづくりを進める行財政改革を着実に実行 など	製造品出荷額等（2013年）石川県全体の約4分の1、北陸3県で第2位 ○層が厚いものづくりパワー ・日本で卓越した**ものづくりクラスター** ・息づく職人技などの伝統産業 ・古代浪漫と産業遺産・観光 ○県内トップクラスの農林業と先進の６次産業化 ○女性が活躍できるまち ・未来を拓く女性の働き方 ・創業や就労環境の変革 など	全国県庁所在地中 総合2９位（東洋経済新報 住みよさランキング2015） ○全国トップクラスの住みよさ ・出産・子育てしやすいまち ・国・県を上回る合計特殊出生率 ・就労にもプラスとなる３世代同居や近居の高さと地域性 ・学力アップ ・豊かな自然や伝統・食文化 ○市民が仕事や趣味で活躍 ・介護予防の取り組みと高い評価 ・若者・女性・母親・シニアの働く意識と環境向上 など	ビジネス・観光・通学等で17万人以上が滞在（地域経済分析システム「RESAS」観光マップ分析） ○本社グローバル教育機能の集約 ○小松空港と新幹線小松駅 ・近くてより便利に ・全国・海外からの人の往来が活発 ○大都市圏とつながる鉄道・高速道路網 国際貨物など物流・ビジネス拠点 ○南加賀地域の**拠点**機能の集積や通勤・通学 など

3

1 はつらつ

基本目標 はつらつとしたひとづくりで、まちの活力と未来を創生

数値目標（KPI）
- 大学等理系進学率　2014年度卒　27.2% ➡ 2019年度卒　40%　※市立高校生
- 若者転入出（15～29歳）　2012～14年平均 転出超過 約50人 ➡ 2019年 転入超過 100人
- 将来負担軽減（市債残高）　2014年度末 1,306億円 ➡ 2019年度末 1,234億円

ものづくりはひとづくり
○理科・科学大好き青少年を育成
- 大学や企業と連携した幼児期からの理科教育、小中学校における理科・科学教育を実施
- 科学研究や宇宙開発の専門機関、大学・企業と共同で、サイエンスヒルズこまつにおいて最先端の科学技術教育を展開

一貫したひとづくり
○幼児教育から生涯学習まで一貫したひとづくり
- 保育と教育を両立し、特色ある幼児教育を展開するこども園を拡大
- 国際学習、伝統文化、自然体験など、特長を活かした小中学校づくり
- 公民館改革で、地域における生涯学習拠点としての機能を拡充

大学改革で新しいひとの流れづくり
○真のCOC（地（知）の拠点）を実現する新しい高等教育へ
- 公立の４年制大学を開学
- そして、世界やふるさとのものづくり産業、地域の医療福祉、グローバル交流を支え成長させる若い人材を育成
- 合わせて、シニアの学び直しや女性の活躍支援など、市民が学習できる人材育成拠点を実現

行財政改革
○次世代へ引き継ぐ安心の財政基盤づくり
- 将来負担を徹底して圧縮（市債発行額の抑制、繰上げ償還の実施）
- 職員定数の適正管理や固定費の圧縮により、柔軟な財政構造へ

○市民から信頼される市役所へ変革
- まちづくりをリードする職員育成（専門性と能力向上、人事制度改革）
- 機動的な組織づくり（目標共有、重複と隙間の解消、意思決定スピードアップ）
- 身近な組織づくり（身近な相談体制）
- 民間の経営感覚で仕事を改革（コスト低減、スピードアップ、満足度向上）（業務改善、民間へのシフト、積極的なICT導入、公共施設マネジメント）

KPI（重要業績評価指標）
- 認定こども園移行率
  2015年度 60%（21/42園） ➡ 2020年度 90%　[市調べ]
- 若者就業率（20～34歳・学生等除く）
  2010年 94.2% ➡ 2020年 96%　[国勢調査より推計]
- （仮称）公立小松大学 開学
  2018年度 ものづくり・医療・国際系学部等
  （その後は、地元高校生等の入学率や卒業生の地元就職率等に置き換えを想定）
- 公共施設延床面積
  2014年度当初 49万400㎡ ➡ 2020年度当初 48万㎡
  （2020年度までに14年度比 5%削減）　[市調べ]
- マイナンバー個人番号カード交付数
  2015～19年度の5年間で 8万枚
  [保有率目安]
  15歳以下 10%、15～64歳 30%、65歳以上 30%　[市調べ]

※目標項目・目標値は随時見直します

2 たくましい

基本目標 女性や若者、多様な人びとのしごとを創生

数値目標（KPI）
- ものづくり産業力（製造品出荷額等）　2013年 5,653億円 ➡ 2019年 6,000億円以上
- 女性就業率（20～64歳）　2010年 73.9% ➡ 2020年 80%

女性の活躍を応援
○多様な分野での活躍を創出
- おもてなし力やセンスを活かす観光やデザインなどの産業を育成
- イノベーションによる機械化・自動化・省力化で、女性も働きやすい環境づくり
- 起業家育成とフォローアップ体制を拡充
- ワーク・ライフ・バランスを企業とともに充実

産業競争力を強化
○日本を代表するものづくり産業クラスターのさらなる進化
- グローバル企業を中心とした企業集積をさらに促進
- 人材育成、エネルギー技術等、トップランナーとしての取り組みを推進

○バランスのとれたたくましい産業都市づくり
- 新産業ゾーンを形成
- アクセスを活かした国際物流、医療・福祉・健康、企業本社機能など、バランスのとれた企業誘致・育成
- 乗りものに代表されるものづくり技術や伝統産業など、強みを活かした魅せる産業観光を推進
- 産学官共同研究や異業種交流を通じた創造とサイエンスで、技術力・価格力・提案力を向上

農林水産業を高度化
○成長産業への進化
- グローバル企業や大学との共同による第一次産業の高度化（ICT農業など）と6次産業化
- 環境王国ブランド力を高め、国内外に販路を拡大（米、トマトなど）

○新たな経済価値の創出
- 木質バイオマス活用など再生可能エネルギー推進と企業の環境負荷軽減

新たなビジネススタイルへの転換
○時代に対応した産業へ
- カードやICTなど新技術による便利で多様なビジネススタイルを展開
- 金融機関と連携したきめ細やかな起業・創業支援

KPI（重要業績評価指標）
- 女性の活躍
  - 女性経営者育成数
    2015～19年度の5年間で 300人
    [内訳目安]
    経営者育成数：250人、創業者：50人　[市調べ]
  - 女性就業者数（20～64歳）
    2020年成行き 20,200人 ➡ 22,000人にアップ
    （成行き値は2010年値73.9%を基準とした場合）　[国勢調査より推計]
- ワーク・ライフ・バランス優良事業者数
  2015～19年度の5年間で 30件　[市調べ]
- ものづくり産業力（製造品出荷額等）
  うち6次産業部門
  2013年 82億円 ➡ 2019年 160億円　[工業統計調査]
- 新産業創出等による新規就労者数
  2015～19年度の5年間で 500人　[市調べ]
- 木質バイオマス活用間伐チップ出荷量
  （小松市分）
  2014年度 900トン ➡ 2019年度 2,000トン　[市調べ]
- 年間商品販売額（卸売・小売合計）
  2014年 2,008億円 ➡ 2019年 2,200億円　[商業統計調査]

※目標項目・目標値は随時見直します

3 ここちよい

基本目標 **こまつでの、家族の幸せなライフステージを創生**

数値目標（KPI）
- 合計特殊出生率　2012年　1.69　➡　2019年　1.75
- 住みよさランキング　2015年 29位/813市区　➡　2019年　20位以内
- いきいきシニア率　2014年度　66%　➡　2019年度　70%

日本一の子宝サポート

○日本トップクラスの結婚・出産・子育て環境づくり
- 出会いや結婚によるアニバーサリーづくりを支援
- 不妊・不育治療支援や妊産婦検診の充実をはじめとした各種サポート
- 子ども医療費や保育料など、経済的負担を軽減

○成長に応じたサポート体制を充実
- 子育て、発達障害、食育など、きめ細やかで包括的な相談・サポート体制づくり
- 幼・保・こども園から小学校、小学校から中学校への成長過程を一貫支援

住みよさのランクアップ

○多様でここちよい居住を促進
- 外国人も含めたショート・ミドル・ロングステイを促進
- 3世代・準3世代住まい、定住・UIJターン・移住促進支援と空き家の有効活用

○やさしいまちづくりを展開
- 高齢者や障がいのある方、外国人など、住みやすく訪れやすく働きやすい環境を整備
- まちの利便性を高めるICカードの活用や公衆無線LANの整備推進

○豊かな自然・文化を活かした市民の暮らしの質を向上
- 地域力とICTを活かした防災・防犯・交通安全で暮らしの安全性を向上
- 技術と絆を活かし、環境と共生する心豊かで便利な暮らしを実現

いきいきシニア

○予防重視で健康寿命を伸長
- 市民病院を中心とした医療機関との連携による予防医療を充実（介護、認知症、生活習慣病、がんなど）
- 運動、食生活など大学と共同で予防プログラムを研究実施
- 認知症など、地域におけるサポーターを拡大

○シニアが活躍する機会を創出
- 農業やものづくり技術指導など、仕事での活躍を推進
- さらに、豊かな里山での活動拠点を整備（農業や食などで活躍）
- 子育て、教育、地域活動など社会貢献活動を促進

KPI（重要業績評価指標）

- Ⓐ大作戦(※)による結婚数
  2015～19年度の5年間で 125組　[市調べ]
- 育児をしている女性の有業率(常勤の職員を除く)
  2012年 73.3%　➤　2017年 80%　[就業構造基本調査]
- ようこそ小松(転入者数)
  2014年 3,199人　➤　2019年 4,000人　[市調べ]
- 3世代住まい比率(3世代同居世帯人員)
  2020年成行き 推計20%未満　➤　25%にアップ
  ※現状、3世代同居・近居人口は総人口の40～50%以上と見込んでおり、近居による準3世代住まい比率も高めていく　[国勢調査等により市推計]
- 幸せへの道しるべ総合得点(満点600点)
  2013年度 361.3点　➤　2019年度 420点　[市・金沢大学調査]
- 高齢者就業率(65歳以上)
  2010年 22.7%　➤　2020年 30%　[国勢調査より市推計]
- がん健診受診率
  - 胃・肺・大腸がん健診
    2013年度 11.1～27.5%　➤　2019年度 33%
  - 子宮・乳がん健診
    2013年度 23.8～29.6%　➤　2019年度 50%　[市調べ]

(※)Ⓐ（マルA）大作戦：
市の各種政策やイベントを「Arrange(アレンジ＝出会いの創出)」し、「Action(アクション＝実行)」することで、素敵な「Anniversary(アニバーサリー＝記念日)」が生まれることを目指す取り組み

6　※目標項目・目標値は随時見直します

4 おもしろい

基本目標 **アクセスを活かし、新しい産業や文化、くらしを創生**

数値目標（KPI）
- 交流人口　2014年 380万人　➡　2019年　500万人
- 外国人宿泊者数　2014年 5,216人　➡　2019年 20,000人

空・陸・海のアクセス向上

○北陸屈指の交通ネットワークをさらに向上
- 小松空港の国際化（国際便・国際貨物便）と機能拡充
- 北陸新幹線の小松開業促進（2023年開業へ）
- 空港・駅における交通アクセス充実（鉄道やバス、レンタカーなど多様で便利で快適な交通機能）
- ビジネスや観光等の振興に資する広域道路網の整備促進

拠点エリアの魅力アップ

○優れたアクセスを活かしたおもしろいまちづくり
- 空港周辺・駅周辺のおもしろさ（魅力や利便性）と都市機能をレベルアップ（アミューズメント・人材育成・宿泊機能など）
- さらなる産業振興と拠点性の向上を加速
- 首都圏に立地する機能（企業本社機能や教育研究機能、政府機関等）の受け入れを促進（まちの強みの活用・発信、インセンティブ制度など）

グローバル交流を展開

○ビジネス・観光・教育等でのグローバル交流を拡大
- 地域資源（産業、自然、文化、食など）の評価とブランド力を向上
- 観光や教育などのインバウンドを拡大
- 大学や企業と連携した海外インターンシップを拡大
- スポーツ・文化系合宿や大会、MICE等の積極的誘致
- 企業の結び付き等を活かした海外都市との新しい交流を展開
- 交流を通じた新産業の創出と新しい小松文化の創造

広域連携を充実

○広域エリアの連携充実と拠点性を高める
- 近隣市町との連携による産業振興や人材育成、医療・福祉等の充実
- 定住自立圏に向けた中心市宣言と具体的連携の調整

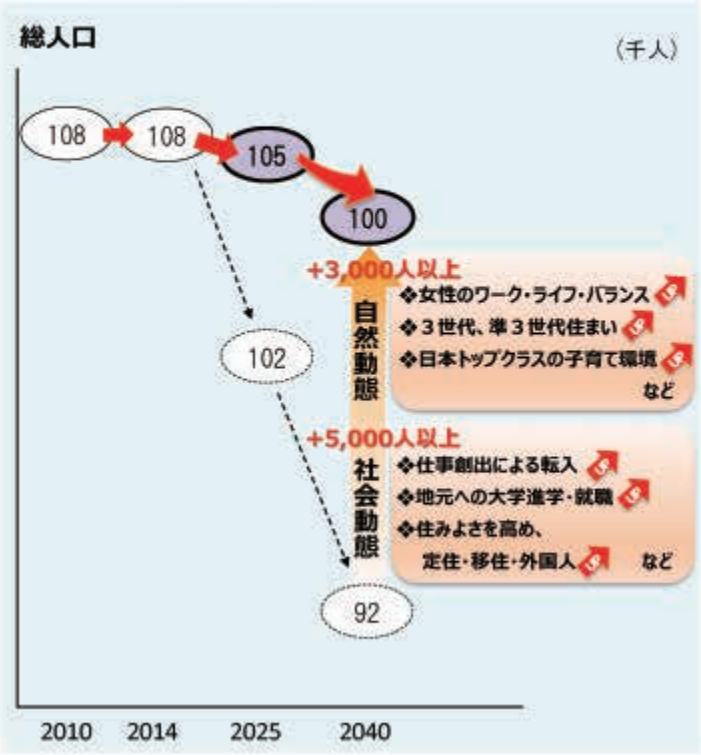
KPI（重要業績評価指標）

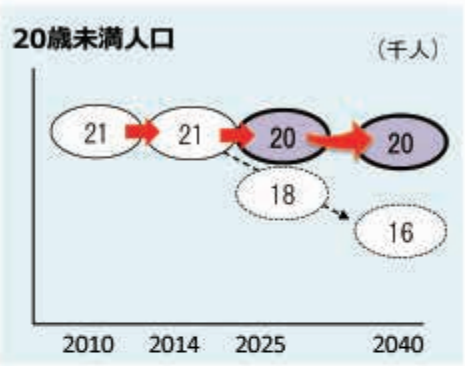
- 小松駅年間乗車人員
  2013年度 145万4,536人　➤　2019年度 170万人　[市調べ]
- 小松空港国際線旅客数
  2014年度 18万8,321人　➤　2019年度 25万人　[国土交通省 交通管理統計局]
- 国等からの地域資源評価(認定)数
  2015～19年度の5年間で 延べ30件（日本遺産認定など）　[市調べ]
- MICE開催数(研修・合宿・国際会議等)
  2014年度 36件　➤　2019年度 70件　[市調べ]
- スポーツ合宿延べ人数
  2014年度 24,754人　➤　2019年度 35,000人　[市調べ]
- 広域連携
  - 一部事務組合等共同事業
    2015年度 5事業　➤　2020年度当初 6事業
  - 新たな連携事業数
    2015～19年度の5年間で 10件
  - 民間レベルでの新たな交流数
    2015～19年度の5年間で 10件　[いずれも市調べ]
  - 働く・学ぶ・楽しむ流入人口(昼夜間人口比率)
    2010年 1.01　➤　2020年 1.02　[国勢調査]

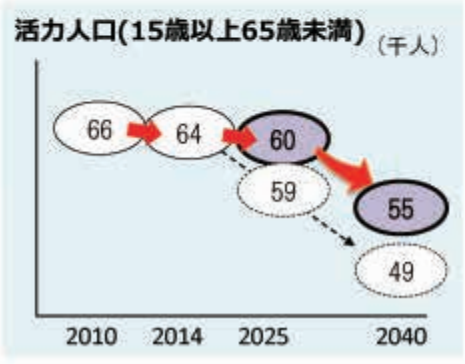
※目標項目・目標値は随時見直します　7

［参考１］　人口ビジョン

※人口は国勢調査を基準とします



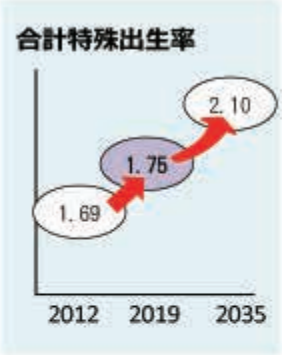


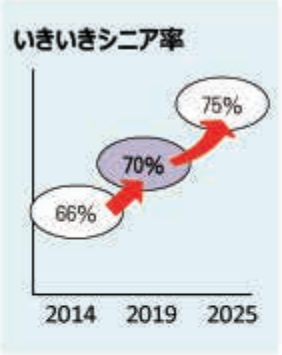


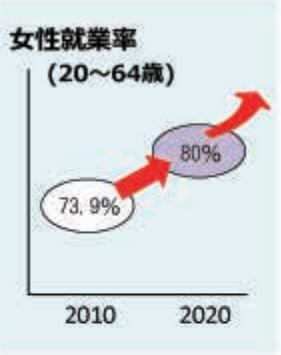
8

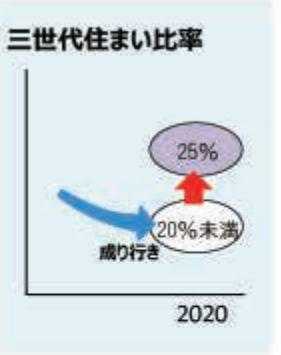
［参考２］　人口ビジョンに向けた主な目標値の整理

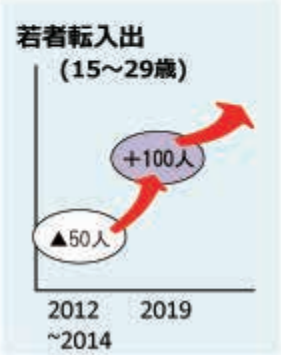
※目標項目・目標値は随時見直します

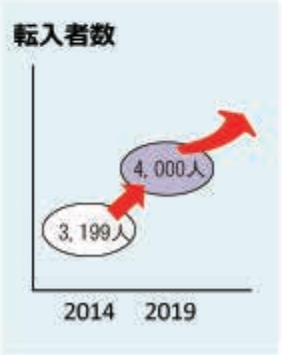


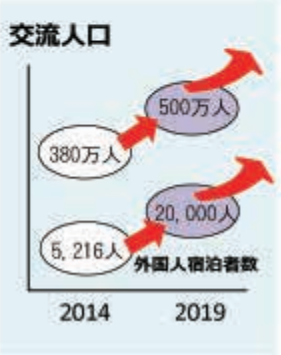












9

小松市って何？
古代中世の南加賀は日本の歴史の交差点
❖２万年前の後期旧石器時代の八里向山遺跡から出土したナイフ形石器
❖南部エリアから出土する装飾品素材の碧玉は、高度な技術で加工され
日本各地の王などを魅了
❖古代には、北陸地方最大規模の製陶・製鉄地域を形成
❖律令体制の最後となる「加賀国」が立国。この地は
政治・行政の中心に
❖人々を魅了する能「安宅」、歌舞伎十八番「勧進帳」の物語
民が育てたまち小松
❖加賀藩三代・前田利常公が殖産興業（加賀絹、小松瓦、畳表など）や
農業・物流・文化を振興
そして、町人文化が開花（裏千家と縁の深い茶道、寺社、曳山など）
❖伝統工芸品「九谷焼」を支える花坂陶石
❖日用杉を代表に、木材の主産地。海運を利用して京都の寺社にも利用
❖北前船（交易、食文化）の海運業で繁栄。今は航空輸送で栄える小松空港
❖鉱山をルーツに、国内外で活躍する機械産業に進化
誇れる優れた技術・自然と景観
❖世界に誇る建設機械・輸送機械の次世代技術
（ハイブリッド、ICTなど）
❖環境王国育ちの蛍米や、トマト・小松うどんなどは、おいしい
食ブランド
❖「日本三名山」霊峰白山の素晴らしい眺望
❖県内唯一の姿を残す水郷木場潟では、
天皇・皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、全国植樹祭開催（2015年５月）
日本の「絶景の道100選」として、健康レクリエーションのメッカに
❖開湯1300年の歴史、粟津温泉
●問い合わせ先
小松市 総合政策部 経営政策課
〒923-8650 石川県小松市小馬出町91番地
TEL：0761-24-8037 FAX：0761-21-0285
E-mail：kikaku@city.komatsu.lg.jp

石川県及び小松市の産業構造

資料Ⅰ－8

1-1　石川県の事業所数の状況（産業大分類別）

産業大分類	事業所数	構成比	特化係数 全国を1とした場合
全産業	61,799	100%	1.00
農林漁業	424	0.69%	1.16
鉱業、砕石業、砂利採取業	28	0.05%	1.27
建設業	6,459	10.45%	1.12
製造業	7,603	12.30%	1.40
電気・ガス・熱供給・水道業	36	0.06%	0.72
情報通信業	582	0.94%	0.79
運輸業、郵便業	1,371	2.22%	0.92
卸売業、小売業	15,563	25.18%	0.99
金融業、保険業	1,031	1.67%	1.06
不動産業、物品賃貸業	3,095	5.01%	0.72
学術研究、専門・技術サービス業	2,315	3.75%	0.91
宿泊業、飲食サービス業	7,539	12.20%	0.93
生活関連サービス業、娯楽業	5,181	8.38%	0.96
教育、学習支援業	1,900	3.07%	1.00
医療、福祉	3,761	6.09%	0.81
複合サービス事業	439	0.71%	1.13
サービス業（他に分類されないもの）	4,472	7.24%	1.12

資料：経済センサス-基礎調査（平成26年）

1-2　小松市の事業所数の状況（産業大分類別）

産業大分類	事業所数	構成比	特化係数	
			石川県を1とした場合	全国を1とした場合
全産業	5,846	100%	1.00	1.00
農林漁業	23	0.39%	0.57	0.66
鉱業、砕石業、砂利採取業	1	0.02%	0.38	0.48
建設業	605	10.35%	0.99	1.11
製造業	1,029	17.60%	1.43	2.00
電気・ガス・熱供給・水道業	7	0.12%	2.06	1.47
情報通信業	42	0.72%	0.76	0.60
運輸業、郵便業	115	1.97%	0.89	0.81
卸売業、小売業	1,390	23.78%	0.94	0.94
金融業、保険業	86	1.47%	0.88	0.94
不動産業、物品賃貸業	231	3.95%	0.79	0.57
学術研究、専門・技術サービス業	243	4.16%	1.11	1.01
宿泊業、飲食サービス業	687	11.75%	0.96	0.90
生活関連サービス業、娯楽業	520	8.89%	1.06	1.01
教育、学習支援業	165	2.82%	0.92	0.92
医療、福祉	331	5.66%	0.93	0.75
複合サービス事業	46	0.79%	1.11	1.25
サービス業（他に分類されないもの）	325	5.56%	0.77	0.86

資料：経済センサス-基礎調査（平成26年）

2-1　石川県の従業者数の状況（産業大分類別）

産業大分類	従業者数	構成比	特化係数
			全国を1とした場合
全産業	544,250	100%	1.00
農林漁業	4,368	0.80%	1.30
鉱業、砕石業、砂利採取業	160	0.03%	0.85
建設業	39,684	7.29%	1.10
製造業	110,452	20.29%	1.27
電気・ガス・熱供給・水道業	1,859	0.34%	1.00
情報通信業	10,872	2.00%	0.70
運輸業、郵便業	26,996	4.96%	0.88
卸売業、小売業	110,540	20.31%	0.97
金融業、保険業	12,706	2.33%	0.89
不動産業、物品賃貸業	10,438	1.92%	0.74
学術研究、専門・技術サービス業	11,912	2.19%	0.70
宿泊業、飲食サービス業	53,215	9.78%	1.02
生活関連サービス業、娯楽業	23,247	4.27%	0.98
教育、学習支援業	16,286	2.99%	0.95
医療、福祉	65,304	12.00%	0.96
複合サービス事業	6,798	1.25%	1.38
サービス業（他に分類されないもの）	39,413	7.24%	0.89

資料：経済センサス-基礎調査（平成26年）

2-2　小松市の従業者数の状況（産業大分類別）

産業大分類	従業者数	構成比	特化係数	
			石川県を1とした場合	全国を1とした場合
全産業	51,502	100%	1.00	1.00
農林漁業	251	0.49%	0.61	0.79
鉱業、砕石業、砂利採取業	2	0.00%	0.13	0.11
建設業	2,977	5.78%	0.79	0.88
製造業	16,946	32.90%	1.62	2.06
電気・ガス・熱供給・水道業	231	0.45%	1.31	1.31
情報通信業	396	0.77%	0.38	0.27
運輸業、郵便業	2,119	4.11%	0.83	0.73
卸売業、小売業	8,945	17.37%	0.86	0.83
金融業、保険業	971	1.89%	0.81	0.72
不動産業、物品賃貸業	787	1.53%	0.80	0.59
学術研究、専門・技術サービス業	1,049	2.04%	0.93	0.65
宿泊業、飲食サービス業	4,651	9.03%	0.92	0.94
生活関連サービス業、娯楽業	2,389	4.64%	1.09	1.06
教育、学習支援業	840	1.63%	0.55	0.52
医療、福祉	6,394	12.42%	1.03	0.99
複合サービス事業	701	1.36%	1.09	1.51
サービス業（他に分類されないもの）	1,853	3.60%	0.50	0.44

資料：経済センサス-基礎調査（平成26年）

３－１　石川県の製造品出荷額等の状況（産業別）

産業別	製造品出荷額等（万円）	構成比	特化係数 全国を1とした場合	
合計	260,194,318	100%	1.00	
食料品	15,499,658	6.0%	0.71	
飲料・たばこ・飼料	1,095,844	0.4%	0.13	
繊維工業	20,019,162	7.7%	6.15	
木材・木製品	2,355,765	0.9%	1.09	
家具・装備品	7,290,655	2.8%	4.46	
パルプ・紙	2,304,119	0.9%	0.39	
印刷	6,929,406	2.7%	1.52	
化学工業	14,911,824	5.7%	0.62	
石油・石炭	X	X	X	
プラスチック製品	6,084,040	2.3%	0.61	
ゴム製品	486,573	0.2%	0.19	
皮革	X	X	X	
窯業・土石	6,672,991	2.6%	1.08	
鉄鋼業	4,937,787	1.9%	0.30	※
非鉄金属	4,063,995	1.6%	0.52	※
金属製品	13,612,790	5.2%	1.14	※
はん用機械	8,952,212	3.4%	1.03	※
生産用機械	64,845,873	24.9%	4.58	※
業務用機械	4,419,593	1.7%	0.74	※
電子部品	33,999,361	13.1%	2.89	※
電気機械	9,446,002	3.6%	0.64	※
情報通信	15,642,547	6.0%	2.12	※
輸送機械	13,107,795	5.0%	0.25	※
その他製品	2,947,632	1.1%	0.85	
※機械合計	173,027,955	66.4%	1.15	

資料：工業統計調査（平成26年）
X＝公開データ無し

３－２　小松市の製造品出荷額等の状況（産業別）

産業別	製造品出荷額等（万円）	構成比（%）	特化係数 石川県を1とした場合	特化係数 全国を1とした場合
合計	59,966,261	100.0%	1.00	1.00
食料品	816,541	1.4%	0.23	0.16
飲料・たばこ・飼料	36,903	0.1%	0.15	0.02
繊維工業	2,452,516	4.1%	0.53	3.26
木材・木製品	65,246	0.1%	0.12	0.13
家具・装備品	6,231,544	10.4%	3.71	16.56
パルプ・紙	51,725	0.1%	0.10	0.04
印刷	409,338	0.7%	0.25	0.38
化学工業	X	X	X	X
石油・石炭	－	－	－	－
プラスチック製品	626,341	1.0%	0.45	0.28
ゴム製品	X	X	X	X
皮革	－	－	－	－
窯業・土石	493,711	0.8%	0.32	0.34
鉄鋼業	664,650	1.1%	0.58	0.18
非鉄金属	74,050	0.1%	0.08	0.04
金属製品	1,748,948	2.9%	0.56	0.64
はん用機械	598,585	1.0%	0.29	0.30
生産用機械	30,245,246	50.4%	2.03	9.28
業務用機械	X	X	X	X
電子部品	4,782,631	8.0%	0.61	1.76
電気機械	926,524	1.5%	0.43	0.28
情報通信	X	X	X	X
輸送機械	5,950,354	9.9%	1.98	0.50
その他製品	X	X	X	X

資料：工業統計調査（平成26年）
X＝公開データ無し

３－３ 市町別製造品出荷額等の状況

	市郡町	製造品出荷額等（万円）			
		平成25年	平成26年	増減数	増減率(%)
	合計	**242,427,300**	**260,194,318**	**17,767,018**	**7.3**
	金沢市	40,144,973	41,840,650	1,695,677	4.2
	七尾市	5,385,443	5,531,613	146,170	2.7
○	小松市	56,527,900	59,966,261	3,438,361	6.1
	輪島市	1,739,669	1,662,891	△ 76,778	△ 4.4
	珠洲市	1,013,910	1,040,495	26,585	2.6
○	加賀市	15,323,192	17,063,291	1,740,099	11.4
	羽咋市	3,809,373	4,047,179	237,806	6.2
	かほく市	10,580,261	11,065,056	484,795	4.6
	白山市	46,074,950	49,445,547	3,370,597	7.3
○	能美市	29,678,759	32,583,092	2,904,333	9.8
	野々市市	2,633,760	2,953,593	319,833	12.1
○	川北町	5,017,782	4,547,488	△ 470,294	△ 9.4
	津幡町	4,084,927	4,995,928	911,001	22.3
	内灘町	346,952	369,191	22,239	6.4
	志賀町	6,622,728	6,778,853	156,125	2.4
	宝達志水町	9,278,891	11,891,795	2,612,904	28.2
	中能登町	2,994,439	3,239,367	244,928	8.2
	穴水町	542,694	605,360	62,666	11.5
	能登町	626,697	566,668	△ 60,029	△ 9.6

資料：工業統計調査（平成26年）

○＝南加賀地域の市町

※南加賀地域の合計（平成26年）　114,160,132万円

資料Ⅰ－９

第七次看護職員需給見通しについて

このたび、国において、第七次看護職員需給見通しが発表されました。県としては、今回の需給見通しによる看護職員の確保が着実に進展するよう、今後とも、看護職員の養成・定着の促進、再就業の支援に積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

１　概要

・ 看護職員の計画的、安定的な確保を図るため、国において各都道府県が行った調査等をもとに、需給見通しを概ね５年ごとに策定しているもの（平成22年12月公表）

・ 期間：平成２３年～平成２７年

２　第七次看護職員需給見通し

(1)　全国の需給見通し

（単位：人、常勤換算）

区　　分	平成２３年 ①	平成２７年 ②	増減（②－①） 人数	増減（②－①） 増減率
需　要　見　通　し	1,404,300	1,500,900	96,600	106.9%
供　給　見　通　し	1,348,300	1,486,000	137,700	110.2%
需要見通しと供給見通しの差	△ 56,000	△ 14,900		
（供給見通し／需要見通し）	96.0%	99.0%		

(2)　石川県の需給見通し

（単位：人、常勤換算）

区　　分	平成２３年 ①	平成２７年 ②	増減（②－①） 人数	増減（②－①） 増減率
需　要　見　通　し	16,579	17,534	955	105.8%
① 病　　院	10,909	11,478	569	105.2%
② 診　療　所	2,528	2,579	51	102.0%
③ 助　産　所	31	35	4	112.9%
④ 訪問看護ステーション	277	299	22	107.9%
⑤ 介護保険関係	1,812	2,042	230	112.7%
⑥ 社会福祉施設、在宅サービス（⑤を除く）	293	344	51	117.4%
⑦ 看護師等学校養成所	216	228	12	105.6%
⑧ 保健所・市町村	405	404	△ 1	99.8%
⑨ 事業所、研究機関等	108	125	17	115.7%
供　給　見　通　し	16,203	17,485	1,282	107.9%
⑩ 年当初就業者数	15,875	17,169	1,294	108.2%
⑪ 新卒就業者数	449	449	0	100.0%
⑫ 再 就 業 者 数	1,293	1,410	117	109.0%
⑬ 退職等による減少数	1,414	1,543	129	109.1%
需要見通しと供給見通しの差	△ 376	△ 49		
（供給見通し／需要見通し）	97.7%	99.7%		

資料Ⅰ－10

石川県内の看護師養成所の状況

○石川県内の看護師養成所（2年課程を除く）入学定員　（単位：人）

区　分	学校名	学部・学科等名	入学定員
大　学	金沢大学	医薬保健学域保健学類看護学専攻	80
	石川県立看護大学	看護学部看護学科	80
	金沢医科大学	看護学部看護学科	70
	金城大学	看護学部看護学科	80
	小　　計		310
専修学校（3年制）	石川県立総合看護専門学校	第二看護学科・第三看護学科（定時制）	85
	金沢医療センター附属金沢看護学校		80
	金沢医療技術専門学校	看護学科	80
	金沢看護専門学校	第1看護学科	40
	こまつ看護学校	看護学科	40
	七尾看護専門学校	看護学科	40
	加賀看護学校		36
	小　　計		401
高　校	石川県立田鶴浜高等学校	衛生看護科（5年一貫教育）	40
	小　　計		40
	合　　計		751

（公表資料より小松市作成）

（参考）近年の定員増加の状況

H25	＋10人	【定員変更】金沢医科大学（＋10人）
H26	＋6人	【定員変更】加賀看護学校（＋6人）
H27	＋120人	【学部新設】金城大学（＋80人） 【定員変更】金沢医療技術専門学校（＋40人）

○石川県内の看護師養成所（2年課程を除く）区分別入学定員充足状況　（単位：人）

区　分	項　目	H25	H26	H27	H28
大　学	入学者数	246	242	335	328
	入学定員	230	230	310	310
	充足率	107.0%	105.2%	108.1%	105.8%
専修学校（3年制）	入学者数	376	361	377	330
	入学定員	355	361	401	401
	充足率	105.9%	100.0%	94.0%	82.3%
高　校	入学者数	40	39	40	40
	入学定員	40	40	40	40
	充足率	100.0%	97.5%	100.0%	100.0%

主労働省「看護師等学校養成所入学状況及び卒業生就業状況調査」、石川県医療対策課資料、その他公表資料より小松市作成）

資料Ⅰ－11

石川県内の医療圏別看護職員数（人口 10 万対看護職員数）

看護職員数の推移

区分 / 年次		実人数（人）	人口 10 万対看護職員数（人）	
			石川県	全国
平成 18 年		14,839	1,266	986
平成 20 年		15,387	1,317	1,036
平成 22 年		16,219	1,386	1,089
	南 加 賀	2,895	1,231	
	石川中央	10,624	1,469	
	能登中部	1,870	1,375	
	能登北部	830	1,100	

「衛生行政業務報告」（厚生労働省）

出典：石川県「石川県医療計画」（平成 25 年４月）

資料Ⅰ－12

○都道府県別臨床工学技士従事者数

	臨床工学技士 常勤換算従事者数 （人） ①	人口推計(平成26年10月1日現在)総人口 （千人） ②	人口10万人対 臨床工学技士数 （人） ①/②×10万
高　知	239.6	738	32.5
大　分	311.3	1,171	26.6
北海道	1248.2	5,400	23.1
京　都	592.6	2,610	22.7
岡　山	417.9	1,924	21.7
徳　島	159.2	764	20.8
長　野	404.5	2,109	19.2
熊　本	333.9	1,794	18.6
福　島	357.1	1,935	18.5
香　川	174.6	981	17.8
福　岡	815	5,091	16.0
山　形	175.8	1,131	15.5
奈　良	213.8	1,376	15.5
愛　媛	216.6	1,395	15.5
滋　賀	218.1	1,416	15.4
広　島	409.5	2,833	14.5
沖　縄	204.1	1,421	14.4
鹿児島	237.9	1,668	14.3
全　国	17918.9	127,083	14.1
兵　庫	775	5,541	14.0
山　口	196.3	1,408	13.9
三　重	250.1	1,825	13.7
大　阪	1203.7	8,836	13.6
群　馬	261.1	1,976	13.2
山　梨	110.5	841	13.1
岐　阜	267.8	2,041	13.1
福　井	101.6	790	12.9
石　川	145.5	1,156	12.6
千　葉	777.6	6,197	12.5
静　岡	464	3,705	12.5
東　京	1660	13,390	12.4
島　根	86	697	12.3
宮　城	283.5	2,328	12.2
茨　城	345.3	2,919	11.8
富　山	125.7	1,070	11.7
神奈川	1068.5	9,096	11.7
長　崎	162.8	1,386	11.7
秋　田	121	1,037	11.7
埼　玉	833.4	7,239	11.5
新　潟	265	2,313	11.5
愛　知	849.7	7,455	11.4
鳥　取	64.6	574	11.3
栃　木	221.1	1,980	11.2
岩　手	133	1,284	10.4
佐　賀	85.8	835	10.3
和歌山	97.6	971	10.1
青　森	131	1,321	9.9
宮　崎	102	1,114	9.2

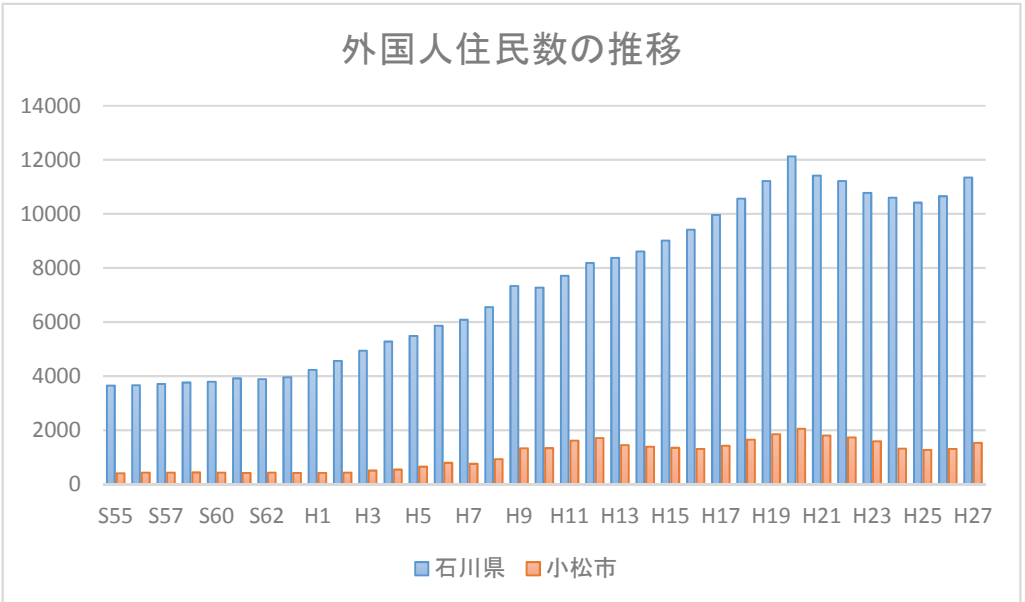
資料：厚生労働省「平成26年病院報告」より小松市作成

資料Ⅰ－13

市町別外国人住民数

市　町	住基人口（人）	外国人住民数（人）	割合（%）
総　　計	1,157,025	11,343	1.0%
金　沢　市	454,367	4,694	1.0%
小　松　市	108,578	1,529	1.4%
能　美　市	49,966	921	1.8%
白　山　市	112,829	822	0.7%
加　賀　市	69,377	713	1.0%
七　尾　市	55,380	450	0.8%
野々市市	51,643	444	0.9%
かほく市	34,974	247	0.7%
輪　島　市	28,828	226	0.8%
津　幡　町	37,757	198	0.5%
内　灘　町	26,942	197	0.7%
能　登　町	18,748	192	1.0%
中能登町	18,716	182	1.0%
宝達志水町	13,871	145	1.0%
志　賀　町	21,666	111	0.5%
珠　洲　市	15,533	89	0.6%
羽　咋　市	22,578	88	0.4%
穴　水　町	8,986	69	0.8%
川　北　町	6,286	26	0.4%

（石川県公表資料より小松市作成）



資料Ⅰ－14

小松空港の状況

○小松空港　国際線利用者数

（単位：人）

年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
人数	87,992	79,294	74,068	86,975	91,147	108,491
指数（%）	100	90.1	84.2	98.8	103.6	123.3

年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
人数	114,546	144,074	158,143	176,078	172,455
指数（%）	130.2	163.7	179.7	200.1	196.0

出典：小松空港協議会/小松空港国際化推進協議会「小松空港の概要」（平成28年５月）

○平成27年　空港別乗降客数
順位（１～15位）

旅客（国際）　（単位：人）

順位	空港	年間旅客数
1	成田国際	28,030,478
2	関西国際	16,171,926
3	東京国際	12,754,453
4	中部国際	4,687,276
5	福岡	4,357,009
6	那覇	2,328,142
7	新千歳	2,112,737
8	静岡	390,740
9	広島	274,300
10	函館	204,856
11	小松	192,913
12	旭川	182,039
13	仙台	172,871
14	鹿児島	154,140
15	高松	149,196

○平成27年　空港別貨物取扱量
順位（１～15位）

貨物（国際、積+卸）　（単位：t）

順位	空港	年間貨物量
1	成田国際	2,035,968
2	関西国際	697,374
3	東京国際	332,065
4	那覇	177,386
5	中部国際	172,523
6	福岡	49,208
7	小松	11,450
8	新千歳	10,786
9	北九州	3,062
10	鹿児島	2,403
11	佐賀	2,145
12	長崎	977
13	静岡	405
14	広島	368
15	百里	300

出典：国土交通省「平成27年空港別順位表」

資料Ⅰ-15

県内企業の海外展開の状況

○石川県内輸出企業数

（単位：社）

	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
輸出企業	121	142	136	147	150	169	182

出典：石川県「石川県産業国際展開戦略」（平成26年5月）

○石川県内の海外進出企業数及び海外拠点数の推移

（単位：社）

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年
機械産業	25	26	26	26	27	29	35	43	42
食品産業	5	6	8	7	8	11	6	7	7
繊維産業	12	13	12	15	16	16	14	17	19
IT産業	20	19	18	19	21	19	16	15	17
伝統産業	2	2	3	4	4	4	4	4	4
その他	28	27	29	32	34	35	37	34	38
合計	92	93	96	103	110	114	112	120	127
	（166拠点）								（232拠点）

出典：石川県「石川県産業国際展開戦略」（平成26年5月）

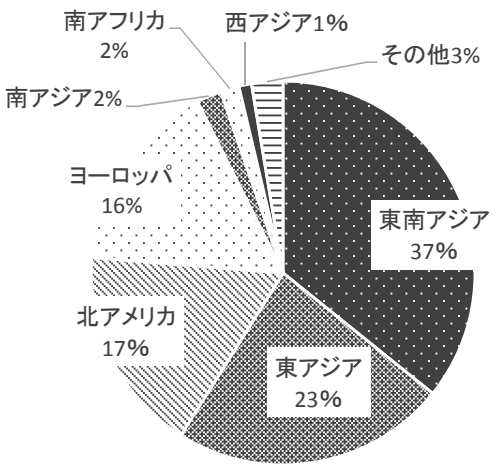
○都道府県別の海外進出企業数・割合（中小企業）

	直接投資企業数	直接投資企業割合
全国平均	119.8社	0.32%
石川県	36社	0.20%

出典：石川県「石川県産業国際展開戦略」（平成26年5月）

○石川県内企業の今後の海外展開候補地域

展開候補地域	延べ企業数（社）
東南アジア	68
タイ	17
インドネシア	15
ミャンマー	7
ベトナム	5
シンガポール	5
マレーシア	5
ASEAN全般	14
東アジア	44
北アメリカ	33
ヨーロッパ	31
南アジア	4
南アメリカ	3
西アジア	2
その他	5



出典：石川県「石川県産業国際展開戦略」（平成26年5月）
「石川県の新産業振興指針の策定に係るアンケート調査」より

生産システム科学部生産システム科学科カリキュラムマップ

資料Ⅳ－1

【設置の趣旨・必要性】
○本学が立地する南加賀地域は、石川県内屈指のものくりの地域であり、機械系を中心とした産業は地域経済の柱となっている。
○高度専門人材やグローバル人材など企業の付加価値創造をリードする人材を養成が求められている。
○情報通信技術の進歩によるものづくりの概念の変質などの、世界の製造業で起こりつつある変化を先取りできる素養を身に着けた機械設計技術の育成が急務となっている。

【養成する人材像】
○南加賀地域における知の拠点として、地域に確固たる軸足を置きながら、現代社会全体が直面している地球環境と高度情報化社会などの世界的課題の解決に向け、機械工学と電気・電子工学、情報工学の分野の専門知識・能力を広く修得した人材（DP①②）
○自然及び社会と共生する生産システムの構築によりサスティナブル（持続可能な）社会の実現に資する事ができる人材（DP④）
○地域社会と世界の持続的発展に向けた生産システム構築に関し、広い視野と高度な実践的スキルをあわせもった地域と世界に貢献できる人材（DP③⑤）

また、コースごとに次の養成する人材像を置く。
【生産機械コース】機械工学と電気・電子工学、情報工学の諸技術を多彩に運用して、環境にやさしい新規な生産システムの構築や関連する新たな工学分野を開拓する人材。
【知能機械コース】機械工学の基盤の上に電気・電子工学と情報通信技術を取り入れた、高度情報化社会に適応する新規な生産システムの構築や関連する新たな工学分野を開拓する人材。

アドミッション・ポリシー
本学科の教育理念及び教育科目に共感し、地域と世界の産業に貢献しようとする学生

①数学、物理など、ものづくりの仕組みを理解できる基礎学力を有し、機械、電気、電子、情報に関する知識や仕組みについて高い関心をもつ人

②豊かな教養と幅広い人間性を備え、地域社会の持続的発展に誇りと喜びを持って貢献できる人

③サスティナブル（持続可能な）社会の実現を目指し、未来の生産システムの構築に強い意欲をもって取り組める人

カリキュラム・ポリシー
○機械工学と、電気・電子情報工学の諸技術を有機的かつ体系的に修得する
○諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展に貢献できる人材を育成

①工学や科学の基礎となる数学・物理学の応用力を修得する

②機械工学、電気・電子工学、情報工学を有機的かつ体系的に修得する

③諸技術を多彩に運用し、環境と社会に調和する新しい生産システム構築に向けて、地域社会と世界の持続的発展のための課題探求能力を修得する

④地域社会と世界の持続的発展のためのコミュニケーション能力を修得する

教育課程

1年 前期
◎導入科目
キャリアデザイン・チーム論Ⅰ
アカデミック・スキルズ
情報処理基礎
◎人間力科目
◎社会力科目
日本産業史
自然資源と環境問題
◎科学力科目
データ科学と社会
統計学
現代科学技術論
◎健康と体力
◎外国語

応用数学Ⅰ
工業数学
応用物理学

関連する共通教育科目（再掲）
情報処理基礎
データ科学と社会

関連する共通教育科目（再掲）
キャリアデザイン・チーム論Ⅰ
現代科学技術論
日本産業史
自然資源と環境問題

関連する共通教育科目（再掲）
英語Ⅰa
英語Ⅰb
アカデミック・スキルズ

1年 後期
＜共通教育科目＞
南加賀の歴史と文化
テーマ別基礎ゼミ
文章表現法
情報処理応用A
クリティカルシンキング
※ ◎マークは各領域

応用数学Ⅱ
複素解析
工業力学
化学入門

プログラミングⅠ
情報処理応用A

英語Ⅱa
英語Ⅱb
クリティカルシンキング
文章表現法

2年 前期
・学びの場「南加賀」への理解
・生産システムの学修への動機づけ
・技術者としての教養
・文章表現や思考力の基礎修得
・科学技術の発展による恩恵・課題についての基礎理解・思考力養成

統計・確率論
・数学・物理・化学の基礎力

アクティブラーニング重点科目

数学・物理から工学的発展・応用へ

材料力学及び演習
工業熱力学及び演習
流れ学及び演習

・電気・電子工学の基礎力
電気回路及び演習
エレクトロニクス概論

プログラミングⅡ
・情報工学の基礎力

・持続可能社会において求められる生産システムの知識・技能
・技術者としての倫理観

英会話

（再掲）赤で囲った科目はコース必修科目
統計・確率論

（再掲）赤で囲った科目はコース必修科目
エレクトロニクス概論
プログラミングⅡ

2年 後期
振動工学及び演習
機械加工学
機械材料学
機械要素設計

電気制御学
応用電磁気学

アルゴリズム論

数値解析
機械設計製図Ⅰ

技術者倫理
エネルギー資源と開発

技術英語Ⅰ

機械加工学
電気制御学
機械材料学
機械要素設計

アルゴリズム論

3年 前期
生産工学
ロボット機構学
・機械工学の基礎と応用力

・電気・電子工学の応用力
制御工学
電子回路

情報科学概論
データベース論

機械工作実習
機械電気工学実験Ⅰ
機械設計製図Ⅱ

知識・技能を活用した課題解決力

環境適合技術論

学外技術体験実習A
学外技術体験実習B

技術英語Ⅱ

環境適合技術論

アルゴリズム論

3年 後期
電気機器工学

人工知能
画像認識論
データマイニング

機械電気工学実験Ⅱ

課題探求プロジェクト

生産技術
資源有効利用学

学外技術体験実習A（再掲）
学外技術体験実習B（再掲）

技術英語演習Ⅰ

資源有効利用額

人工知能
電気機器工学
画像認識論
データマイニング

4年 前期
センサと通信
インテリジェント生産システム
・情報工学の応用力

・実践的な技能
・課題解決力・研究能力

卒業研究

サスティナブル社会に求められる知識・理解

地球環境と環境流体

・ものづくりの現場における自主性、協調性

技術英語演習Ⅱ

・技術者に求められる専門的な英語力、国際コミュニケーション力

課題研究ゼミナール

・学術文献の読解力、資料作成能力、プレゼンテーション力

地球環境と環境流体

・環境にやさしい生産システムの構築に向けた知識・理解

センサと通信
インテリジェント生産システム

・情報化社会に適応した生産システムの構築に向けた知識・理解

4年 後期
研究力、国際コミュニケーション力

ディプロマ・ポリシー
学科の養成する人材像に基づき、以下の項目にあげる学科共通及び各コースで教授する個別の専門能力を身につけた者を、環境と社会に調和する生産システムを構築できる人材とみなし、学士（工学）を授与する。

DP①
幅広い分野の教養を身につけるとともに、自然科学の基礎として重要な数学・物理学についての基礎的能力を有する。

DP②
ものづくり産業技術の基盤となる機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎的及び専門的な知識を習得している。

DP③
専門分野の技能を身に付け、修得した知識・技能を組み合わせて実践的に課題の解決に取り組むことができる。

DP④
生産システムが果たす役割を理解し、自然及び社会と共生するための仕組み構築に向けた知識を習得している。

DP⑤
研究を推進するための、自主性、協調性、思考力、文章作成能力、発表・報告能力および国際的コミュニケーション能力を身につけている。

生産機械コース
機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、環境にやさしい生産システムを実現するための科学的思考力と実践力を習得している。

知能機械コース
機械工学、電気・電子工学、情報工学の基礎を身に付け、高度情報化社会に適応した生産システムを実現するための科学的思考力と実践力を習得している。

コースごとのディプロマ・ポリシーA・B

想定される進路・就職先
北陸一円の大手及び中堅の製造業全般、大学院進学、大学や公設の試研研究所など教育・研究機関

※各コースの特長を活かした就職先として次のものが挙げられる。

【生産機械コース】
地元で活躍している環境に関連した、自動車部品リサイクル、焼却炉メーカー、環境機器メーカー

【知能機械コース】
地元で活躍している電子機器メーカー、通信機器メーカー、半導体メーカー

共通教育科目
専門礎科目
専門共通科目
専門科目

黒の囲い：選択科目、選択必修科目
赤の囲い：必修科目

保健医療学部看護学科カリキュラムマップ

資料Ⅳ－2

【設置の趣旨・必要性】
○地域医療、そして地域に住まう人々の健康増進を幅広く支援できる看護師の養成のため、保健師課程を選択制として設け、看護師のみを目指す学生に対しても、地域全体を見る視点、チーム医療の視点、在宅看護、個々人に対するフィジカルそしてメンタルアセスメント力の修得など、公衆衛生、地域医療に関する看護教育を充実させ、今日までの地域の看護人材育成と安定供給を担ってきたこまつ看護学校を４年制大学へと発展させ、これからの時代に求められる知識、技術、姿勢をあわせもつ看護専門職業人育成を実現する。
○医療・介護などのさらなる機能分化と連携強化を推進することで、ますます進行する超高齢化社会に対応できる医療体制の構築を目指し、質の高い看護職員の養成と供給を強化していく。
○地域の大学における看護教育を希望する学生の高いニーズに対応する。
○高齢化に対して、急性期医療と在宅医療の両立により患者の「くらし」を重視した看護ケア体制を整備するため、幅広い知識と教養を身につけたジェネラリストの基盤となる看護基礎教育が十分行き届いた人材の確保に向け、地域の将来のための看護教育と人材輩出の役割を担う。

【養成する人材像】
顕在または潜在する健康問題を抱える対象の反応をアセスメントし、その人にとって望ましい看護ケアの提供の実現に向けて、看護師として求められる知識、能力とともに、病を抱える人や老いを生きる人の心身の痛みに共感できるしなやかで繊細な感性と、人としての深さを併せもち、幅広い領域で求められる看護ケアを的確かつ柔軟に提供できる看護専門職業人を育成する。(DP①～⑧)

アドミッション・ポリシー

本学科の設置の目的、教育理念と教育目標に共感し、次に示した3つのすべてを併せもつ次のような学生を求める。

人々の営みや健康問題に関心を持ち、看護師または保健師として地域社会の医療・保健・福祉分野の発展に貢献しようと努力する人

相手の立場に立ち、思いやりをもって接することができる人

看護学として必要とされる専門知識・技術を学ぶための基礎学力を持った人

カリキュラム・ポリシー

教育目的に応じて6つのステージに分け、段階的に実施していく。

①人の身体と心を知るステージ

看護学を学ぶ上で基礎となる「人」の身体と心について理解する。

②人の健康問題を考えるステージ

疾病や治療などの臨床医学とあわせて、生活主幹病やメンタルヘルス不調、認知症に関して看護ケアを提供するための知識や能力を修得する。

③看護とは何かを考えるステージ

主に基礎看護学の科目を配置し、南加賀地域において将来的にどのような役割が看護師に求められているのかを理解し、学修意欲を高める。根拠に基づき看護を計画的に実践する基礎能力、および、ヒューマンケアの基本に関する実践能力を育成する。

④看護ケア能力を育てるステージ

①～③において、看護することの全体像を描いた後、特定の健康課題に対して、看護ケアが提供できる実践能力を育成する。

⑤看護ケア能力を拡げるステージ

在宅看護学と看護の統合、公衆衛生看護学に係る科目は2年次から4年次にかけて継続的に受講し、看護実践能力を臨床から地域へ拡げる意識を強く持ちながら、ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力を長期的な視野で育成する。

⑥看護の未来を共創するステージ

「看護の未来を共創する」を最後の学びのステージとして、看護学の伝承から、看護学の発展をめざし、学生自身が主体となって、看護の未来を教員と共に創る学びを充実させ、専門職業人として研鑽し続けるための基本能力を育成する。

教育課程

	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期
共通教育科目	＜共通教育科目＞ ◎導入科目… キャリア・デザインチーム論Ⅱ、アカデミックスキルズ、情報処理基礎、テーマ別基礎ゼミ、南加賀の歴史と文化 ◎人間力科目…心理学、人間の発達と心　など ◎社会力科目…日本国憲法、言葉と文化　など ◎科学力科目…クリティカルシンキング、統計学　など ◎健康と体力、外国語　など		・教育の場「南加賀」への理解 ・看護学の学修への動機づけ ・医療従事者としての教養					
専門基礎科目	解剖学、生理学、病理学 心と健康のストレスマネジメント論	感染免疫学 栄養・生化学 薬理学	・人体の構造と機能に関する知識					
専門科目	認知症ケア論		老年疾病・治療論 急性疾患学 母子疾病・治療学 公衆衛生学	生活習慣病論 保健医療福祉法制度論 疫学・保健統計学	・臨床医学の知識 ・顕在化する健康問題への理解 ・社会集団や医療・福祉制度の仕組みの理解			
	市民健康論 ・地域住民の健康に係る実態把握 ・地域の看護師としての役割の理解		看護学概論 基礎看護実習Ⅰ 【基礎看護学】 看護の技基礎コースⅠ 看護の技基礎コースⅡ 看護ケア提供論：看護理論と看護過程 看護の品格育成論 看護倫理	看護の技基礎コースⅢ 基礎看護学実習Ⅱ	・看護対象の目線に立った看護ケアのあり方の ・看護師としての心構え ・看護実践に必要な基礎知識の修得 ・根拠に基づく計画的看護ケア手法の修得			
	【精神保健看護学】		精神保健看護学概論 精神保健看護ケア提供	精神保健看護学演習 精神保健看護学実習Ⅰ	精神保健看護学実習Ⅱ		・精神保健看護ケアの知識と能力の修得	
	【老年看護学】		老年看護学概論 老年看護ケア提供論	老年看護演習	老年看護実習Ⅰ 老年看護実習Ⅱ		・老年看護ケアの知識と技能	
	【成人看護学】		成人看護学概論 成人看護ケア提供論	成人看護演習	成人看護実習Ⅲ 成人看護実習Ⅰ 成人看護実習Ⅱ		・成人看護ケアの知識と技能	
	【母性看護学】		母性看護学概論 母性看護ケア提供論	母性看護演習	母性看護実習		・母性看護ケアの知識と技能の修得	
	【小児看護学】		小児看護学概論 小児看護ケア提供論	小児看護実習 小児看護演習	小児看護実習Ⅱ		・小児看護ケアの知識と技能	
	【在宅看護学】			在宅看護学概論 在宅看護ケア提供論 在宅看護演習	在宅看護実習		・在宅看護ケアの知識と技能	
	【公衆衛生看護】			公衆衛生看護学概論 健康教育論	疫学・保健統計学演習 公衆衛生看護方法論Ⅰ 公衆衛生看護方法論Ⅱ	公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護方法論Ⅲ 公衆衛生看護方法論Ⅳ 公衆衛生看護方法論Ⅳ 公衆衛生看護実習	・公衆衛生看護活動のための知識と能力	
							看護統合実習	・医療現場での看護実践能力
							看護熟練の技科目群 安全・安楽なポジショニングの技 排便ケア 看護リーダー 食と看護 タッチケア・スキル ノンテクニカル・スキル MMPI心理検査と看護ケア ・具体的看護スキル	
							看護未来創出科目群 グローバル感染対策 看護技術の科学的検証 地域の健康課題と他職種連 統合医療 地域包括ケア ・地域の看護課題への対応	
							看護と異文化理解 チーム医療論 研究方法論 卒業研究	

専門基礎科目
- 人の身体と心を知る
- 人の健康問題を考え

専門科目
- 看護とは何かを理解する
- 看護ケア能力を育てる
- 看護ケア能力を拡げる
- 看護の未来を共創する

黒の囲い：選択科目、選択必修科目
赤の囲い：必修科目

ディプロマ・ポリシー

卒業までに所定の単位を取得し、本学科の養成する人材像の実現に必要な次の知識、能力を修得した者に、学士（看護学）を授与する。具体的な能力は次のとおりである。

【DP①】
看護を必要とする対象に望むケアを提供するための基本的知識、技術、態度を備えている。

【DP②】
少子化、高齢化、認知症、生活習慣病などの今後進行する看護課題について理解している。

【DP③】
病を抱える人、老いを生きる人の心身の痛みに寄り添い、共感するための感性・教養・倫理観を有している。

【DP④】
南加賀地域の健康課題を理解し、看護師に求められる素養と役割を認識している。

【DP⑤】
様々な段階の看護対象に対し、適切な看護ケアを提供できる専門知識、技術、態度を有している。

【DP⑥】
他の医療専門職業人と協働するための協調性、能力を身につけ、地域包括ケアシステム構築に向けて積極的に取り組むことができる。

【DP⑦】
看護ケアの課題解決策のための具体的な専門知識や能力を有している。

【DP⑧】
人種・地域の違いに臆することなく看護の専門性を発揮できる心と意欲を有している。

※保健師選択者
地域の保健指導や健康水準の向上に貢献するための公衆衛生看護ケアの知識や能力を備えている。

想定される進路・就職先

【国家試験受験資格】
・看護師
・保健師（選択者のみ）

【看護師】
・病院
・介護福祉施設
・訪問看護ステーション
・行政機関
など

【保健師】
・保健所
・病院
・教育機関
・企業
・行政機関
など

保健医療学部臨床工学科カリキュラムマップ

資料Ⅳ－３

【設置の趣旨・必要性】
○高度化、高機能化した医療機器が医療現場に投入されている中、適切に管理し、医師の指導のもとで安全な治療を提供するための「医療機器のスペシャリスト」として、臨床工学技士が幅広い医療領域で求められてきている。
○今後、高齢者自らの住まいにおいての在宅医療・介護連携の促進、提供が重要な課題となる中、高度医療機器を安全かつ効果的に使用していくため、臨床工学技士による量的、質的な支援体制の充実が求められている。
○これからの在宅医療への移行と充実に向け、先端医療分野から地域・在宅医療連携まで幅広く活躍できる優秀な臨床工学技士の安定供給を実現し、地域医療における課題解決に寄与することで、地域に住まう人々の健康増進、医療への安心などを通じて、地域医療の向上に貢献していく。

【養成する人材像】
○高度医療機器による安全かつ的確な医療技術の持続的提供ができる基礎力、応用力を備え、これらの課題に対応できる臨床工学技士。(DP③④⑤⑥)
○生命の尊厳と医療に携わることの職責の重さと医療人としての人格・教養と、チーム医療(保健・医療・福祉)や地域医療において他の医療職と連携・協調しながら主体的に行動できるための態度、科学的思考力、課題解決力を備えた臨床工学技士。(DP①②⑤⑥)

アドミッション・ポリシー

本学科の教育理念及び教育目標に共感し、本学科を成長の場としたいと願う次のような学生の入学を希望する

①人の尊厳を重んじ、生命への高い関心と倫理観を有する人

②臨床工学技士を志しており、地域医療の地域医療の現場で活躍したいと考える人

③臨床工学を学ぶための理数系科目の基礎学力と、医療に関する高い学修意欲を有する人

④医療機器の開発等を通じて、医療の発展に貢献したいと考える人

カリキュラム・ポリシー

より安全で的確な医療技術の持続的提供と、社会に対する幅広い視野をもち、地域における医療・保健・福祉の活動に貢献できる基本的能力を持つ臨床工学技士を育成することを目的として、次の科目を配置し教育課程を設定する。

①臨床工学に必要な医学の基礎知識を修得する

②臨床工学に必要な理工学の基礎知識、能力を修得する

③安心で安全な医療・保健・福祉を実践するための臨床工学技術を修得する

④生命維持管理装置および医用治療機器などの原理と操作、保守、点検に関する知識と能力を修得する

⑤患者にとって安全で効果的な医療の提供と地域の医療・福祉の課題解決に取り組むことができる能力を修得する

教育課程

1年 前期

◎導入科目
キャリアデザイン・チーム論Ⅱ
情報処理基礎

◎人間力科目
哲学
人間の発達と心

◎社会力科目
日本国憲法

◎科学力科目
統計学
教養としての物理

◎健康と体力
◎外国語

1年 後期

＜共通教育科目＞
アカデミック・スキルズ
南加賀の歴史と文化
テーマ別基礎ゼミ

公共政策論
社会福祉論

情報処理応用B
教養としての数学

※ ◎マークは各領域

＜医学的基礎＞
臨床工学総論
解剖学
生理学
生化学
病理学
看護学概論
医療関係法規
薬理学

＜理工学的基礎＞
電気工学Ⅰ
電気工学演習Ⅰ
応用数学
情報処理工学

科学的思考力の基礎から応用へ

基礎医学から臨床工学技術へ

2年 前期

・学びの場「南加賀」への理解
・臨床工学の学修への動機づけ

・医療従事者としての教養
・社会福祉制度の理解
・物理や数学の基礎知識

公衆衛生学
解剖生理学実習

電気工学Ⅱ
電気工学演習Ⅱ
電子工学Ⅰ
電子工学演習Ⅰ
プログラミング演習

医学と工学の併合領域の理解

＜医用生体工学＞
生体物性工学

＜医用機器学＞
医用機器学概論

＜生体機能代行技術学＞
呼吸機能代行装置学

＜医療安全機器管理学＞
医用機器安全管理学

2年 後期

医学概論
感染免疫学

電気工学実習
電子工学Ⅱ
電子工学演習Ⅱ
医用信号処理
医用機械工学

生体材料工学
医用治療機器学

呼吸機能代行装置学実習
循環機能代行装置学
代謝機能代行装置学

3年 前期

・人体の構造と機能、疾患の基礎の理解
・医学・医療の基本と全体像の理解

電子工学実習
医用工学
医用通信システム

生体計測工学
医用治療機器学実習
生体計測装置学

循環機能代行装置学実習
代謝機能代行装置学実習
臨床医学Ⅰ

医用機器安全管理学実習

3年 後期

・電気、電子工学の基礎知識と応用力

医用システム工学実習

・情報処理、信号処理、システム工学の基礎知識と応用力

臨床画像工学
画像診断装置学
生体計測装置学実習

・生体現象への医学的、工学的なアプローチに関する知識、能力

臨床医学Ⅱ
臨床医学Ⅲ

・生命維持管理装置の操作、保守、点検の手法
・臨床工学技士に必要な疾患の知識

・生体への安全性、医療機器及び設備で必要な安全性の理解

4年 前期

＜総合実践科目＞
臨床実習
チーム医療論
グローバル感染対策
看護技術の科学的検証
地域の健康課題と他職種連携
卒業研究Ⅰ

・現場での協調性、実践力
・多職種間連携の知識

・課題解決力・研究能力

4年 後期

地域包括ケア
卒業研究Ⅱ

ディプロマ・ポリシー

卒業までに所定の単位を修得し、本学科の養成する人材像に掲げる次の能力を修得した者に、学士(臨床工学)を授与する。

DP①
医療従事者としての役割を理解し、人の生命と関わることへの責任感と倫理観を有している。

DP②
臨床工学技士として必要な医学、工学に関する専門基礎知識を有している。

DP③
臨床工学技士が使用する医療機器の構造と操作・保守・点検の知識と能力を有している。

DP④
生命維持管理装置の安全で適切な取り扱いに関する知識、能力を有している。

DP⑤
チーム医療の一員として、他の医療専門職の役割を理解し、協力して患者の視点に立った医療の実践に取り組むことができる。

DP⑥
地域医療の現状や課題を的確に把握し、その課題解決に取り組むための知識、思考力を有している。

想定される進路・就職先

【国家試験受験資格】
臨床工学技士

病院、医療福祉機関、医療機器メーカー

大学院進学、大学など教育・研究機関

共通教育科目
医学的基礎科目
理工学的基礎科目
医用生体工学科目
医用機器学科目
生体機能代行技術学科目
医用安全管理学科目
総合実践科目

黒の囲い:選択科目、選択必修科目
赤の囲い:必修科目

国際文化交流学部国際文化交流学科カリキュラムマップ

資料Ⅳ－4

【設置の趣旨・必要性】
○我が国において、さらなる訪日外国人旅行者数の増加が見込まれる中、地域においても「観光振興」や「地域創生」の面からまちづくりを推進するため、地域資源を活かした交流拡大に取り組める人材を育成する。
○地域の外国人住民が増加し、人の価値観や生き方が多様化する中で、外国人住民も市民と同様にコミュニティの一員として活躍できるようなまちづくりが重要となっており、異文化を受容し、多文化共生社会の実現を担うリーダーとして、まちづくりに取り組むことのできる人材を育成する
○地域経済を支える中小企業が、小松空港などのインフラを活かし、グローバル化に対応する中で、今後も高い経済成長を続ける中国や東南アジアに向けた海外展開を進めていくためにも、英語・中国語等の外国語運用能力と豊かなコミュニケーション能力を身につけた人材を育成する。

【養成する人材像】
南加賀地域における知の創造の拠点として、同地域の歴史や文化を踏まえながら、国際社会に対する知識と国際感覚を備え、力強い人間力と豊かな知性・感性をもって、地域社会の創生と我が国の持続的発展に貢献できる次のような人材を育成する。
○地域における海外からのインバウンド受け入れと多文化共生社会の実現に寄与する人材
○地域を基盤として国際貿易、国際協力等に尽力する人材
○地域特性を生かした観光資源の開発とその海外への発信に貢献する人材
○豊かなコミュニケーション能力（文章表現能力を含む）と外国語運用能力を獲得した人材
また、コースごとに次の養成する人材像を置く。
【国際観光・地域創生コース】
世界を俯瞰した観光学と農業を含む地域経済の実態に関する知識を身につけ、海外や地元での体験実習・社会実習などを通じて獲得した企画力と創造力を基礎として、国際的な視野から観光振興と地域創生に貢献できる人材。
【グローバルスタディーズコース】
世界各地域の政治、経済、社会及び言語文化に関する知識を身につけ、演習や海外での体験実習などで獲得した異文化理解・受容能力と情報収集能力及び我が国のあり方に関する自立的な思考力、判断能力を基礎として、外国語運用能力を駆使しながら地域の国際化に貢献できる人材。

アドミッション・ポリシー
本学科の教育理念及び教育目標に共感し、国際的視野から地域貢献を目指す次のような学生を求める。

①南加賀地域及び北陸の発展に強い意欲を有する人

②自国の文化に誇りをもち、国際社会とその文化的多様性を探求することを通じて、国際交流と地域社会の発展に貢献したい人

③海外事情に関心があり、外国語能力をさらに向上させたい人

④国際社会や地域社会などの実態調査を通じて情報分析能力を身につけたい人

⑤問題発見能力を鍛え、個性的な発想によって新しい価値を創造する意欲のある人

カリキュラム・ポリシー
ディプロマ・ポリシーに掲げる多様な人材を地域社会と企業に送り出すために、段階的履修を通じて一つの専門に偏らぬ学習ができるカリキュラム構成とする。コース分属後（2年後期～）、他コースから6単位以上を履修する。

① 基礎力の形成
DP①②に対応
(1) 1年次は、導入科目によって、本学科で学ぶ意義を理解し、一般教育科目によって幅広い素養を身につける。

(2) 2年次は、国際社会と地域社会についての基礎知識と専門分野へのアプローチの方法を学ぶ。

②外国語能力の形成
DP③に対応
1年次から3・4年次まで、英語、中国語を継続的、段階的に学習し、TOEICなどの検定試験によって到達段階を確認する。

③応用・実践力の形成
DP④に対応
3・4年次開講の演習、海外での語学研修、異文化体験実習及び国内での地域実習、インターンシップ等を通じて、異文化対応能力や地域からの発信能力を身につける。また、卒業論文執筆のプロセスを通じて調査、プレゼン能力等の向上を図る。

④地域の国際化を射程に入れた地域活性化や町づくりのための仕組みについて、観光という視点から考え、理解を深める。

⑤中国・台湾、ASEAN地域から中東及び旧ソ連圏に至る国際政治、経済、社会などについて幅広く学ぶ。

⑥言語そのものの分析や、文化や社会との関わりの理解と言語による文化的創造について幅広く学ぶ。

教育課程

1年 前期
・自己形成と学ぶ意義を考える
◎導入科目
キャリアデザイン・チーム論Ⅲ
アカデミック・スキルズ
◎人間力科目
◎社会力科目
◎科学力科目
◎健康と体力
◎外国語
※ ◎マークは各領域
国際交流論
関連する共通教育科目（再掲）
経済学
自然資源と環境問題
日本産業史
心理学
情報処理基礎
・専門教育の基礎となる豊かな教養の育成
英語Ⅰa
英語Ⅰb
中国語Ⅰ
中国語Ⅰa
中国語Ⅰb

1年 後期
＜共通教育科目＞
・地域を知る
南加賀の歴史と文化
テーマ別基礎ゼミ
国際交流に関する学修の流れ
人文地理学
文化人類学
政治学
社会学
言葉と文化
英語Ⅱa
英語Ⅱb
英語Ⅲ
・習熟度に応じて履修科目を決定
中国語Ⅱ
中国語Ⅱa
中国語Ⅱb

2年 前期
地域政策概論
観光学概論
異文化コミュニケーション論
グローバルヒストリー
アジア社会論
日本文化論
言語学概論
English comprehension Ⅰ
English comprehension Ⅱa
English expression Ⅰ
中国語Ⅲa
中国語Ⅲb
異文化体験実習
海外語学研修
主に「国際観光・地域創生コース」選択者が履修
主に「グローバルスタディーズコース」選択者で、国際社会、政治、経済の仕組みについて幅広く学びたい者が履修
主に「グローバルスタディーズコース」選択者で、言語の分析や言語と歴史、文化、社会の関わりについて幅広く学びたい者が履修

2年 後期
学科基幹科目
地域再生マネジメント論
サスティナブルツーリズム論
観光産業概論
世界遺産を学ぶ
観光社会学
（※再掲）
異文化体験実習、
海外語学研修
学科基幹科目
国際政治論
国際貿易論
アジア現代史概論
中国語圏社会文化論
英語圏言語文化論
中国言語文化論
英語圏文芸論
English comprehension Ⅱb
English expression Ⅱa
English expression Ⅱb
Tourism English Ⅰ
中国語Ⅳa
中国語Ⅳb

3年 前期
（※3・4年次に履修）
グローカル論
国際協力論
（※3・4年次に履修）
・国際社会の政治・経済・歴史・言語の基礎知識
English comprehension Ⅲ
English expression Ⅲ
（※3・4年次に履修）
Tourism English Ⅱ
中国語理解Ⅰ
中国語表現法
中国語会話
観光学演習A・B・C
地域創生演習
多文化共生社会演習
国際政治論演習A・B
国際経済論演習
国際社会論演習
社会言語学演習
日本語学演習
英語学演習
インターンシップⅠ・Ⅱ
地域実習
（※3・4年次に履修）
ホスピタリティマネジメント
マーケティング調査論
インバウンド観光論
観光資源論
フードシステム論
地理情報学概説
財政学
地域ブランディング論
東南アジア地域社会論
イスラーム社会論
資源エネルギー・環境論
メディア情報論
日本古典読解
社会言語学
日本語の歴史
英語研究A
中国語研究B
語用論

3年 後期
相互理解の心理学
多文化共生社会論
NGO論
（※3・4年次に履修）
English presentation Ⅰ
English presentation Ⅱ
中国語理解Ⅱ
ビジネス中国語
課題研究A
課題研究B
言語学演習
中国語学演習
日本文化論演習
インターンシップⅡ
バリアフリーツーリズム論
観光人類学
グリーンツーリズム論
社会調査法
地域産業論
農村地域振興論
観光地理学
観光人材育成論
（※3・4年次に履修）
中東政治論
新興国経済論
サブカルチャー論
現代メディア史
（※3・4年次に履修）
比較文学論
英語研究B
中国語研究A
日英対照言語表現論
（※3・4年次に履修）

4年 前期
・地域資源の活用に関する基礎的知識
・地域と世界を併せ持つ視点・社会を捉える力の養成
・多文化共生のための知識・理解、調査分析能力
・国際交流・国際協力のための知識・実践のための技能
・ビジネスなど、様々な場面で求められる外国語能力を養成
・外国語で考えを伝えることができる
・表現能力、発信能力の養成
・課題発見、問題解決能力の養成
卒業論文
・実践力
・コミュニケーション能力
・観光資源の活用と新しい観光の展開への理解
（※3・4年次に履修）
・世界各地の社会・政治・経済の理解
・メディアと世界の関わりの理解
（※3・4年次に履修）
・言語と文化を客観的に比較・分析する能力の養成
（※3・4年次に履修）

4年 後期
コースごとのディプロマ・ポリシーA・B

ディプロマ・ポリシー
学科の養成する人材像に基づき、以下の項目にあげる学科共通の能力を修得するとともに、それぞれのコースごとに求められる能力をを獲得した者に、学位（国際文化学）を授与する。

DP①地域貢献のための基礎力
南加賀地域の歴史と文化を理解し、地域経済と観光文化資源の活用に関する基礎的知識を習得している。

DP②グローカル人材としての素養
国際社会及びわが国の政治、経済、歴史、言語、文化等に関する豊かな知識と事象に対する洞察力を習得している。

DP③外国語能力
国際交流のための基礎となる外国語能力を学び、自己表現できる能力を習得している。

DP④社会への成果還元力
学習成果を生かして、観光振興、地域創生、国際交流に求められる企画・情報収集・分析・問題解決の各レベルに関する能力を身につけるとともに、コミュニケーション力と情報発信力を習得している。

A 国際観光・地域創生コース
観光をめぐる国際的な展開を理解するとともに、地域経済の仕組みと企業、地方自治体等における地域創生のための取り組みを学び、調査活動をプレゼンし、情報発信できる能力を習得している。

B グローバルスタディーズコース
外国語能力の基礎の上に、アジアを中心とする世界各地の政治、経済の仕組みと歴史、言語、文化に関する知識を身につけ、国際交流のための調査・分析能力と論理的な自己表現能力を習得している。

想定される進路・就職先
A 国際観光・地域創生コース
地方公務員
国家公務員
旅行代理店
ホテル
流通業
航空会社
鉄道会社
レジャー・リゾート施設

B グローバルスタディーズコース
大手製造業
専門商社
総合商社
地方公務員
マスコミ
旅行代理店
ホテル

共通教育科目
専門基礎科目
基礎外国語科目
専門外国語科目
専門科目（観光・地域創生系科目群）
専門科目（政治経済系科目群）
専門科目（言語文化系科目群）
専門科目（学部共通科目）
黒の囲い：選択科目、選択必修科目
赤の囲い：必修科目

資料Ｖ－１

公立大学法人公立小松大学就業規則（抄）（案）

（定年）

第〇条　職員の定年は 60 歳（教育職員の場合は 65 歳）とし、定年に達した年度の末日をもって退職とする。

２　前項の規定にかかわらず、定年後も引き続き雇用されることを希望し、解雇事由又は退職事由に該当しない者（教育職員を除く）については、満 65 歳まで継続雇用する。

３　第 1 項の規定にかかわらず、教育職員の定年は開学から 4 年間は 70 歳とし、5 年目以降 1 年毎に 1 歳ずつ逓減し、9 年目から 65 歳とする。但し、開学から 2 年間の内に採用された者は、最初の卒業生を出す年度まで雇用を継続する。

（定年の特例）

第〇条　前条の規定にかかわらず、次の各号に該当し、且つ学長が特に必要と認める者の定年は、必要な期間延長する。

(1) 教育者としてその指導力に定評があり、各界で活躍する著名な人材を多数育成し、社会に大きな影響を与えた者

(2) 国際的に評価の高い賞を授賞、或いは広く世界に恩恵をもたらす発明をする等、極めて優れた研究業績を有し、学界や産業界に貢献した者

(3) 産学連携を推進し、革新的技術の実用化や新産業の創出を実現した者

(4) 地域連携を推進し、地域ブランドの全国展開や観光資源開発、健康長寿の機序開発等により地域社会の持続的発展に寄与した者

(5) 所定の定年後も 5,000 万円以上の大型外部資金の獲得が確定している者

(6) その他、前各号に相当する功績を有する者

公立小松大学生産システム科学部生産システム科学科　生産機械コース履修モデル

総計単位数　124単位　以上

区分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅰ	1	テーマ別基礎ゼミ	2	日本産業史	2										
	2	アカデミック・スキルズ	1	南加賀の歴史と文化	2	経済学	2										
	3	情報処理基礎	2	人文地理学	2	心理学	2										
	4	哲学	2	クリティカルシンキング	2	現代科学技術論	2										
	5	データ科学と社会	2	英語Ⅱa	2	自然資源と環境問題	2										
	6	英語Ⅰa	2	英語Ⅱb	2												
	7	英語Ⅰb	2	情報処理応用A	2												
	8	健康と体の科学	2														
小計		8科目	14	7科目	14	5科目	10								0		0
専門基礎科目	1	応用数学Ⅰ	2	工業力学	2	材料力学及び演習	2	振動工学及び演習	2								
	2	工業数学	2	プログラミングⅠ	2	工業熱力学及び演習	2										
	3	応用物理学	2			流れ学及び演習	2										
	4					電気回路及び演習	2										
専門共通科目	1							機械設計製図Ⅰ	2	機械設計製図Ⅱ	2	生産技術	2	卒業研究		卒業研究	8
	2							数値解析	2	生産工学	2	機械電気工学実験Ⅱ	1	課題研究ゼミナール	1		
	3							技術英語Ⅰ	2	ロボット機構学	2	課題探求プロジェクト	1	技術英語演習Ⅱ	1		
	4							技術者倫理	2	機械工作実習	1	技術英語演習Ⅰ	1				
	5									機械電気工学実験Ⅰ	1						
	6									技術英語	2						
	7									学外技術体験実習A	1						
専門科目	1			応用数学Ⅱ	2	統計・確率論	2	機械材料工学	2	環境適合技術	2	資源有効利用学	2	地球環境と環境流体	2		
	2			複素解析	2			機械加工学	2	制御工学	2	電気機器工学	2				
	3			化学入門	2			機械要素設計	2								
	4							エネルギー資源と開発	2								
	5							電気制御学	2								
	6							応用電磁気学	2								
	7							アルゴリズム論	2								
小計		3科目	6	5科目	10	5科目	10	12科目	24	9科目	15	6科目	9	4科目（通年の科目を含む）	4	1科目	8
合計		11科目	20	12科目	24	10科目	20	12科目	24	9科目	15	6科目	9	4科目（通年の科目を含む）	4	1科目	8
				年間23科目	44			年間22科目	44			年間15科目	24			年間のべ5科目	12

※ピンクの塗りつぶしは通年科目

資料Ⅵ－1

公立小松大学生産システム科学部生産システム科学科　知能機械コース履修モデル

総計単位数　124単位　以上

区分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅰ	1	テーマ別基礎ゼミ	2	日本産業史	2										
	2	アカデミック・スキルズ	1	南加賀の歴史と文化	2	経済学	2										
	3	情報処理基礎	2	人文地理学	2	心理学	2										
	4	哲学	2	クリティカルシンキング	2	現代科学技術論	2										
	5	データ科学と社会	2	英語Ⅱa	2	自然資源と環境問題	2										
	6	英語Ⅰa	2	英語Ⅱb	2												
	7	英語Ⅰb	2	情報処理応用A	2												
	8	健康と体の科学	2														
小計		8科目	14	7科目	14	5科目	10		0		0		0		0		0
専門基礎科目	1	応用数学Ⅰ	2	工業力学	2	材料力学及び演習	2	振動工学及び演習	2								
	2	工業数学	2	プログラミングⅠ	2	工業熱力学及び演習	2										
	3	応用物理学	2			流れ学及び演習	2										
	4					電気回路及び演習	2										
専門共通科目	1							機械設計製図Ⅰ	2	機械設計製図Ⅱ	2	生産技術	2	卒業研究		卒業研究	8
	2							数値解析	2	生産工学	2	機械電気工学実験Ⅱ	1	課題研究ゼミナール	1		
	3							技術英語Ⅰ	2	ロボット機構学	2	課題探求プロジェクト	1	技術英語演習Ⅱ	1		
	4							技術者倫理	2	機械工作実習	1	技術英語演習Ⅰ	1				
	5									機械電気工学実験Ⅰ	1						
	6									技術英語	2						
	7									学外技術体験実習A	1						
専門科目	1			応用数学Ⅱ	2	エレクトロニクス概論	2	アルゴリズム論	2	制御工学	2	人工知能	2	インテリジェント生産システム	2		
	2			複素解析	2	プログラミングⅡ	2	応用電磁気学	2	電子回路	2	電気機器工学	2	センサと通信	2		
	3							電気制御学	2	情報科学概論	2	画像認識論	2				
	4							機械要素設計	2								
小計		3科目	6	4科目	8	6科目	12	9科目	18	10科目	17	7科目	11	5科目（通年の科目を含む）	6	1科目	8
合計		11科目	20	11科目	22	11科目	22	9科目	18	10科目	17	7科目	11	5科目（通年の科目を含む）	6	1科目	8
				年間22科目	42			年間20科目	40			年間17科目	28			年間のべ6科目	14

※ピンクの塗りつぶしは通年科目

資料Ⅵ－2

公立小松大学保健医療学部看護学科　看護師　履修モデル

総計単位数　127単位　以上

区分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1	テーマ別基礎ゼミ	2									自然資源と環境問題	2	クリティカルシンキング	2
	2	アカデミック・スキルズ	1	南加賀の歴史と文化	2												
	3	情報処理基礎	2	社会学	2												
	4	日本の伝統芸能	2	言葉と文化	2												
	5	心理学	2	英語Ⅱa	2												
	6	統計学	2	英語Ⅱb	2												
	7	英語Ⅰa	2	スポーツ演習（卓球）	1												
	8	英語Ⅰb	2														
小計		8科目	14	7科目	13		0		0		0		0	1科目	2	1科目	2
専門科目	1	解剖学	2	感染免疫学	2	老年疾病・治療論	1	生活習慣病論	2	精神保健看護実習Ⅱ		精神保健看護実習Ⅱ	1	卒業研究		卒業研究	4
	2	生理学	2	薬理学	2	公衆衛生学	1	保健医療福祉法制度論	2	老年看護実習Ⅰ		老年看護実習Ⅰ	2	研究方法論	2	ノンテクニカル・スキル	1
	3	病理学	2	認知症ケア論	1	急性疾患論	1	疫学・保健統計学	2	老年看護実習Ⅱ		老年看護実習Ⅱ	2	看護統合実習	2	地域包括ケア	1
	4	市民健康論	1	栄養・生化学	2	母子疾病・治療論	2	看護の技基礎コースⅢ（診療の補助）	2	成人看護実習Ⅰ（急性）		成人看護実習Ⅰ（急性）	2	チーム医療論			
	5	心と健康のストレスマネジメント論	1	看護学概論	1	看護の技基礎コースⅠ（療養上の世話）	2	基礎看護実習Ⅱ	2	成人看護実習Ⅱ（慢性）		成人看護実習Ⅱ（慢性）	2				
	6			基礎看護実習Ⅰ	1	看護ケア提供論：看護理論と看護過程	1	精神保健看護演習	1	成人看護実習Ⅲ（回復・維持）		成人看護実習Ⅲ（回復・維持）	2				
	7					看護の技基礎コースⅡ（フィジカルアセスメント）	1	精神保健看護実習Ⅰ	1	母性看護実習		母性看護実習	2				
	8					看護の品格育成論	1	老年看護演習	2	小児看護実習Ⅱ		小児看護実習Ⅱ	1				
	9					看護倫理	1	小児看護実習Ⅰ	1	在宅看護実習		在宅看護実習	2				
	10					精神保健看護学概論	1	在宅看護学概論	1	成人看護演習	3						
	11					精神保健看護ケア提供論	2	在宅看護ケア提供論	1	母性看護演習	2						
	12					老年看護学概論	1	公衆衛生看護学概論	1	小児看護演習	2						
	13					老年看護ケア提供論	1	健康教育論	1	在宅看護演習	2						
	14					成人看護学概論	1										
	15					成人看護ケア提供論	2										
	16					母性看護学概論	1										
	17					母性看護ケア提供論	1										
	18					小児看護学概論	1										
	19					小児看護ケア提供論	1										
小計		5科目	8	6科目	9	19科目	23	13科目	19	13科目（通年の実習を含む）	9	9科目	16	4科目（通年の科目を含む）	4	3科目	6
合計		13科目	22	13科目	22	19科目	23	13科目	19	13科目（通年の実習を含む）	9	9科目	16	5科目（通年の科目を含む）	6	4科目	8
				年間26科目	44			年間32科目	42			年間のべ22科目	25			年間のべ10科目	14

※1　青い塗りつぶしは実習科目

※2　ピンクの塗りつぶしは通年科目

資料Ⅵ－3

公立小松大学保健医療学部看護学科　看護師・保健師　履修モデル

総計単位数　142単位以上

区分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1	テーマ別基礎ゼミ	2											クリティカルシンキング	2
	2	アカデミック・スキルズ	1	文化人類学	2											言葉と文化	2
	3	情報処理基礎	2	社会学	2												
	4	統計学	2	南加賀の歴史と文化	2												
	5	心理学	2	スポーツ演習（卓球）	1												
	6	日本国憲法	2	英語Ⅱa	2												
	7	英語Ⅰa	2	英語Ⅱb	2												
	8	英語Ⅰb	2														
小計		8科目	14	7科目	13										0	2科目	4
専門科目	1	解剖学	2	感染免疫学	2	老年疾病・治療論	1	生活習慣病論	2	精神保健看護実習Ⅱ		精神保健看護実習Ⅱ	1	卒業研究		卒業研究	4
	2	生理学	2	薬理学	2	公衆衛生学	1	保健医療福祉法制度論	2	老年看護実習Ⅰ		老年看護実習Ⅰ	2	公衆衛生看護実習		公衆衛生看護実習	5
	3	病理学	2	認知症ケア論	1	急性疾患論	1	疫学・保健統計学	2	老年看護実習Ⅱ		老年看護実習Ⅱ	2	看護統合実習	2	食と看護	1
	4	市民健康論	1	栄養・生化学	2	母子疾病・治療論	2	看護の技基礎コースⅢ（診療の補助）	2	成人看護実習Ⅰ（急性）		成人看護実習Ⅰ（急性）	2	研究方法論	2	ノンテクニカル・スキル	1
	5	心と健康のストレスマネジメント論	1	看護学概論	1	看護の技基礎コースⅠ（療養上の世話）	2	基礎看護実習Ⅱ	2	成人看護実習Ⅱ（慢性）		成人看護実習Ⅱ（慢性）	2	公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）	2		
	6			基礎看護実習Ⅰ	1	看護ケア提供論：看護理論と看護過程	1	精神保健看護演習	1	成人看護実習Ⅲ（回復・維持）		成人看護実習Ⅲ（回復・維持）	2	公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）	1		
	7					看護の技基礎コースⅡ（フィジカルアセスメント）	1	精神保健看護実習Ⅰ	1	母性看護実習		母性看護実習	2	公衆衛生看護方法論Ⅴ（健康診査・家庭訪問・健康教育）	2		
	8					看護の品格育成論	1	老年看護演習	2	小児看護実習Ⅱ		小児看護実習Ⅱ	1	公衆衛生看護管理論	1		
	9					看護倫理	1	小児看護実習Ⅰ	1	在宅看護実習		在宅看護実習	2	安全・安楽なポジショニングの技	1		
	10					精神保健看護学概論	1	在宅看護学概論	1	成人看護演習	3	公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）	1	看護技術の科学的検証	1		
	11					精神保健看護ケア提供論	2	在宅看護ケア提供論	1	母性看護演習	2	公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	1				
	12					老年看護学概論	1	公衆衛生看護学概論	1	小児看護演習	2	疫学・保健統計学演習	2				
	13					老年看護ケア提供論	1	健康教育論	1	在宅看護演習	2						
	14					成人看護学概論	1										
	15					成人看護ケア提供論	2										
	16					母性看護学概論	1										
	17					母性看護ケア提供論	1										
	18					小児看護学概論	1										
	19					小児看護ケア提供論	1										
小計		5科目	8	6科目	9	19科目	23	13科目	19	13科目（通年の実習を含む）	9	12科目	20	10科目（通年の科目を含む）	12	4科目	11
合計		13科目	22	13科目	22	19科目	23	13科目	19	13科目（通年の実習を含む）	9	12科目	20	12科目（通年の科目を含む）	12	6科目	15
				年間26科目	44			年間32科目	42			年間のべ25科目	29			年間のべ18科目	27

※1　青い塗りつぶしは実習科目

※2　ピンクの塗りつぶしは通年科目

資料Ⅵ－4

公立小松大学保健医療学部臨床工学科　履修モデル

総計単位数　124単位　以上

区　分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅰ	1	テーマ別基礎ゼミ	2	自然環境と環境問題	2										
	2	アカデミック・スキルズ	1	南加賀の歴史と文化	2	統計学	2										
	3	情報処理基礎	2	文化人類学	2	心理学	2										
	4	哲学	2	英語Ⅱa	2	人間の発達と心	2										
	5	教養としての物理	2	英語Ⅱb	2												
	6	英語Ⅰa	2	スポーツ演習（バレーボール）	1												
	7	英語Ⅰb	2														
小計		7科目	12	6科目	11	4科目	8								0		0
専門基礎科目	1	臨床工学総論	2	看護学概論	2	解剖生理学実習	1	医学概論	2	電子工学実習	2	医用システム工学実習	2				
	2	解剖学	2	医療関係法規	2	公衆衛生学	1	感染免疫学	2	医用工学	2						
	3	生理学	2	応用数学	2	電気工学Ⅱ	2	電気工学実習	2								
	4	生化学	2	電気工学Ⅰ	2	電子工学Ⅰ	2	電子工学Ⅱ	2								
	5	病理学	2	情報処理工学	2	電子工学演習Ⅰ	1	医用機械工学	2								
	6			電気工学演習Ⅰ	1	プログラミング演習	1	医用信号処理	2								
	7			薬理学	2												
専門科目	1					生体物性工学	2	生体材料工学	2	医用治療機器学実習	1	画像診断装置学	2	臨床実習	4	卒業研究Ⅱ	2
	2					医用機器学概論	2	医用治療機器学	2	生体計測工学	2	生体計測装置学実習	1	卒業研究Ⅰ	2		
	3					呼吸機能代行装置学	2	呼吸機能代行装置学実習	1	生体計測装置学	2	臨床医学Ⅱ（代謝、血液）	2	看護技術の科学的検証	1		
	4							循環機能代行装置学	2	循環機能代行装置学実習	1	臨床医学Ⅲ（神経系、内分泌系）	2	地域の健康課題と多職種連携	1		
	5							代謝機能代行装置学	2	代謝機能代行装置学実習	1	医用機器安全管理学実習	1				
	6									臨床医学Ⅰ（呼吸器、循環器）	2						
	7									医療機器安全管理学	2						
小計		5科目	10	7科目	13	9科目	14	12科目	21	9科目	15	6科目	10	4科目（通年の科目を含む）	8	1科目	2
合計		12科目	22	13科目	24	13科目	22	12科目	21	9科目	15	6科目	10	4科目（通年の科目を含む）	8	1科目	2
				年間25科目	46			年間25科目	43			年間15科目	25			年間のべ5科目	10

資料Ⅵ－5

公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科　国際観光・地域創生コース　履修モデル

総計単位数　127単位　以上

区分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅲ	1	テーマ別基礎ゼミ	2	経済学	2										
	2	アカデミック・スキルズ	1	南加賀の歴史と文化	2	データ社会と科学	2										
	3	情報処理基礎	2	人文地理学	2	心理学	2										
	4	日本産業史	2	言葉と文化	2												
	5	哲学	2	クリティカルシンキング	2												
	6	社会福祉論	2	英語Ⅱa	2												
	7	スポーツ演習（フットサル）	1	英語Ⅱb	2												
	8	英語Ⅰa	2	英語Ⅲ	2												
	9	英語Ⅰb	2														
小計		9科目	15	8科目	16	3科目	6	－	0	－	0	－	0	－	0	－	0
専門基礎科目	1	国際交流論	2			観光学概論	2										
	2					地域政策概論	2										
	3					アジア社会論	2										
	4					日本文化論	2										
	5					異文化コミュニケーション論	2										
基礎外国語科目	1	中国語Ia	2	中国語IIa	2	English comprehension Ⅰ	2	Tourism English Ⅰ	2								
	2	中国語Ib	2	中国語IIb	2	English expression Ⅰ	2										
	3					English comprehension IIa	2										
	4					中国語IIIa	2										
	5					中国語IIIb	2										
外国語専門	1									Tourism English Ⅱ	2	English presentation　Ⅰ	2				
	2																
専門科目 観光・地域創生	1							サスティナブルツーリズム論	2	観光資源論	2	グリーンツーリズム論	2	インバウンド観光論	2	観光人材育成論（隔年開講）	2
	2							観光産業概論	2	マーケティング調査論	2	地域産業論	2	ホスピタリティマネジメント	2		
	3							世界遺産を学ぶ	2	地域ブランディング論	2						
	4							地域再生マネジメント論	2	地域創生演習	2	課題研究A	2				
	5							観光社会学（集中）	2								
政治経済	1							国際貿易論	2								
	2							グローカル論	2								
言語文化	1											語用論	2				
	2											英語圏言語文化論	2				
共通科目 学部	1									インターンシップI	2			卒業論文		卒業論文	8
	2									異文化体験実習	4						
	3									地域実習		地域実習	2				
小計		3科目	6	2科目	4	10科目	20	8科目	16	9科目（通年の科目を含む）	16	7科目	14	3科目（通年の科目を含む）	4	2科目（通年科目を含む）	10
合計		12科目	21	10科目	20	13科目	26	8科目	16	9科目（通年の科目を含む）	16	7科目	14	3科目（通年の科目を含む）	4	2科目（通年科目を含む）	10
				年間22科目	41			年間21科目	42			年間のべ15科目	30			年間のべ5科目	14

※ピンクの塗りつぶしは、通年科目。

資料Ⅵ－6

公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科　グローバルスタディーズコース　履修モデル

※国際社会、政治、経済の仕組みについて幅広く学びたい学生のための履修モデル

総計単位数　127単位　以上

区分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅲ	1	テーマ別基礎ゼミ	2	公共政策論	2										
	2	アカデミック・スキルズ	1	南加賀の歴史と文化	2	データ社会と科学	2										
	3	情報処理基礎	2	文化人類学	2	自然資源と環境問題	2										
	4	日本産業史	2	文章表現法	2												
	5	日本の伝統芸能	2	クリティカルシンキング	2												
	6	データ科学と社会	2	英語Ⅱa	2												
	7	スポーツ演習（卓球）	1	英語Ⅱb	2												
	8	英語Ⅰa	2	英語Ⅲ	2												
	9	英語Ⅰb	2														
小計		9科目	15	8科目	16	3科目	6		0		0		0		0		0
専門基礎科目	1	中国語Ia	2	中国語IIa	2	地域政策概論	2										
	2	中国語Ib	2	中国語IIb	2	グローバルヒストリー	2										
	3	国際交流論	2			アジア社会論	2										
	4					日本文化論	2										
	5					異文化コミュニケーション論	2										
	6																
基礎外国語科目	1					English comprehension Ⅰ	2	English comprehension IIa	2								
	2					English expression Ⅰ	2	English comprehension IIb	2								
	3							English expression Ⅱa	2								
	4							English expression Ⅱb	2								
	5									English comprehension Ⅲ	2	English presentation Ⅰ	2				
専門外国語	1									English expression Ⅲ	2	English presentation Ⅱ	2				
	2																
専門科目 観光・地域創生	1							世界遺産を学ぶ	2	財政学（隔年開講）	2						
	2																
	3																
専門科目 政治経済	1							国際政治論	2	東南アジア地域社会論	2	中東政治論	2	メディア情報論	2		
	2							国際貿易論	2	国際政治論演習B	2	NGO論	2				
	3							中国語圏社会文化論	2	国際社会論演習	2	課題研究B	2				
	4							アジア現代史概論	2								
専門科目 言語文化	1							英語圏言語文化論	2			比較文学論	2			多文化共生社会論	2
	2							中国言語文化論	2								
	3																
共通科目 学部	1									地域実習		地域実習	2	卒業論文		卒業論文	8
	2									インターンシップⅠ	2						
	3									海外語学研修	4						
小計		3科目	6	2科目	4	7科目	14	11科目	22	9科目（通年の科目を含む）	18	7科目（通年の科目を含む）	14	2科目（通年の科目を含む）	2	2科目（通年の科目を含む）	10
合計		12科目	21	10科目	20	10科目	20	11科目	22	9科目（通年の科目を含む）	18	7科目（通年の科目を含む）	14	2科目（通年の科目を含む）	2	2科目（通年の科目を含む）	10
				年間22科目	41			年間21科目	42			年間16科目	32			年間のべ4科目	12

※ピンクの塗りつぶしは、通年科目。

資料Ⅵ－7

公立小松大学国際文化交流学部国際文化交流学科　グローバルスタディーズコース　履修モデル

※言語そのものの分析や言語と歴史、文化、社会との関わりについて幅広く学びたい学生のための履修モデル

総計単位数　127単位　以上

区分		1年次前期	単位	1年次後期	単位	2年次前期	単位	2年次後期	単位	3年次前期	単位	3年次後期	単位	4年次前期	単位	4年次後期	単位
共通教育科目	1	キャリアデザイン・チーム論Ⅲ	1	テーマ別基礎ゼミ	2	自然資源と環境問題	2										
	2	アカデミック・スキルズ	1	南加賀の歴史と文化	2	現代科学技術論	2										
	3	情報処理基礎	2	クリティカルシンキング	2	心理学	2										
	4	日本産業史	2	言葉と文化	2												
	5	日本の伝統芸能	2	社会学	2												
	6	データ科学と社会	2	英語Ⅱa	2												
	7	スポーツ演習（卓球）	1	英語Ⅱb	2												
	8	英語Ⅰa	2	英語Ⅲ	2												
	9	英語Ⅰb	2														
小計		9科目	15	8科目	16	3科目	6		0		0		0		0		0
専門基礎科目	1	中国語Ia	2	中国語IIa	2	地域政策概論	2										
	2	中国語Ib	2	中国語IIb	2	アジア社会論	2										
	3	国際交流論	2			日本文化論	2										
	4					言語学概論	2										
	5					異文化コミュニケーション論	2										
	6																
基礎外国語科目	1					English comprehension Ⅰ	2	English comprehension IIa	2								
	2					English expression Ⅰ	2	English comprehension IIb	2								
	3							English expression Ⅱa	2								
	4							English expression Ⅱb	2								
	5									English comprehension Ⅲ	2	English presentation Ⅰ	2				
専門外国語	1									English expression Ⅲ	2	English presentation Ⅱ	2				
	2																
専門科目 観光・地域創生	1											観光資源論	2				
	2											多文化共生社会論	2				
政治経済	1							国際政治論	2								
	2							中国語圏社会文化論	2								
	3							国際貿易論	2								
言語文化	1							英語圏言語文化論	2	英語研究A（隔年）	2	日英対照言語表現論	2	語用論	2	英語研究B	2
	2							中国言語文化論	2	中国語研究B	2	比較文学論	2				
	3							英語圏文芸論	2	日本古典読解	2	言語学演習	2				
	4									社会言語学演習	2						
	5									英語学演習	2						
学部共通科目	1									インターンシップⅠ	2			卒業論文		卒業論文	8
	2									海外語学研修	4						
	3																
小計		3科目	6	2科目	4	7科目	14	10科目	20	9科目	20	7科目	14	2科目（通年の科目を含む）	2	2科目（通年の科目を含む）	10
合計		12科目	21	10科目	20	10科目	20	10科目	20	9科目	20	7科目	14	2科目（通年の科目を含む）	2	2科目（通年の科目を含む）	10
				年間22科目	41			年間20科目	40			年間16科目	34			年間のべ4科目	12

※ピンクの塗りつぶしは、通年科目。

資料Ⅵ－8

実験室・実習室の設備機器

資料Ⅷ－1

粟津キャンパス
生産システム科学部

種別	名称・室数	階	面積(㎡)	設備機器	目的・用途
実験室	108研究実験室（108）	1	102.69	電気炉，光学顕微鏡，電子顕微鏡，マイクロビッカース計測装置，シーケンサ，低温室等	機械電気工学実験（炭素鋼の熱処理と顕微鏡観察）の実験用
	109研究実験室（109）	1	99.37	万能試験機，ビデオ式非接触伸び計，マイクロメータ，高速度ビデオ装置等	機械電気工学実験（鋼の引張試験）の実験用
	110研究実験室（110）	1	140.78	流体摩擦測定装置，流速計，熱伝達実験装置，熱線風速計，接触式温度計，電子デバイス，オシロスコープ等	機械電気工学実験（円管内の流体摩擦，強制対流熱伝達，オペアンプで制御するトランジスタ回路）の実験用
	301研究実験室（301）	3	75.99	小型振動試験機，FFTアナライザ，レーザ変位計，サーボモータ，双腕ロボット，モーションキャプチャ等	機械電気工学実験（先端に質量を持つ片持はりの振動実験，マニピュレータのPID制御）の実験用
	303研究実験室（303）	3	71.28	電源装置，オシロスコープ，デジタルマルチメータ，テスタ等	機械電気工学実験（電圧，電流，電力の測定）の実験用
	304研究実験室（304）	3	71.28	小型無線多機能センサ，脳活動計測装置，ウェアラブルカメラ，無線LAN装置，タブレット端末等	機械電気工学実験（多機能センサを用いたデータ解析，カメラ画像の画像処理）の実験用
	305研究実験室（305）	3	71.28	オシロスコープ，高周波電源装置，磁化特性記録装置等	機械電気工学実験（電圧，電流，電力の測定）の実験用
	306研究実験室（306）	3	71.28	直流電源，ネットワーク装置，デジタルカメラ，ノートPC，液晶プロジェクタ装置等	機械電気工学実験（カメラ画像の画像処理）の実験用

実験室・実習室の設備機器

粟津キャンパス
生産システム科学部

種別	名称・室数	階	面積(m^2)	設備機器	目的・用途
実習室	104実習室（104）	1	69.88	アーク溶接機，ボール盤，グラインダー，切断機，万力等	機械工作実習の実習用
	105実習室（105）	1	48.70	旋盤（2台），フライス盤，グラインダー等	機械工作実習の実習用
	106実習室（106）	1	75.99	CNCマシニングセンター，フライス盤，ボール盤，集塵機，コンターマシン，電気炉等	機械工作実習の実習用，機械電気工学実験（切削動力の測定と切り屑観察）の実験用
	107実習室（107）	1	38.00	旋盤，ボール盤，双腕ロボット，研磨機等	機械工作実習の実習用

種別	名称・室数	階	面積(m^2)	設備機器	目的・用途
演習室	202CAD室（202）	2	142.56	3次元CAD/CAM/CAEシステム（45セット），3Dプリンター，大型プロッター等	機械設計製図Ⅰ・Ⅱ，機械電気工学実験（3Dモデルと3Dプリンターの作成，CAEシステムによる構造解析）の実験用
	206製図室（206）	2	83.94	一体型ドラフター，製図台，専用チェア（各45台）	機械設計製図Ⅰ・Ⅱの製図用

実験室・実習室の設備機器

末広キャンパス

保健医療学部

看護学科（A棟）

種別	名称・室数	階	面積(m²)	設備機器	目的・用途
実習室	基礎看護実習室（101）	1	270.56	成人用ベッド，床頭台，オーバーベッドテーブル実習用モデル人形，心電計，輸液ポンプ，洗髪車，清拭車，計測器一式，診察用具一式等	日常生活援助技術並びに診療の補助技術習得に向けた講義・実習 臨地実習に向けた自主学習
	母性・小児看護実習室（102）	1	65.57	新生児ベッド，幼児ベッド保育器，沐浴用人形，乳房マッサージ訓練モデル，妊娠子宮模型，受胎原理模型，小手術用機械器具一式等	母性・小児看護に必要な技術の習得に向けた講義・実習反復学習・自主学習による技術習得
	在宅看護実習室（103）	1	40.93	低ベッド，車椅子，歩行補助具，台所設備一式，自助具(各種)，車椅子用トイレ，簡易浴槽，手すり付き家庭用風呂等	実際の在宅での日常生活を想定した、在宅ケアの技術習得
	シミュレーション演習室（104）	1	151.86	成人用ベッド，床頭台，オーバーベッドテーブル，ストレッチャー，実習用モデル人形，輸液ポンプ，心電計，浣腸訓練モデル，注射訓練モデル，車椅子等	知識・思考と実践への統合を学習 臨地実習に向けての事前準備学習 侵襲を伴う行為の習得 反復学習・自主学習による技術の習得

※ 実習機器は通常器材室等に保管し，実習時に必要な実習室に配置し実習を行うこととする。

臨床工学科（C棟）

種別	名称・室数	階	面積(m²)	設備機器	目的・用途
実習室	生理学実習室（105）	1	144.26	生理学教育用機材等	随意運動、筋電、心電、肺機能などの生理学実習を行う。
	臨床工学実習室（106）	1	145.68	人工心肺装置、人工呼吸器、補助循環装置、血液透析装置、除細動器及び除細動器チェッカ、電気メス及び電気メスチェッカ、救急処置生命シミュレーター等	生命維持管理装置、各種ME機器の学内実習を行う。
	工学実習室（107）	1	142.13	オシロスコープ、信号発生器、変圧器、直流電源装置、デジタルマルチメーター、パーソナルコンピューター等	電気回路、電子回路、計測システム、制御システムなどの実験を行う。

年次進行毎の校舎の使用状況

年度	キャンパス		校舎面積(算入部分)				校舎面積(非算入部分)		合計
			学部等が専用で使用する部分	他学部等と共用で使用する部分	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	他施設と共用で使用する部分	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	他施設が専用で使用する部分	
H30	粟津		420.67	104.46	3,644.67	0.00	2,377.83	0.00	6,547.63
	末広	A棟	0.00	0.00	0.00	0.00	2,548.64	0.00	2,548.64
		B棟	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2,316.32	2,316.32
		C棟	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		渡り廊下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		小計)	0.00	0.00	0.00	0.00	2,548.64	2,316.32	4,864.96
	中央		1,186.30	2,381.51	0.00	463.01	0.00	0.00	4,030.82
		計)	1,606.97	2,485.97	3,644.67	463.01	4,926.47	2,316.32	15,443.41
			8,200.62				7,242.79		15,443.41
H31	粟津		1,884.26	41.10	3,663.81	0.00	1,012.22	0.00	6,601.39
	末広	A棟	0.00	0.00	2,207.65	0.00	340.99	0.00	2,548.64
		B棟	930.48	0.00	0.00	0.00	0.00	1,385.84	2,316.32
		C棟	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		渡り廊下	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		小計)	930.48	0.00	2,207.65	0.00	340.99	1,385.84	4,864.96
	中央		1,186.30	2,381.51	0.00	463.01	0.00	0.00	4,030.82
		計)	4,001.04	2,422.61	5,871.46	463.01	1,353.21	1,385.84	15,497.17
			12,758.12				2,739.05		15,497.17
H32	粟津		6,392.02	209.37	0.00	0.00	0.00	0.00	6,601.39
	末広	A棟	2,548.64	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2,548.64
		B棟	930.48	0.00	0.00	0.00	0.00	1,385.84	2,316.32
		C棟	2,045.29	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	2,045.29
		渡り廊下	148.85	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	148.85
		小計)	5,673.26	0.00	0.00	0.00	0.00	1,385.84	7,059.10
	中央		1,186.30	2,381.51	0.00	463.01	0.00	0.00	4,030.82
		計)	13,251.58	2,590.88	0.00	463.01	0.00	1,385.84	17,691.31
			16,305.47				1,385.84		17,691.31

年次進行毎の校舎使用状況

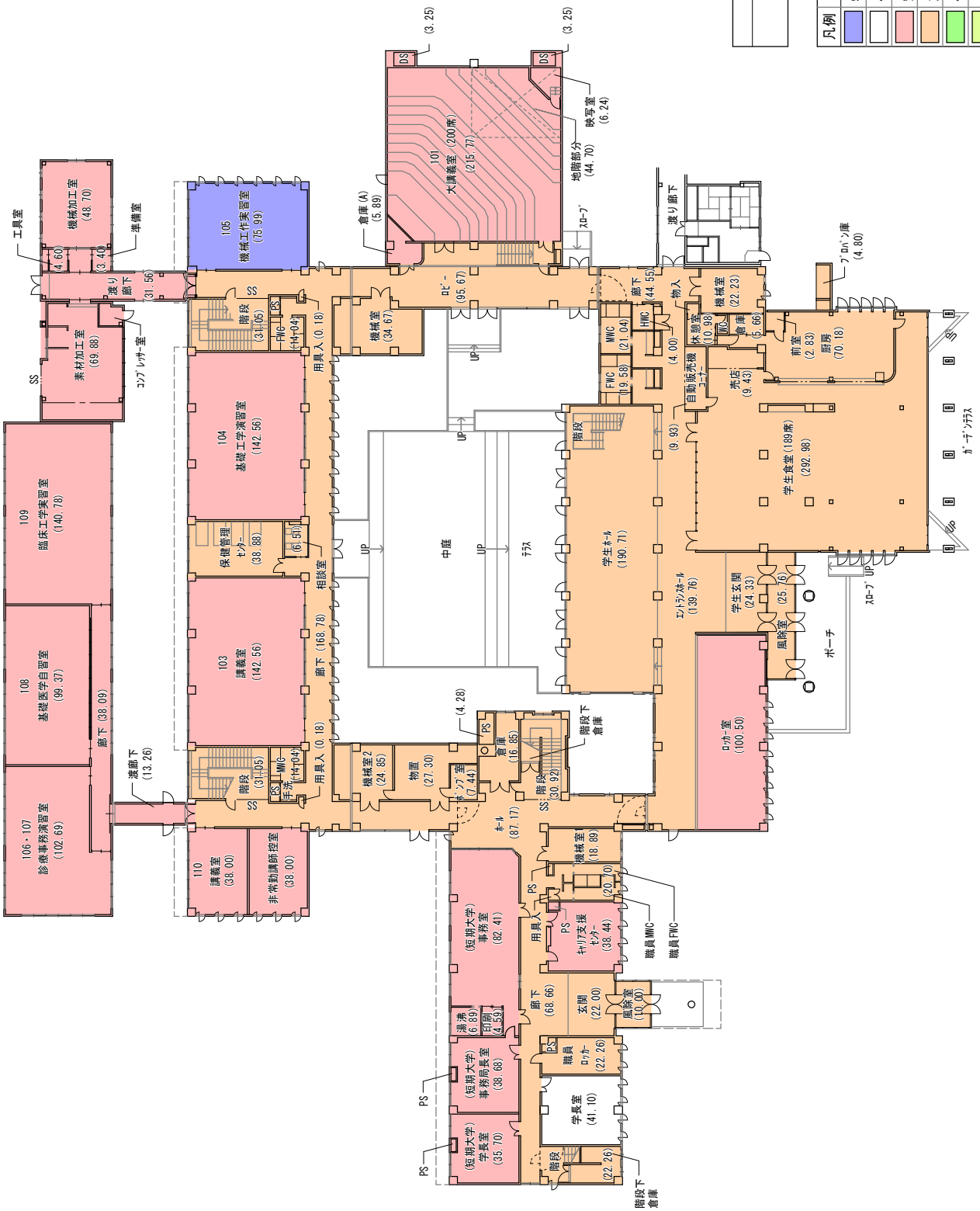
粟津キャンパス(H30)

1階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	1階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	75.99㎡
	他学部等と共用で使用する部分	41.10㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	1,499.76㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	1,717.38㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	3,334.23㎡



年次進行毎の校舎使用状況

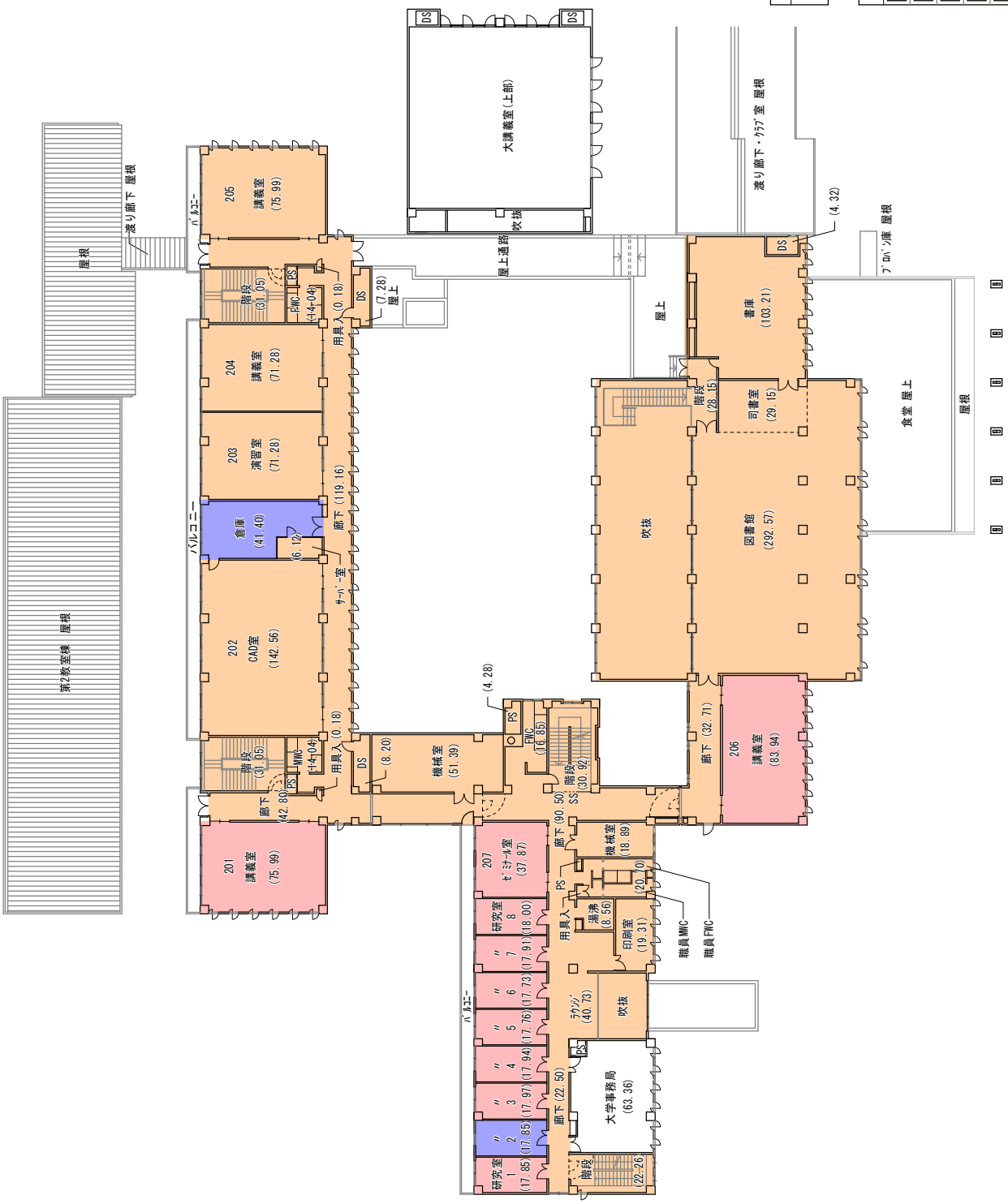
粟津キャンパス(H30)

2階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	2階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	59.25㎡
	他学部等と共用で使用する部分	63.36㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	322.96㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	1,472.21㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	1,917.78㎡



年次進行毎の校舎使用状況

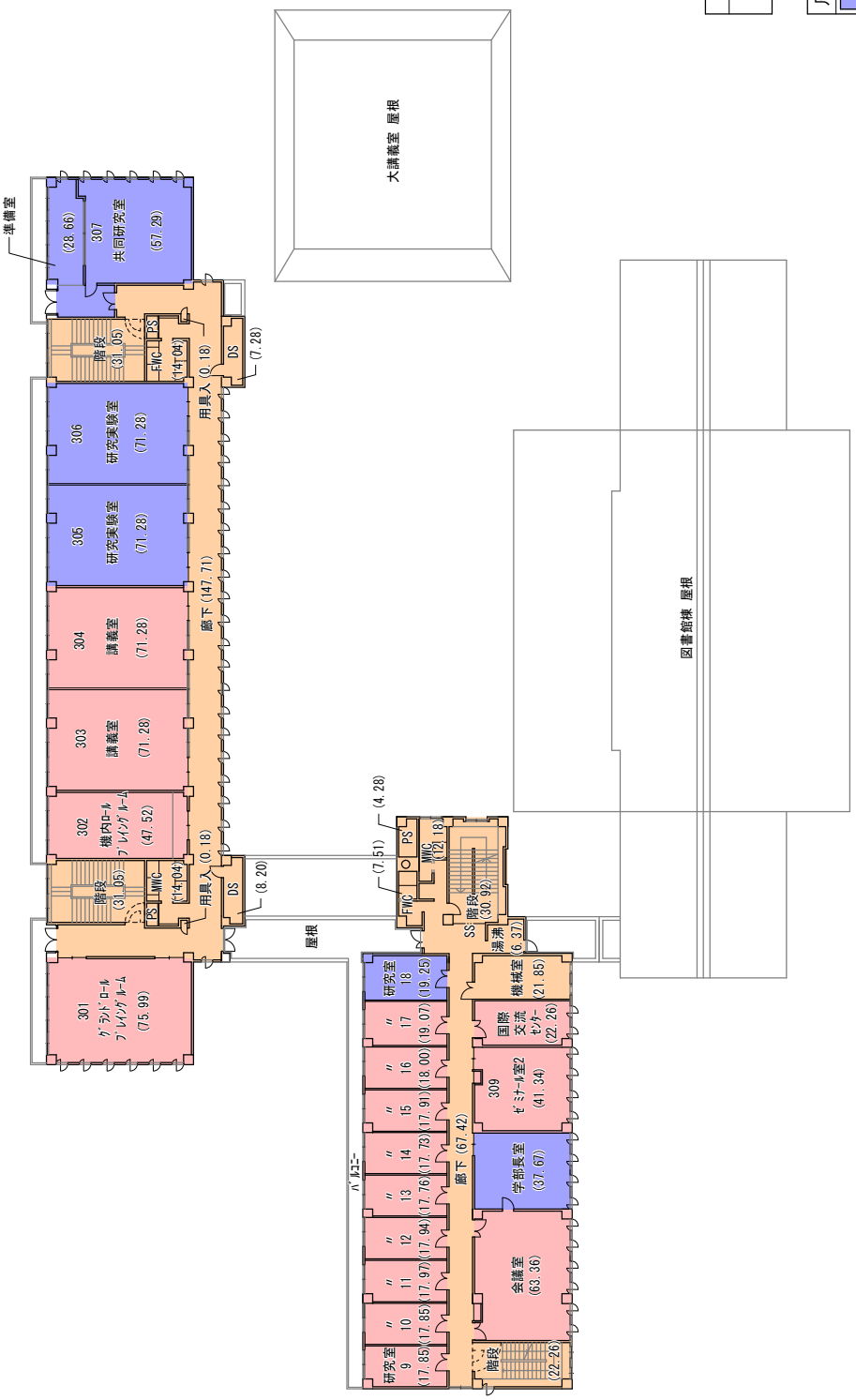
粟津キャンパス(H30)

3階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	3階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	285.43㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	555.11㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	426.52㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	1,267.06㎡



年次進行毎の校舎使用状況

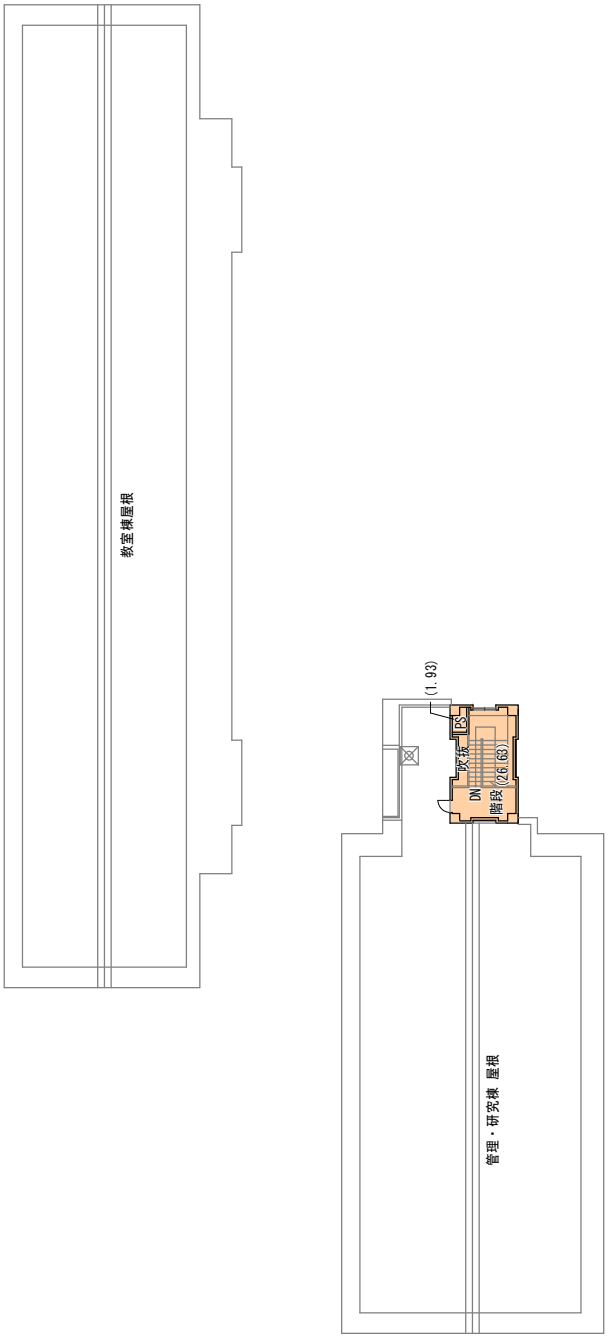
粟津キャンパス(H30)

R階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	R階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	28.56㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	28.56㎡

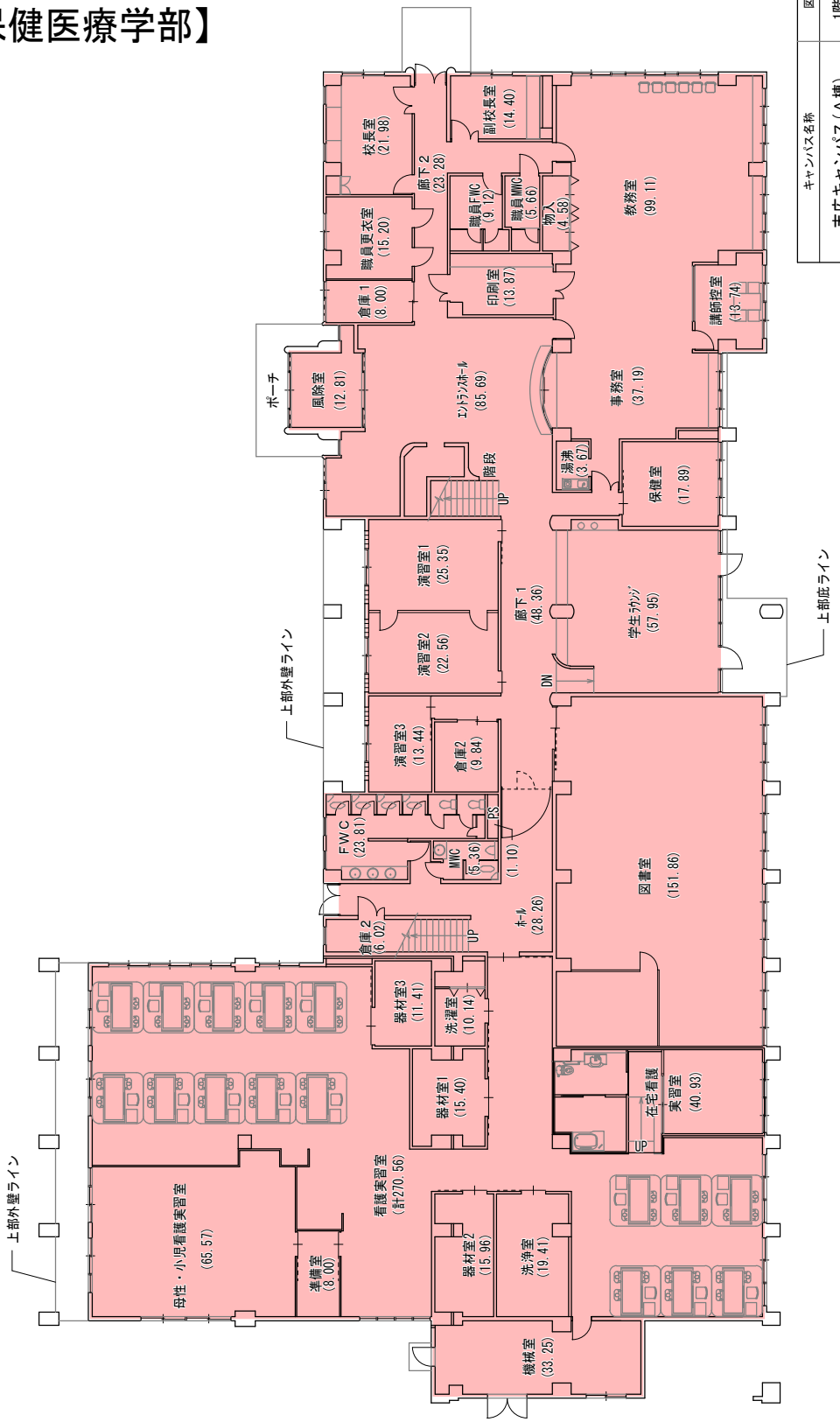


年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＡ棟(H30)

1階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	1階平面図	A4:Scale 1/300

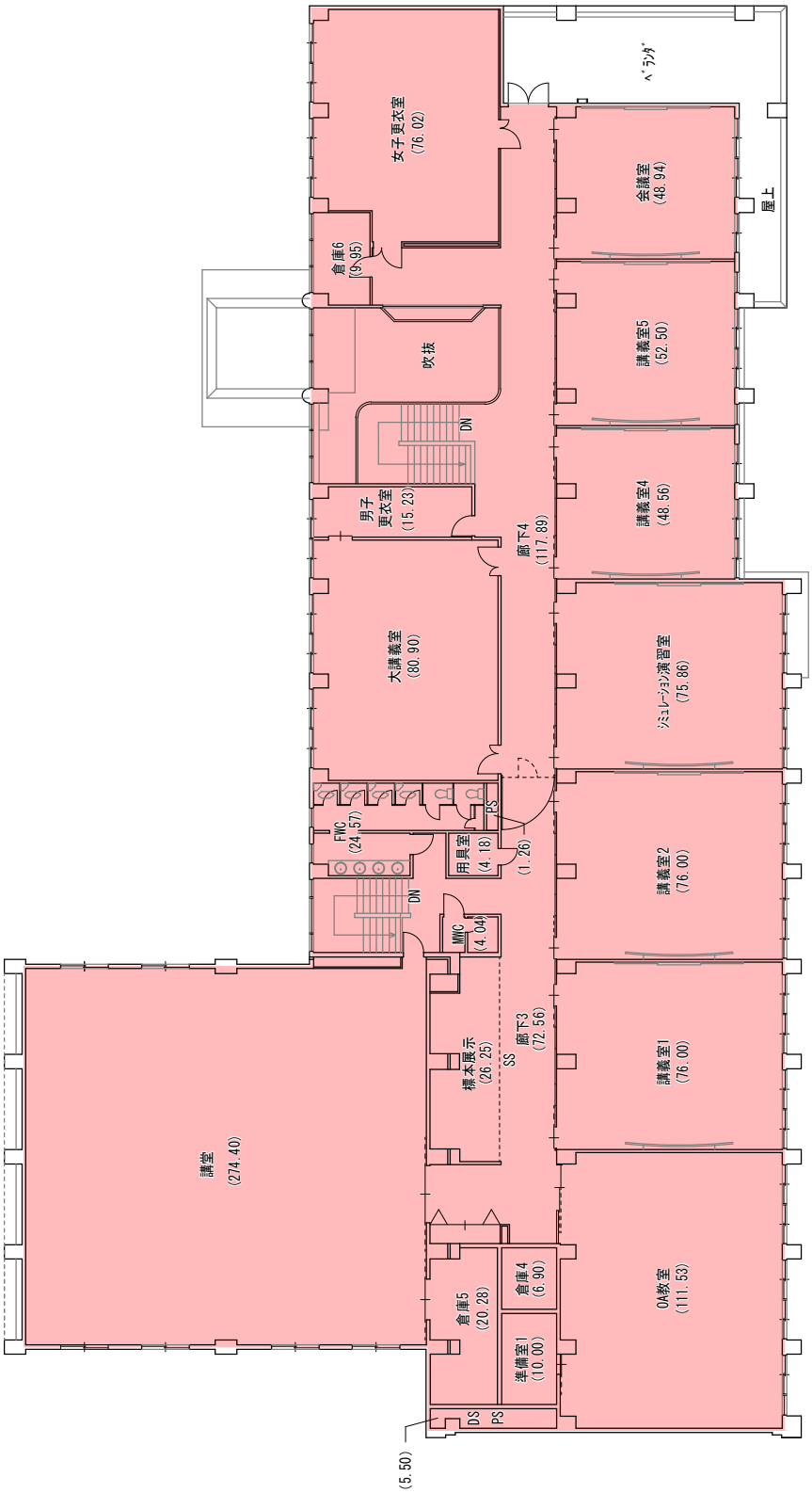
凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	1,270.73㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,270.73㎡

年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＡ棟(H30)

2階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	1,239.32㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,239.32㎡

年次進行毎の校舎使用状況

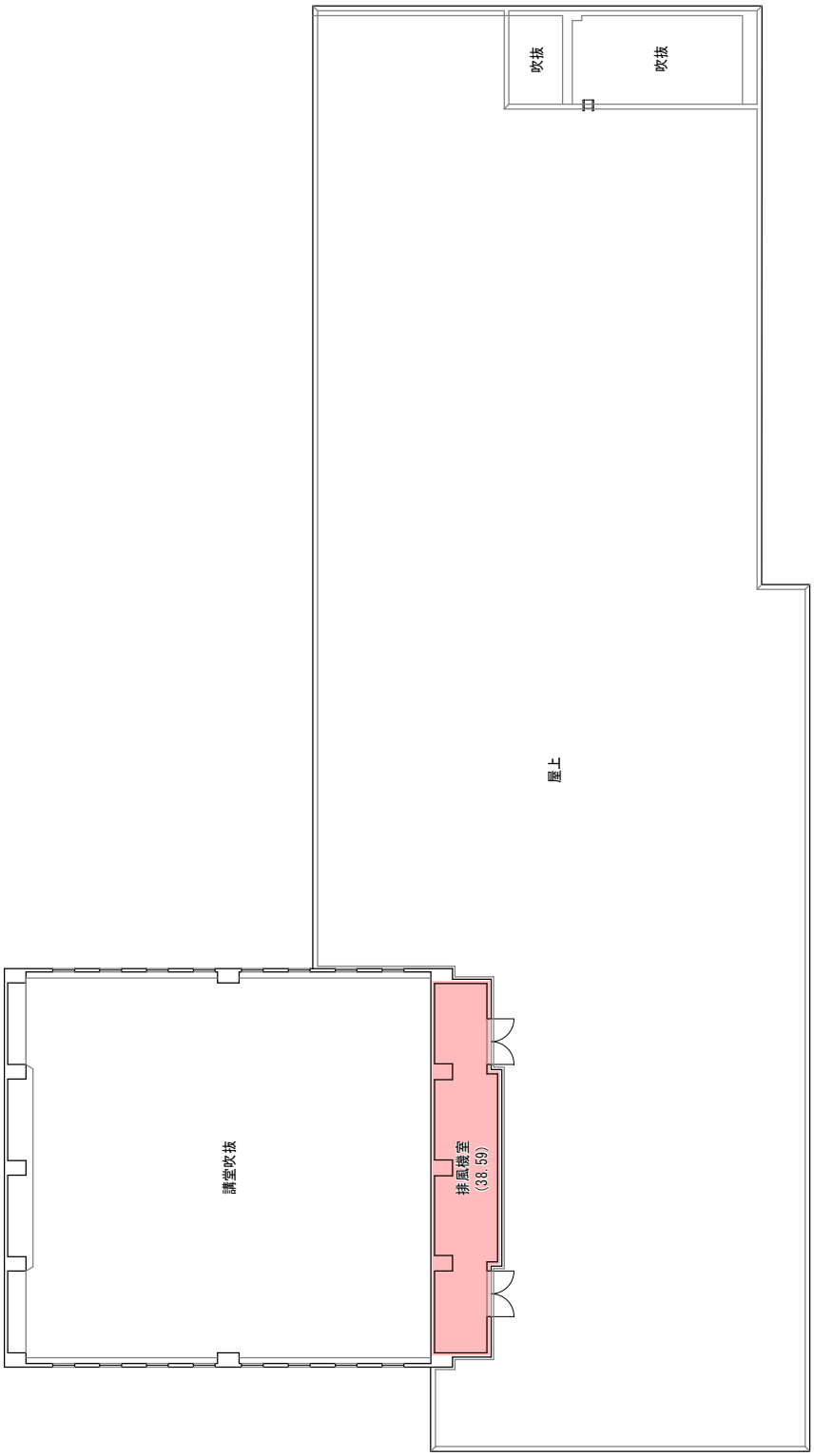
末広キャンパスＡ棟(H30)

R階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	R階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	38.59㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	38.59㎡



年次進行毎の校舎使用状況

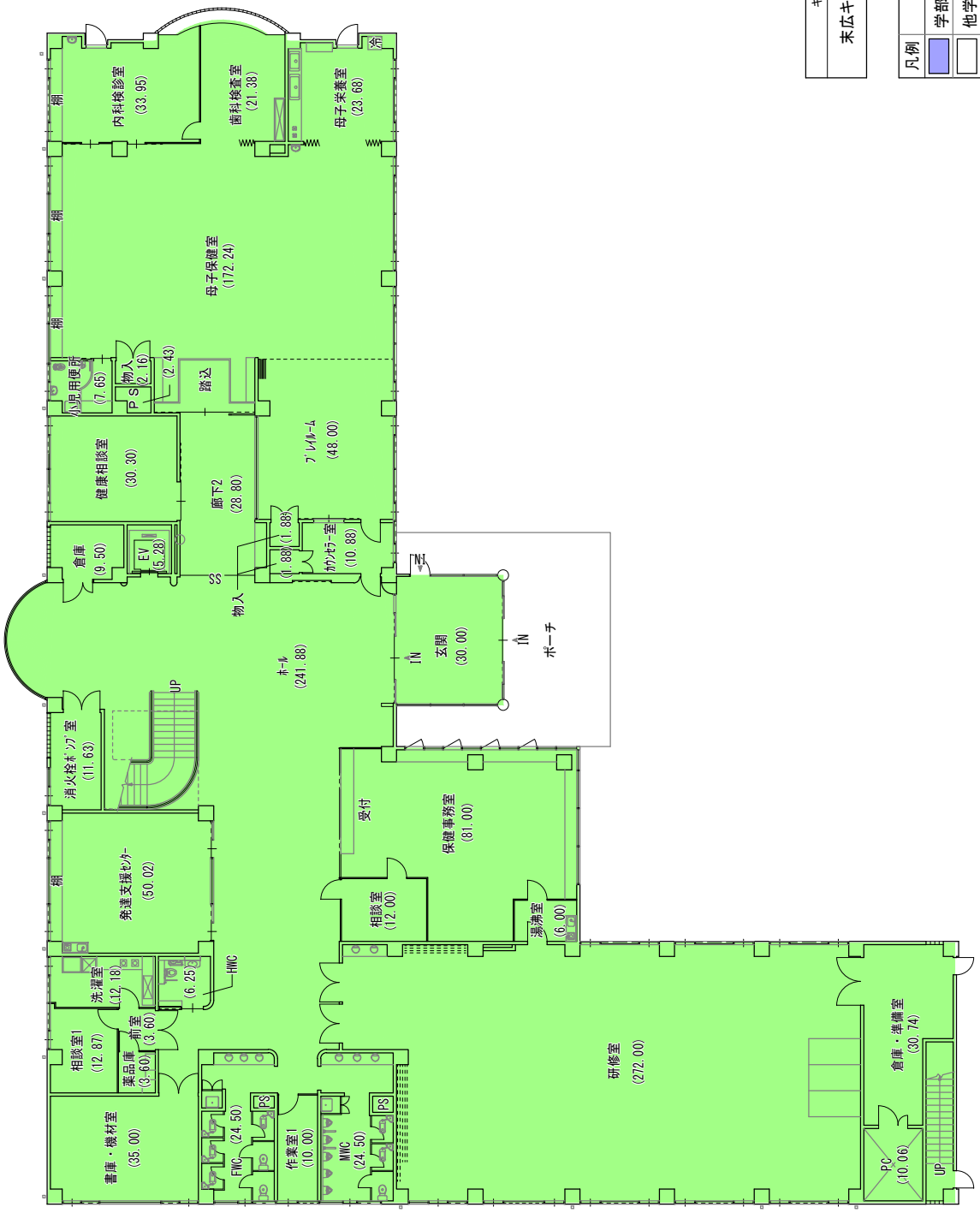
末広キャンパスＢ棟(H30)

1階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（B棟）	1階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	1,277.84㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,277.84㎡



年次進行毎の校舎使用状況

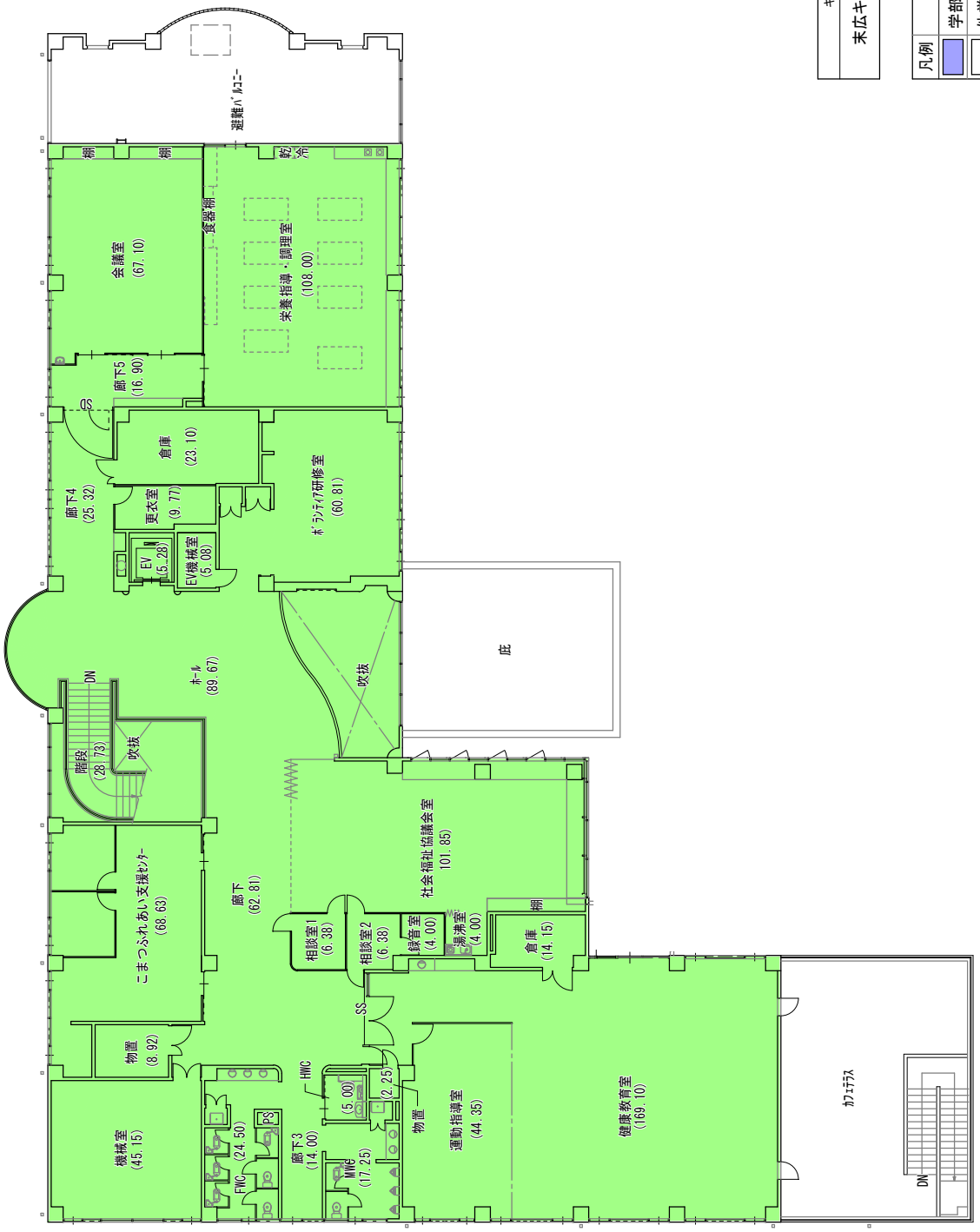
末広キャンパスＢ棟(H30)

2階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（B棟）	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	1,038.48㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,038.48㎡



年次進行毎の校舎使用状況

中央キャンパス(H30～)

2階平面図

【国際文化交流学部】+【共通教育】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
中央キャンパス	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	111.56 ㎡
	他学部等と共用で使用する部分	1,688.73 ㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00 ㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00 ㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00 ㎡
	他施設と共用で使用する部分	228.69 ㎡
	(合計)	2,028.98 ㎡

年次進行毎の校舎使用状況

中央キャンパス(H30～)

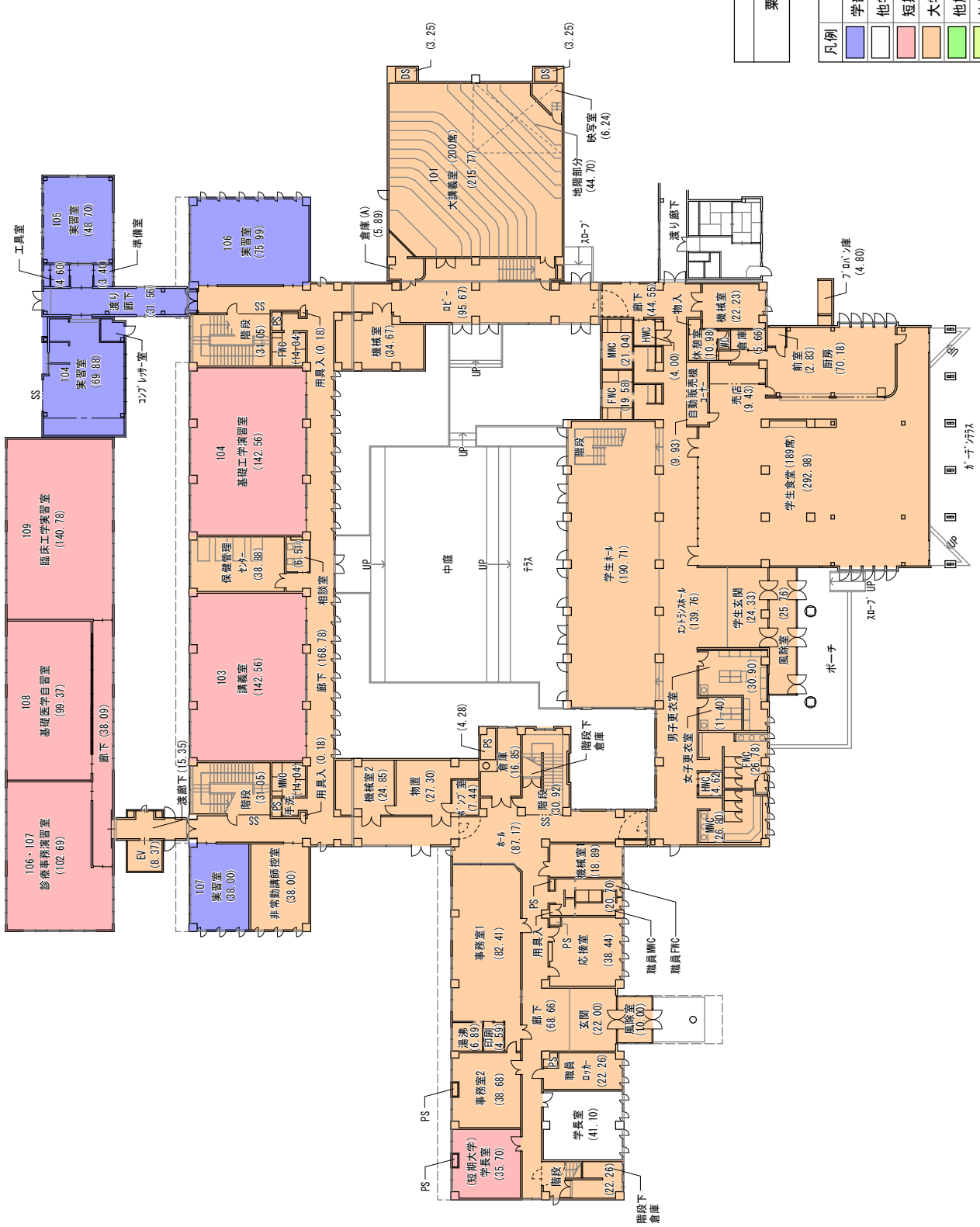
3階平面図

年次進行毎の校舎使用状況

粟津キャンパス(H31)

1階平面図

【本部】+【生産システム科学部】



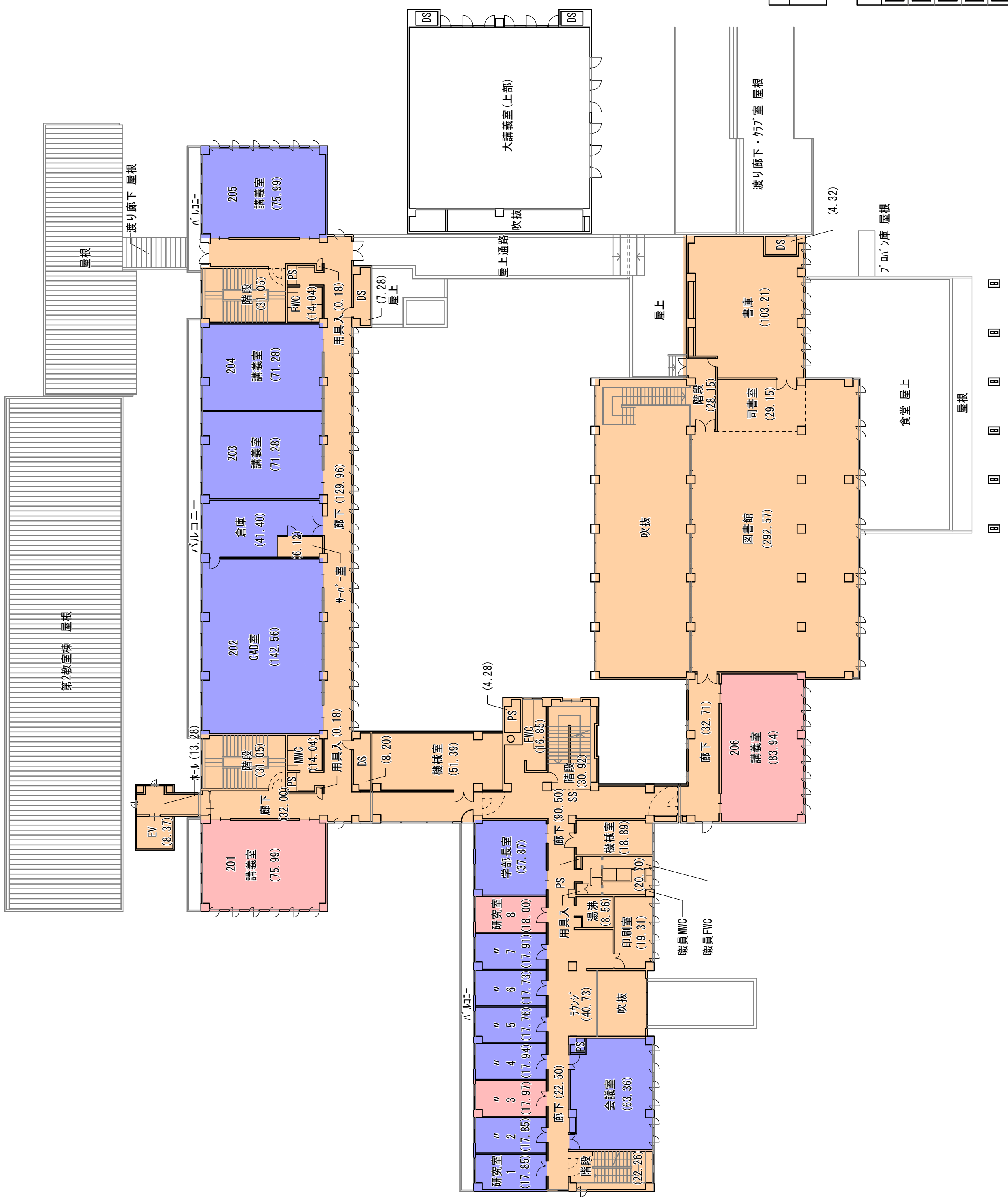
年次進行毎の校舎使用状況

粟津キャンパス(H31)
2階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	2階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
(青)	学部等が専用で使用する部分	694.72㎡
(白)	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
(桃)	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	111.96㎡
(橙)	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	1,132.75㎡
(緑)	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
(黄緑)	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	1,939.43㎡



年次進行毎の校舎使用状況

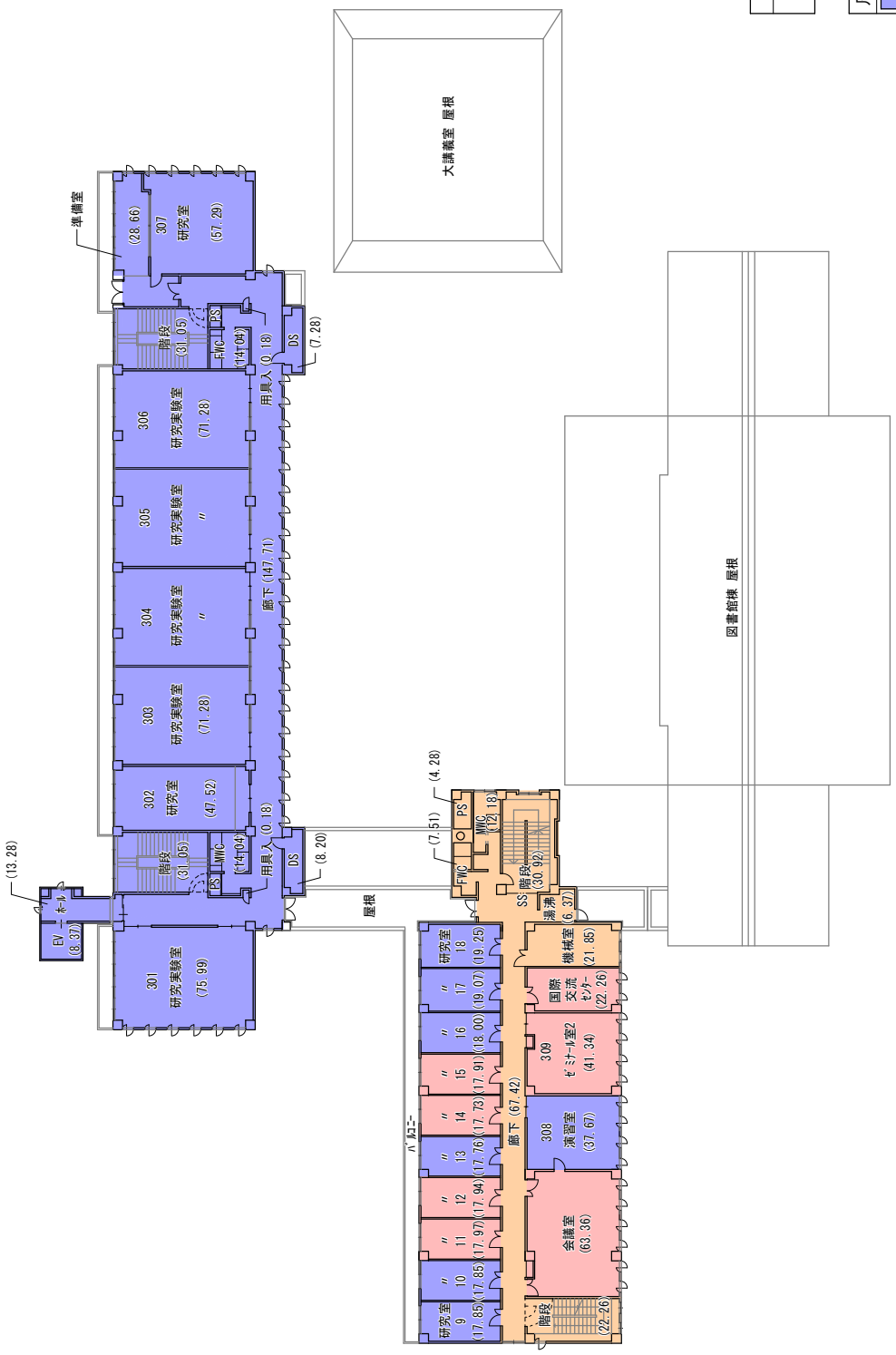
粟津キャンパス(H31)

3階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	3階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	917.41㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	198.51㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	172.79㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	1,288.71㎡



年次進行毎の校舎使用状況

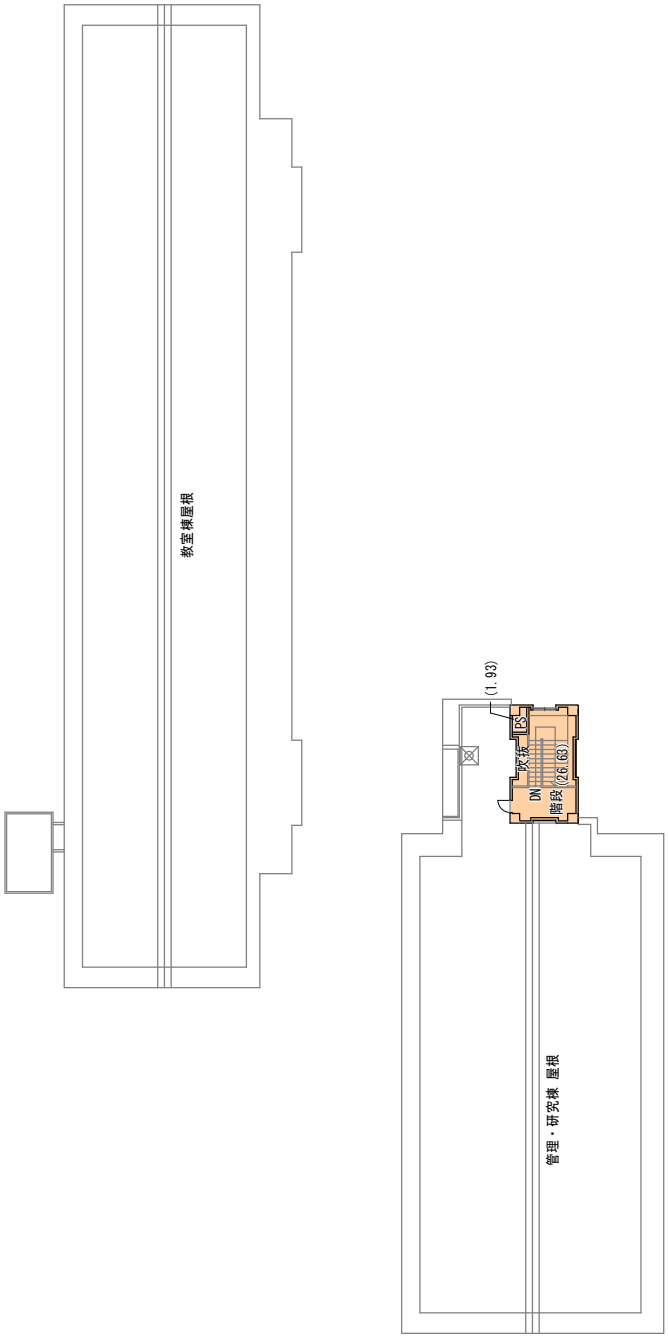
粟津キャンパス(H31)

R階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	R階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	28.56㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	28.56㎡

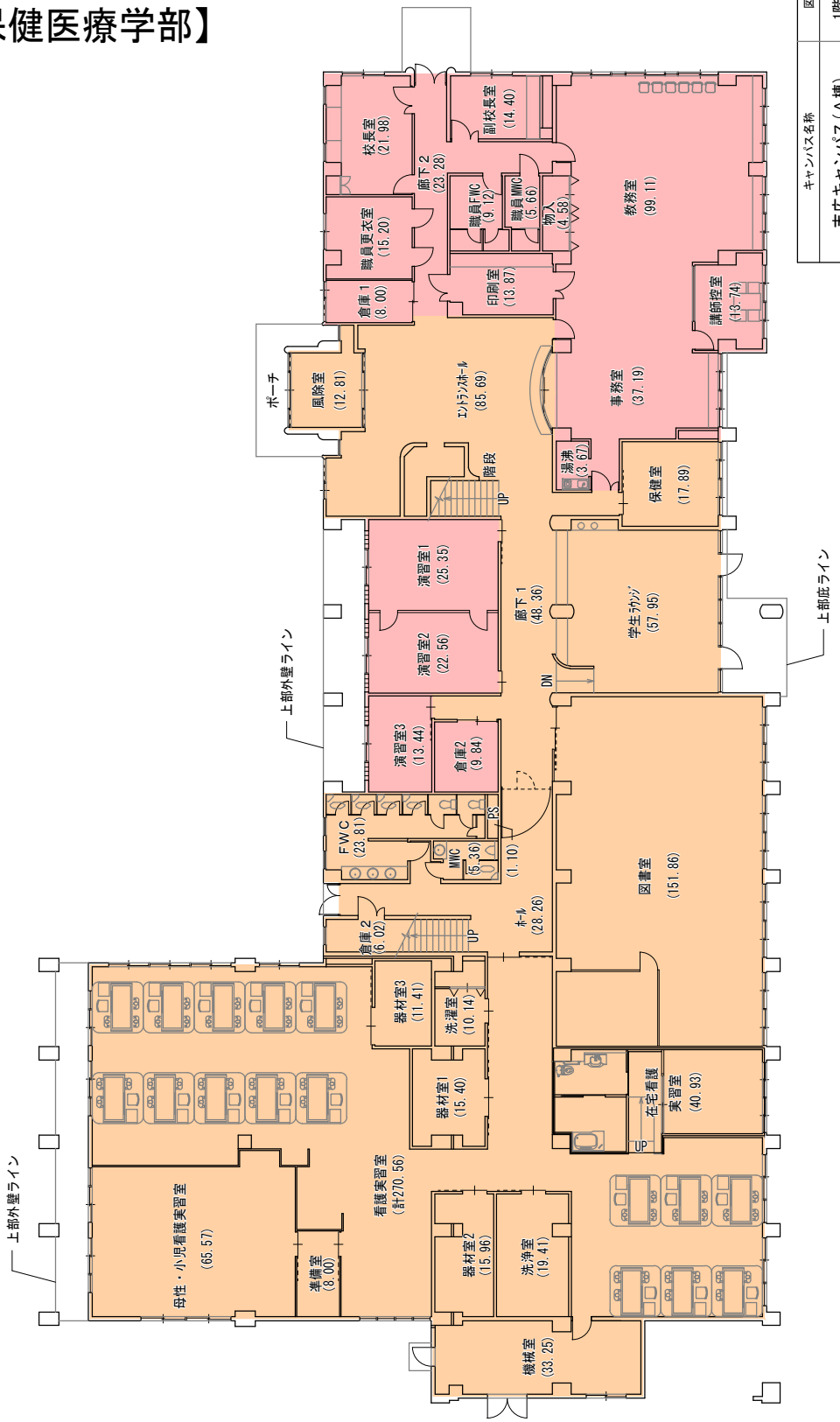


年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＡ棟(H31)

1階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	1階平面図	A4:Scale 1/300

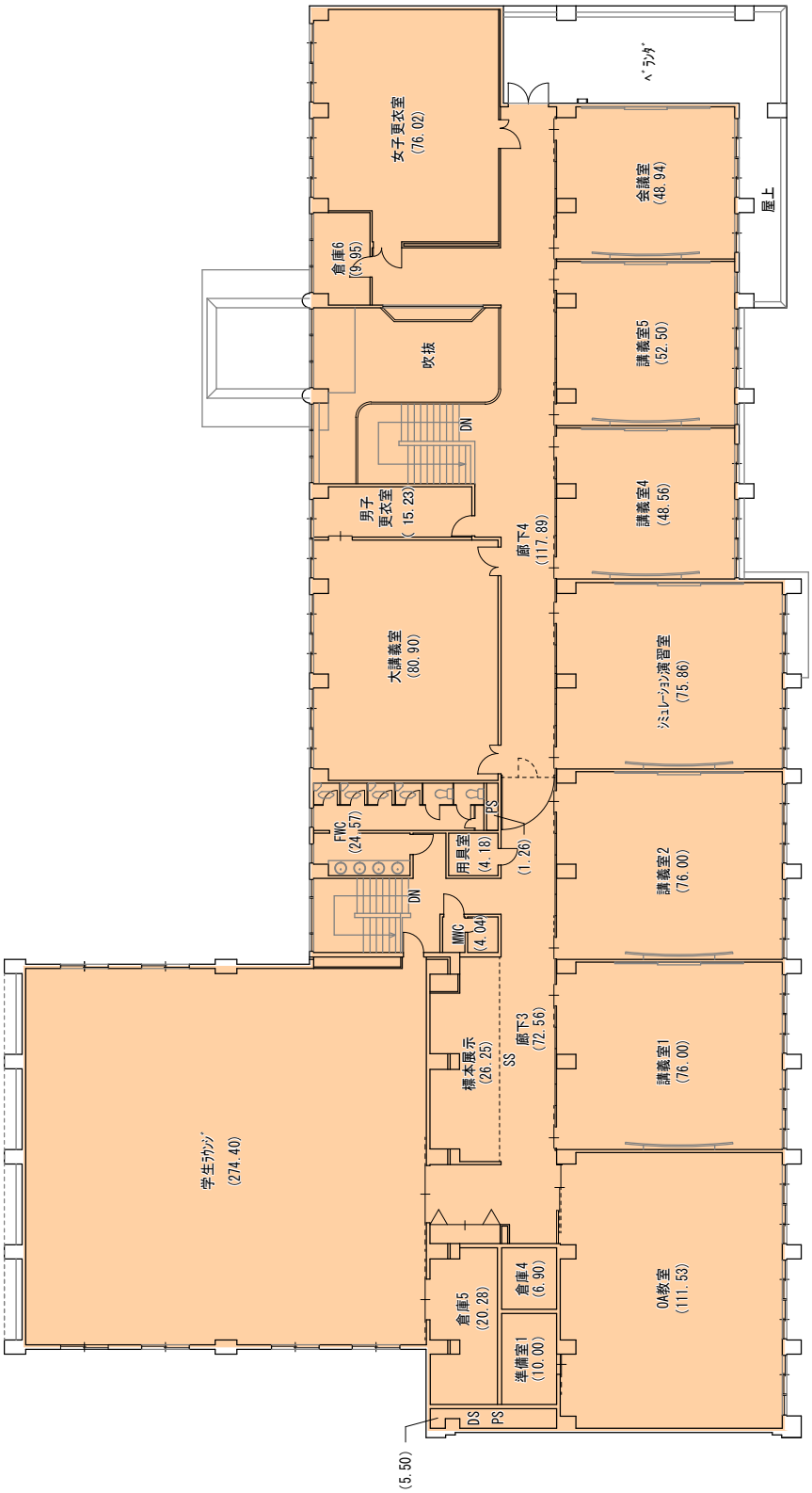
凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	340.99㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	929.74㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,270.73㎡

年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＡ棟(H31)

2階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	1,239.32㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,239.32㎡

年次進行毎の校舎使用状況

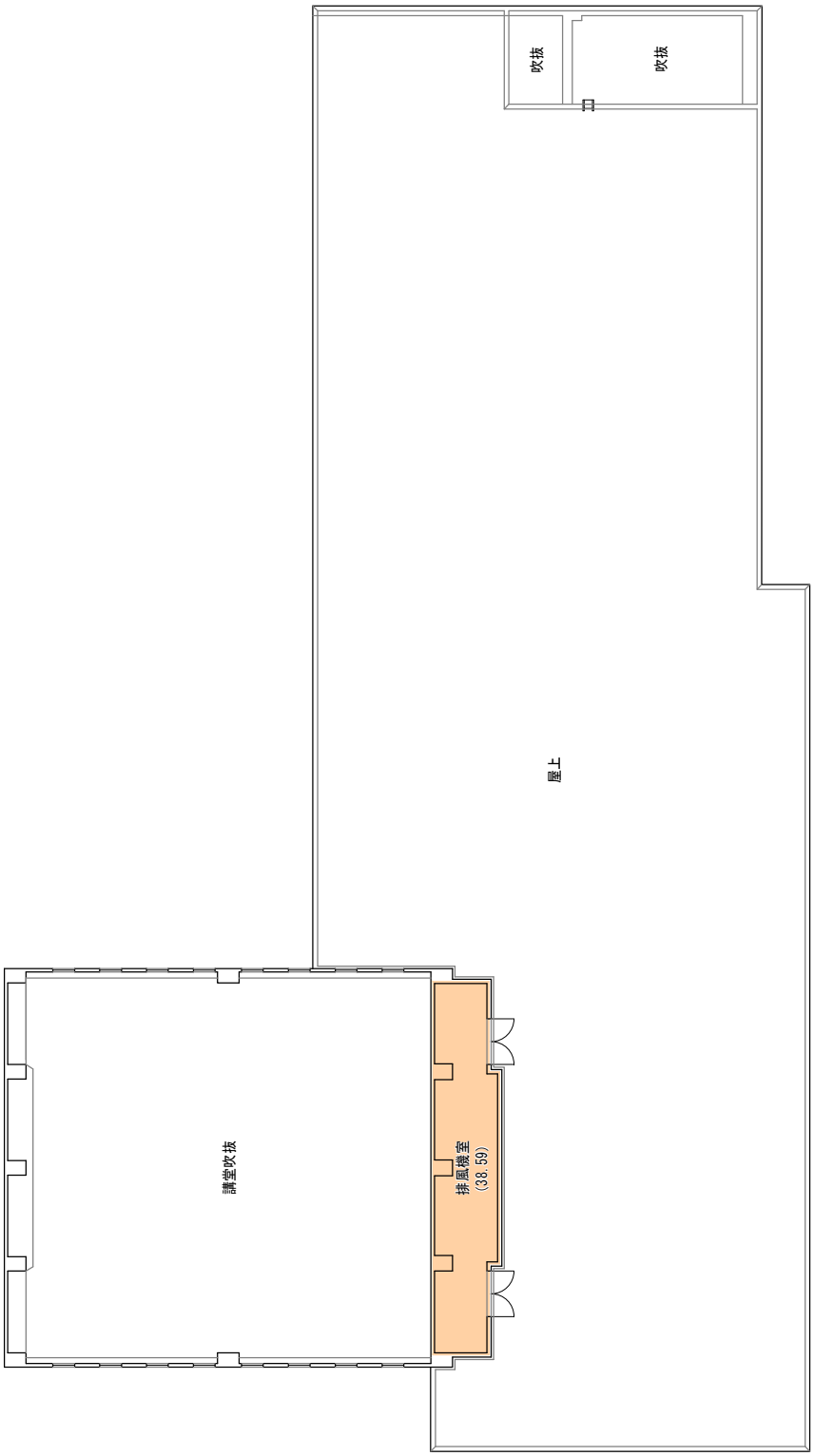
末広キャンパスＡ棟(H31)

R階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	R階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	38.59㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	38.59㎡



年次進行毎の校舎使用状況

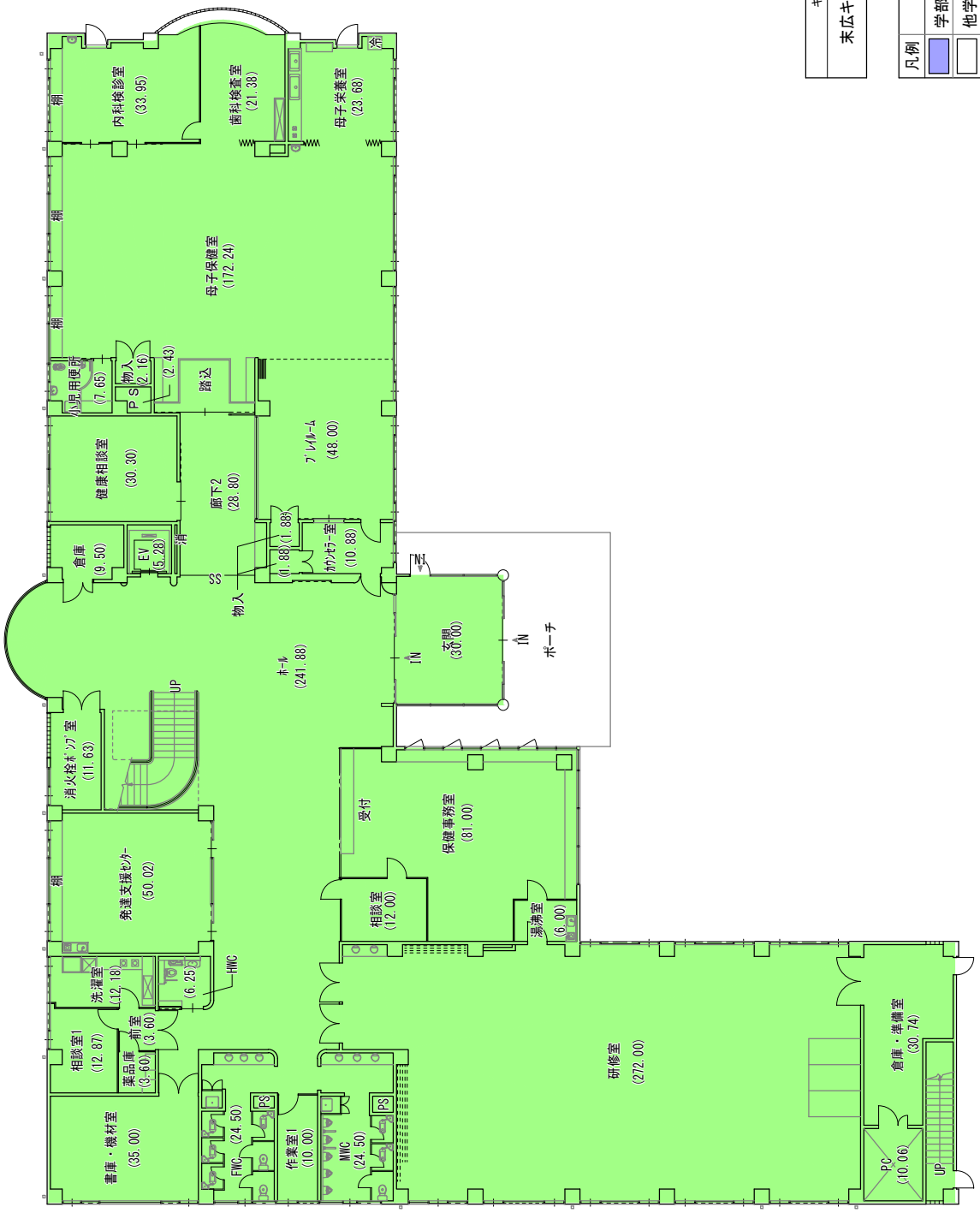
末広キャンパスＢ棟(H31)

1階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（B棟）	1階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	1,277.84㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,277.84㎡



年次進行毎の校舎使用状況

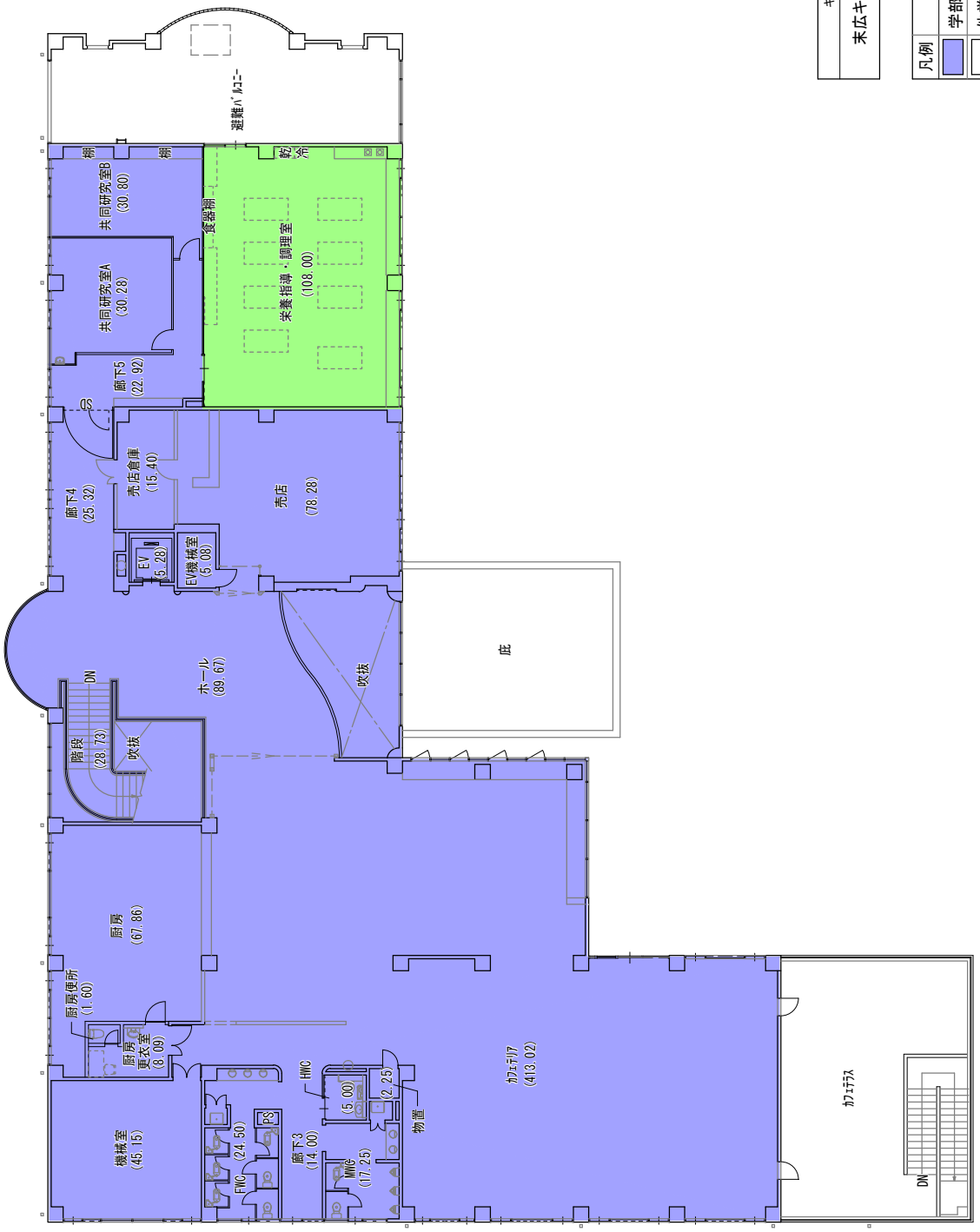
末広キャンパスＢ棟(H31)

2階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（B棟）	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	930.48㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	108.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,038.48㎡



年次進行毎の校舎使用状況

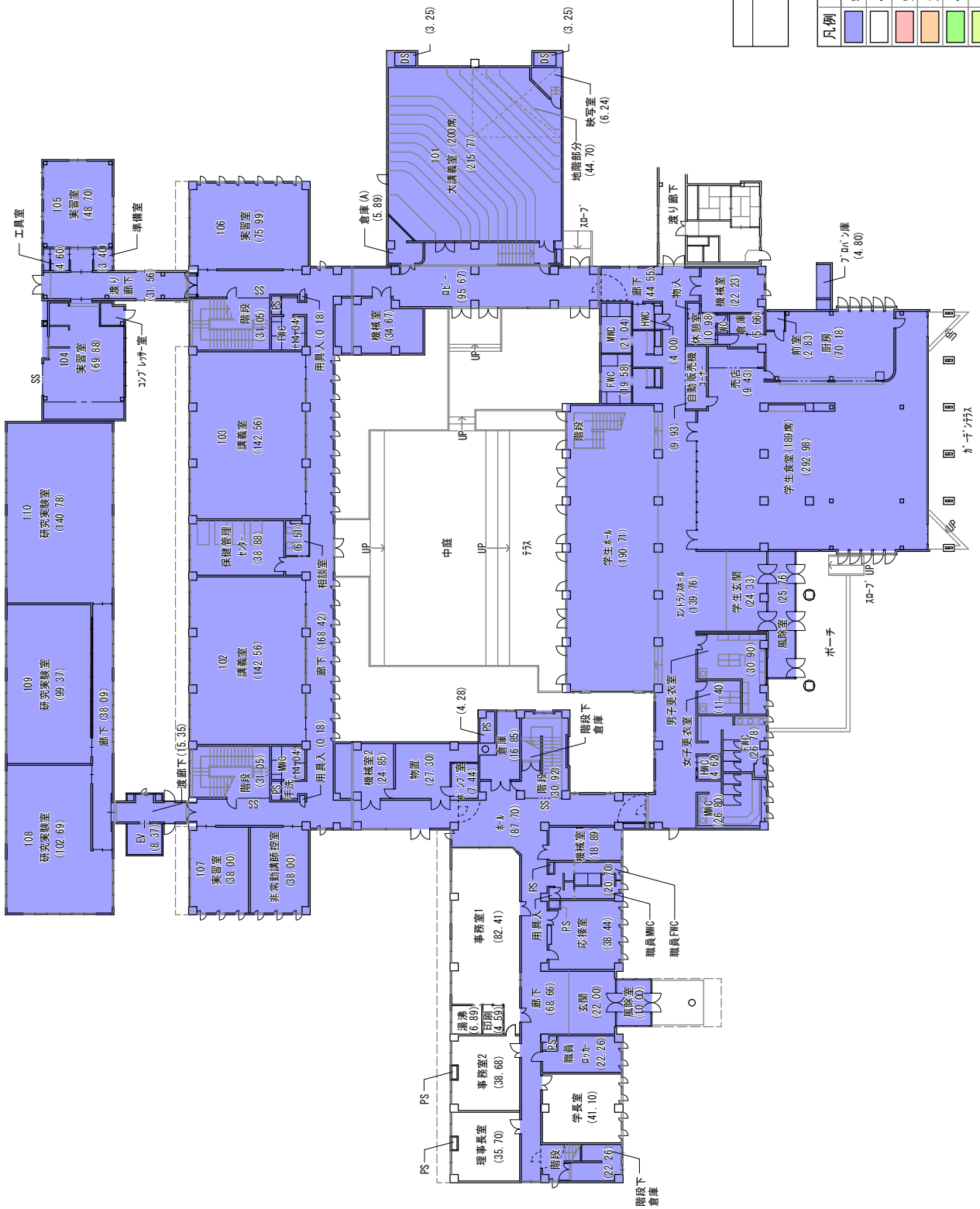
粟津キャンパス(H32～)

1階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	1階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	3,135.32㎡
	他学部等と共用で使用する部分	209.37㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	3,344.69㎡



年次進行毎の校舎使用状況

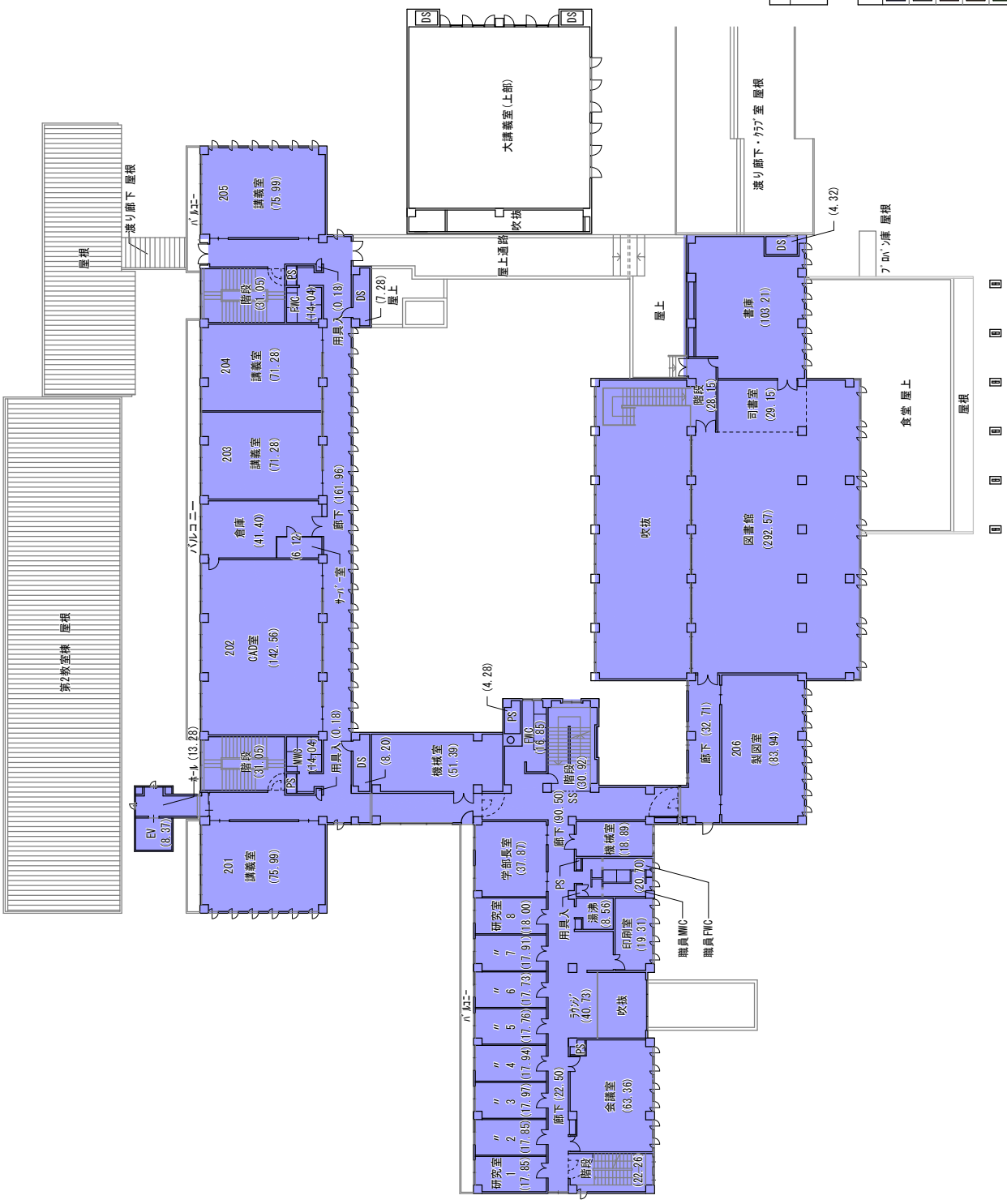
粟津キャンパス(H32～)

2階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	2階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	1,939.43㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	1,939.43㎡



年次進行毎の校舎使用状況

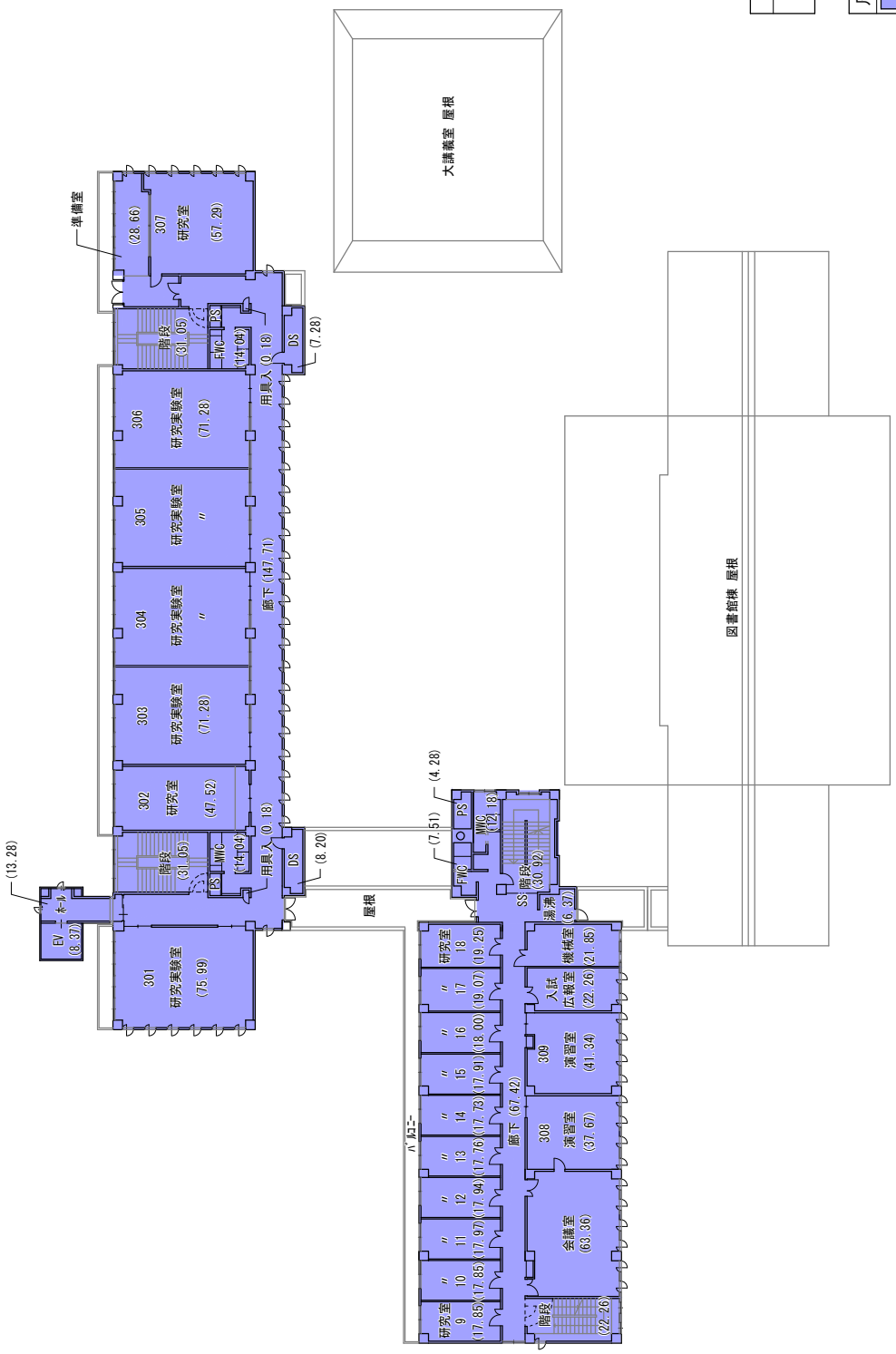
粟津キャンパス(H32～)

3階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	3階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	1,288.71㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	1,288.71㎡



年次進行毎の校舎使用状況

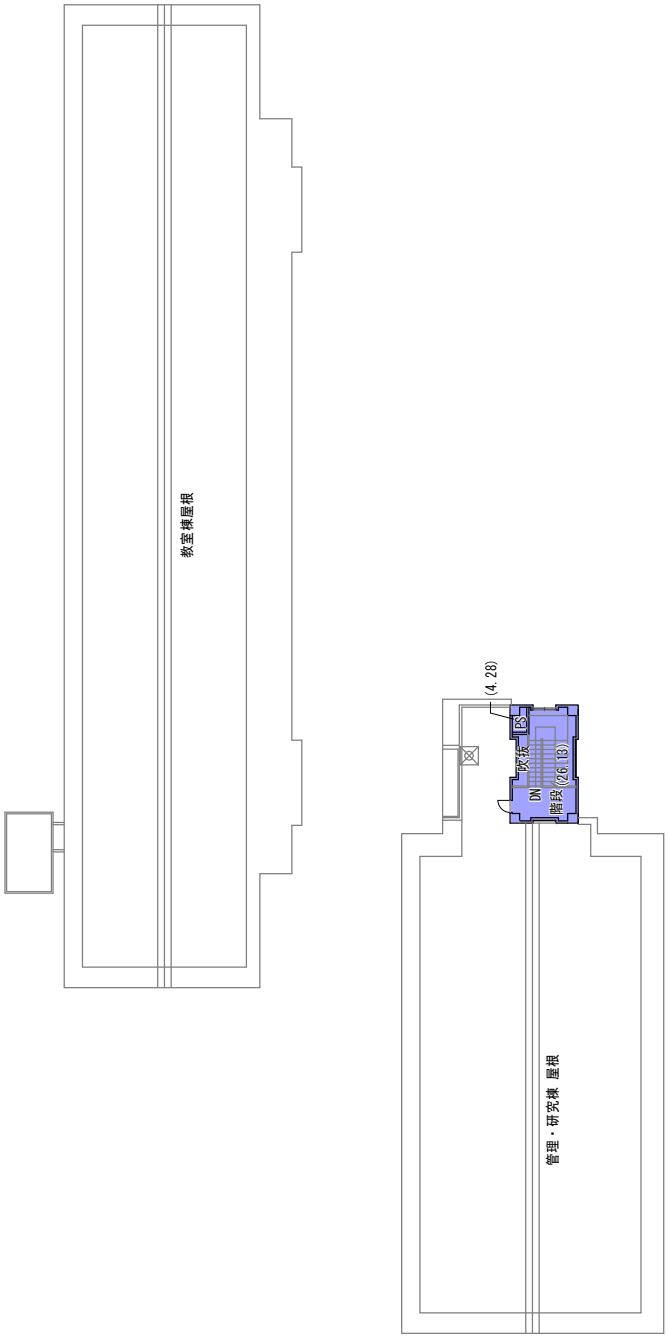
粟津キャンパス(H32～)

R階平面図

【本部】+【生産システム科学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
粟津キャンパス	R階平面図	A4:Scale 1/500

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	28.56㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	(合計)	28.56㎡

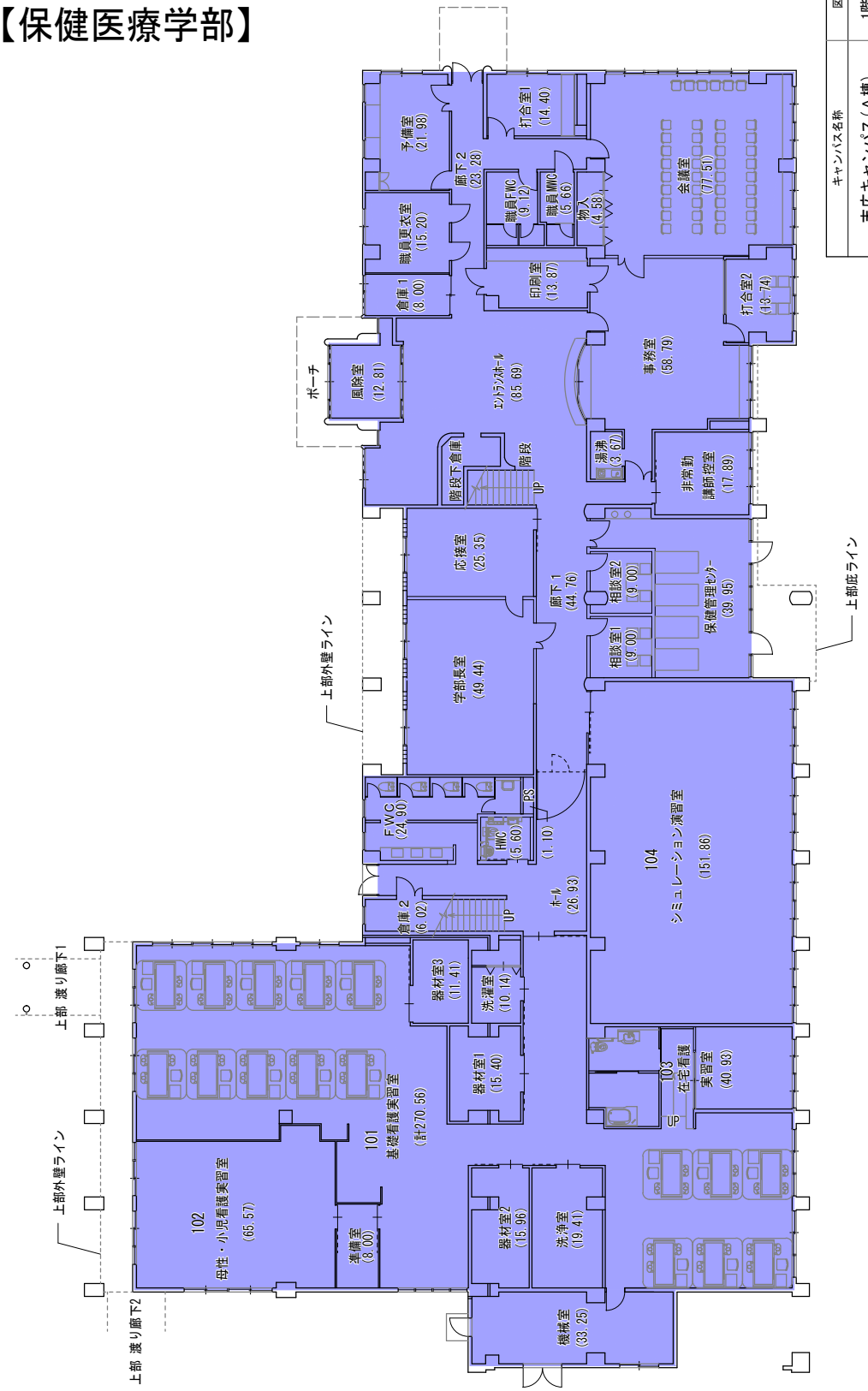


年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＡ棟(H32～)

1階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	1階平面図	A4:Scale 1/300

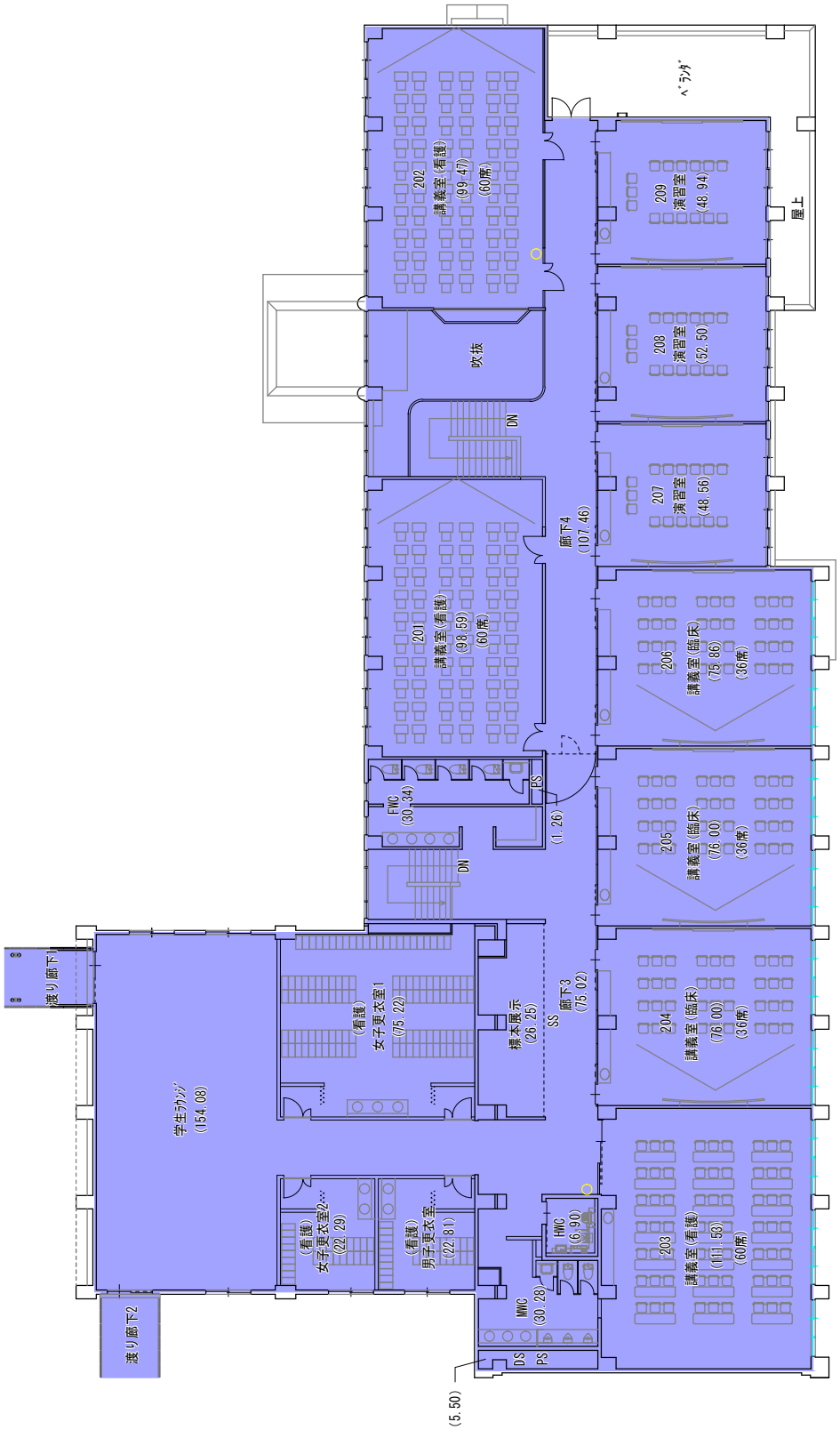
凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	1,270.73㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,270.73㎡

年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＡ棟(H32～)

2階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	2階平面図	A4:Scale 1/300

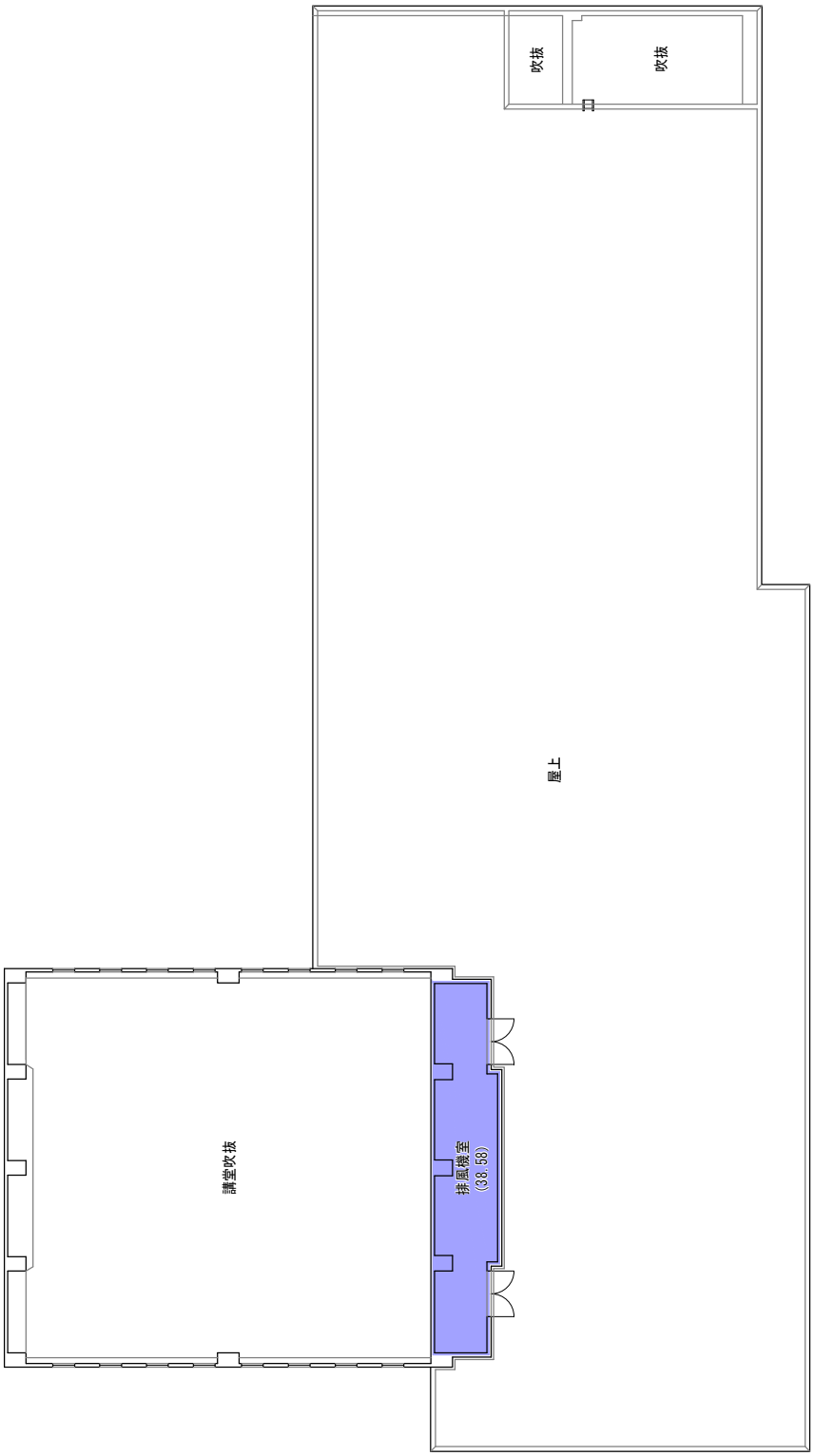
凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	1,239.32㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,239.32㎡

年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＡ棟(H32～)

R階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（A棟）	R階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	38.59㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	38.59㎡

年次進行毎の校舎使用状況

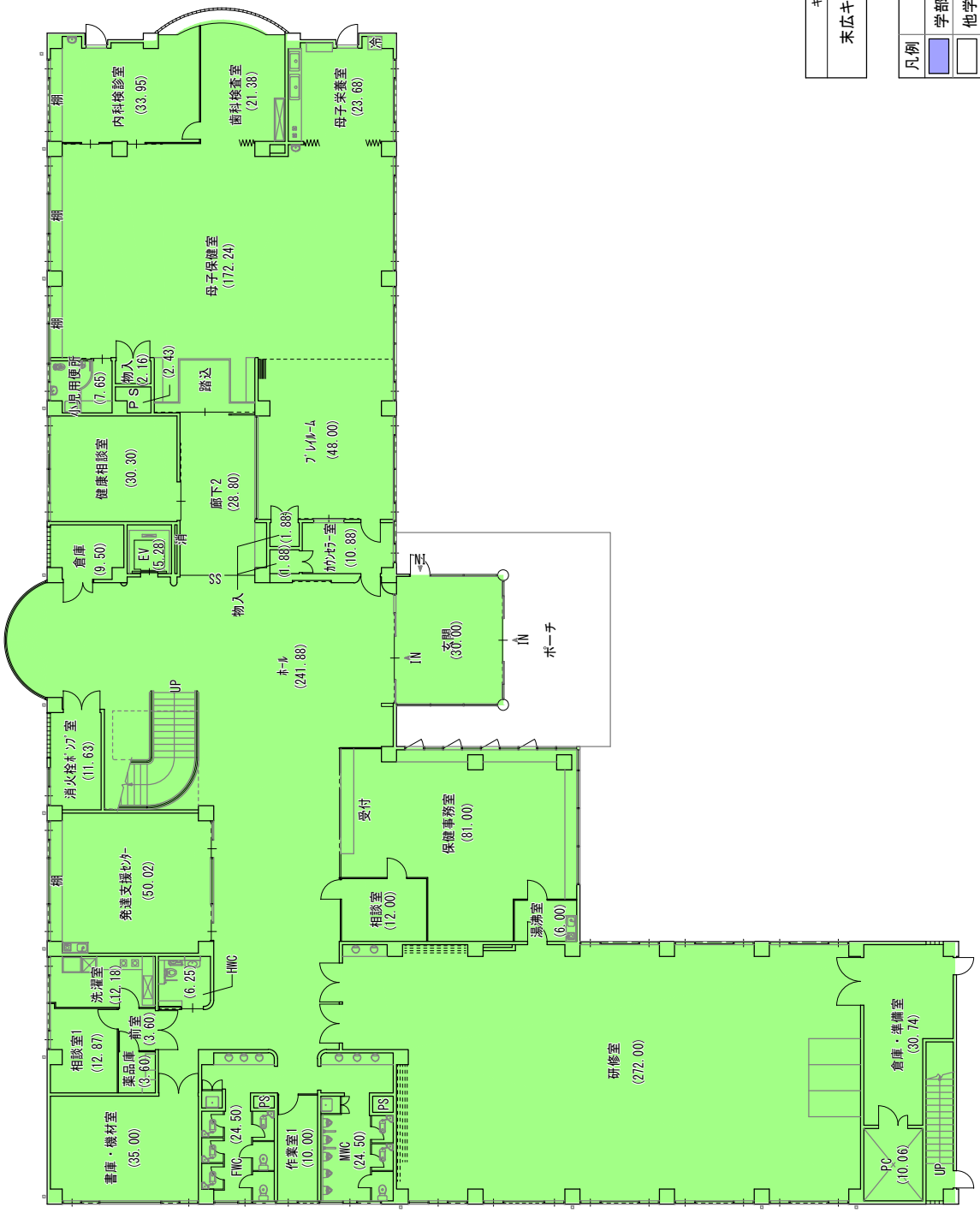
末広キャンパスＢ棟(H32～)

1階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（B棟）	1階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	0.00㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	1,277.84㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,277.84㎡



年次進行毎の校舎使用状況

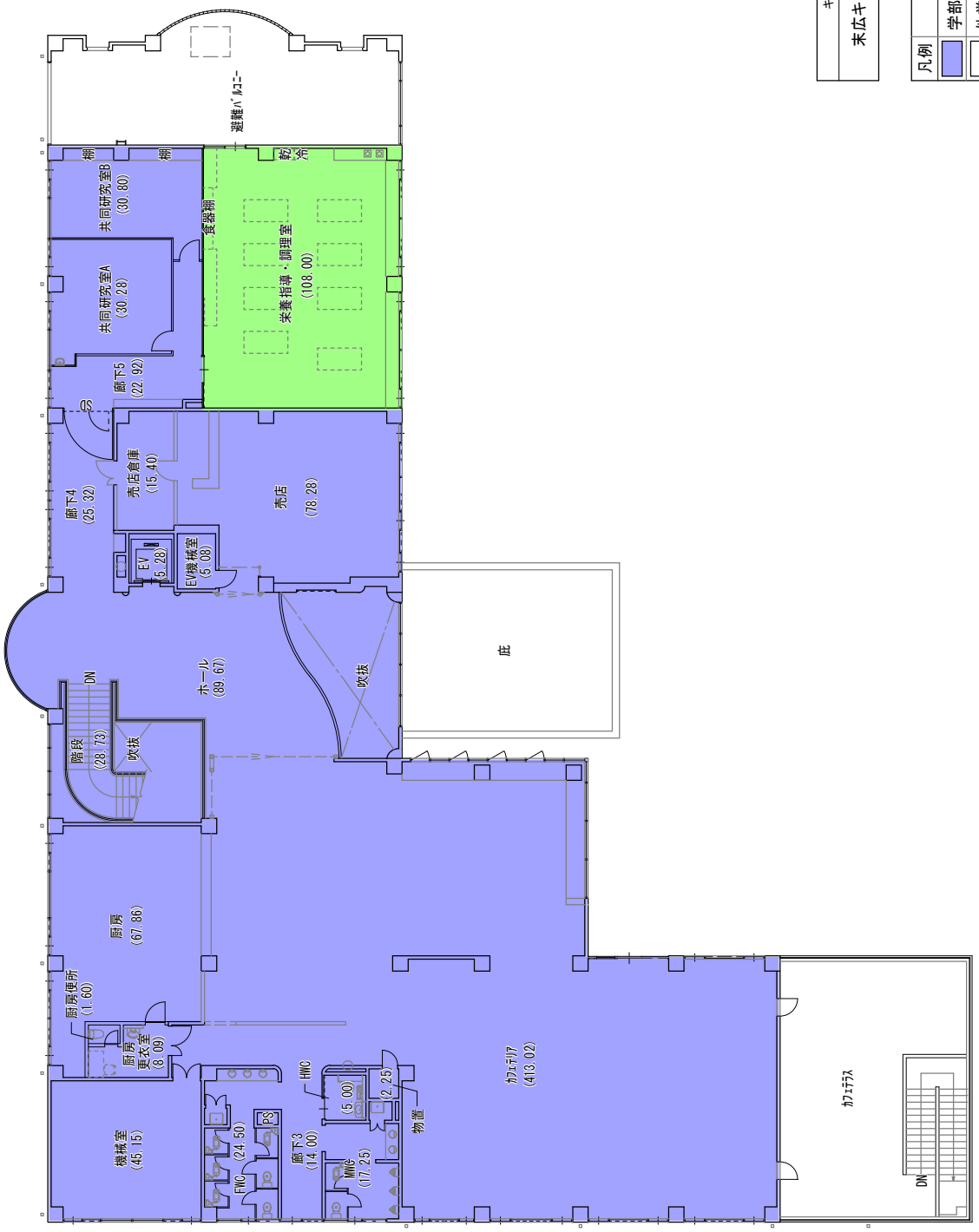
末広キャンパスＢ棟(H32～)

2階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（B棟）	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	930.48㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	108.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,038.48㎡



年次進行毎の校舎使用状況

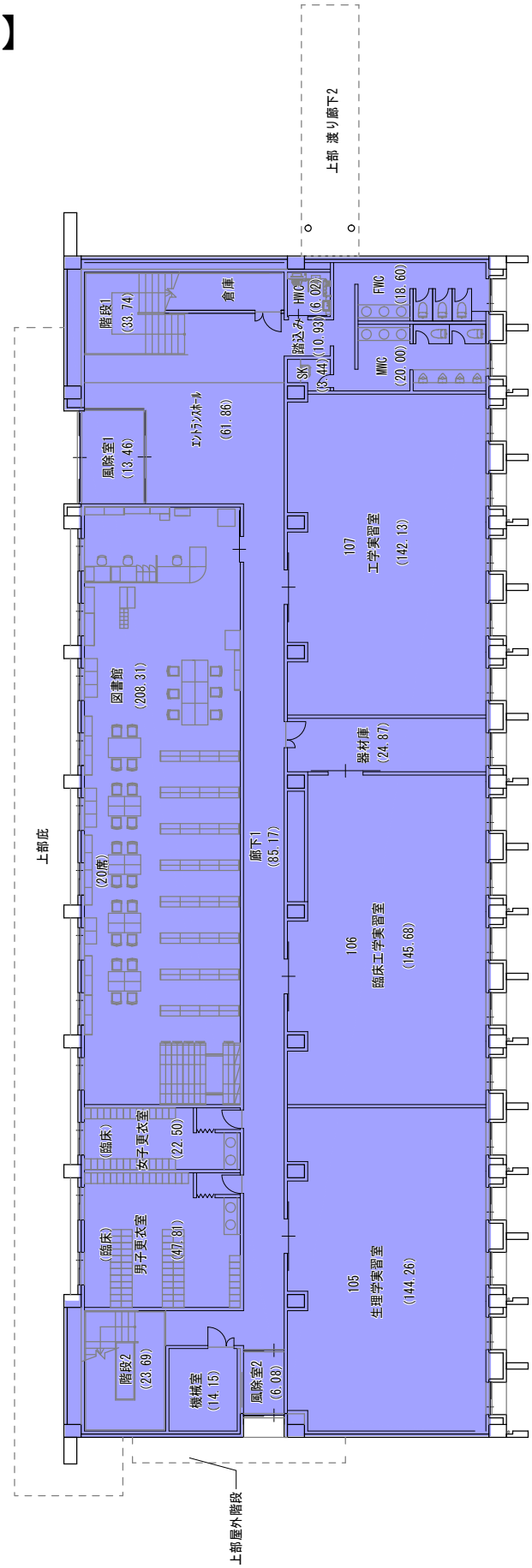
末広キャンパスＣ棟(H32～)

1階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（C棟）	1階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	1,032.70㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,032.70㎡

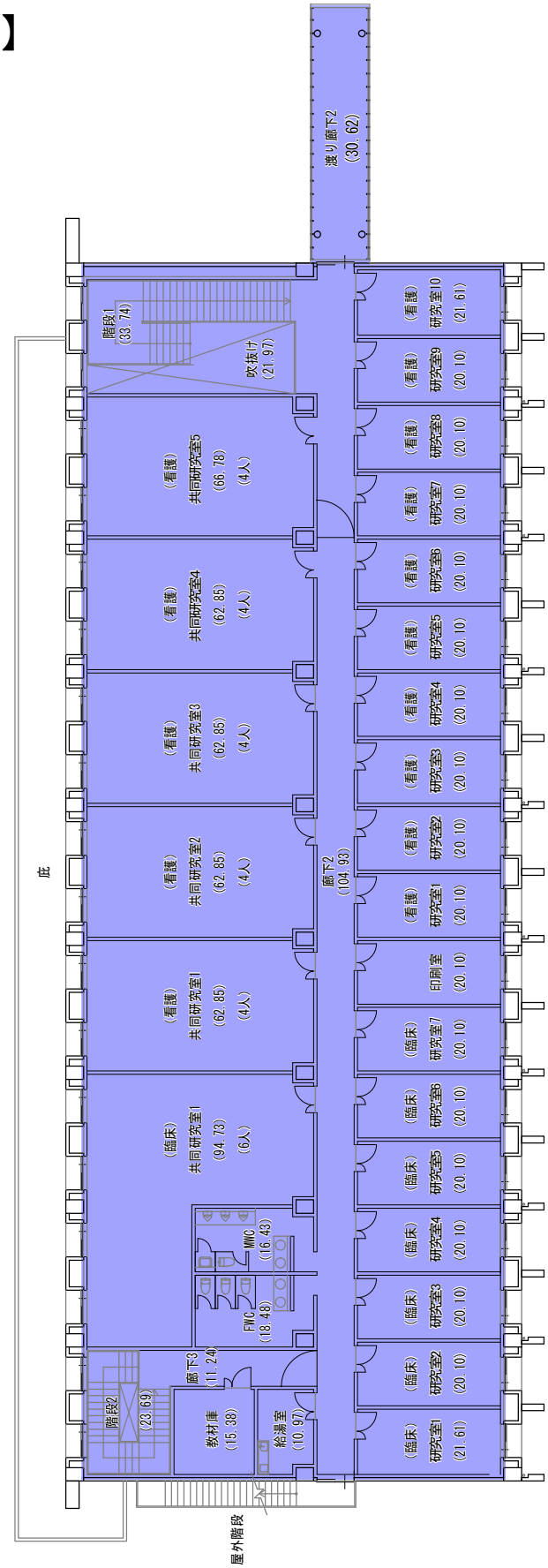


年次進行毎の校舎使用状況

末広キャンパスＣ棟(H32～)

2階平面図

【保健医療学部】



キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス（C棟）	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	1,012.59㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00㎡
	（合計）	1,012.59㎡

年次進行毎の校舎使用状況

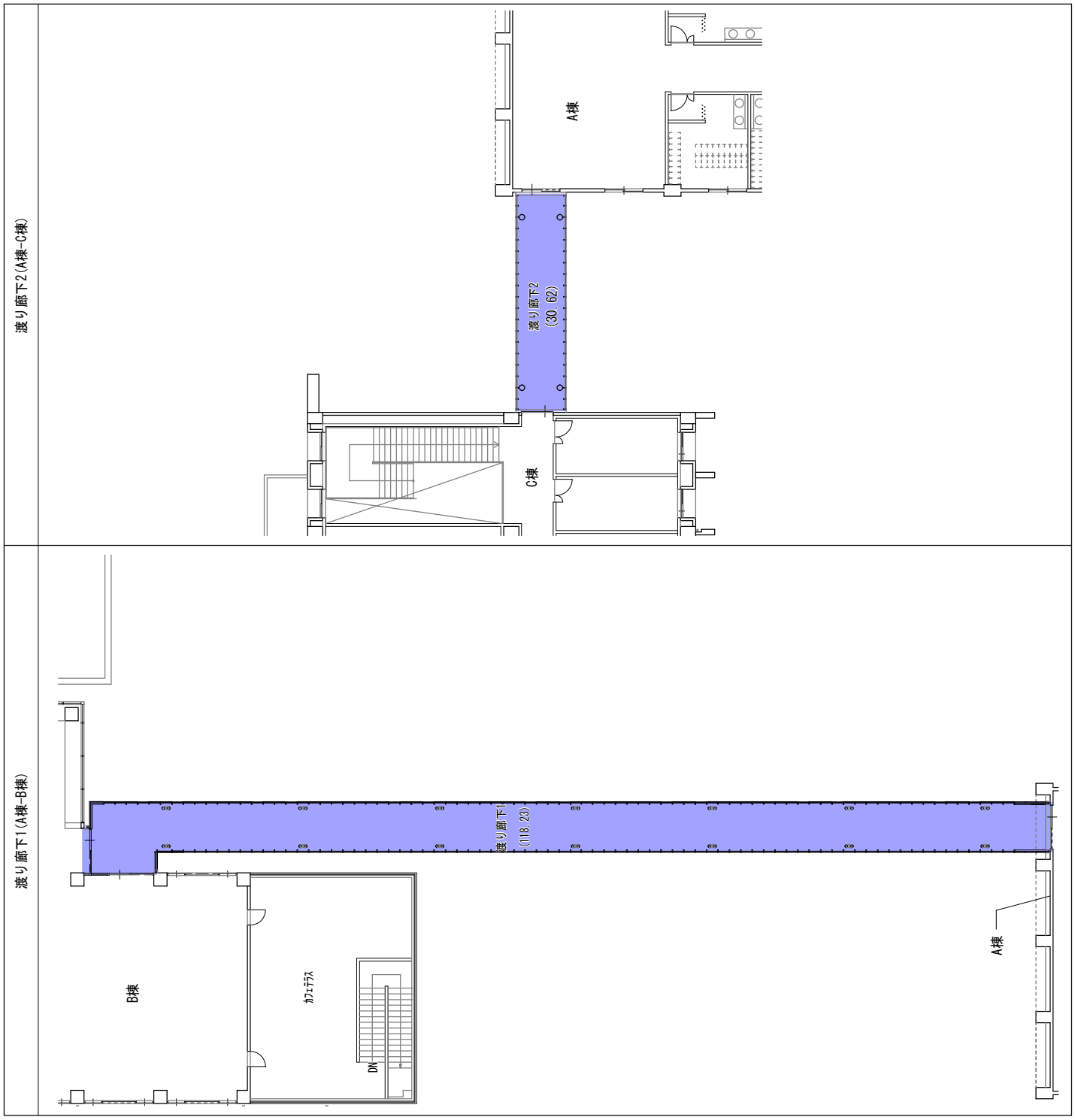
末広キャンパス渡り廊下(H32～)

2階平面図

【保健医療学部】

キャンパス名称	図面名称	縮尺
末広キャンパス(渡り廊下)	2階平面図	A4:Scale 1/300

凡例	当該申請に係る使用区分	面積
	学部等が専用で使用する部分	148.85 ㎡
	他学部等と共用で使用する部分	0.00 ㎡
	短期大学・専修学校等が専用で使用する部分	0.00 ㎡
	大学・短期大学・専修学校等が共用する部分	0.00 ㎡
	他施設が専用で使用する部分	0.00 ㎡
	他施設と共用で使用する部分	0.00 ㎡
	(合計)	148.85 ㎡



資料Ⅶ－３

時 間 割 表

1年前期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201	アカデミック・スキルズ（1・2・3・4班）			情報処理基礎（1・2班）	
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305		キャリアデザイン・チーム論Ⅰ	日本の伝統芸能		人間の発達と心（1班）
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201	英語Ⅰa （長辻）（1班）		日本産業史		
	共通202	英語Ⅰa （岡村）（2班）				
	共通203					
	共通204					
	共通305		◎応用数学Ⅰ		データ科学と社会	健康と体の科学
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201	英語Ⅰb （ハンス）（1班）				
	共通202	英語Ⅰb （アートル）（2班）				
	共通203				経済学（1班）	
	共通204					
	共通305		◎工業数学	自然資源と環境問題（1班）	統計学（1班）	人間の発達と心（2班）
	共通306					スポーツ演習（末広体育館）
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201			自然資源と環境問題（2班）	統計学（2班）	
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305	哲学（1班）	◎応用物理学	現代科学技術論	経済学（2班）	スポーツ演習（末広体育館）
	共通306	心理学（1班）				
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201				中国語Ⅰ	実用英語Ⅰ
	共通202		日本国憲法		フランス語Ⅰ	実用英語Ⅱ
	共通203				ロシア語Ⅰ	実用英語Ⅲ
	共通204				スペイン語Ⅰ	実用英語Ⅳ
	共通305	哲学（2班）			ドイツ語Ⅰ	
	共通306	心理学（2班）				
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

1年後期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201		◎工業力学			
	共通202	テーマ別基礎ゼミ(1･2･3･4班)				
	共通203					
	共通204					
	共通305			医療と文化	文章表現法	人文地理学
	共通306				言葉と文化	
	国際301				クリティカルシンキング(1班)	
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201		英語Ⅱa (長辻)(1班)			
	共通202		英語Ⅱa (碇)(2班)			
	共通203					
	共通204					
	共通305	応用数学Ⅱ		社会福祉論		文化人類学
	共通306				クリティカルシンキング(2班)	
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201	◎プログラミング Ⅰ	英語Ⅱb (レイカー)(1班)	情報処理応用B		英語Ⅲ(2班)
	共通202		英語Ⅱb (碇)(2班)			
	共通203					
	共通204				南加賀の歴史と文化(2班)	
	共通305			公共政策論		
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201	情報処理応用A	化学入門	英語Ⅲ(1班)	英会話Ⅰ	英語Ⅲ(3班)
	共通202		社会学			
	共通203					
	共通204					
	共通305	政治学(1班)	政治学(2班)			
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201		複素解析	中国語Ⅱ	英会話Ⅱ	実用英語Ⅰ
	共通202			フランス語Ⅱ		実用英語Ⅱ
	共通203			ロシア語Ⅱ		実用英語Ⅲ
	共通204			スペイン語Ⅱ		実用英語Ⅳ
	共通305	南加賀の歴史と文化(1班)		ドイツ語Ⅱ		
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

（１限）	8：45－10：15
（２限）	10：30－12：00
（３限）	13：00－14：30
（４限）	14：45－16：15
（５限）	16：30－18：00

時 間 割 表

2年前期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201			統計・確率論		
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201				プログラミングⅡ	
	共通202			エレクトロニクス概論		
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					◎材料力学及び演習
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306	◎工業熱力学及び演習		◎流れ学及び演習	◎電気回路及び演習	◎材料力学及び演習
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306	◎工業熱力学及び演習		◎流れ学及び演習	◎電気回路及び演習	
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

注. 共通教育選択科目の時間割は1年前期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

２年後期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					機械要素設計
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
2限	生産102	応用電磁気学		◎数値解析	◎機械加工学	
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204		機械材料学			エネルギー資源と開発
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
3限	生産102	◎技術者倫理	◎アルゴリズム論		◎振動工学及び演習	
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室			◎機械設計製図Ⅰ		
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
4限	生産102	◎技術英語Ⅰ	◎電気制御学		◎振動工学及び演習	
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室			◎機械設計製図Ⅰ		
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
5限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

注. 共通教育選択科目の時間割は1年後期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

3年前期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	生産102		◎生産工学			
	生産103				電子回路	
	生産201			環境適合技術論		
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
2限	生産102		◎ロボット機構学	◎制御工学		
	生産103				情報科学概論	データベース論
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
3限	生産102		◎技術英語Ⅱ			
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室	◎機械設計製図Ⅱ				
	製図室					
	実習室			◎機械工作実習		
	研究実験室					◎機械電気工学実験Ⅰ
	大講義室					
4限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室	◎機械設計製図Ⅱ				
	製図室					
	実習室			◎機械工作実習		
	研究実験室					◎機械電気工学実験Ⅰ
	大講義室					
5限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

学外技術体験実習A	夏季又は春季休業中
学外技術体験実習B	

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

3年後期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	生産102	◎生産技術				
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
2限	生産102					
	生産103					
	生産201	資源有効利用学	◎人工知能	電気機器工学	画像認識論	データマイニング
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
3限	生産102			◎課題探求プロジェクト		
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室		◎機械電気工学実験Ⅱ			
	大講義室					
4限	生産102			◎課題探求プロジェクト	◎技術英語演習Ⅰ	
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室		◎機械電気工学実験Ⅱ			
	大講義室					
5限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

学外技術体験実習A 学外技術体験実習B	夏季又は春季休業中

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

4年前期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	生産102	◎課題研究ゼミナール				
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
2限	生産102	◎課題研究ゼミナール			インテリジェント生産システム	◎技術英語演習Ⅱ
	生産103		地球環境と環境流体	◎センサと通信		
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
3限	生産102					
	生産103					
	生産201	◎卒業研究		◎卒業研究		
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
4限	生産102					
	生産103					
	生産201					◎卒業研究
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
5限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（1限）　8：45－10：15
（2限）　10：30－12：00
（3限）　13：00－14：30
（4限）　14：45－16：15
（5限）　16：30－18：00

時 間 割 表

4年後期　生産システム科学部　生産システム科学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
2限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
3限	生産102					
	生産103					
	生産201	◎卒業研究	◎卒業研究	◎卒業研究	◎卒業研究	◎卒業研究
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
4限	生産102					
	生産103					
	生産201		◎卒業研究	◎卒業研究	◎卒業研究	◎卒業研究
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					
5限	生産102					
	生産103					
	生産201					
	生産203					
	生産204					
	生産205					
	CAD室					
	製図室					
	実習室					
	研究実験室					
	大講義室					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（1限）　8：45－10：15
（2限）　10：30－12：00
（3限）　13：00－14：30
（4限）　14：45－16：15
（5限）　16：30－18：00

時 間 割 表

1年前期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203				情報処理基礎(3班)	
	共通204					
	共通305			日本の伝統芸能		人間の発達と心(1班)
	共通306		◎解剖学			
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307	アカデミック・スキルズ(5・6				
	演習308	班)				
	演習309					
	演習310					
2限	共通201			日本産業史		
	共通202					
	共通203	英語Ⅰb (ハンス)(3班)				
	共通204	英語Ⅰb (アートル)(4班)				
	共通305			教養としての物理	データ科学と社会	健康と体の科学
	共通306		◎生理学			
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201		◎市民健康論			
	共通202					
	共通203	英語Ⅰa (長辻)(3班)			経済学(1班)	
	共通204	英語Ⅰa (岡村)(4班)				
	共通305			自然資源と環境問題(1班)	統計学(1班)	人間の発達と心(2班)
	共通306					スポーツ演習(末広体育館)
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201			自然資源と環境問題(2班)	統計学(2班)	
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305	哲学(1班)		現代科学技術論	経済学(2班)	
	共通306	心理学(1班)	◎病理学			
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201		◎心の健康とストレスマネジメント論		中国語Ⅰ	実用英語Ⅰ
	共通202		日本国憲法		フランス語Ⅰ	実用英語Ⅱ
	共通203				ロシア語Ⅰ	実用英語Ⅲ
	共通204				スペイン語Ⅰ	実用英語Ⅳ
	共通305	哲学(2班)		キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	ドイツ語Ⅰ	
	共通306	心理学(2班)				
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

1年後期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305	テーマ別基礎ゼミ(5・6班)		医療と文化	文章表現法	人文地理学
	共通306		◎薬理学		言葉と文化	
	国際301			教養としての数学	クリティカルシンキング(1班)	
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307	テーマ別基礎ゼミ(7班)				
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203	英語Ⅱb （バンス）(3班)				
	共通204	英語Ⅱb （岡村）(4班)				
	共通305		◎感染免疫学	社会福祉論		文化人類学
	共通306				クリティカルシンキング(2班)	
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201			情報処理応用B		英語Ⅲ(2班)
	共通202					
	共通203	英語Ⅱa （長辻）(3班)				
	共通204	英語Ⅱa （碇）(4班)			南加賀の歴史と文化(2班)	
	共通305		◎看護学概論	公共政策論		
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201	情報処理応用A		英語Ⅲ(1班)	英会話Ⅰ	英語Ⅲ(3班)
	共通202		社会学			
	共通203		◎認知症ケア論			
	共通204					
	共通305	政治学(1班)	政治学(2班)			
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201			中国語Ⅱ	英会話Ⅱ	実用英語Ⅰ
	共通202			フランス語Ⅱ		実用英語Ⅱ
	共通203		◎栄養・生化学	ロシア語Ⅱ		実用英語Ⅲ
	共通204			スペイン語Ⅱ		実用英語Ⅳ
	共通305	南加賀の歴史と文化(1班)		ドイツ語Ⅰ		
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

保健医療校舎　基礎看護実習室	◎基礎看護実習Ⅰ	2月に1週間実施

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

2年前期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202			◎看護の技基礎コースⅠ		◎母性看護学概論／母性看護ケア提供論
	共通203					
	共通204					
	共通305				◎精神保健看護ケア提供論	
	共通306					
	国際301	◎精神保健看護学概論				
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202			◎看護の技基礎コースⅠ	◎老年看護学概論／老年看護ケア提供論	
	共通203		◎看護ケア提供論：看護理論と看護過程			
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301	◎母子疾病・治療論				
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201			◎看護倫理		
	共通202				◎成人看護学概論	◎小児看護学概論／小児看護ケア提供論
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306		◎公衆衛生学			
	国際301					
	国際302					
	国際303	◎老年疾病・治療論				
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201	◎急性疾患論	◎看護の品格育成論			
	共通202				◎看護の技基礎コースⅡ	◎成人看護ケア提供論
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

注. 共通教育選択科目の時間割は1年前期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

2年後期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201		◎在宅看護学概論／在宅看護ケア提供論	◎看護の技基礎コースⅢ		
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室				◎精神保健看護演習	◎老年看護演習
2限	保健201	◎生活習慣病論		◎看護の技基礎コースⅢ		
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					◎老年看護演習
3限	保健201	◎公衆衛生看護学概論／健康教育論		◎保健医療福祉法制度論		
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
4限	保健201			◎疫学・保健統計学		
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

◎小児看護実習Ⅰ	11月に1週間実施
◎精神保健看護実習Ⅰ	
◎基礎看護実習Ⅱ	1～2月に2週間実施

注．共通教育選択科目の時間割は1年後期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

3年前期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					◎成人看護演習
	母小実習室	◎小児看護演習			◎母性看護演習	
	在宅実習室		◎在宅看護演習			
	演習室					
2限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					◎成人看護演習
	母小実習室	◎小児看護演習			◎母性看護演習	
	在宅実習室		◎在宅看護演習			
	演習室					
3限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室	◎成人看護演習		◎成人看護演習		
	母小実習室		◎母性看護演習		◎小児看護演習	
	在宅実習室					◎在宅看護演習
	演習室					
4限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室	◎成人看護演習		◎成人看護演習		
	母小実習室		◎母性看護演習		◎小児看護演習	
	在宅実習室					◎在宅看護演習
	演習室					
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室	◎成人看護演習		◎成人看護演習		
	母小実習室		◎母性看護演習		◎小児看護演習	
	在宅実習室					◎在宅看護演習
	演習室					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

◎精神保健看護実習Ⅱ	6～12月に実施 別紙「臨地実習計画表」のとおり
◎老年看護実習Ⅰ	
◎老年看護実習Ⅱ	
◎成人看護実習Ⅰ	
◎成人看護実習Ⅱ	
◎成人看護実習Ⅲ	
◎母性看護実習	
◎小児看護実習Ⅱ	
◎在宅看護実習	

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

3年後期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201	公衆衛生看護方法論Ⅰ		公衆衛生看護方法論Ⅱ		
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室		疫学・保健統計学演習		疫学・保健統計学演習	疫学・保健統計学演習
2限	保健201	公衆衛生看護方法論Ⅰ		公衆衛生看護方法論Ⅱ		
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室		疫学・保健統計学演習		疫学・保健統計学演習	疫学・保健統計学演習
3限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
4限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

◎精神保健看護実習Ⅱ	
◎老年看護実習Ⅰ	
◎老年看護実習Ⅱ	
◎成人看護実習Ⅰ	6～12月に実施
◎成人看護実習Ⅱ	
◎成人看護実習Ⅲ	別紙「臨地実習計画表」のとおり
◎母性看護実習	
◎小児看護実習Ⅱ	
◎在宅看護実習	

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

4年前期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201	公衆衛生看護方法論Ⅲ				
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室		公衆衛生看護方法論Ⅳ	公衆衛生看護方法論Ⅴ	公衆衛生看護方法論Ⅴ	公衆衛生看護管理論
2限	保健201	公衆衛生看護方法論Ⅲ				地域の健康課題と多職種連携
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室		公衆衛生看護方法論Ⅳ	公衆衛生看護方法論Ⅴ	公衆衛生看護方法論Ⅴ	
3限	保健201	看護と異文化理解		◎卒業研究	◎卒業研究	
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					排便ケア
	演習室		◎研究方法論			
4限	保健201	グローバル感染対策		◎卒業研究	看護リーダー	
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室		安全・安楽なポジショニングの技			看護技術の科学的検証
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
5限	保健201					チーム医療論
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

◎看護統合実習	5～6月に2週間実施	別紙「臨地実習計画表」のとおり
公衆衛生看護実習	4～9月に実施	

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

4年後期　保健医療学部　　看護学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
2限	保健201			MMPI心理検査と看護ケア		統合医療
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室	タッチケア・スキル			ノンテクニカル・スキル	
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室		食と看護			
3限	保健201	看護と異文化理解	地域包括ケア	◎卒業研究	◎卒業研究	
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
4限	保健201			◎卒業研究		
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	基礎実習室					
	母小実習室					
	在宅実習室					
	演習室					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

1年前期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204				情報処理基礎(4班)	
	共通305			日本の伝統芸能		人間の発達と心(1班)
	共通306		◎解剖学			
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309	アカデミック・スキルズ(7・8班)				
	演習310					
2限	共通201			日本産業史		
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305	英語Ⅰa (碇)(5班)		教養としての物理	データ科学と社会	健康と体の科学
	共通306		◎生理学			
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202		◎生化学			
	共通203				経済学(1班)	
	共通204					
	共通305	英語Ⅰb (レイカー)(5班)		自然資源と環境問題(1班)	統計学(1班)	人間の発達と心(2班)
	共通306					スポーツ演習(末広体育館)
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201			自然資源と環境問題(2班)	統計学(2班)	
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305	哲学(1班)		現代科学技術論	経済学(2班)	
	共通306	心理学(1班)	◎病理学			
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201		◎臨床工学総論		中国語Ⅰ	実用英語Ⅰ
	共通202		日本国憲法		フランス語Ⅰ	実用英語Ⅱ
	共通203				ロシア語Ⅰ	実用英語Ⅲ
	共通204				スペイン語Ⅰ	実用英語Ⅳ
	共通305	哲学(2班)		キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	ドイツ語Ⅰ	
	共通306	心理学(2班)				
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

1年後期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					◎医療関係法規
	共通203					
	共通204					
	共通305			医療と文化	文章表現法	人文地理学
	共通306				言葉と文化	
	国際301			教養としての数学	クリティカルシンキング（1班）	
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308	テーマ別基礎ゼミ（8・9班）				
	演習309					
	演習310					
2限	共通201				電気工学演習Ⅰ	
	共通202					
	共通203					
	共通204		◎応用数学			
	共通305	英語Ⅱa （長辻）（5班）		社会福祉論		文化人類学
	共通306				クリティカルシンキング（2班）	
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201			情報処理応用B		英語Ⅲ（2班）
	共通202					
	共通203					
	共通204				南加賀の歴史と文化（2班）	
	共通305	英語Ⅱb （バンス）（5班）	◎看護学概論	公共政策論		
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習（末広体育館）
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201	情報処理応用A		英語Ⅲ（1班）	英会話Ⅰ	英語Ⅲ（3班）
	共通202		社会学			
	共通203					
	共通204		◎電気工学Ⅰ			
	共通305	政治学（1班）	政治学（2班）			
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習（末広体育館）
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201			中国語Ⅱ	英会話Ⅱ	実用英語Ⅰ
	共通202		政治学	フランス語Ⅱ		実用英語Ⅱ
	共通203			ロシア語Ⅱ		実用英語Ⅲ
	共通204		◎情報処理工学	スペイン語Ⅱ		実用英語Ⅳ
	共通305	南加賀の歴史と文化（1班）		ドイツ語Ⅱ		
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

2年前期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201		◎電気工学Ⅱ			電気工学演習Ⅱ
	共通202					
	共通203	◎解剖生理学実習		◎医用機器学概論		
	共通204	↓				
	共通305	（保健医療校舎・生理学実習室）				
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					電子工学演習Ⅰ
	共通202					
	共通203					
	共通204		◎生体物性工学			
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201				◎プログラミング演習	
	共通202			◎呼吸機能代行装置学		
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306		◎公衆衛生学			
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203	◎電子工学Ⅰ				
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

注. 共通教育選択科目の時間割は1年前期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

2年後期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204	◎医学概論	◎薬理学(中央校舎　共通306	◎生体材料工学	◎電子工学Ⅱ	◎電気工学実習
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
2限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204	◎医用機械工学	◎感染免疫学(中央校舎　共通305)	◎医用治療機器学	電子工学演習Ⅱ	◎電気工学実習
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
3限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204	◎医用信号処理	◎代謝機能代行装置学	◎循環機能代行装置学		
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室				◎呼吸機能代行装置学実習	
4限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室				◎呼吸機能代行装置学実習	
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

注. 共通教育選択科目の時間割は1年後期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

3年前期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
2限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204		医用通信システム	◎臨床医学Ⅰ	◎生体計測工学	◎生体計測装置学
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
3限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					◎医用工学
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室		◎医用治療機器学実習	◎循環機能代行装置学実習	◎代謝機能代行装置学実習	
	工学実習室	◎電子工学実習				
4限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					◎医用機器安全管理学
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室		◎医用治療機器学実習	◎循環機能代行装置学実習	◎代謝機能代行装置学実習	
	工学実習室	◎電子工学実習				
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室	◎電子工学実習				

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

3年後期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
2限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204		◎画像診断装置学			
	保健205			◎臨床医学Ⅱ	臨床医学Ⅲ	
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
3限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204				臨床画像工学	
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室		◎生体計測装置学実習	◎医用機器安全管理学実習		
	工学実習室	◎医用システム工学実習				
4限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室		◎生体計測装置学実習	◎医用機器安全管理学実習		
	工学実習室	◎医用システム工学実習				
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室	◎医用システム工学実習				

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

4年前期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
2限	保健201					地域の健康課題と多職種連携
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
3限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
4限	保健201	グローバル感染対策				
	保健202		◎卒業研究Ⅰ	◎卒業研究Ⅰ	◎卒業研究Ⅰ	
	保健203					
	保健204					看護技術の科学的検証
	保健205					↓
	保健206					（看護・基礎実習室）
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
5限	保健201					チーム医療論
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

◎臨床実習	夏季休業中に実施　　別紙「臨床実習計画表」のとおり

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

4年後期　保健医療学部　　臨床工学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
2限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
3限	保健201		地域包括ケア			
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
4限	保健201					
	保健202		◎卒業研究Ⅱ	◎卒業研究Ⅱ	◎卒業研究Ⅱ	
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					
5限	保健201					
	保健202					
	保健203					
	保健204					
	保健205					
	保健206					
	生理実習室					
	臨工実習室					
	工学実習室					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

1年前期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305	キャリアデザイン・チーム論Ⅲ		日本の伝統芸能		人間の発達と心(1班)
	共通306					
	国際301		◎中国語Ⅰa(2班)			
	国際302		◎中国語Ⅰb(2班)			
	国際303				情報処理基礎(5・6班)	
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201		英語Ⅰa （碇)(6班)	日本産業史		
	共通202		英語Ⅰa （岡村)(7班)			
	共通203					
	共通204					
	共通305			教養としての物理	データ科学と社会	健康と体の科学
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308	アカデミック・スキルズ(9・10・11・12班)				
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203		英語Ⅰb （バンス)(6班)		経済学(1班)	
	共通204					
	共通305			自然資源と環境問題(1班)	統計学(1班)	人間の発達と心(2班)
	共通306					スポーツ演習(末広体育館)
	国際301	◎中国語Ⅰa(1班)				
	国際302	◎中国語Ⅰb(1班)				
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201			自然資源と環境問題(2班)	統計学(2班)	
	共通202					
	共通203					
	共通204		英語Ⅰb （バンス)(7班)			
	共通305	哲学(1班)		現代科学技術論	経済学(2班)	
	共通306	心理学(1班)				
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習(末広体育館)
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201				中国語Ⅰ	実用英語Ⅰ
	共通202		日本国憲法		フランス語Ⅰ	実用英語Ⅱ
	共通203				ロシア語Ⅰ	実用英語Ⅲ
	共通204				スペイン語Ⅰ	実用英語Ⅳ
	共通305	哲学(2班)	◎国際交流論		ドイツ語Ⅰ	
	共通306	心理学(2班)				
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

1年後期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204		◎中国語Ⅱa(2班)			
	共通305		◎中国語Ⅱb(2班)	医療と文化	文章表現法	人文地理学
	共通306				言葉と文化	
	国際301	英語Ⅱa （長辻）(6班)		教養としての数学	クリティカルシンキング(1班)	
	国際302	英語Ⅱa （碇）(7班)				
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305			社会福祉論		文化人類学
	共通306				クリティカルシンキング(2班)	
	国際301		英語Ⅱb （フォックス）(6班)			
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308	テーマ別基礎ゼミ(10・11・12・13班)				
	演習309					
	演習310					
3限	共通201			情報処理応用B		英語Ⅲ(2班)
	共通202					
	共通203					
	共通204				南加賀の歴史と文化(2班)	
	共通305			公共政策論		
	共通306					
	国際301	◎中国語Ⅱa(1班)	英語Ⅱb （フォックス）(7班)			
	国際302	◎中国語Ⅱb(1班)				
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習（末広体育館）
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201	情報処理応用A		英語Ⅲ(1班)		英語Ⅲ(3班)
	共通202		社会学			
	共通203					
	共通204					
	共通305	政治学(1班)	政治学(2班)			
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					スポーツ演習（末広体育館）
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201			中国語Ⅱ		実用英語Ⅰ
	共通202		政治学	フランス語Ⅱ		実用英語Ⅱ
	共通203			ロシア語Ⅱ		実用英語Ⅲ
	共通204			スペイン語Ⅱ		実用英語Ⅳ
	共通305	南加賀の歴史と文化(1班)		ドイツ語Ⅱ		
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

2年前期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306	◎English comprehension Ⅰ		観光学概論		日本文化論
	国際301					
	国際302					
	国際303		English comprehension Ⅱa			
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306	◎English expression Ⅰ		地域政策概論	グローバルヒストリー	言語学概論
	国際301		中国語Ⅲa			
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306			異文化コミュニケーション論	アジア社会論	
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302			中国語Ⅲb		
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

異文化体験実習　夏季又は春季休業中
海外語学研修

注．共通教育選択科目の時間割は1年前期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

2年後期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301		英語圏言語文化論		中国言語文化論	English comprehension Ⅱb
	国際302			国際政治論		
	国際303	サスティナブルツーリズム論				
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301	観光産業概論		国際貿易論		English expression Ⅱa
	国際302		英語圏文芸論			
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306		Tourism English Ⅰ			
	国際301			アジア現代史概論	中国語Ⅳa	English expression Ⅱb
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301	地域再生マネジメント論	世界遺産を学ぶ	中国語圏社会文化論	中国語Ⅳb	
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302					
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

観光社会学	夏季休業中
異文化体験実習	夏季又は春季休業中
海外語学研修	

注. 共通教育選択科目の時間割は1年後期と同じ。

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

3年前期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301			国際協力論	メディア情報論	財政学
	国際302	観光資源論		イスラーム社会論	グローカル論	地理情報学概説
	国際303					
	国際304		資源・エネルギー環境論			
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301			東南アジア地域社会論	Tourism English Ⅱ	中国語理解Ⅰ
	国際302		日本語の歴史			中国語表現法
	国際303		日本古典読解			
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					英語研究A
	国際301		English comprehension Ⅲ	多文化共生社会演習	社会言語学	中国語研究B
	国際302		English expression Ⅲ		語用論	
	国際303	地域ブランディング論				
	国際304	フードシステム論				
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301	国際政治論演習A	日本語学演習	国際政治論演習B	社会言語学演習	英語学演習
	国際302				国際社会論演習	中国語会話
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301	地域創生演習	観光学演習A	観光学演習B	観光学演習C	地域実習
	国際302				国際経済論演習	
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

異文化体験実習	夏季又は春季休業中
海外語学研修	
インターンシップⅠ	夏季休業中
マーケティング調査論	夏季休業中　集中講義
ホスピタリティ・マネジメント	
インバウンド観光論	

（１限）　8：45－10：15
（２限）10：30－12：00
（３限）13：00－14：30
（４限）14：45－16：15
（５限）16：30－18：00

時 間 割 表

3年後期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302		バリアフリー・ツーリズム論		地域産業論	英語研究B
	国際303		グリーン・ツーリズム論	観光人類学	農村地域振興論	中国語研究A
	国際304	観光人材育成論		観光地理学		
	演習307	多文化共生社会論				
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302	社会調査法		サブカルチャー論	比較文学論	相互理解の心理学
	国際303		中東政治論	現代メディア史		
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302		新興国経済論	中国語理解Ⅱ	日英対照言語表現論	English presentation Ⅰ
	国際303	NGO論				
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					English presentation Ⅱ
	国際302	日本文化論演習	ビジネス中国語	中国語学演習	言語学演習	
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					地域実習
	国際302				課題研究A	課題研究B
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

異文化体験実習	夏季又は春季休業中
海外語学研修	
インターンシップⅡ	

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

4年前期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301			国際協力論	メディア情報論	財政学
	国際302	観光資源論		イスラーム社会論	グローカル論	地理情報学概説
	国際303					
	国際304		資源・エネルギー環境論			
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301			東南アジア地域社会論	Tourism English Ⅱ	中国語理解Ⅰ
	国際302		日本語の歴史			中国語表現法
	国際303		日本古典読解			
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					英語研究A
	国際301		English comprehension Ⅲ		社会言語学	中国語研究B
	国際302		English expression Ⅲ		語用論	
	国際303	地域ブランディング論				
	国際304	フードシステム論				
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302			◎卒業論文 通年	◎卒業論文 通年	中国語会話
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					地域実習
	国際302			◎卒業論文 通年	◎卒業論文 通年	
	国際303					
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

	＝共通教育　必修
	＝共通教育　選択
◎	＝専門教育　必修
	＝専門教育　選択

マーケティング調査論	
ホスピタリティ・マネジメント	夏季休業中　集中講義
インバウンド観光論	

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

時 間 割 表

4年後期　国際文化交流学部　　国際文化交流学科

時限	講義室	月	火	水	木	金
1限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302		バリアフリー・ツーリズム論		地域産業論	英語研究B
	国際303		グリーン・ツーリズム論	観光人類学	農村地域振興論	中国語研究A
	国際304	観光人材育成論		観光地理学		
	演習307	多文化共生社会論				
	演習308					
	演習309					
	演習310					
2限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302	社会調査法		サブカルチャー論	比較文学論	相互理解の心理学
	国際303		中東政治論	現代メディア史		
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
3限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					
	国際302		新興国経済論	中国語理解Ⅱ	日英対照言語表現論	English presentation Ⅰ
	国際303	NGO論				
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
4限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					English presentation Ⅱ
	国際302		ビジネス中国語			
	国際303			◎卒業論文 通年	◎卒業論文 通年	
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					
5限	共通201					
	共通202					
	共通203					
	共通204					
	共通305					
	共通306					
	国際301					地域実習
	国際302					
	国際303			◎卒業論文 通年	◎卒業論文 通年	
	国際304					
	演習307					
	演習308					
	演習309					
	演習310					

＝共通教育　必修
＝共通教育　選択
◎　＝専門教育　必修
＝専門教育　選択

（１限）　8：45－10：15
（２限）　10：30－12：00
（３限）　13：00－14：30
（４限）　14：45－16：15
（５限）　16：30－18：00

資料Ⅷ-４

学術雑誌目録

内国雑誌（生産システム科学部関連）

No	雑誌タイトル	出版元
1	日本機械学会論文集	日本機械学会
2	日本金属学会誌	日本金属学会
3	材料	日本材料学会
4	高分子論文集	高分子学会
5	機械の研究	養賢堂
6	プレス技術	日刊工業新聞
7	日経Automotive	日経BP
8	まぐね（日本磁気学会 会報）	日本磁気学会
9	電気学会誌	電気学会
10	日本AEM学会誌	日本AEM学会
11	日経エレクトロニクス	日経BP
12	日経SYSTEMS	日経BP
13	電子情報通信学会技術研究会報告 （ライフインテリジェンスとオフィス情報システム）	電子情報通信学会
14	電子情報通信学会技術研究会報告 （パターン認識・メディア理解）	電子情報通信学会
15	パリティ	丸善
16	現代数学	現代数学社
17	数理科学	サイエンス社

計17冊

学術雑誌目録

外国雑誌（生産システム科学部関連）

No	雑誌タイトル	出版元
1	Journal of Engineering Materials and Technology	ASME
2	Macromolecules	ACS
3	Sports Engineering	Springer
4	Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	Elsevier
5	Composites Part A	Elsevier
6	Journal of Materials Processing Technology	Elsevier
7	Polymer Composites	Wiley
8	Journal of Composite Materials	SAGE
9	Journal of Thermoplastic Composite Materials	SAGE
10	stahl und eisen	Verlag Stahleisen GmbH
11	Steel Times International	Quartz Business Media Ltd
12	IEEE Robotics and Automation Transactions Package	IEEE
13	IEEE Transactions on Automation Sciences and Engineering	IEEE
14	ASME Journal of Vibration and Acoustics	ASME
15	ASME Journal of Dynamic Systems, Measurement & Control	ASME
16	Journal of the Magnetics Society of Japan	日本磁気学会
17	IEEE Transactions on Magnetics	IEEE
18	IEEE Transactions on Power Electronics	IEEE
19	Embedded Systems Letters, IEEE	IEEE
20	Human-Machine Systems, IEEE Transactions on	IEEE
21	Software Engineering, IEEE Transactions on	IEEE
22	Systems, Man, amd Cybernetics: Systems, IEEE Transactions on	IEEE
23	Science	American Association for the Advancement of Science

24	Letters in Mathematical Physics	Springer
25	J. Fluid Mechanics	Cambridge University Press
26	Int. J. Heat Mass Transfer	Elsevier
27	Geothermics	Elsevier
28	Journal of Fluid Engineering	ASME
29	Journal of Heat Transfer	ASME

計29冊

内国雑誌　17冊+外国雑誌　29冊
生産システム科学部関連　合計　46冊

学術雑誌目録

内国雑誌（保健医療学部看護学科関連）

No.	タイトル	出版元
1	看護技術	メヂカルフレンド社
2	看護展望	メヂカルフレンド社
3	助産雑誌	医学書院
4	保健師ジャーナル	医学書院
5	エキスパートナース	照林社
6	こころの科学	日本評論社
7	緩和ケア	青海社
8	精神看護	医学書院
9	厚生の指標	厚生労働統計協会
10	訪問看護と介護	医学書院
11	クリニカルスタディ	メヂカルフレンド社
12	リハビリナース	メディカ出版
13	臨床老年看護	日総研
14	がん看護	南江堂
15	看護学生	メヂカルフレンド社
16	診断と治療	診断と治療社
17	生体の科学	医学書院
18	チャイルドヘルス	診断と治療社
19	保健の科学	杏林書院
20	日本がん看護学会誌	日本がん看護学会
21	日本看護科学会誌	日本看護科学学会
22	Japan Journal of Nursing Science	日本看護科学学会
23	日本看護研究学会雑誌	日本看護研究学会
24	看護実践学会誌	看護実践学会
25	日本公衆衛生学会誌	日本公衆衛生学会
26	北陸公衆衛生学会誌	北陸公衆衛生学会
27	日本在宅ケア学会誌	日本在宅ケア学会
28	日本老年看護学機関誌	日本老年看護学会
29	日本母性衛生学会学会誌	日本母性衛生学会
30	日本糖尿病教育・看護学会誌	日本糖尿病教育・看護学会
31	日本看護技術学会誌	日本看護技術学会
32	日本地域看護学会学会誌	日本地域看護学会
33	日本小児科学会誌	日本小児科学会

計33冊

学術雑誌目録

外国雑誌（保健医療学部看護学科関連）

No	タイトル	出版社
1	Nursing and Health Sciences	Wiley
2	Nursing research	Lippincott Williams & Wilkins, a Wolter Kiuwer Co
3	Journal of Advanced Nursing	John Wiley & Sons, Inc.

計3冊

内国雑誌　33冊+外国雑誌　3冊
保健医療学部看護学科関連　合計　36冊

学術雑誌目録

内国雑誌（保健医療学部臨床工学科関連）

No	雑誌タイトル	出版元
1	呼吸と循環	医学書院
2	Diagnostic Imaging – 画像診断	学研メディカル秀潤社
3	クリニカル・エンジニアリング	学研メディカル秀潤社
4	腎と透析	東京医学社
5	日本胸部臨床	克誠堂出版
6	救急・集中治療	総合医学社
7	吸入療法	医薬ジャーナル社
8	ICUとCCU	医学図書出版
9	Heart View	メジカルビュー社

計9冊(外国雑誌なし)

保健医療学部臨床工学科関連　合計　9冊

学術雑誌目録

内国雑誌（国際文化交流学部関連）

No	雑誌タイトル	出版元
1	心理学研究	日本心理学会
2	ジュリスト	有斐閣
3	観世	檜書店
4	能と狂言	ぺりかん社
5	国語と国文学	明治書院
6	NIKKEI ASIAN REVIEW	日本経済新聞社
7	アジ研ワールド・トレンド	アジア経済研究所
8	地域人	大正大学出版会
9	月刊事業構想	事業構想会議大学院大学
10	広報会議	宣伝会議
11	日経ビジネス	日経BP社
12	エコノミスト	毎日新聞社
13	音声研究	日本音声研究学会
14	人と自然	昭和堂
15	季刊民族学	一般財団法人 千里
16	季刊観光とまちづくり	日本観光協会
17	観光研究	日本観光研究学会
18	国際政治	日本国際政治学会
19	イスラム世界	日本イスラム協会
20	日本中東学会年俸	日本中東学会
21	中東研究	財団法人　中東調査会
22	マス・コミュニケーション研究	日本マス・コミュニケーション学会
23	メディア史研究	メディア史研究会
24	日本比較政治学会年報	日本比較政治学会
25	国際開発ジャーナル	株式会社　国際開発ジャーナル社
26	外交	時事出版社
27	レヴァイアサン	木鐸社
28	ニューズウィーク日本版	ニューズウィーク
29	ジェトロセンサー	ジェトロ
30	アジ研ワールドトレンド	アジア経済研究所
31	MAMOR	扶桑社.
32	社会と調査	有斐閣
33	フォーリン・アフェアーズ・リポート	フォーリン・アフェアーズ・ジャパン
34	エネルギー経済	一般財団法人日本エネルギー経済研究所

計34冊

学術雑誌目録

外国雑誌（国際文化交流学部関連）

No	雑誌タイトル	出版元
1	THE SPECTATOR	The Spectator Ltd
2	TEMPO: ENGLISH EDITION	TEMPO.co
3	遠見	遠見天下文化出版股份有限公司
4	天下雑誌	天下雑誌
5	週刊朝鮮	ケイ・エヌ・ジャパン
6	Annals of Tourism Research	Pergamon Press Plc
7	Journal of Pragmatics	Elsevier
8	Journal of East Asian Linguistics	International Association of Chinese Linguistics
9	Forign Affairs	Forreign Affairs
10	TIME	TIME
11	Lingua	Elsevier
12	Journal of Chinese Linguistics	The Chinese University Press The Chinese University of Hong Kong
13	Cahiers de Linguistique Asie Orientale	Brill
14	Australian Journal of Linguistics	The Australian Linguistic Society
15	中国語文	中国社会科学院語言研究所
16	方言	中国社会科学院語言研究所
17	The American journal of economics and sociology	Wiley
18	International sociology : journal of the International Sociological Association	International Sociological Association
19	American Sociological Review	Sage Publications Ltd
20	International Journal of Urban and Regional Research	Wiley

計20冊

内国雑誌　34冊+外国雑誌　20冊
国際文化交流学部関連　合計 54冊

様式第2号（その2）

資料Ｘ－１

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（看護師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表３（看護師課程）																					
							基礎分野		専門基礎分野			専門分野									臨地実習								
												Ⅰ	Ⅱ								Ⅰ	Ⅱ							
区分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	統合分野 在宅看護学	統合分野 看護の統合と実践	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	統合分野 在宅看護学	統合分野 看護の統合と実践	履修方法及び卒業要件	計
				必修	選択		13		15		6	10	6	4	4	4	4	8		3	6	4	2	2	2	4			97
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1前	1		15	○																				必修8単位	8
		アカデミック・スキルズ	1前	1		15	○																					
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2		15	○																					
		情報処理基礎	1前	2		15	○																					
		南加賀の歴史と文化	1後	2		15	○																					
	一般科目 人間力	哲学	1前		2	15	○																				選択必修6単位以上	6
		心理学	1前		2	15	○																					
		人間の発達と心	1前		2	15	○																					
		日本の伝統芸能	1前		2	15	○																					
		人文地理学	1後		2	15	○																					
		文化人類学	1後		2	15	○																					
		医療と文化	1後		2	15	○																					
		文章表現法	1後		2	15	○																					
		言葉と文化	1後		2	15	○																					
		日本産業史	1前		2	15	○																				選択必修4単位以上	4
		自然資源と環境問題	1前		2	15	○																					
		経済学	1前		2	15	○																					
		政治学	1後		2	15	○																					
		社会学	1後		2	15	○																					
		公共政策論	1後		2	15	○																					
		社会福祉論	1後		2	15	○																					
		日本国憲法	1前		2	15	○																					
		データ科学と社会	1前		2	15	○																				選択必修4単位以上	4
		情報処理応用Ａ	1後		2	15	○																					
		情報処理応用Ｂ	1後		2	15	○																					
		クリティカルシンキング	1後		2	15	○																					
		統計学	1前		2	15	○																					
		教養としての物理	1前		2	15	○																					
		教養としての数学	1後		2	15	○																					
		現代科学技術論	1前		2	15	○																					
	健康と体力	健康と体の科学	1前		2	15	○																				選択必修1単位以上	1
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1	30	○																					
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1	30	○																					
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1	30	○																					
		スポーツ演習（卓球）	1後		1	30	○																					
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1	30	○																					
	外国語科目 英語科目	英語Ⅰa	1前	2		15	○																				選択必修8単位	8
		英語Ⅰb	1前	2		15	○																					
		英語Ⅱa	1後	2		15	○																					
		英語Ⅱb	1後	2		15	○																					
		英語Ⅲ	1後		2	15	○																					

様式第2号(その2)

資料Ｘ－１

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（看護師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容								別表３（看護師課程）																				
								基礎分野		専門基礎分野			専門分野									臨地実習								
													Ⅰ	Ⅱ								Ⅰ	Ⅱ							
区分			授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	統合分野 在宅看護学	統合分野 看護の統合と実践	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	統合分野 在宅看護学	統合分野 看護の統合と実践	計
								13		15			10	6	4	4	4	4	8		3	6	4	2	2	2	4		97
共通教育科目	外国語科目	英語科目	英会話Ⅰ	1後		2	30	○																				
			英会話Ⅱ	1後		2	30	○																				
			実用英語Ⅰ	1前・後		2	15	○																				
			実用英語Ⅱ	1前・後		2	15	○																				
			実用英語Ⅲ	1前・後		2	15	○																				
			実用英語Ⅳ	1前・後		2	15	○																				
		その他外国語科目	中国語Ⅰ	1前		2	15	○																				
			中国語Ⅱ	1後		2	15	○																				
			フランス語Ⅰ	1前		2	15	○																				
			フランス語Ⅱ	1後		2	15	○																				
			ドイツ語Ⅰ	1前		2	15	○																				
			ドイツ語Ⅱ	1後		2	15	○																				
			ロシア語Ⅰ	1前		2	15	○																				
			ロシア語Ⅱ	1後		2	15	○																				
			スペイン語Ⅰ	1前		2	15	○																				
			スペイン語Ⅱ	1後		2	15	○																				
	小計							31		31			0								0							31
専門基礎科目	人の身体と心を知るステージ		解剖学	1前	2		15			○																		
			生理学	1前	2		15			○																		
			病理学	1前	2		15			○																		
			心の健康とストレスマネジメント論	1前	1		30				○																	
			感染免疫学	1後	2		15			○																		
			栄養・生化学	1後	2		15			○																		
			薬理学	1後	2		15			○																		
	人の健康問題を考えるステージ		認知症ケア論	1後	1		30				○																	
			老年疾病・治療論	2前	1		15				○																	
			公衆衛生学	2前	1		15					○																
			急性疾患論	2前	1		15				○																	
			母子疾病・治療論	2前	2		15				○																	
			生活習慣病論	2後	2		15				○																	
			保健医療福祉法制度論	2後	2		15					○																
			疫学・保健統計学	2後	2		15					○																
	小計							25		0			25								0							25
専門科目	看護とは何かを理解するステージ		市民健康論	1前	1		30					○	○															
			看護学概論	1前	1		30						○															
			基礎看護実習Ⅰ	1後	1		45														○							
			看護の技基礎コースⅠ（療養上の世話）	2前	2		30						○															
			看護の技基礎コースⅡ（フィジカルアセスメント）	2前	1		30						○															
			看護の技基礎コースⅢ（診療の補助）	2後	2		30						○															
			看護ケア提供論：看護理論と看護過程	2前	1		30						○															
			看護の品格育成論	2前	1		30						○															
			看護倫理	2前	1		15						○															

様式第2号(その2)

資料Ｘ－1

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（看護師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表３（看護師課程）																								
							基礎分野		専門基礎分野			専門分野											臨地実習									
												Ⅰ	Ⅱ									Ⅰ	Ⅱ								
区　分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	科学的思考の基盤	人間と生活・社会の理解	人体の構造と機能	疾病の成り立ちと回復の促進	健康支援と社会保障制度	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	統合分野 在宅看護学	統合分野 看護の統合と実践	基礎看護学	成人看護学	老年看護学	小児看護学	母性看護学	精神看護学	統合分野 在宅看護学	統合分野 看護の統合と実践	計
			13						15			10	6	4	4	4	4	8		3	6	4	2	2	2	4		97
専門科目 看護とは何かを理解するステージ	基礎看護実習Ⅱ	2後	2		45															○									
	精神保健看護学概論	2前	1		15												○												
	精神保健看護ケア提供論	2前	2		15												○												
	精神保健看護演習	2後	1		30												○												
	精神保健看護実習Ⅰ	2後	1		45																			○					
	精神保健看護実習Ⅱ	3通	1		45																			○					
看護ケア能力を育てるステージ	老年看護学概論	2前	1		15	必修32単位								○															
	老年看護ケア提供論	2前	1		15									○															
	老年看護演習	2後	2		30									○															
	老年看護実習Ⅰ	3通	2		45																	○							
	老年看護実習Ⅱ	3通	2		45																	○							
	成人看護学概論	2前	1		15					○			○																
	成人看護ケア提供論	2前	2		15					○			○																
	成人看護演習	3前	3		30					○			○																
	成人看護実習Ⅰ（急性）	3通	2		45																○								
	成人看護実習Ⅱ（慢性）	3通	2		45																○								
	成人看護実習Ⅲ（回復・維持）	3通	2		45																○								32
	母性看護学概論	2前	1		15											○													
	母性看護ケア提供論	2前	1		15											○													
	母性看護演習	3前	2		30											○													
	母性看護実習	3通	2		45																			○					
	小児看護学概論	2前	1		15										○														
	小児看護ケア提供論	2前	1		15										○														
	小児看護演習	3前	2		30										○														
	小児看護実習Ⅰ	2後	1		45																		○						
	小児看護実習Ⅱ	3通	1		45																		○						
看護ケア能力を拡げるステージ	在宅看護学概論	2後	1		15	必修10単位												○											
	在宅看護ケア提供論	2後	1		15													○											
	在宅看護演習	3前	2		30													○											
	在宅看護実習	3通	2		45																					○			
	看護統合実習	4前	2		45																						○		
	公衆衛生看護学概論	2後	1		15														○										
	健康教育論	2後	1		15														○										
	公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）	3後		1	15	※保健師選択者は必修科目																							10
	公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3後		1	15																								
	公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）	4前		2	15																								
	公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）	4前		1	30																								
	公衆衛生看護方法論Ⅴ（健康診査・家庭訪問・健康教育）	4前		2	30																								
	公衆衛生看護管理論	4前		1	15																								
	疫学・保健統計学演習	3後		2	30																								
	公衆衛生看護実習	4通		5	45																								

様式第2号(その2)

資料Ｘ－１

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（看護師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

区分			授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表３（看護師課程） 基礎分野 科学的思考の基盤	基礎分野 人間と生活・社会の理解	専門基礎分野 人体の構造と機能	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度	専門分野 I 基礎看護学	専門分野 II 成人看護学	専門分野 II 老年看護学	専門分野 II 小児看護学	専門分野 II 母性看護学	専門分野 II 精神看護学	専門分野 II 統合分野 在宅看護学	専門分野 II 統合分野 看護の統合と実践	臨地実習 I 基礎看護学	臨地実習 II 成人看護学	臨地実習 II 老年看護学	臨地実習 II 小児看護学	臨地実習 II 母性看護学	臨地実習 II 精神看護学	臨地実習 II 統合分野 在宅看護学	臨地実習 II 統合分野 看護の統合と実践	計
									13		15		6	10	6	4	4	4	4	8		3	6	4	2	2	2	4		97
専門科目	看護の未来を共創するステージ	看護熟練の技	安全・安楽なポジショニングの技	4前		1	15	選択必修2単位以上													○								
			排便ケア	4前		1	15														○								
			看護リーダー	4前		1	15														○								
			食と看護	4後		1	15														○								
			タッチケア・スキル	4後		1	15														○								
			ノンテクニカル・スキル	4後		1	15														○								
			MMPI心理検査と看護ケア	4後		1	15														○								
		看護未来創出	グローバル感染対策	4前		1	15	選択必修2単位以上													○								2
			看護技術の科学的検証	4前		1	15														○								
			地域の健康課題と多職種連携	4前		1	15														○								
			統合医療	4後		1	15														○								
			地域包括ケア	4後		1	15														○								
			チーム医療論	4前		2	15														○								
			看護と異文化理解	4通		2	15																						
			研究方法論	4前	2		15	必修6単位																					
			卒業研究	4通	4		30														○								4
	小計							71	0		7			42								23							71
卒業要件単位								127	31以上		25			42以上								23							127以上
指定規則に対する増単位数									18以上		4			2以上								0							30以上

（注）

1　本様式は学校種別ごとに作成すること。

2　（学校種別）には、「看護師学校」「診療放射線技師学校」等、指定を受けようとする学校の種別を記入すること。

3　本様式は、指定を受ける学校種別に応じ、本様式の横軸に、当該指定規則に定める教育内容及び単位数（歯科技工士学校の場合は学科目と総時間数）を適切に記入すること。（歯科技工師学校の場合は、本様式の「単位数」の字句をそれぞれ「時間数」と読み替えるものとする。）

4　開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。また、開設する授業科目に応じ、適宜科目区分の枠を設けること。科目区分は指定規則に定める区分ではなく、大学が定める区分に従って設けること。

5　「配当年次」欄については、前期、後期、通年等の開講時期を配当年次の横に記載すること。

6　歯科技工士学校については、指定規則に定める総時間数との対比関係がわかるよう時間数を記入すること。

7　保健師・助産師学校については、卒業要件単位数の欄に行を追加し、課程修了に必要な最低取得単位数を記入すること。

8　講義等と臨地実習を組み合わせた授業科目がある場合は、大学設置基準第２１条第２項第３号の規定に則り、臨地実習とそれ以外の教育に相当する単位数とを区別して算出し、本様式の相当欄にその数字を記入すること。

9　本様式により指定規則との対比関係を表記できない授業科目がある場合等は、適宜記入方法を変えて差し支えないこと。ただし、その実態が分かるよう記入すること。

様式第2号（その2）

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

資料Ｘ－１

（保健師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

区分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表１（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	公衆衛生看護学 個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護学 公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護学 公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	臨地実習 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護活動展開論実習	臨地実習 公衆衛生看護学実習 公衆衛生看護管理論実習	計
							2	12			2	2	2	5			25
共通教育科目 導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1前	1		15	必修８単位											
	アカデミック・スキルズ	1前	1		15												
	テーマ別基礎ゼミ	1後	2		15												
	情報処理基礎	1前	2		15												
	南加賀の歴史と文化	1後	2		15												
一般科目 人間力	哲学	1前		2	15	選択必修６単位以上											
	心理学	1前		2	15												
	人間の発達と心	1前		2	15												
	日本の伝統芸能	1前		2	15												
	人文地理学	1後		2	15												
	文化人類学	1後		2	15												
	医療と文化	1後		2	15												
	文章表現法	1後		2	15												
	言葉と文化	1後		2	15												
社会力	日本産業史	1前		2	15	選択必修４単位以上											
	自然資源と環境問題	1前		2	15												
	経済学	1前		2	15												
	政治学	1後		2	15												
	社会学	1後		2	15												
	公共政策論	1後		2	15												
	社会福祉論	1後		2	15												
	日本国憲法	1前		2	15												
科学力	データ科学と社会	1前		2	15	選択必修４単位以上											
	情報処理応用Ａ	1後		2	15												
	情報処理応用Ｂ	1後		2	15												
	クリティカルシンキング	1後		2	15												
	統計学	1前		2	15												
	教養としての物理	1前		2	15												
	教養としての数学	1後		2	15												
	現代科学技術論	1前		2	15												
健康と体力	健康と体の科学	1前		2	15	選択必修１単位以上											
	スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1	30												
	スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1	30												
	スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1	30												
	スポーツ演習（卓球）	1後		1	30												
	スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1	30												
外国語科目 英語科目	英語Ⅰａ	1前	2		15	必修８単位											
	英語Ⅰｂ	1前	2		15												
	英語Ⅱａ	1後	2		15												
	英語Ⅱｂ	1後	2		15												
	英語Ⅲ	1後		2	15												
	英会話Ⅰ	1後		2	30												
	英会話Ⅱ	1後		2	30												

様式第2号（その2）

教育課程と指定規則との対比表

資料Ｘ－１

（保健師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

区分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	別表１（保健師課程） 公衆衛生看護学 公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	臨地実習 公衆衛生看護学実習 個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	計
		指定規則の教育内容						2	12			2	2	2	5			25
共通教育科目	外国語科目 英語科目	実用英語Ⅰ	1前・後		2	15												
		実用英語Ⅱ	1前・後		2	15												
		実用英語Ⅲ	1前・後		2	15												
		実用英語Ⅳ	1前・後		2	15												
	外国語科目 その他外国語科目	中国語Ⅰ	1前		2	15												
		中国語Ⅱ	1後		2	15												
		フランス語Ⅰ	1前		2	15												
		フランス語Ⅱ	1後		2	15												
		ドイツ語Ⅰ	1前		2	15												
		ドイツ語Ⅱ	1後		2	15												
		ロシア語Ⅰ	1前		2	15												
		ロシア語Ⅱ	1後		2	15												
		スペイン語Ⅰ	1前		2	15												
		スペイン語Ⅱ	1後		2	15												
	小計						31											
専門基礎科目	人の身体と心を知るステージ	解剖学	1前	2		15	必修13単位											
		生理学	1前	2		15												
		病理学	1前	2		15												
		心の健康とストレスマネジメント論	1前	1		30												
		感染免疫学	1後	2		15												
		栄養・生化学	1後	2		15												
		薬理学	1後	2		15												
	人の健康問題を考えるステージ	認知症ケア論	1後	1		30	必修12単位											4
		老年疾病・治療論	2前	1		15												
		公衆衛生学	2前	1		15												
		生活習慣病論	2後	2		15												
		急性疾患論	2前	1		15												
		母子疾病・治療論	2前	2		15												
		保健医療福祉法制度論	2後	2		15								○				
		疫学・保健統計学	2後	2		15						○	○					
	小計						25	0				4			0			
専門科目	看護とは何かを理解するステージ	市民健康論	1前	1		30	必修19単位											
		看護学概論	1後	1		30												
		基礎看護実習Ⅰ	1後	1		45												
		看護の技基礎コースⅠ（療養上の世話）	2前	2		30												
		看護の技基礎コースⅡ（フィジカルアセスメント）	2前	1		30												
		看護の技基礎コースⅢ（診療の補助）	2後	2		30												
		看護ケア提供論：看護理論と看護過程	2前	1		30												
		看護の品格育成論	2前	1		30												
		看護倫理	2前	1		15												
		基礎看護実習Ⅱ	2後	2		45												
		精神保健看護学概論	2前	1		15												
		精神保健看護ケア提供論	2前	2		15												
		精神保健看護演習Ⅰ	2後	1		30												
		精神保健看護実習Ⅱ	3通	2		45												

様式第2号（その2）

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

資料Ｘ－１

（保健師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

教育課程＼指定規則の教育内容							別表１（保健師課程）										
							公衆衛生看護学							臨地実習			
														公衆衛生看護学実習			
区　分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	計
			2	12							2	2	2	5			25
専門科目	看護ケア能力を育てるステージ	老年看護学概論	2前	1		15	必修32単位										
		老年看護ケア提供論	2前	1		15											
		老年看護演習	2後	2		30											
		老年看護実習Ⅰ	3通	2		45											
		老年看護実習Ⅱ	3通	2		45											
		成人看護学概論	2前	1		15											
		成人看護ケア提供論	2前	2		15											
		成人看護演習	3前	3		30											
		成人看護実習Ⅰ（急性）	3通	2		45											
		成人看護実習Ⅱ（慢性）	3通	2		45											
		成人看護実習Ⅲ（回復維持）	3通	2		45											
		母性看護学概論	2前	1		15											
		母性看護ケア提供論	2前	1		15											
		母性看護演習	3前	2		30											
		母性看護実習	3通	2		45											
		小児看護学概論	2前	1		15											
		小児看護ケア提供論	2前	1		15											
		小児看護演習	3前	2		30											
		小児看護実習Ⅰ	2後	1		45											
		小児看護実習Ⅱ	3通	1		45											
専門科目	看護ケア能力を拡げるステージ	在宅看護学概論	2後	1		15	必修10単位	○									23
		在宅看護ケア提供論	2後	1		15			○								
		在宅看護演習	3前	2		30			○								
		在宅看護実習	3通	2		45								○			
		看護統合実習	4前	2		45											
		公衆衛生看護学概論	2後	1		15	○										
		健康教育論	2後	1		15	○										
		公衆衛生看護方法論Ⅰ（対象別）	3後		1	15		○									
		公衆衛生看護方法論Ⅱ（公衆衛生看護技術）	3後		1	15			○								
		公衆衛生看護方法論Ⅲ（学校・産業・災害）	4前		2	15			○								
		公衆衛生看護方法論Ⅳ（地域看護診断）	4前		1	30	※保健師選択者は必修科目		○								
		公衆衛生看護方法論Ⅴ（健康診査・家庭訪問・健康教育）	4前		2	30			○								
		公衆衛生看護管理論	4前		1	15				○							
		疫学・保健統計学演習	3後		2	30					○	○					
		公衆衛生看護実習	4通		5	45								○	○	○	
	看護の未来を創出するステージ 看護熟練の技	安全・安楽なポジショニングの技	4前		1	15	選択必修2単位以上										
		排便ケア	4前		1	15											
		看護リーダー	4前		1	15											
		食と看護	4後		1	15											
		タッチケア・スキル	4後		1	15											
		ノンテクニカル・スキル	4後		1	15											
		MMPI心理検査と看護ケア	4後		1	15											

様式第2号（その2）

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

資料Ｘ－１

（保健師学校）（公立小松大学）（保健医療学部看護学科）

教育課程＼指定規則の教育内容							別表１（保健師課程）									
							公衆衛生看護学							臨地実習		
														公衆衛生看護学実習		
区　分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	公衆衛生看護学概論	個人・家族・集団・組織の支援	公衆衛生看護活動展開論	公衆衛生看護管理論	疫学	保健統計学	保健医療福祉行政論	個人・家族・集団・組織の支援実習	公衆衛生看護活動展開論実習	公衆衛生看護管理論実習	計
							2	12			2	2	2	5			25
専門科目	看護の未来を創出するステージ	看護未来創出 グローバル感染対策	4前		1	15	選択必修2単位以上									
		看護技術の科学的検証	4前		1	15										
		地域の健康課題と多職種連携	4前		1	15										
		統合医療	4後		1	15										
		地域包括ケア	4後		1	15										
		チーム医療論	4前		2	15										
		看護と異文化理解	4通		2	15										
		研究方法論	4前	2		15	必修6単位									
		卒業研究	4通	4		45										
	小計						14				2			7			27
卒業要件単位数						127	14				6			7			27
保健師国家試験受験資格を取得する場合の最低必要単位数						142	14				6			7			27
指定規則に対する増単位数							0				0			2			2

（注）

1　本様式は学校種別ごとに作成すること。

2　（学校種別）には、「看護師学校」「診療放射線技師学校」等、指定を受けようとする学校の種別を記入すること。

3　本様式は、指定を受ける学校種別に応じ、本様式の横軸に、当該指定規則に定める教育内容及び単位数（歯科技工士学校の場合は学科目と総時間数）を適切に記入すること。（歯科技工師学校の場合は、本様式の「単位数」の字句をそれぞれ「時間数」と読み替えるものとする。）

4　開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。また、開設する授業科目に応じ、適宜科目区分の枠を設けること。科目区分は指定規則に定める区分ではなく、大学が定める区分に従って設けること。

5　「配当年次」欄については、前期、後期、通年等の開講時期を配当年次の横に記載すること。

6　歯科技工士学校については、指定規則に定める総時間数との対比関係がわかるよう時間数を記入すること。

7　保健師・助産師学校については、卒業要件単位数の欄に行を追加し、課程修了に必要な最低取得単位数を記入すること。

8　講義等と臨地実習を組み合わせた授業科目がある場合は、大学設置基準第２１条第２項第３号の規定に則り、臨地実習とそれ以外の教育に相当する単位数とを区別して算出し、本様式の相当欄にその数字を記入すること。

9　本様式により指定規則との対比関係を表記できない授業科目がある場合等は、適宜記入方法を変えて差し支えないこと。ただし、その実態が分かるよう記入すること。

公立小松大学看護学科臨地実習計画表

資料Ｘ－２

1年次

月・週	4				5				6					7				8				9				10					11				12				1				2			3				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
学生1																																												【基礎Ⅰ①】 （やわた） 松井 上田						
学生2																																																	
学生3																																																	
学生4																																																	
学生5																																																	
学生6																																																	
学生7																																													（能美市立） 内田 佐藤						
学生8																																																	
学生9																																																	
学生10																																																	
学生11																																																	
学生12																																																	
学生13																																													（辰口芳珠） 加藤 藤田 誉田 松村						
学生14																																																	
学生15																																																	
学生16																																																	
学生17																																																	
学生18																																																	
学生19																																																	
学生20																																																	
学生21																																																	
学生22																																																	
学生23																																																	
学生24																																																	
学生25																																																	
学生26																																														【基礎Ⅰ②】 （やわた） 松井 上田						
学生27																																																	
学生28																																																	
学生29																																																	
学生30																																																	
学生31																																																	
学生32																																														（能美市立） 内田 佐藤						
学生33																																																	
学生34																																																	
学生35																																																	
学生36																																																	
学生37																																																	
学生38																																														（辰口芳珠） 加藤 藤田 誉田 松村						
学生39																																																	
学生40																																																	
学生41																																																	
学生42																																																	
学生43																																																	
学生44																																																	
学生45																																																	
学生46																																																	
学生47																																																	
学生48																																																	
学生49																																																	
学生50																																																	

公立小松大学看護学科臨地実習計画表

資料Ｘ－２

2年次

月・週	4				5				6					7				8				9				10					11				12				1				2					3				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
学生1																														【小児Ⅰ】 （金野保育所） 上田	【精神Ⅰ】 （りんず） 北岡 ≪片山≫											【基礎Ⅱ】 （小松市民） 松井 加藤 誉田 相上 小田									
学生2																																																			
学生3																																																			
学生4																																																			
学生5																																																			
学生6																														（あおぞら） 小田	（なごみ） 片山																				
学生7																																																			
学生8																																																			
学生9																																																			
学生10																																																			
学生11																																																			
学生12																														（第一保育所） 森川	（粟津） 池田																				
学生13																																																			
学生14																																																			
学生15																																																			
学生16																																																			
学生17																																																			
学生18																																【小児Ⅰ】 （金野保育所） 上田	【精神Ⅰ】 （りんず） 北岡 ≪片山≫																				
学生19																																																			
学生20																																																			
学生21																																																			
学生22																																																			
学生23																																（あおぞら） 小田	（なごみ） 片山																				
学生24																																																			
学生25																																																			
学生26																																																			
学生27																																																			
学生28																																																			
学生29																																（第一保育所） 森川	（粟津） 池田																				
学生30																																																			
学生31																																																			
学生32																																																			
学生33																																																			
学生34																																																			
学生35																														【精神Ⅰ】 （りんず） 北岡 ≪片山≫		【小児Ⅰ】 （金野保育所） 上田																				
学生36																																																			
学生37																																																			
学生38																																																			
学生39																																																			
学生40																														（なごみ） 片山		（あおぞら） 小田																				
学生41																																																			
学生42																																																			
学生43																																																			
学生44																																																			
学生45																														（粟津） 池田																					
学生46																																（第一保育所） 森川																				
学生47																																																			
学生48																																																			
学生49																																																			
学生50																																																			

※≪　≫の教員はサポート教員

公立小松大学看護学科臨地実習計画表

資料Ｘ－２

3年次

月・週	4				5				6				7				8				9				10				11				12				1				2					3				
学生ｸﾞﾙｰﾌﾟ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	#	#	#	#	#	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
A 学生1										【成Ⅰ】		【小Ⅱ】	【精Ⅱ】	【成Ⅱ】							【母性】		【在宅】		【成Ⅲ】		【老Ⅰ】		【老Ⅱ】																					
学生2										(小松市民)		(小松市民)	(小松市民)	(小松市民)							(小松市民)坂本		(能美市立)矢口		(小松市民)		(グリーンポート)		(松寿園)																					
学生3										谷保		森川・前田	片山	佐藤							(恵愛・松南)		(芦城)		佐藤		油野		小泉・津田																					
学生4												(石川病院)		≪山崎≫							助手　久司		日下				(能美市立)																					
学生5												小田・久司									(加賀市民)		(はなはな)日下				誉田																					
学生6																					助手　前田		(小松)徳田																									
B 学生7												【成Ⅰ】		【母性】							【成Ⅱ】		【成Ⅲ】		【在宅】		【精Ⅱ】	【小Ⅱ】	【老Ⅰ】	【老Ⅱ】																				
学生8												(小松市民)		(小松市民)坂本							(小松市民)		(やわた)		(能美市立)矢口		(小松市民)	(小松市民)	(グリーンポート)	(松寿園)																		
学生9												谷保		(恵愛・松南)							松村		佐藤		(芦城)		相上	森川・前田	油野	小泉・津田																		
学生10														助手　久司									≪山崎≫		日下			(石川病院)	(能美市立)																		
学生11														(加賀市民)											(はなはな)日下			小田・久司	誉田																		
学生12														助手　前田											(小松)徳田																					
C 学生13										【在宅】		【小Ⅱ】	【精Ⅱ】								【成Ⅰ】		【成Ⅱ】		【母性】				【成Ⅲ】	【老Ⅰ】	【老Ⅱ】																			
学生14										(能美市立)矢口		(小松市民)	(小松市民)								(小松市民)		(小松市民)		(小松市民)坂本				(やわた)	(グリーンポート)	(松寿園)																			
学生15												森川・前田	相上								谷保		松村		(恵愛・松南)				佐藤	油野	小泉・津田																			
学生16										(芦城)日下		(石川病院)													助手　久司				≪松村≫	(能美市立)																			
学生17												小田・久司													(加賀市民)					誉田																			
学生18										(はなはな)日下															助手　前田																							
D 学生19										【老Ⅰ】		【老Ⅱ】		【在宅】							【精Ⅱ】	【小Ⅱ】	【成Ⅰ】		【成Ⅱ】		【成Ⅲ】		【母性】																					
学生20										(グリーンポート)		(松寿園)		(能美市立)矢口							(小松市民)	(小松市民)	(小松市民)		(小松市民)		(やわた)		(小松市民)坂本																					
学生21										油野		小泉・津田									相上	森川・前田	谷保		松村		佐藤		(恵愛・松南)																					
学生22										(能美市立)				(芦城)日下								(石川病院)							助手　久司																			
学生23										誉田												小田・久司							(加賀市民)																			
学生24														(はなはな)日下															助手　前田																			
E 学生25										【成Ⅱ】		【老Ⅰ】		【老Ⅱ】							【在宅】		【母性】			【精Ⅱ】	【成Ⅰ】		【小Ⅱ】		【成Ⅲ】																					
学生26										(小松市民)		(グリーンポート)		(松寿園)							(能美市立)矢口		(小松市民)坂本			(小松市民)	(小松市民)		(小松市民)		(やわた)																					
学生27										松村		油野		小泉・津田							(芦城)		(恵愛・松南)			片山	谷保		森川・前田		山崎																					
学生28												(能美市立)									日下		助手　久司						(石川病院)		≪谷保≫																			
学生29												誉田									(はなはな)日下		(加賀市民)						小田・久司																			
学生30																					(小松)徳田		助手　前田																									
F 学生31												【成Ⅱ】		【老Ⅰ】							【老Ⅱ】	【精Ⅱ】	【小Ⅱ】	【成Ⅰ】		【成Ⅲ】		【在宅】		【母性】																					
学生32												(小松市民)		(グリーンポート)							(松寿園)	(小松市民)	(小松市民)前田	(小松市民)		(やわた)		(能美市立)矢口		(小松市民)坂本																					
学生33												松村		油野							小泉・津田	相上	(石川病院)	谷保		山崎		(芦城)		(恵愛・松南)																					
学生34														(能美市立)									小田・久司			≪松村≫		日下		助手　久司																			
学生35														誉田															(はなはな)日下		(加賀市民)助手　前田																			
G 学生36											【小Ⅱ】	【成Ⅰ】		【成Ⅱ】							【老Ⅰ】		【老Ⅱ】		【成Ⅲ】		【母性】		【精Ⅱ】		【在宅】																					
学生37											(小松市民)前田	(小松市民)		(小松市民)							(グリーンポート)		(松寿園)		(やわた)		(小松市民)坂本		(小松市民)		(能美市立)矢口																					
学生38											(石川病院)	佐藤		松村							油野		小泉・津田		山崎		(恵愛・松南)		片山		(芦城)																					
学生39											小田・久司	≪山崎≫									(能美市立)						助手　久司				日下																					
学生40																					誉田						(加賀市民)助手　前田				(小松)徳田																			
H 学生41										【成Ⅰ】		【母性】		【小Ⅱ】	【精Ⅱ】						【成Ⅱ】		【老Ⅰ】		【老Ⅱ】		【在宅】		【成Ⅲ】																					
学生42										(小松市民)		(小松市民)坂本		(小松市民)前	(小松市民)						(小松市民)		(グリーンポート)		(松寿園)		(能美市立)矢口		(やわた)																					
学生43										佐藤		(恵愛・松南)		(石川病院)	片山						佐藤		油野		小泉・津田		(芦城)		山崎																					
学生44										≪山崎≫		助手　久司		小田・久司							≪山崎≫		(能美市立)				日下		≪谷保≫																					
学生45												(加賀市民)助手　前田											誉田				(はなはな)日下																					
I 学生46										【母性】		【在宅】		【成Ⅰ】								【精Ⅱ】	【小Ⅱ】		【老Ⅰ】		【老Ⅱ】		【成Ⅱ】		【成Ⅲ】																					
学生47										(小松市民)坂本		(能美市立)矢口		(小松市民)								(小松市民)	(小松市民)前田		(グリーンポート)		(松寿園)		(小松市民)		(やわた)																					
学生48										(恵愛・松南)		(芦城)		谷保								(石川病院)			油野		小泉・津田		松村		佐藤																					
学生49										助手　久司		日下										小田・久司			(能美市立)						≪佐藤≫																			
学生50										(加賀市民)助手　前田		(小松)徳田													誉田																					

※≪　≫の教員はサポート教員

公立小松大学看護学科臨地実習計画表

資料Ｘ－２

4年次

月・週	4				5				6					7				8				9				10				11				12				1				2					3				
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52
学生1			【公衆オ】					【看護統合】		【公衆①】				【公衆②】（コマツ）中島				【公衆③】																																		
学生2			（南加賀）中島					（小松市民）		（南加賀）中島				（小松精練）中島・鋤柄				（すこやか）中島・鋤柄																																	
学生3																																																		
学生4								松井・藤田						（市立高校）日下																																					
学生5																																																	
学生6														（大谷高校）日下																																			
学生7																		（加賀市）日下																															
学生8								山崎・矢口						（丸内中）池田																																				
学生9																																																	
学生10														（松陽中）池田				（川北町）池田																															
学生11																																																	
学生12								小泉・津田						（芦城小）助教A																																				
学生13																						【公衆③】																													
学生14			（石川中）日下							（石川中）日下					【公衆②】（コマツ）中島																																			
学生15															（小松精練）中島・鋤柄							（すこやか）中島・鋤柄																															
学生16								坂本・久司																																											
学生17															（大谷高校）日下																																			
学生18																																																	
学生19															（丸内中）池田																																			
学生20								森川・前田														（加賀市）日下																													
学生21															（松陽中）池田																																			
学生22																																																	
学生23															（芦城小）助教A							（川北町）池田																											
学生24								上田																																									
学生25																【公衆②】（コマツ）中島																																		
学生26								佐藤																																									
学生27																																																	
学生28																																																	
学生29								松村																																									
学生30																																																	
学生31																																																	
学生32																																																	
学生33								油野																																									
学生34																																																	
学生35																																																	
学生36																																																	
学生37								加藤																																									
学生38																																																	
学生39																																																	
学生40																																																	
学生41								（能美市立）北岡・片山																																										
学生42																																																	
学生43																																																	
学生44								相上																																									
学生45																																																	
学生46								谷保																																									
学生47																																																	
学生48								誉田																																									
学生49																																																	
学生50																																																	

公立小松大学看護学科臨地実習施設

資料Ｘ－３

1　看護師実習施設

No	実習施設名		所在地	授業科目	実習体制	受入人数	距離（km）	所要時間（分）
1	小松市民病院	病院	石川県小松市向本折町ホ60	基礎看護実習Ⅱ	36名×1G	36	0.25	3分
				精神保健看護実習Ⅱ	5～6名×9G	50		
				成人看護実習Ⅰ	5～6名×9G	50		
				成人看護実習Ⅱ	5～6名×9G	50		
				成人看護実習Ⅲ	5～6名×9G	50		
				母性看護実習	2名×9G	36		
				小児看護実習Ⅱ	3名×9G	30		
				看護統合実習	4名×10G	40		
2	精神科デイケアセンターりんず（小松市民病院）	病院	石川県小松市向本折町ホ60	精神保健看護実習Ⅰ	5～6名×9G	50	0.25	3分
3	粟津神経サナトリウム	病院	石川県小松市矢田野町ヲ−88	精神保健看護実習Ⅰ	6名×3G	18	8.3	16分
4	やわたメディカルセンター	病院	石川県小松市八幡イ12−7	基礎看護実習Ⅰ	4名×4G	16	5.5	14分
				基礎看護実習Ⅱ	4名×4G	16		
				成人看護実習Ⅲ	3名×16G	48		
5	能美市立病院	病院	石川県能美市大浜町ノ−85	基礎看護実習Ⅰ	6名×2G	12	7.6	16分
				老年看護実習Ⅰ	2～3名×9G	23		
				在宅看護実習	2名×18G	36		
				看護統合実習	3～4名×3G	10		
6	芳珠記念病院	病院	石川県能美市緑が丘11丁目71	基礎看護実習Ⅰ	13名×2G	26	13.4	25分
7	加賀市医療センター	病院	石川県加賀市作見町リ36	母性看護実習	1～2名×9G	14	15.9	24分
8	国立病院機構　石川病院	病院	石川県加賀市手塚町サ−150	小児看護実習Ⅱ	2～3名×9G	20	10.9	19分
9	医療法人社団 恵愛会　恵愛病院	病院	石川県小松市園町ハ55	母性看護実習	1～2名×18G	36	2.8	9分
10	訪問看護ステーションリハケア芦城	訪問看護	石川県小松市大文字町88	在宅看護実習	2名×18G	18	1.6	7分
11	訪問看護ステーション小松	訪問看護	石川県小松市園町ニ−29−1	在宅看護実習	1名×7G	8	3.1	9分
12	訪問看護ステーションはなはな	訪問看護	石川県小松市土居原町291番地1 小規模多機能ステーションソフィアことぶき 2F	在宅看護実習	1名×14G	14	1.8	7分
13	訪問看護ステーションゆきあい	訪問看護	石川県小松市北浅井町ハ−77	在宅看護実習	1～2名×7G	7	2.9	9分
14	養護老人ホーム松寿園	訪問看護	石川県小松市向本折町ホ−31	老年看護実習Ⅱ	5～6名×9G	50	0.8	4分
15	介護老人保健施設グリーンポート小松	ディサービス	石川県小松市岩渕町ル46−2	老年看護実習Ⅰ	3名×10G	30	9.4	20分
16	社会福祉法人　なごみの郷	デイケア	石川県小松市北浅井町リ−123	精神保健看護実習Ⅰ	5名×10G	50	2.5	11分
17	第一保育所	保育所	石川県小松市八幡庚27	小児看護実習Ⅰ	6名×3G	18	5.5	17分
18	やたの認定こども園あおぞら	保育所	石川県小松市矢田野町ヨ79	小児看護実習Ⅰ	5～6名×3G	17	9	18分
19	金野保育所	保育所	石川県小松市大野町子31	小児看護実習Ⅰ	5名×3G	15	8.5	18分

（補足）末広キャンパスから実習施設まで自家用車による移動距離及び所要時間を記載。

公立小松大学看護学科臨地実習施設

資料Ｘ－３

２ 保健師実習施設

No	実習施設名		所在地	授業科目	実習体制	受入人数	移動距離（km）	所要時間（分）
1	石川県南加賀保健福祉センター	保健所	石川県小松市園町ヌ48		13名×1G	13	3.5	13分
2	石川中央保健福祉センター	保健所	石川県白山市2丁目7		12名×1G	12	20.8	35分
3	コマツ粟津工場	病院	石川県小松市符津町ツ 23		3名×3G	3	5.2	13分
4	小松精練株式会社	病院	石川県能美市浜町ヌ167番地		2名×2G	4	7.3	16分
5	小松市立芦城小学校	小学校	石川県小松市西町25		2名×2G	4	1.6	9分
6	小松市立芦城中学校	中学校	石川県小松市芦田町2丁目69		2名×2G	4	1.6	9分
7	小松市立丸内中学校	中学校	石川県小松市小寺町甲27	公衆衛生看護実習	2名×2G	4	3.2	9分
8	小松市立高校	高校	石川県小松市八幡ト1番地		2名×1G	2	5.4	16分
9	小松大谷高校	高校	石川県小松市津波倉町チ−1		2名×2G	4	7.8	18分
10	小松市いきいき健康課	自治体	石川県小馬出町91		3〜4名×4G	13	0.7	1分
11	加賀市保健センター	自治体	石川県加賀市大聖寺南町ニ−41		3名×2G	6	19.3	31分
12	川北町役場福祉課	自治体	石川県能美郡川北町壱ツ屋174		3名×1G	3	15.2	27分
13	白山市健康推進課	自治体	石川県白山市 倉光2丁目1		3名×1G	3	19.5	33分

（補足） 末広キャンパスから実習施設まで自家用車による移動距離及び所要時間を記載。

資料Ｘ－4

公立小松大学看護学科臨地実習 承諾施設一覧

No	実習施設名		所在地	授業科目	受入人数
1	小松市民病院	病院	石川県小松市向本折町ホ60	基礎看護実習Ⅱ	36
				精神保健看護実習Ⅱ	50
				成人看護実習Ⅰ	50
				成人看護実習Ⅱ	50
				成人看護実習Ⅲ	50
				母性看護実習	36
				小児看護実習Ⅱ	30
				看護統合実習	40
2	精神科デイケアセンターりんず（小松市民病院）	病院	石川県小松市向本折町ホ60	精神保健看護実習Ⅰ	50
3	粟津神経サナトリウム	病院	石川県小松市矢田野町ヲ−88	精神保健看護実習Ⅰ	18
4	やわたメディカルセンター	病院	石川県小松市八幡イ12−7	基礎看護実習Ⅰ	16
				基礎看護実習Ⅱ	16
				成人看護実習Ⅲ	48
5	能美市立病院	病院	石川県能美市大浜町ノ−85	基礎看護実習Ⅰ	12
				老年看護実習Ⅰ	23
				在宅看護実習	36
				看護統合実習	10
6	芳珠記念病院	病院	石川県能美市緑が丘11丁目71	基礎看護実習Ⅰ	26
7	加賀市医療センター	病院	石川県加賀市作見町リ36	母性看護実習	14
8	国立病院機構　石川病院	病院	石川県加賀市手塚町サ−150	小児看護実習Ⅱ	20
9	医療法人社団 恵愛会　恵愛病院	病院	石川県小松市園町ハ55	母性看護実習	36
10	訪問看護ステーションリハケア芦城	訪問看護	石川県小松市大文字町88	在宅看護実習	18
11	訪問看護ステーション小松	訪問看護	石川県小松市園町ニ−29−1	在宅看護実習	8
12	訪問看護ステーションはなはな	訪問看護	石川県小松市土居原町291番地1 小規模多機能ステーションソフィアことぶき 2F	在宅看護実習	14
13	訪問看護ステーションゆきあい	訪問看護	石川県小松市北浅井町ハ−77	在宅看護実習	7
14	養護老人ホーム松寿園	訪問看護	石川県小松市向本折町ホ−31	老年看護実習Ⅱ	50
15	介護老人保健施設グリーンポート小松	ディサービス	石川県小松市岩渕町ル46−2	老年看護実習Ⅰ	30

No	実習施設名		所在地	授業科目	受入人数
16	社会福祉法人　なごみの郷	デイケア	石川県小松市北浅井町リ―123	精神保健看護実習Ⅰ	50
17	第一保育所	保育所	石川県小松市八幡庚27	小児看護実習Ⅰ	18
18	やたの認定こども園あおぞら	保育所	石川県小松市矢田野町ヨ79	小児看護実習Ⅰ	17
19	金野保育所	保育所	石川県小松市大野町子31	小児看護実習Ⅰ	15
20	石川県南加賀保健福祉センター	保健所	石川県小松市園町ヌ48	公衆衛生看護実習	13
21	石川中央保健福祉センター	保健所	石川県白山市2丁目7	公衆衛生看護実習	12
22	コマツ粟津工場	病院	石川県小松市符津町ツ 23	公衆衛生看護実習	3
23	小松精練株式会社	病院	石川県能美市浜町ヌ167番地	公衆衛生看護実習	4
24	小松市立芦城小学校	小学校	石川県小松市西町25	公衆衛生看護実習	4
25	小松市立芦城中学校	中学校	石川県小松市芦田町2丁目69	公衆衛生看護実習	4
26	小松市立丸内中学校	中学校	石川県小松市小寺町甲27	公衆衛生看護実習	4
27	小松市立高校	高校	石川県小松市八幡ト1番地	公衆衛生看護実習	2
28	小松大谷高校	高校	石川県小松市津波倉町チ―1	公衆衛生看護実習	4
29	小松市いきいき健康課	自治体	石川県小馬出町91	公衆衛生看護実習	13
30	加賀市保健センター	自治体	石川県加賀市大聖寺南町ニ―41	公衆衛生看護実習	6
31	川北町役場福祉課	自治体	石川県能美郡川北町壱ツ屋174	公衆衛生看護実習	3
32	白山市健康推進課	自治体	石川県白山市 倉光2丁目1	公衆衛生看護実習	3

資料Ｘ－５

臨地実習計画の概要

【看護とは何かを理解するステージ】

基礎看護実習Ⅰ	
単　　位　　数	1単位
実　習　時　期	1年次後期
実　習　期　間	5日間
実　習　概　要	医療施設としての病院の構造と機能を理解するために、各部門を見学する。その中で、看護師を含め、医療専門職者の役割と責任について学習する。また、入院療養中のサービス利用者の生活の場および診療の場としての病棟・病床を理解し、可能な限り快適な療養環境を調整するための技術を学ぶと共に、看護専門職を目指す者としての学習の動機づけとする。
実　習　施　設	やわたメディカルセンター、芳珠記念病院、能美市立病院
実　施　方　法	50名を6～7名の8グループとし、4グループずつ3病院に分かれて実施する。各グループに実習指導教員1名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　松井教授 基礎看護学領域の全教員、助手3名（平成30年度は他分野の着任教員とする）および各病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅰ・基礎看護学

【看護とは何かを理解するステージ】

基礎看護実習Ⅱ	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	2 年次後期
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	病棟における看護チームの構成員と役割及び他職種との協働を理解する。入院療養中のサービス利用者を受け持ち、情報をもとに利用者を全人的に捉え、個人のニーズに対応した看護過程を展開し、日常生活を支援することを学ぶ。看護過程の展開に必要なコミュニケーション技術、日常生活援助技術を、実践を通して学ぶ。
実　習　施　設	小松市民病院、やわたメディカルセンター
実　施　方　法	50 名を 4～7 名の 8 グループとし、全グループ一斉に各病院に分かれて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　松井教授 基礎看護学領域の全教員、助手 3 名（平成 31 年度は他分野の着任教員とする）および各病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅰ・基礎看護学

【看護とは何かを理解するステージ】

精神保健看護実習Ⅰ	
単　　位　　数	1単位
実　習　時　期	2年次後期
実　習　期　間	5日間
実　習　概　要	看護ケアを提供する対象者に対して、人権や権利を尊重した倫理的な態度で、また、病気や障害に由来する対象者への否定的なイメージや偏見をもたずに、対象者を全人間的に理解するために必要なコミュニケーション能力を高めることを目的とする。ここでは、病気と共存しながら地域で生活している精神に障害をもっている人々を対象として、そのコミュニケーションを実施する。さらに、精神に障害をもちながら生活する人々の心身の痛みに共感できる感性を育てる。
実　習　施　設	デイケアりんず、なごみの郷、デイケア・コンチェルト
実　施　方　法	50名を5～6名の9グループとし、3グループずつ3施設に分かれて実施する。各グループに実習指導教員1名つき（平成31年度は平成32年度着任予定の助教を非常勤として、また、他分野の着任教員とする）、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　北岡教授 精神保健看護学領域の全教員および各施設の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・精神看護学

【看護とは何かを理解するステージ】

精神保健看護実習Ⅱ	
単　　位　　数	1 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	5 日間
実　習　概　要	精神に障がいを持ちながら療養する人々にアプローチし、当事者が抱く生活のしづらさを理解する(対象理解)。そして精神障がいリハビリテーションを進めるため、あるいは個々人のリカバリーを目指して、サポートできる看護ケア実践力を修得する(精神保健看護実践能力)。さらに精神障がい者やその家族、コミュニティ、医師やメディカルスタッフと協働するための人間関係を築く能力を育む。
実　習　施　設	小松市民病院
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ病院にて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　北岡教授 精神保健看護学領域の全教員および病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・精神看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

老年看護実習Ⅰ	
単　　位　　数	2単位
実　習　時　期	3年次通年
実　習　期　間	2週間
実　習　概　要	老人介護保険施設あるいは地域包括ケア病床において、認知症高齢者を受け持ち、看護過程を通して認知症高齢者の特性および全体像（身体的、心理的、社会的、霊的）を理解し、その人なりの自律的な生活を支援するために必要な知識と技術を修得する。また、人生の先輩として尊厳ある生き方をサポートできるような看護技術を実践の場で鍛える姿勢をもち、自己の倫理観・老年観を養う。
実　習　施　設	介護老人保健施設グリーン・ポート小松 能美市民病院　地域包括ケア病床
実　施　方　法	50名を5～6名の9グループとし、1グループずつ2施設に分かれて実施する。各グループに実習指導教員1名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　小泉教授 老年看護学領域の全教員、および各施設の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・老年看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

老年看護実習Ⅱ	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	介護老人福祉施設で生活する高齢者と家族、ならびにデイサービスやショートステイ等を利用しながら居宅での生活を維持している高齢者と家族の特性をとらえ、必要な看護援助を理解する。さらに、既習の知識や実習体験を統合して地域包括ケアシステムに関する理解を深め、高齢者の生活を支えるために家族や多職種と連携・協働する際の看護の役割について学ぶ。
実　習　施　設	松寿苑
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ介護老人福祉施設にて実施する。介護老人福祉施設において、各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　小泉教授 老年看護学領域の全教員、助手 1 名および各施設の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・老年看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

成人看護実習Ⅰ（急性）	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	手術を受ける患者を対象に、疾病および手術が患者の心理・社会生活に及ぼす影響、および手術侵襲が生体に及ぼす影響を理解するとともに、回復を促す基本的な看護実践能力を養う。また、クリティカルな状況にある患者の看護体験を通して、適切かつ根拠に基づいた観察およびアセスメント能力を養うとともに、生命危機状況にある患者と家族の心理社会的特徴をふまえた、クリティカルケアのあり方について探求し続ける態度を養う。
実　習　施　設	小松市民病院
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ病院にて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　山崎教授 成人看護学領域の全教員および病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・成人看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

成人看護実習Ⅱ（慢性）	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	慢性的な健康障害を持ち、生涯にわたり疾病や生活のコントロールが必要な入院患者とその家族を対象に、看護過程を展開しながら、慢性病患者の捉え方と、援助的人間関係構築に向けた看護者の姿勢について指導する。さらに、対象者と家族が、退院後も積極的かつ意欲的に療養行動に取り組むことができるための援助方法について、臨床指導者や教員と共に考えながら実践し、セルフマネジメント支援型の患者教育の理解を促す。
実　習　施　設	小松市民病院
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ病院にて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　山崎教授 成人看護学領域の全教員および病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・成人看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

成人看護実習Ⅲ（回復・維持）	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	慢性的な健康障害を持ち、疾患や生活をコントロールしながら社会生活を営んでいる外来通院患者を対象に、限られた時間の中で、適切な人間関係を構築しながら、看護に必要な情報収集を行うことで、慢性病患者の理解を深めるとともに、継続看護の重要性の理解を促す。また、機能障害を持ちセルフケア能力の再獲得が必要な入院患者・家族を対象に、機能回復と退院後の生活を見据えたセルフケア支援を実践することで、機能障害を持った患者の理解を促すとともに、機能回復を促す看護援助方法を修得させる。さらに、成人看護実習の全経験を通して　①慢性的な健康障害を持つ個人が、生涯にわたり積極的かつ意欲的に療養生活に取り組む支援としての看護のあり方と課題、医療チームの役割と連携・協働のあり方について考察する　②急性期の看護が、機能回復や退院後の疾病管理・生活管理に及ぼす影響を考察し、急性期看護の役割と責任について再考する。
実　習　施　設	やわたメディカルセンター、小松市民病院
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ病院にて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　山崎教授 成人看護学領域の全教員および病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・成人看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

母性看護実習	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	周産期にある女性と子ども（胎児・新生児）およびその家族を対象とした看護過程を通して、身体的、心理的、社会的健康の増進方法と看護ケア能力を習得する。また自治体の男女共同参画支援施設において地域の男女共同参画の現状や課題を学び、生涯を通じた女性の健康と看護に求められている支援について考察する。
実　習　施　設	小松市民病院、恵愛病院、松南病院、加賀市民医療センター 小松市男女共同参画課、石川県男女共同参画支援センター
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ各病院（病棟、外来）および自治体の男女共同参画支援センター等にて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　坂本教授 母性看護学領域の全教員、助手 2 名および各病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・母性看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

小児看護実習Ⅰ	
単　位　数	1単位
実　習　時　期	2年次後期
実　習　期　間	5日間
実　習　概　要	健康な乳幼児における1日の生活と世話を観察し、運動機能、知的機能、情緒・社会的機能の発達を理解するとともに、発達促進のための働きかけを見学する。また、発達段階に応じた遊びを理解し、「ぼんやり」「傍観」「1 人遊び」「並行遊び」「連合遊び」「協同遊び」の実際を学ぶ。 乳幼児期は「感情の分化」がおこり、乳児期にみられる愛着形成・分離不安、幼児期にみられる自律性・自発性は、非常にダイナミックである。子どもの活動を行動観察法によって記述し、概念的な理解から具体的な理解に発展させる。
実　習　施　設	小松市内の保育所
実　施　方　法	50名を5～6名の9グループとし、3グループずつ3施設に分かれて実施する。各グループに実習指導教員1名つき（平成31年度は他分野の着任教員とする）、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　森川教授 小児看護学領域の全教員、助手2名および各施設の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・小児看護学

【看護ケア能力を育てるステージ】

小児看護実習Ⅱ	
単　　位　　数	1 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	5 日間
実　習　概　要	健康障害を持つ子どもとその家族を対象に看護を展開し、子ども個々の発達に適した看護ケア提供の在り方を学習する。また、育成期家族の発達と健康を促進するために、子どもを産み育てる時期にある親子の健康保持、健康問題からの回復に対する看護援助を実施する能力を養う。 看護チームの一員として看護を展開したり、手術室や外来など部署を超えて継続した看護を学習することにより、医療の行われる場の理解を深めるとともに、子どもと家族が持つ健康問題を全体論的に把握し、保健、医療、福祉、その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行う。また、健康問題をもつ小児の成長発達をふまえた長期的な視点をもち看護を実施、考察する。
実　習　施　設	小松市民病院、国立病院機構石川病院
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ 2 病院に分かれて実施する。各施設に実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　森川教授 小児看護学領域の全教員、助手 2 名および各病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・専門分野Ⅱ・小児看護学

【看護ケア能力を拡げるステージ】

在宅看護実習	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	3 年次通年
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	実際に地域で療養する人とその家族を対象に、訪問看護師とともに看護活動をする。関連機関・職種と連携・協働しながら、家庭や施設において看護援助をしている訪問看護師の活動、訪問看護ステーションの運営・管理について学ぶ。様々な在宅サービス提供機関における看護職の機能・役割についても学ぶ。それらを通して、在宅生活を維持するための現状と課題を捉える能力を養う。その上で、保健・医療・福祉の総合的な視点からのサービス提供体制や支援のあり方を検討し、必要となる看護やサービスを提供するための能力を養う。
実　習　施　設	能美市立病院、訪問看護ステーションリハケア芦城、訪問看護ステーションはなはな、訪問看護ステーションゆきあい、訪問看護ステーション小松
実　施　方　法	50 名を 5～6 名の 9 グループとし、1 グループずつ 5 施設に分かれて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　徳田教授 実習指導教員２名、助手１名および各病院・施設の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・統合分野・在宅看護論

【看護ケア能力を拡げるステージ】

看護統合実習	
単　　位　　数	2 単位
実　習　時　期	4 年次前期
実　習　期　間	2 週間
実　習　概　要	看護を統合する能力を得るために、地域の病院で実習を行う。それを通して、医療・保健・福祉チームにおける看護職の責任と役割を認識し、実習指導者等の協力の下でパートナーシップ・ナーシング・システムを活用しながら複数課題にも対応して看護ケア提供が実践できる能力の修得をめざす。また、病院の機能と役割を地域の中に位置づける意識を高めるために、連携して行っている諸活動（地域医療連携室）について学び、地域の医療機関、訪問看護ステーション、介護福祉施設、等との連携やコーディネーションに関する理解を深める。
実　習　施　設	小松市民病院、能美市立病院
実　施　方　法	各教員につき 3～4 名の学生グループとし、全グループ一斉に各病院に分かれて実施する。各グループに実習指導教員 1 名つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　徳田教授 全看護教員、助手 4 名および各病院の実習指導者
教育課程と指定規則との対比表における区分	臨地実習・統合分野・看護の統合と実践

【看護ケア能力を拡げるステージ】

公衆衛生看護実習	
単　　位　　数	5 単位
実　習　時　期	4 年次通年
実　習　期　間	5 週間
実　習　概　要	行政では市町村や都道府県および国などの公的な責任に基づいて実施されている公衆衛生看護活動への参加を通して、地域の人々の健康と生活への理解を深め、保健所や保健センターの機能と役割を学び、他職種との協働について学ぶ。 事業所では労働者の生活、健康状態、健康に関する考え方や行動を把握し、健康課題を理解する。また、産業保健師の活動展開方法の学び、労働衛生、労働の３管理等の実際について理解する。学校では児童生徒の健康問題の特徴や心身の健康を支援する養護教諭の役割や機能・業務の実際を学ぶ。また、臨地実習をとおして倫理規範を守る態度、専門職として望ましい態度等を学ぶ。
実　習　施　設	市内の企業（コマツ、小松精練）、市内の小・中・高等学校（小松市立芦城小学校、小松市立丸内中学校、小松市立芦城中学校、小松市立高等学校、小松大谷高等学校）、南加賀保健福祉センター、石川中央保健福祉センター、小松市すこやかセンター、加賀市役所、川北町保健センター、白山市健康増進課
実　施　方　法	25 名を 2 グループに分け、さらに、1～7 人ずつ分かれて、学校・企業、保健所、市町村の保健センターの全てにおいて実施する。各グループに実習指導教員 1 人つき、引率して実習を行う。
指　導　体　制	科目担当教員（責任者）　中島教授 公衆衛生看護学領域の全教員および各施設の実習指導者
教育課程と指定規則と	臨地実習・公衆衛生看護学実習

の対比表における区分	

看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について

資料Ｘ－６

＜時間帯＞
【A】8:45～12:00（1･2時限）　【B】13:00～14:30（3時限）　【C】14:45～18:00（4･5時限）

＜表示＞
○：講義・演習　オ：オムニバス講義又は演習　●：実習指導

4月

領域	職位	週	1															2															3															4														
		曜日	月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井																○			○		○	○					○			○	○			○		○	○					○			○	○			○		○	○					○			○
	教授	内田																		○		オ		○					○						○		オ		○					○						○		オ		○					○			
	講師	清水																								○															○															○						
	助教	加藤																																																													
	助教	上田																																																													
	助教	藤田																								○															○															○						
保健精神	教授	北岡																○	○				オ		○		○						○	○				オ		○		○						○	○				オ		○		○					
	助教	片山																																																													
	助教	相上																																																													
成人	教授	山崎																	○	○			○		○	○		○		○		オ		○	○			○		○	○		○		○		オ		○	○			○		○	○		○		○		オ
	准教授	佐藤																○	○	○					○	○				○		オ	○	○	○					○	○				○		オ	○	○	○					○	○				○		オ
	講師	松村																																																													
	助教	谷保																																																													
老年	教授	小泉																					○				○											○				○											○				○					
	講師	油野																																																													
	助教	誉田																																																													
母性	教授	坂本																				○	○				○			○							○	○				○			○							○	○				○			○		
小児	教授	森川																○										○	○		○		○										○	○		○		○										○	○		○	
	助教	小田																																																													
在宅	教授	徳田																○			○	オ									○	○	○			○	オ									○	○	○			○	オ									○	○
	講師	清水																								○															○															○						
衛生公衆	教授	中島																○			○	オ		○			○			○			○	●	●	○	オ	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○			○	オ		○			○			○		
	准教授	日下																○			○			○			○						○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	○			○			○			○					
	助教	池田																																																													
他	教授	鋤柄																				○	オ														○	オ														○	オ									

5月

領域	職位	週	5															6															7															8														
		曜日	月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井	○			○		○	○					○			○	○			○		○	○					○			○	○			○		○	○					○			○	○	●	●	○	●	○	○	●	●	●	●	○	●	●	○
	教授	内田			○		オ		○					○						○		オ		○					○						○		オ		○					○				●	●	○	●	オ	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●
	講師	清水									○															○															○							●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●
	助教	加藤																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	上田																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	藤田									○															○															○							●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●
保健精神	教授	北岡	○	○				オ		○		○						○	○				オ		○		○						○	○				オ		○		○						○	○	●	●	●	オ	●	○	●	○	●	●	●	●	●
	助教	片山																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎		○	○			○		○	○		○		○		オ		○	○			○		○	○		○		○		オ		○	○			○		○	○		○		○		オ	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	オ
	准教授	佐藤	○	○	○					○	○				○		オ	○	○	○					○	○				○		オ	○	○	○					○	○				○		オ	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ
	講師	松村																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉						○				○											○				○											○				○						●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	●	●	●	●	●
	講師	油野																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田																																														●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本					○	○				○			○							○	○				○			○							○	○				○			○			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
小児	教授	森川	○										○	○		○		○										○	○		○		○										○	○		○		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	○	●
	助教	小田																																																													
在宅	教授	徳田	○			○	オ									○	○	○			○	オ									○	○	○			○	オ									○	○	○				オ										
衛生公衆	教授	中島	○			○	オ		○			○			○			○			○	オ		○			○			○			○			○	オ		○			○			○			○			○	オ		○			○			○		
	准教授	日下	○			○			○			○						○			○			○			○						○			○			○			○						○			○			○			○					
	助教	池田																																																													
他	教授	鋤柄					○	オ														○	オ														○	オ														○	オ									

看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について

＜時間帯＞
【A】8:45～12:00（1･2時限）　【B】13:00～14:30（3時限）　【C】14:45～18:00（4･5時限）

＜表示＞
○:講義・演習　オ:オムニバス講義又は演習　●:実習指導

領域	職位	週	6月 9																10																							
		曜日	月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井	○	●	●	○	●	○	○	●	●	●	●	○	●	●	○	○			○		○	○					○			○			○								
	教授	内田	●	●	○	●	オ	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●			○		オ		○					○						○								
	講師	清水	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●								○																		
	助教	加藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																										
	助教	上田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																										
	助教	藤田	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●								○																		
保健 精神	教授	北岡	○	○	●	●	●	オ	●	○	●	○	●	●	●	●	●	○	○				オ		○		○						○	○			オ		○		○			
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																										
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																										
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ
	准教授	佐藤	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ
	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	●	●	●	●	●					○			○					○						○								
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	○	●	○										○	○		○		○												
	助教	小田																																												
在宅	教授	徳田	○				オ											○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	●	●	●	●
衛生 公衆	教授	中島	○			○	オ		○			○			○			○	●	●	○	オ	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	オ	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●
	准教授	日下	○			○			○			○						○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	○	●	●
	助教	池田																																												
他	教授	鋤柄					○	オ													○	オ														○	オ								

領域	職位	週	6月 13																7月 14																							
		曜日	月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井	○			○		○	○					○				○			○		○	○					○				○		○	○								
	教授	内田			○		オ		○					○						○		オ		○					○						○								
	講師	清水								○															○																		
	助教	加藤																																										
	助教	上田																																									
	助教	藤田								○															○																		
保健 精神	教授	北岡	○	○				オ		○		○						○	○				オ		○		○						○	○			オ		○		○			
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●																										
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●											
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	オ
	准教授	佐藤	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	オ
	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	●	●	●	●	●	○	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	●	○	●	○										○	○		○		○												
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●														
在宅	教授	徳田	○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	オ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
衛生 公衆	教授	中島	○			○	オ		○			○			○			○	●	●	○	オ	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	オ	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●
	准教授	日下	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●
	助教	池田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●														
他	教授	鋤柄					○	オ										●	●	●	●	○	オ														○	オ								

看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について

＜時間帯＞
【A】8:45～12:00（1･2時限）　【B】13:00～14:30（3時限）　【C】14:45～18:00（4･5時限）

＜表示＞
○：講義・演習　オ：オムニバス講義又は演習　●：実習指導

			7月														
領域	職位	週	17														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井	○			○		○	○					○			○
	教授	内田			○		オ		○					○			
	講師	清水									○						
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田									○						
精神保健	教授	北岡	○	○				オ		○		○					
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎						○					○				オ
	准教授	佐藤	○														オ
	講師	松村															
	助教	谷保															
老年	教授	小泉						○				○					
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本													○		
小児	教授	森川	○										○	○		○	
	助教	小田															
在宅	教授	徳田	○			○	オ										
公衆衛生	教授	中島	○	●	●	○	オ	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●
	准教授	日下	○	●	●	○	●	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●
	助教	池田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
他	教授	鋤柄	●	●	●	●	○	オ	●	●	●	●	●	●	●	●	●

			8月														
領域	職位	週	18														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤															
	講師	松村															
	助教	谷保															
老年	教授	小泉															
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本															
小児	教授	森川															
	助教	小田															
在宅	教授	徳田															
公衆衛生	教授	中島	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	日下	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
他	教授	鋤柄	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

領域	職位	週	19														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤															
	講師	松村															
	助教	谷保															
老年	教授	小泉															
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本															
小児	教授	森川															
	助教	小田															
在宅	教授	徳田															
公衆衛生	教授	中島	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	日下	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
他	教授	鋤柄	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

領域	職位	週	20														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤															
	講師	松村															
	助教	谷保															
老年	教授	小泉															
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本															
小児	教授	森川															
	助教	小田															
在宅	教授	徳田															
公衆衛生	教授	中島															
	准教授	日下															
	助教	池田															
他	教授	鋤柄															

			8月														
領域	職位	週	21														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤															
	講師	松村															
	助教	谷保															
老年	教授	小泉															
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本															
小児	教授	森川															
	助教	小田															
在宅	教授	徳田															
公衆衛生	教授	中島	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	日下	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
他	教授	鋤柄	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

			9月														
領域	職位	週	22														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川															
	助教	小田															
在宅	教授	徳田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公衆衛生	教授	中島	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	日下	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
他	教授	鋤柄	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

領域	職位	週	23														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上															
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	徳田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公衆衛生	教授	中島	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	日下	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
他	教授	鋤柄	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

領域	職位	週	24														
		曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川															
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	徳田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公衆衛生	教授	中島															
	准教授	日下	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄															

看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について

＜時間帯＞
【A】8:45～12:00（1･2時限）　【B】13:00～14:30（3時限）　【C】14:45～18:00（4･5時限）

＜表示＞
○：講義・演習　オ：オムニバス講義又は演習　●：実習指導

			9月														
		週	25														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川															
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	徳田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公衆衛生	教授	中島															
	准教授	日下	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄															

			10月														
		週	26														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡		○								○					
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	松村	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○														
	助教	小田															
在宅	教授	徳田	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公衆衛生	教授	中島							○								
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

			10月														
		週	27														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡		○								○					
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	松村	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○														
	助教	小田															
在宅	教授	徳田	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公衆衛生	教授	中島							○								
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

			10月														
		週	28														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡		○								○					
	助教	片山															
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	松村	○														
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○														
	助教	小田															
在宅	教授	徳田				○											
公衆衛生	教授	中島							○								
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

			10月														
		週	29														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡		○								○					
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	松村	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	徳田				○											
公衆衛生	教授	中島															
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

			10月														
		週	30														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡		○								○					
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上															
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	松村	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保															
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	徳田				○											
公衆衛生	教授	中島							○								
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

			11月														
		週	31														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	松村	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	谷保															
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	徳田				○											
公衆衛生	教授	中島															
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

			11月														
		週	32														
領域	職位	曜日	月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	藤田															
精神保健	教授	北岡	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	松村	○														
	助教	谷保	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	徳田	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
公衆衛生	教授	中島															
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について

＜時間帯＞
【A】8:45～12:00（1･2時限）　【B】13:00～14:30（3時限）　【C】14:45～18:00（4･5時限）

＜表示＞
○:講義・演習　オ:オムニバス講義又は演習　●:実習指導

領域	職位	氏名	11月 週33 月 A	B	C	火 A	B	C	水 A	B	C	木 A	B	C	金 A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	藤田															
保健 精神	教授	北岡	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●
	講師	松村	○														
	助教	谷保	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	德田	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
衛生 公衆	教授	中島															
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

領域	職位	氏名	11月 週34 月 A	B	C	火 A	B	C	水 A	B	C	木 A	B	C	金 A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	藤田															
保健 精神	教授	北岡	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	片山	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	相上	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●	●
	講師	松村	○														
	助教	谷保	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	●	●
老年	教授	小泉	○	●	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	○	●	●
	講師	油野	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
小児	教授	森川	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	小田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	德田	●	●	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
衛生 公衆	教授	中島															
	准教授	日下	○	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	助教	池田															
他	教授	鋤柄															

領域	職位	氏名	12月 週35 月 A	B	C	火 A	B	C	水 A	B	C	木 A	B	C	金 A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
保健 精神	教授	北岡		○								○					
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤												○			
	講師	松村	○														
	助教	谷保															
老年	教授	小泉															
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本					○										
小児	教授	森川	○														
	助教	小田															
在宅	教授	德田				○											
衛生 公衆	教授	中島															
	准教授	日下	○														
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

領域	職位	氏名	12月 週36 月 A	B	C	火 A	B	C	水 A	B	C	木 A	B	C	金 A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
保健 精神	教授	北岡		○								○					
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤												○			
	講師	松村	○														
	助教	谷保															
老年	教授	小泉	○														
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本					○										
小児	教授	森川	○														
	助教	小田															
在宅	教授	德田				○											
衛生 公衆	教授	中島															
	准教授	日下	○														
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

領域	職位	氏名	1月 週39 月 A	B	C	火 A	B	C	水 A	B	C	木 A	B	C	金 A	B	C
基礎	教授	松井															
	教授	内田															
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
保健 精神	教授	北岡															
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤															
	講師	松村															
	助教	谷保															
老年	教授	小泉															
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本															
小児	教授	森川															
	助教	小田															
在宅	教授	德田															
衛生 公衆	教授	中島															
	准教授	日下															
	助教	池田															
他	教授	鋤柄															

領域	職位	氏名	1月 週40 月 A	B	C	火 A	B	C	水 A	B	C	木 A	B	C	金 A	B	C
基礎	教授	松井					○		○			○					
	教授	内田	○				○		○								
	講師	清水															
	助教	加藤															
	助教	上田															
	助教	藤田															
保健 精神	教授	北岡		○								○					
	助教	片山															
	助教	相上															
成人	教授	山崎															
	准教授	佐藤												○			
	講師	松村	○														
	助教	谷保															
老年	教授	小泉	○														
	講師	油野															
	助教	誉田															
母性	教授	坂本					○										
小児	教授	森川	○														
	助教	小田															
在宅	教授	德田				○											
衛生 公衆	教授	中島															
	准教授	日下	○														
	助教	池田															
他	教授	鋤柄									○						

冬期休暇

看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について

＜時間帯＞
【A】8:45～12:00（1･2時限）　【B】13:00～14:30（3時限）　【C】14:45～18:00（4･5時限）

＜表示＞
○:講義・演習　オ:オムニバス講義又は演習　●:実習指導

領域	職位	氏名	1月 41 月 A	1月 41 月 B	1月 41 月 C	1月 41 火 A	1月 41 火 B	1月 41 火 C	1月 41 水 A	1月 41 水 B	1月 41 水 C	1月 41 木 A	1月 41 木 B	1月 41 木 C	1月 41 金 A	1月 41 金 B	1月 41 金 C	1月 42 月 A	1月 42 月 B	1月 42 月 C	1月 42 火 A	1月 42 火 B	1月 42 火 C	1月 42 水 A	1月 42 水 B	1月 42 水 C	1月 42 木 A	1月 42 木 B	1月 42 木 C	1月 42 金 A	1月 42 金 B	1月 42 金 C
基礎	教授	松井					○		○			○						●	●	●	●	○	●	○	●	●	○	●	●	●	●	●
基礎	教授	内田	○				○		○									○	●	●	●	○	●	○	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎	講師	清水																													
基礎	助教	加藤																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎	助教	上田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎	助教	藤田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
保健 精神	教授	北岡		○								○							○							○						
保健 精神	助教	片山																														
保健 精神	助教	相上																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	教授	山崎																														
成人	准教授	佐藤													○														○			
成人	講師	松村	○															○														
成人	助教	谷保																														
老年	教授	小泉	○					○							○			○						○						○			
老年	講師	油野																														
老年	助教	誉田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本					○															○										
小児	教授	森川	○															○														
小児	助教	小田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
在宅	教授	德田				○															○											
衛生 公衆	教授	中島	○	○					○									○	○					○									
衛生 公衆	准教授	日下	○															○														
衛生 公衆	助教	池田		○															○													
他	教授	鋤柄				○					○	○			○						○					○	○			○		

領域	職位	氏名	1月 43 月 A	1月 43 月 B	1月 43 月 C	1月 43 火 A	1月 43 火 B	1月 43 火 C	1月 43 水 A	1月 43 水 B	1月 43 水 C	1月 43 木 A	1月 43 木 B	1月 43 木 C	1月 43 金 A	1月 43 金 B	1月 43 金 C	1月 44 月 A	1月 44 月 B	1月 44 月 C	1月 44 火 A	1月 44 火 B	1月 44 火 C	1月 44 水 A	1月 44 水 B	1月 44 水 C	1月 44 木 A	1月 44 木 B	1月 44 木 C	1月 44 金 A	1月 44 金 B	1月 44 金 C
基礎	教授	松井	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	教授	内田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	講師	清水																														
基礎	助教	加藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	助教	上田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	助教	藤田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
保健 精神	教授	北岡																														
保健 精神	助教	片山																														
保健 精神	助教	相上																														
成人	教授	山崎																														
成人	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
成人	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
成人	助教	谷保																														
老年	教授	小泉																														
老年	講師	油野																														
老年	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
母性	教授	坂本																														
小児	教授	森川																														
小児	助教	小田																														
在宅	教授	德田																														
衛生 公衆	教授	中島	○	○					○									○	○							○						
衛生 公衆	准教授	日下	○															○														
衛生 公衆	助教	池田		○															○													
他	教授	鋤柄					○			○	○			○							○					○						

領域	職位	氏名	2月 45 月 A	2月 45 月 B	2月 45 月 C	2月 45 火 A	2月 45 火 B	2月 45 火 C	2月 45 水 A	2月 45 水 B	2月 45 水 C	2月 45 木 A	2月 45 木 B	2月 45 木 C	2月 45 金 A	2月 45 金 B	2月 45 金 C	2月 46 月 A	2月 46 月 B	2月 46 月 C	2月 46 火 A	2月 46 火 B	2月 46 火 C	2月 46 水 A	2月 46 水 B	2月 46 水 C	2月 46 木 A	2月 46 木 B	2月 46 木 C	2月 46 金 A	2月 46 金 B	2月 46 金 C
基礎	教授	松井																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎	教授	内田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎	講師	清水																														
基礎	助教	加藤																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎	助教	上田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
基礎	助教	藤田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
保健 精神	教授	北岡																														
保健 精神	助教	片山																														
保健 精神	助教	相上																														
成人	教授	山崎																														
成人	准教授	佐藤																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	講師	松村																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
成人	助教	谷保																														
老年	教授	小泉																														
老年	講師	油野																														
老年	助教	誉田																●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
母性	教授	坂本																														
小児	教授	森川																														
小児	助教	小田																														
在宅	教授	德田																														
衛生 公衆	教授	中島	○	○					○									○	○					○								
衛生 公衆	准教授	日下	○															○														
衛生 公衆	助教	池田		○															○													
他	教授	鋤柄				○					○	○			○						○					○	○			○		

領域	職位	氏名	2月 47 月 A	2月 47 月 B	2月 47 月 C	2月 47 火 A	2月 47 火 B	2月 47 火 C	2月 47 水 A	2月 47 水 B	2月 47 水 C	2月 47 木 A	2月 47 木 B	2月 47 木 C	2月 47 金 A	2月 47 金 B	2月 47 金 C	3月 48 月 A	3月 48 月 B	3月 48 月 C	3月 48 火 A	3月 48 火 B	3月 48 火 C	3月 48 水 A	3月 48 水 B	3月 48 水 C	3月 48 木 A	3月 48 木 B	3月 48 木 C	3月 48 金 A	3月 48 金 B	3月 48 金 C
基礎	教授	松井	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	教授	内田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	講師	清水																														
基礎	助教	加藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	助教	上田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
基礎	助教	藤田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
保健 精神	教授	北岡																														
保健 精神	助教	片山																														
保健 精神	助教	相上																														
成人	教授	山崎																														
成人	准教授	佐藤	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
成人	講師	松村	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
成人	助教	谷保																														
老年	教授	小泉																														
老年	講師	油野																														
老年	助教	誉田	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●															
母性	教授	坂本																														
小児	教授	森川																														
小児	助教	小田																														
在宅	教授	德田																														
衛生 公衆	教授	中島	○	○					○																							
衛生 公衆	准教授	日下	○																													
衛生 公衆	助教	池田		○																												
他	教授	鋤柄				○				○	○			○							○					○	○			○		

看護学科専任教員における授業・実習指導の時間帯について

＜時間帯＞
【A】8:45～12:00（1･2時限）　【B】13:00～14:30（3時限）　【C】14:45～18:00（4･5時限）

＜表示＞
〇:講義・演習　オ:オムニバス講義又は演習　●:実習指導

			3月																																																												
領域	職位	週	49															50															51															52														
		曜日	月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木			金			月			火			水			木			金		
		氏名	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
基礎	教授	松井																																																											
	教授	内田																																																											
	講師	清水																																																											
	助教	加藤																																																											
	助教	上田																																																											
	助教	藤田																																																											
精神保健	教授	北岡																																																											
	助教	片山																																																											
	助教	相上																																																											
成人	教授	山崎																																																											
	准教授	佐藤																																																											
	講師	松村																																																											
	助教	谷保																																																											
老年	教授	小泉																																																											
	講師	油野																																																											
	助教	誉田																																																											
母性	教授	坂本																																																											
小児	教授	森川																																																											
	助教	小田																																																											
在宅	教授	徳田																																																											
公衆衛生	教授	中島																																																											
	准教授	日下																																																											
	助教	池田																																																											
他	教授	鋤柄																																																											

臨地実習施設における実習指導者配置計画

資料Ｘ－7

1　看護師実習施設

No	授業科目	実習施設名	学生受入人数	実習指導者数	実習指導のための専任教員数等
1	基礎看護実習Ⅰ	やわたメディカルセンター	4名×4G	看護師11名	教授2名、助教3名、実習補佐3名（成人准教授1名及び助教1名、老年助教1名）
		能美市立病院	6名×2G	看護師10名	
		芳珠記念病院	13名×2G	看護師10名	
2	基礎看護実習Ⅱ	小松市民病院	36名×1G	看護師45名	教授2名、助教3名、実習補佐3名（精神助教1名、老年助教1名、小児助教1名）
		やわたメディカルセンター	4名×4G	看護師11名	
3	精神保健看護実習Ⅰ	精神科デイケアセンターりんず（小松市民病院）	5～6名×9G	看護師1名 精神保健福祉士1名	教授1名、助教2名
		粟津神経サナトリウム	6名×3G	看護師5名	
		社会福祉法人　なごみの郷	5名×10G	精神保健福祉士3名	
4	精神保健看護実習Ⅱ	小松市民病院	5～6名×9G	看護師14名	教授1名、助教2名
5	成人看護実習Ⅰ	小松市民病院	5～6名×9G	看護師27名	教授1名、准教授1名、講師1名、助教1名
6	成人看護実習Ⅱ	小松市民病院	5～6名×9G	看護師31名	教授1名、准教授1名、講師1名、助教1名
7	成人看護実習Ⅲ	小松市民病院	5～6名×9G	看護師23名	教授1名、准教授1名、講師1名、助教1名
		やわたメディカルセンター	3名×16G	看護師11名	
8	老年看護実習Ⅰ	能美市立病院	2～3名×9G	看護師10名	教授1名、准教授1名、助教1名
		介護老人保健施設グリーンポート小松	3名×10G	看護師1名 介護福祉士5名 作業療法士1名 理学療法士2名	
9	老年看護実習Ⅱ	松寿園	5～6名×9G	介護福祉士5名	教授1名、准教授1名、助教1名、助手1名
10	母性看護学実習	小松市民病院	2名×9G	助産師8名	教授1名、助手2名
		加賀市医療センター	1～2名×9G	助産師9名	
		医療法人社団 恵愛会　恵愛病院	1～2名×18G	助産師1名 看護師3名	
		医療法人社団 恵愛会　松南病院	1～2名×18G	助産師2名	

臨地実習施設における実習指導者配置計画

資料Ｘ－7

1 看護師実習施設

No	授業科目	実習施設名	学生受入人数	実習指導者数	実習指導のための専任教員数等
11	小児看護学実習Ⅰ	第一保育所	6名×3G	保育士2名	教授1名、助教1名、実習補佐1名、（基礎助教1名）
		やたの認定こども園あおぞら	5～6名×3G	保育士2名	
		金野保育所	5名×3G	保育士2名	
12	小児看護学実習Ⅱ	小松市民病院	3名×9G	看護師20人 助産師1名 准看護師1名	教授1名、助教1名、助手2名
		国立病院機構　石川病院	2～3名×9G	看護師16名	
13	在宅看護実習	能美市立病院	2名×18G	看護師1名	教授1名、准教授1名、助手1名
		訪問看護ステーションリハケア芦城	2名×18G	看護師7名	
		訪問看護ステーション小松	1名×7G	看護師2名	
		訪問看護ステーションはなはな	1名×14G	看護師5名	
		訪問看護ステーションゆきあい	1～2名×7G	看護師2名	
14	看護統合実習	小松市民病院	4名×10G	看護師37名 准看護師1名	教授8名、准教授1名、講師3名、助教8名
		能美市立病院	3～4名×3G	看護師8名	

臨地実習施設における実習指導者配置計画

資料Ｘ－7

2　保健師実習施設

No	授業科目	実習施設名	学生受入人数	実習指導者数	実習指導のための専任教員数等
1	公衆衛生看護実習	石川県南加賀保健福祉センター	13名×1G	保健師10名 管理栄養士1名 精神保健福祉士1名 放射線技師1名 獣医師3名 児童福祉司1名 事務職1名	教授1名、准教授1名、助教1名
2		石川中央保健福祉センター	12名×1G	保健師8名 管理栄養士1名 精神保健福祉士1名 獣医師2名 保健師2名 事務職1名	
3		コマツ粟津工場	3名×3G	保健師1名	
4		小松精練株式会社	2名×2G	保健師1名	
5		小松市立芦城小学校	2名×2G	養護教諭1名	
6		小松市立芦城中学校	2名×2G	養護教諭1名	
7		小松市立丸内中学校	2名×2G	養護教諭1名	
8		小松市立高校	2名×1G	養護教諭1名	
9		小松大谷高校	2名×2G	養護教諭1名	
10		小松市いきいき健康課	3～4名×4G	保健師1名	
11		加賀市保健センター	3名×2G	保健師1名	
12		川北町役場福祉課	3名×1G	保健師1名	
13		白山市健康推進課	3名×1G	保健師1名	

様式第2号（その2）

資料Ｘ－８

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（臨床工学技士学校）（公立小松大学）（臨床工学科）

教育課程＼指定規則の教育内容							別表第一										
							基礎分野		専門基礎分野				専門分野							
							科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造及び機能	臨床工学に必要な医学的基礎	臨床工学に必要な理工学的基礎	臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	医用生体工学	医用機器学	生体機能代行技術学	医用安全管理学	関連臨床医学	臨床実習	計
区　分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数														
							14		6	8	16	7	7	8	12	5	6	4	93	
共通教育科目	導入科目	キャリアデザイン・チーム論Ⅱ	1前	1		15	必修8単位	○												8
		アカデミック・スキルズ	1前	1		15		○												
		テーマ別基礎ゼミ	1後	2		15		○												
		情報処理基礎	1前	2		15		○												
		南加賀の歴史と文化	1後	2		15		○												
	一般科目	哲学	1前		2	15	選択必修6単位以上	○												6
		心理学	1前		2	15		○												
		人間の発達と心	1前		2	15		○												
		日本の伝統芸能	1前		2	15		○												
		人文地理学	1後		2	15		○												
		文化人類学	1後		2	15		○												
		医療と文化	1後		2	15		○												
		文章表現法	1後		2	15		○												
		言葉と文化	1後		2	15		○												
		日本産業史	1前		2	15	選択必修4単位以上	○												4
		自然資源と環境問題	1前		2	15		○												
		経済学	1前		2	15		○												
		政治学	1後		2	15		○												
		社会学	1後		2	15		○												
		公共政策論	1後		2	15		○												
		社会福祉論	1後		2	15		○												
		日本国憲法	1前		2	15		○												
		データ科学と社会	1前		2	15	選択必須4単位以上	○												4
		情報処理応用Ａ	1後		2	15		○												
		情報処理応用Ｂ	1後		2	15		○												
		クリティカルシンキング	1後		2	15		○												
		統計学	1前		2	15		○												
		教養としての物理	1前		2	15		○												
		教養としての数学	1後		2	15		○												
		現代科学技術論	1前		2	15		○												
		健康と体の科学	1前		2	15	選択必修1単位以上	○												1
		スポーツ演習（バレーボール）	1前・後		1	30		○												
		スポーツ演習（硬式テニス）	1前		1	30		○												
		スポーツ演習（フットサル）	1前・後		1	30		○												
		スポーツ演習（卓球）	1後		1	30		○												
		スポーツ演習（バドミントン）	1前・後		1	30		○												

様式第2号（その2）

資料Ｘ－８

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（臨床工学技士学校）（公立小松大学）（臨床工学科）

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表第一										
							基礎分野		専門基礎分野				専門分野						計
							科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造及び機能	臨床工学に必要な医学的基礎	臨床工学に必要な理工学的基礎	臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	医用生体工学	医用機器学	生体機能代行技術学	医用安全管理学	関連臨床医学	臨床実習	
区　分	授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	14		6	8	16	7	7	8	12	5	6	4	93
共通教育科目	外国語科目 英語科目	英語Ⅰa	1前	2		15	必修8単位	○											8
		英語Ⅰb	1前	2		15		○											
		英語Ⅱa	1後	2		15		○											
		英語Ⅱb	1後	2		15		○											
		英語Ⅲ	1後		2	15		○											
		英会話Ⅰ	1後		2	30		○											
		英会話Ⅱ	1後		2	30		○											
		実用英語Ⅰ	1前・後		2	15		○											
		実用英語Ⅱ	1前・後		2	15		○											
		実用英語Ⅲ	1前・後		2	15		○											
		実用英語Ⅳ	1前・後		2	15		○											
		中国語Ⅰ	1前		2	15		○											
		中国語Ⅱ	1後		2	15		○											
		フランス語Ⅰ	1前		2	15		○											
		フランス語Ⅱ	1後		2	15		○											
		ドイツ語Ⅰ	1前		2	15		○											
		ドイツ語Ⅱ	1後		2	15		○											
		ロシア語Ⅰ	1前		2	15		○											
		ロシア語Ⅱ	1後		2	15		○											
		スペイン語Ⅰ	1前		2	15		○											
		スペイン語Ⅱ	1後		2	15		○											
小計						31	31		0				0						31

様式第２号（その２）

資料Ｘ－８

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（臨床工学技士学校）（公立小松大学）（保健医療学部臨床工学科）

教育課程＼指定規則の教育内容				単位数				別表第一											
								基礎分野		専門基礎分野				専門分野						
								科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造及び機能	臨床工学に必要な医学的基礎	臨床工学に必要な理工学的基礎	臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	医用生体工学	医用機器学	生体機能代行技術学	医用安全管理学	関連臨床医学	臨床実習	計
区　分		授業科目	配当年次	必修	選択	1単位当たりの時間数	履修方法及び卒業要件	14		6	8	16	7	7	8	12	5	6	4	93
専門基礎科目	医学的基礎	臨床工学総論	1前	2		15	22単位必修			○	○									22
		解剖学	1前	2		15				○	○									
		解剖生理学実習	2前	1		45				○	○									
		生理学	1前	2		15				○	○									
		生化学	1前	2		15				○	○									
		看護学概論	1後	2		15				○	○									
		医療関係法規	1後	2		15					○									
		病理学	1前	2		15				○	○									
		薬理学	1後	2		15				○	○									
		公衆衛生学	2前	1		15				○	○									
		医学概論	2後	2		15				○	○									
		感染免疫学	2後	2		15				○	○									
	理工学的基礎	応用数学	1後	2		15	25単位必修					○								25
		電気工学Ⅰ	1後	2		15						○								
		電気工学Ⅱ	2前	2		15						○								
		電気工学演習Ⅰ	1後		1	30						○								
		電気工学演習Ⅱ	2前		1	30						○								
		電気工学実習	2後	2		45						○								
		電子工学Ⅰ	2前	2		15						○								
		電子工学Ⅱ	2後	2		15						○								
		電子工学演習Ⅰ	2前		1	30						○								
		電子工学演習Ⅱ	2後		1	30						○								
		電子工学実習	3前	2		45						○								
		医用機械工学	2後	2		15						○								
		情報処理工学	1後	2		15							○							
		プログラミング演習	2前	1		30							○							
		医用信号処理	2後	2		15							○							
		医用通信システム	3前		2	15							○							
		医用工学	3前	2		15							○							
		医用システム工学実習	3後	2		45							○							
	小計						47	0		47				0						47
専門科目	医用生体工学	生体物性工学	2前	2		15	6単位必修							○						6
		生体材料工学	2後	2		15								○						
		臨床画像工学	3後		2	15								○						
		生体計測工学	3前	2		15								○						
	医用機器学	医用機器学概論	2前	2		15	10単位必修								○					10
		医用治療機器学	2後	2		15									○					
		医用治療機器学実習	3前	1		45									○					
		画像診断装置学	3後	2		15									○					
		生体計測装置学	3前	2		15									○					
		生体計測装置学実習	3後	1		45									○					

様式第２号（その２）

資料Ｘ－８

教 育 課 程 と 指 定 規 則 と の 対 比 表

（臨床工学技士学校）（公立小松大学）（保健医療学部臨床工学科）

教育課程 ＼ 指定規則の教育内容							別表第一											
							基礎分野		専門基礎分野				専門分野					
							科学的思考の基盤	人間と生活	人体の構造及び機能	臨床工学に必要な医学的基礎	臨床工学に必要な理工学的基礎	臨床工学に必要な医療情報技術とシステム工学の基礎	医用生体工学	医用機器学	生体機能代行技術学	医用安全管理学	関連臨床医学	臨床実習	計
区　分		授業科目	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	1単位当たりの時間数	14		6	8	16	7	7	8	12	5	6	4	93
専門科目	生体機能代行技術学	呼吸機能代行装置学	2前	2		15	13単位必修								○				13
		呼吸機能代行装置学実習	2後	1		45									○				
		循環機能代行装置学	2後	2		15									○				
		循環機能代行装置学実習	3前	1		45									○				
		代謝機能代行装置学	2後	2		15									○				
		代謝機能代行装置学実習	3前	1		45									○				
		臨床医学Ⅰ（呼吸器、循環器）	3前	2		15									○				
		臨床医学Ⅱ（代謝、血液）	3後	2		15									○				
		臨床医学Ⅲ（神経系、内分泌系）	3後		2	15									○				
	医用安全管理学	医療機器安全管理学	3前	2		15	3単位必修									○			3
		医用機器安全管理学実習	3後	1		45										○			
	総合実践	チーム医療論	4前		2	15											○		
		グローバル感染対策	4前		1	30	4科目中2科目以上を選択必修										○		2
		看護技術の科学的検証	4前		1	30											○		
		地域の健康課題と多職種連携	4前		1	30											○		
		地域包括ケア	4後		1	30											○		
		臨床実習	4前	4		45	8単位必修											○	4
		卒業研究Ⅰ	4前	2		30													
		卒業研究Ⅱ	4後	2		30													
	小計						93	0	0				38						38
卒業要件単位数							124	31以上	47				38						116
指定規則に対する増単位数								17以上	10				−4						

（注）

1　本様式は学校種別ごとに作成すること。

2　（学校種別）には、「看護師学校」「診療放射線技師学校」等、指定を受けようとする学校の種別を記入すること。

3　本様式は、指定を受ける学校種別に応じ、本様式の横軸に、当該指定規則に定める教育内容及び単位数（歯科技工士学校の場合は学科目と総時間数）を適切に記入すること。（歯科技工師学校の場合は、本様式の「単位数」の字句をそれぞれ「時間数」と読み替えるものとする。）

4　開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。また、開設する授業科目に応じ、適宜科目区分の枠を設けること。科目区分は指定規則に定める区分ではなく、大学が定める区分に従って設けること。

5　「配当年次」欄については、前期、後期、通年等の開講時期を配当年次の横に記載すること。

6　歯科技工士学校については、指定規則に定める総時間数との対比関係がわかるよう時間数を記入すること。

7　保健師・助産師学校については、卒業要件単位数の欄に行を追加し、課程修了に必要な最低取得単位数を記入すること。

8　講義等と臨地実習を組み合わせた授業科目がある場合は、大学設置基準第２１条第２項第３号の規定に則り、臨地実習とそれ以外の教育に相当する単位数とを区別して算出し、本様式の相当欄にその数字を記入すること。

9　本様式により指定規則との対比関係を表記できない授業科目がある場合等は、適宜記入方法を変えて差し支えないこと。ただし、その実態が分かるよう記入すること。

公立小松大学臨床工学科　臨床実習計画表

血液浄化　ICU・手術室　医療機器保守・管理・点検　人工心肺

No	実習施設名	8月																													9月									
		日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1	小松市民病院																																		金沢大学附属病院（人工心肺）								
2	小松市民病院																																									
3	小松ソフィア病院																										石川中央病院（ICU・手術室）								石川中央病院（人口心肺）						
4	小松ソフィア病院																																									
5	やわたメディカルセンター																										金沢大学附属病院（人工心肺）								金沢大学附属病院（血液浄化）						
6	やわたメディカルセンター																																									
7	加賀市医療センター																																		福井県立大学（人工心肺）								
8	加賀市医療センター																																									
9	金沢大学附属病院																																									
10	金沢大学附属病院																																									
11	金沢医科大学病院																																									
12	金沢医科大学病院																																									
13	石川県立中央病院																																									
14	石川県立中央病院																																									
15	金沢循環器病院																																									
16	金沢循環器病院																																									
17	金沢赤十字病院																																									
18	金沢赤十字病院																																		金沢循環器病院（人工心肺）								
19	恵寿総合病院																																									
20	恵寿総合病院																																									
21	富山大学附属病院																																									
22	富山大学附属病院																																									
23	富山県立中央病院																																									
24	富山県立中央病院																																									
25	黒部市民病院																																		富山県立中央病院（人工心肺）								
26	黒部市民病院																																									
27	福井大学医学部附属病院																																									
28	福井大学医学部附属病院																																									
29	福井県立病院																																									
30	福井県立病院																																									
31	福井循環器病院																																									
32	福井循環器病院																																									
33	福井済生会病院			福井大学医学部附属病院（人工心肺）																																							
34	福井済生会病院																																									
35	福井赤十字病院																																									
36	福井赤十字病院																																		福井県立病院（人工心肺）								

資料X－6

公立小松大学臨床工学科臨床実習施設

資料X-10

No	実習施設名	所在地		実習内容			距離	所要時間	受入
		〒	住所	ICU	人工透析	人工心肺	(km)	(分)	人数
1	金沢大学附属病院	920-0934	石川県金沢市宝町13-1	○	○	○	30.6	58分	6
2	金沢医科大学病院	920-0265	石川県河北郡内灘町大学1丁目	○	○	○	40.4	45分	5
3	石川県立中央病院	920-8201	石川県金沢市鞍月東2-1	○	○	○	31.1	50分	4
4	心臓血管センター金沢循環器病院	920-0007	石川県金沢市田中町は16	○		○	33.6	56分	4
5	金沢赤十字病院	921-8162	石川県金沢市三馬2丁目251	○	○		26.8	49分	2
6	小松市民病院	923-0961	石川県小松市向本折町ホ60	○	○		0.25	3分	2
7	特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター	923-0833	石川県小松市八幡イ12-7	○			5.5	14分	2
8	小松ソフィア病院	923-0861	石川県小松市沖周辺土地区画整理事業地内仮地番5街区30号	○	○		2.6	8分	4
9	加賀市医療センター	922-8522	石川県加賀市作見町リ36	○	○		15.9	24分	4
10	社会医療法人財団董仙会恵寿総合病院	926-8605	石川県七尾市富岡町94	○	○	○	103	90分	4
11	富山大学附属病院	930-0194	富山県富山市杉谷2630	○	○	○	98.7	128分	5
12	富山県立中央病院	930-0975	富山県富山市西長江2丁目2-7	○	○	○	92.3	119分	4
13	黒部市民病院	938-8502	富山県黒部市三日市1108-1	○	○	○	121.4	171分	4
14	福井大学医学部附属病院	910-1104	福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23-3	○	○	○	60.6	113分	4
15	福井県立病院	910-0846	福井県福井市四ツ井2丁目8-1	○	○	○	52.2	76分	10
16	福井循環器病院	910-0833	福井県福井市新保2丁目228	○		○	54.2	102分	4
17	福井赤十字病院	918-8011	福井県福井市月見2丁目4-1	○	○		52.6	77分	4
18	福井済生会病院	918-8503	福井県福井市和田中町舟橋 7-1	○	○		54	78分	2
							合計		74

補足
○距離、所要時間は末広キャンパスから実習施設までのものを記載。
○所要時間の計算方法は、以下のとおり
・石川県内の実習施設は乗用車による移動距離および所要時間を記載。
・石川県外の実習施設は電車及び最寄の駅からの移動距離及び所要時間を記載。

資料Ｘ－11

公立小松大学臨床工学科臨床実習 承諾施設一覧

No	実習施設名	所在地	授業科目	受入人数
1	金沢大学附属病院	石川県金沢市宝町１３−1	臨床実習	6
2	金沢医科大学病院	石川県河北郡内灘町大学1丁目1	臨床実習	5
3	石川県立中央病院	石川県金沢市鞍月東2−1	臨床実習	4
4	心臓血管センター金沢循環器病院	石川県金沢市田中町は１６	臨床実習	4
5	金沢赤十字病院	石川県金沢市三馬２丁目２５１	臨床実習	2
6	小松市民病院	石川県小松市向本折町ホ６０	臨床実習	2
7	特定医療法人社団勝木会やわたメディカルセンター	石川県小松市八幡イ１２−7	臨床実習	2
8	小松ソフィア病院	石川県小松市沖周辺土地区画整理事業地内仮地番5街区30号	臨床実習	4
9	加賀市医療センター	石川県加賀市作見町リ36	臨床実習	4
10	社会医療法人財団董仙会 恵寿総合病院	石川県七尾市富岡町９４	臨床実習	4
11	富山大学附属病院	富山県富山市杉谷2630	臨床実習	5
12	富山県立中央病院	富山県富山市西長江２丁目２−７８	臨床実習	4
13	黒部市民病院	富山県黒部市三日市1108−1	臨床実習	4
14	福井大学医学部附属病院	福井県吉田郡永平寺町松岡下合月23−3	臨床実習	4
15	福井県立病院	福井県福井市四ツ井２丁目８−1	臨床実習	10
16	福井循環器病院	福井県福井市新保２丁目２２８	臨床実習	4
17	福井赤十字病院	福井県福井市月見２丁目４−1	臨床実習	4
18	福井済生会病院	福井県福井市和田中町舟橋 7−1	臨床実習	2

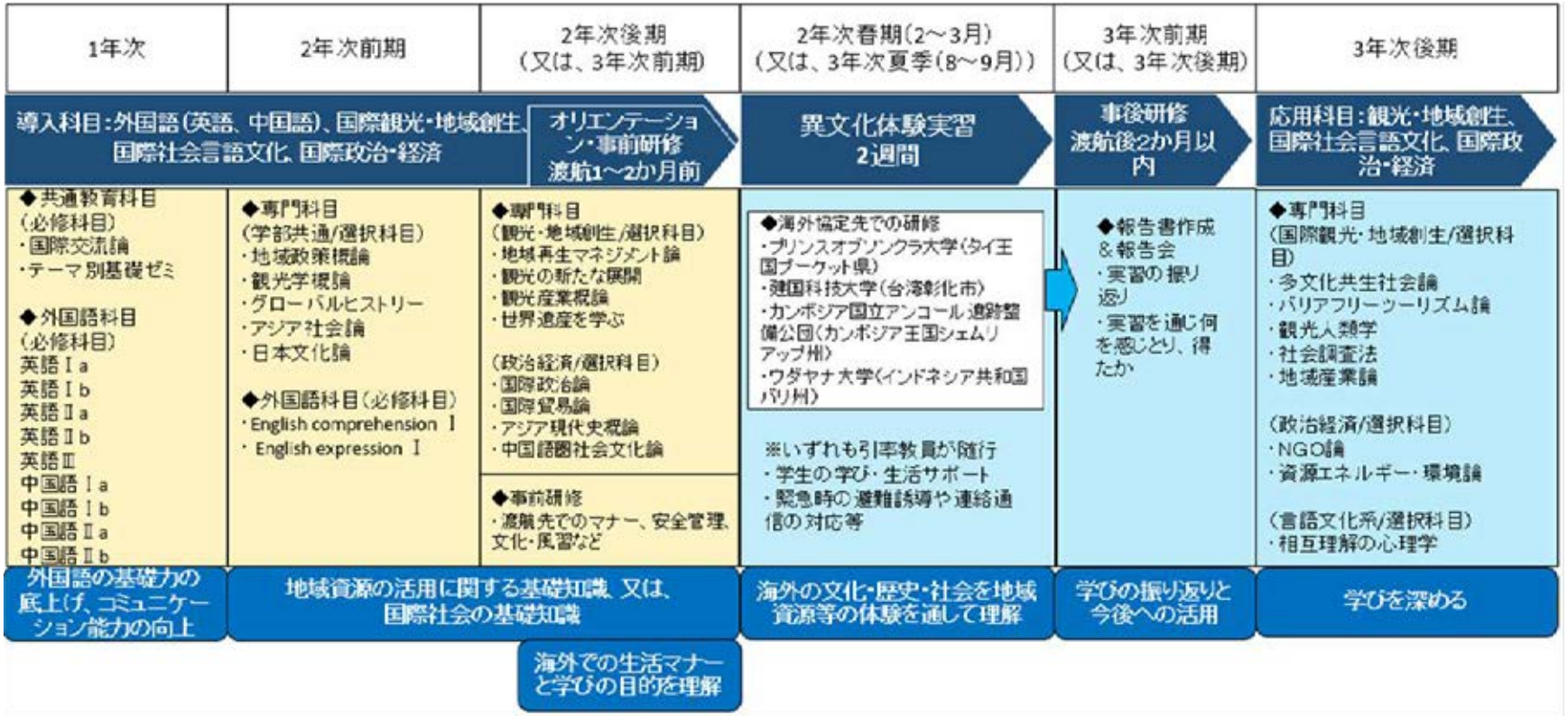
資料XI－1

実習先一覧･実習受入承諾書

（生産システム科学部　学外技術体験実習A、学外技術体験実習B）

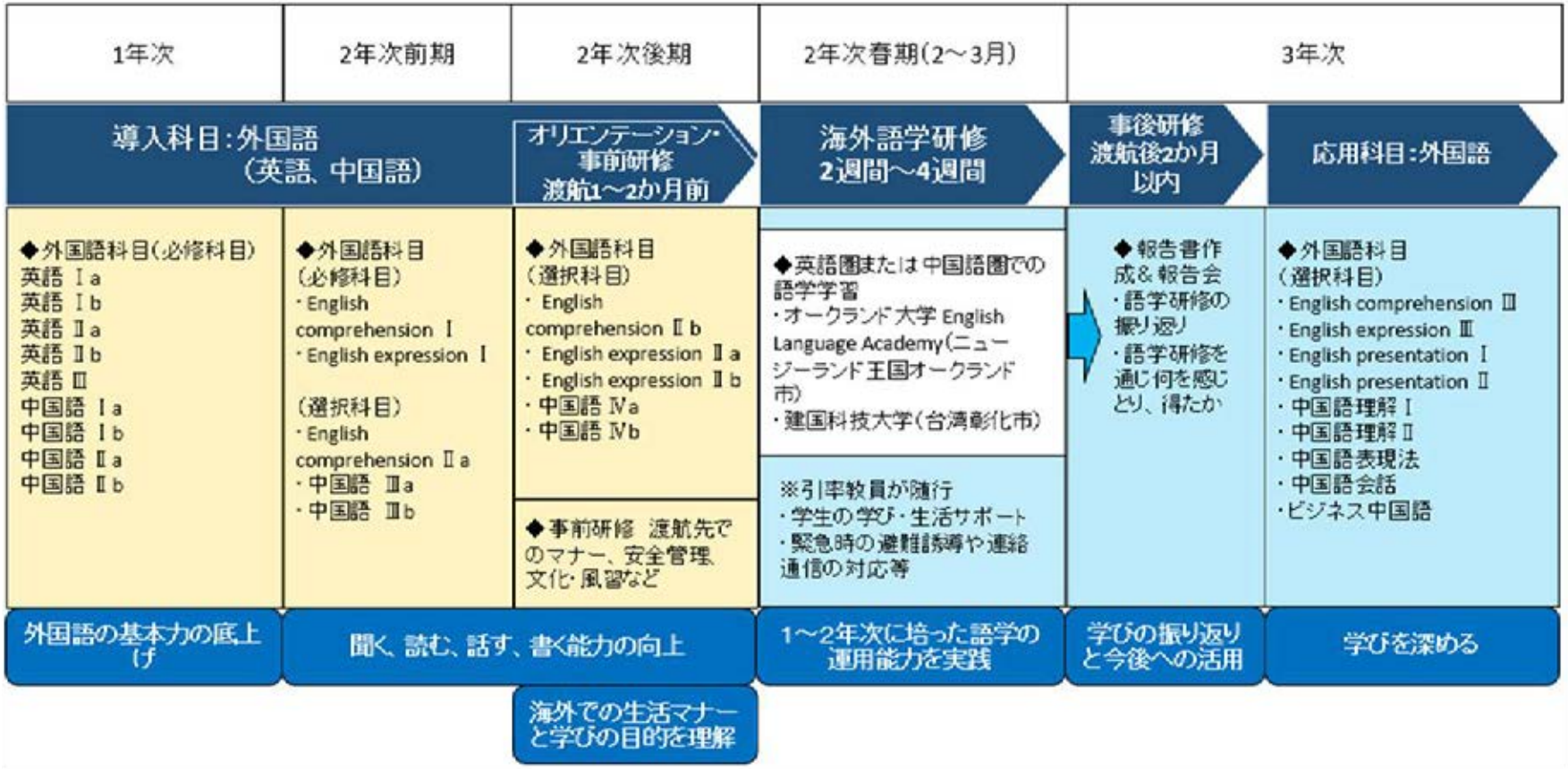
No	企業名・団体名	年間受入人数（人）	備考
1	小松鉄工団地協同組合	34	実習A又はB
	(1)　株式会社　共和工業所		
	(2)　株式会社　板尾鉄工所		
	(3)　株式会社　島田鉄工		
	(4)　株式会社　ネツレン小松		
	(5)　中秀鉄工株式会社		
	(6)　小松ウォール工業株式会社		
	(7)　株式会社　定者鉄工所		
	(8)　共進工業株式会社		
	(9)　株式会社　小松高田製作所		
	(10) 株式会社ニッコー　北陸営業所		
	(11) コマニー株式会社		
	(12) 東伸熱工株式会社　小松工場		
	(13) 上田運輸株式会社		
	(14) 中茂鉄工株式会社		
	(15) 株式会社　湊　正		
	(16) 株式会社　丸開鉄工		
	(17) 株式会社　カワコー		
2	ダイワ株式会社	6	実習A
3	株式会社 小松製作所　粟津工場	20	実習A又はB
4	村井索道株式会社	2	実習A
5	長津工業株式会社	4	実習A
6	大京株式会社	6	実習A又はB
7	ライオンパワー株式会社	4	実習A又はB
8	株式会社タガミ・イーエクス	6	実習A又はB
9	沖田産業株式会社	2	実習A
10	株式会社 ジェイ・バス	5	実習A
	合計	89	

「異文化体験実習」履修に関連する科目と学修の過程



資料Ⅺ－２

「海外語学研修」履修に関連する科目と学修の過程



資料Ⅺ－３